茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V

熊の山遺跡
(下巻)

平成13年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

熊の山遺跡
（下　巻）

平成13年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

目　　次

－下　巻－

第３章　調査の成果 …… 853
第３節　遺構と遺物 …… 853
4　８区の遺構と遺物 …… 853
(2)　掘立柱建物跡 …… 853
①　古墳時代 …… 853
②　奈良・平安時代 …… 854
(3)　溝 …… 927
(4)　井戸跡 …… 949
(5)　道路状遺構 …… 966
(6)　方形竪穴状遺構 …… 968
(7)　土坑 …… 970
①　火葬施設 …… 970
②　墓壙 …… 971
③　その他の土坑 …… 972
(8)　遺構外出土遺物 …… 982
第４節　まとめ …… 985
付　章
熊の山遺跡の自然科学分析 …… パリノ・サーヴェイ株式会社
1　熊の山遺跡第1425Ａ号住居跡から出土した炭化物の分析
2　熊の山遺跡第881号土坑覆土中の灰の材質について
熊の山遺跡第31号井戸出土木製品の樹種調査 …… 株式会社吉田生物研究所
3　熊の山遺跡第31号井戸出土木製品の樹種同定結果
写真図版

挿 図 目 次

－下 巻－

第599図　第120号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 853
第600図　第37号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 855
第601図　第41号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 856
第602図　第42号掘立柱建物跡実測図 …… 858
第603図　第44号掘立柱建物跡実測図 …… 859
第604図　第45号掘立柱建物跡実測図 …… 860
第605図　第46号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 861
第606図　第47号掘立柱建物跡実測図 …… 862
第607図　第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 863
第608図　第70号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 864
第609図　第70号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 865
第610図　第71号掘立柱建物跡実測図 …… 866
第611図　第71号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 867
第612図　第72号掘立柱建物跡実測図 …… 868
第613図　第73号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 870
第614図　第74号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 871
第615図　第75号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 873
第616図　第76号掘立柱建物跡実測図 …… 875
第617図　第77号掘立柱建物跡実測図 …… 876
第618図　第78・81号掘立柱建物跡実測図 …… 877
第619図　第78号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 878
第620図　第79号掘立柱建物跡実測図 …… 879
第621図　第79号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 880
第622図　第80A・B号掘立柱建物跡実測図(1) …… 881
第623図　第80A・B号掘立柱建物跡実測図(2) …… 882
第624図　第80A号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 883
第625図　第80A・B号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 884
第626図　第81号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 885
第627図　第82号掘立柱建物跡実測図 …… 886
第628図　第83号掘立柱建物跡実測図 …… 887
第629図　第84号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 888
第630図　第85号掘立柱建物跡実測図 …… 889
第631図　第85号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 890
第632図　第86号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 891
第633図　第87A・B号掘立柱建物跡実測図，第87A号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 893
第634図　第87B号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 894
第635図　第88号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 895
第636図　第89号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 897
第637図　第100・101号掘立柱建物跡実測図 …… 898
第638図　第100号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 899
第639図　第101号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 900
第640図　第102号掘立柱建物跡実測図 …… 901

第641図　第103・104号掘立柱建物跡実測図 … 903
第642図　第103号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 904
第643図　第105号掘立柱建物跡実測図 …… 905
第644図　第106号掘立柱建物跡実測図 …… 907
第645図　第107号掘立柱建物跡実測図 …… 908
第646図　第108号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 909
第647図　第109号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 911
第648図　第110号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 912
第649図　第118号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 914
第650図　第119号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 915
第651図　第121号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 917
第652図　第123号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 919
第653図　第124号掘立柱建物跡実測図 …… 920
第654図　第124号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 921
第655図　第125号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 922
第656図　第125号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 923
第657図　第126号掘立柱建物跡実測図 …… 924
第658図　第127号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 925
第659図　第16号溝・須恵器大甕㊴出土状況図 …… 928
第660図　第16号溝実測図(1) …… 929
第661図　第16号溝実測図(2) …… 930
第662図　第16号溝出土遺物実測図(1) …… 930
第663図　第16号溝出土遺物実測図(2) …… 931
第664図　第16号溝出土遺物実測図(3) …… 932
第665図　第16号溝出土遺物実測図(4) …… 933
第666図　第16号溝出土遺物実測図(5) …… 934
第667図　第35Ｂ号溝実測図(1) …… 938
第668図　第35Ｂ号溝遺物出土状況図 …… 939
第669図　第35Ｂ号溝実測図(2) …… 940
第670図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図(1) …… 941
第671図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図(2) …… 942
第672図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図(3) …… 943
第673図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図(4) …… 944
第674図　第82号溝土層断面図 …… 947
第675図　第83号溝実測図 …… 947
第676図　第84Ａ・Ｂ号溝実測図 …… 948
第677図　第67・81号溝上層断面図 …… 948
第678図　第４号井戸跡実測図 …… 949
第679図　第29号井戸跡実測図 …… 950
第680図　第30号井戸跡実測図(1) …… 952
第681図　第30号井戸跡実測図(2) …… 953
第682図　第30号井戸跡遺物出土状況図(1) …… 954
第683図　第30号井戸跡遺物出土状況図(2) …… 955
第684図　第30号井戸跡出土遺物実測図(1) …… 956
第685図　第30号井戸跡出土遺物実測図(2) …… 957
第686図　第30号井戸跡出土遺物実測図(3) …… 958
第687図　第30号井戸跡出土遺物実測図(4) …… 959
第688図　第30号井戸跡出土遺物実測図(5) …… 960
第689図　第31号井戸跡実測図 …… 963
第690図　第31号井戸跡出土遺物実測図(1) …… 963
第691図　第31号井戸跡出土遺物実測図(2) …… 964
第692図　第32号井戸跡実測図 …… 965
第693図　第33号井戸跡実測図 …… 965
第694図　第５号道路状遺構実測図 …… 966
第695図　第９号道路状遺構実測図 …… 967
第696図　第20号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図 …… 968
第697図　第21号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図 …… 969
第698図　第847号土坑実測図 …… 971
第699図　第863号土坑・出土遺物実測図 …… 971
第700図　第881・886号土坑実測図 …… 972
第701図　第881号土坑出土遺物実測図(1) …… 973

第702図　第881号土坑出土遺物実測図(2) …… 974
第703図　第886号土坑出土遺物実測図 …… 976
第704図　第857・860Ｂ・1026・1344号土坑出土遺物実測図 …… 976
第705図　第856・1355号土坑出土遺物実測図 …… 977
第706図　８区遺構外出土遺物実測図(1) …… 982
第707図　８区遺構外出土遺物実測図(2) …… 983
第708図　第Ⅰ期出土土器 …… 987
第709図　第Ⅱ期出土土器 …… 988
第710図　第Ⅲ期出土土器 …… 988
第711図　第Ⅳ期出土土器 …… 989
第712図　第Ⅴ期出土土器 …… 989
第713図　砥石集成図(1) …… 991
第714図　砥石集成図(2) …… 992
第715図　鍬（鋤）先形土製品集成図 …… 995
第716図　鉄製農具集成図 …… 997
第717図　調査８区（８世紀）遺構配置図(1) … 1002
第718図　調査８区（８世紀）遺構配置図(2) … 1003
第719図　調査８区（８世紀）遺構配置図(3) … 1004
第720図　硯集成図 …… 1007
第721図　腰帯具集成図 …… 1008
第722図　文字資料集成図(1) …… 1010
第723図　文字資料集成図(2) …… 1011
第724図　文字資料集成図(3) …… 1012
第725図　硯，腰帯具，文字資料出土位置図 … 1013

表　目　次

－下　巻－

表12　８区住居跡一覧表 …… 851
表13　８区掘立柱建物跡一覧表 …… 926
表14　８区溝一覧表 …… 948
表15　８区井戸一覧表 …… 966
表16　８区道路状遺構一覧表 …… 968
表17　８区方形竪穴状遺構一覧表 …… 970
表18　８区土坑一覧表 …… 977
表19　各期・各区住居跡数 …… 986
表20　石器・石製品一覧表 …… 992
表21　土製品一覧表 …… 995
表22　鉄製農具一覧表 …… 997
表23　硯一覧表 …… 1007
表24　腰帯具一覧表 …… 1008
表25　文字資料一覧表 …… 1014

写真図版目次

－下　巻－

ＰＬ 1　2区遺構群，4区北部遺構群

ＰＬ 2　4区北西部遺構群，4区中央部遺構群(1)

ＰＬ 3　4区中央部遺構群(2)，5区遺構群

ＰＬ 4　8区北部遺構群

ＰＬ 5　8区全景，8区南部遺構群

ＰＬ 6　第80Ａ・Ｂ号掘立柱建物跡完掘状況，第35Ｂ号溝遺物出土状況

2区

ＰＬ 7　第1244号住居跡完掘状況，第1245号住居跡完掘状況，第1246号住居跡遺物出土状況

4区

ＰＬ 8　第20・21号住居跡完掘状況，第20号住居跡竈遺物出土状況・第21号住居跡竈完掘状況，第22号住居跡完掘状況

ＰＬ 9　第22号住居跡竈完掘状況，第23号住居跡完掘状況，第23号住居跡遺物出土状況

ＰＬ 10　第29号住居跡完掘状況，第129号住居跡完掘状況，第130号住居跡完掘状況

ＰＬ 11　第130号住居跡竈完掘状況，第407号住居跡完掘状況，第954号住居跡完掘状況

ＰＬ 12　第954号住居跡竈遺物出土状況，第955・977・995号住居跡完掘状況，第956号住居跡完掘状況

ＰＬ 13　第956号住居跡遺物出土状況，第956号住居跡貯蔵穴遺物出土状況，第957号住居跡完掘状況

ＰＬ 14　第958号住居跡完掘状況，第959号住居跡完掘状況，第960号住居跡完掘状況

ＰＬ 15　第960号住居跡竈遺物出土状況，第961号住居跡完掘状況，第961号住居跡竈完掘状況

ＰＬ 16　第963号住居跡完掘状況，第965・966号住居跡完掘状況，第967号住居跡完掘状況

ＰＬ 17　第968号住居跡完掘状況，第968号住居跡竈完掘状況，第969号住居跡完掘状況

ＰＬ 18　第970・972・973号住居跡完掘状況，第970・972・973号住居跡遺物出土状況，第970号住居跡遺物出土状況

ＰＬ 19　第973号住居跡竈完掘状況，第971号住居跡完掘・遺物出土状況，第974号住居跡完掘状況

ＰＬ 20　第975号住居跡完掘状況，第975号住居跡竈完掘状況，第976号住居跡完掘状況

ＰＬ 21　第976号住居跡竈土層断面・遺物出土状況，第976号住居跡竈完掘状況，第977号住居跡完掘状況

ＰＬ 22　第977号住居跡竈遺物出土状況，第978号住居跡完掘状況，第978号住居跡竈完掘状況

ＰＬ 23　第979・985号住居跡完掘状況，第979号住居跡竈完掘状況，第980号住居跡完掘状況

ＰＬ 24　第981号住居跡完掘状況，第983号住居跡完掘状況，第984号住居跡完掘状況

ＰＬ 25　第987号住居跡完掘状況，第987号住居跡貯蔵穴遺物出土状況，第988号住居跡完掘状況

ＰＬ 26　第988号住居跡竈遺物出土状況，第989号住居跡完掘状況，第990号住居跡完掘状況

ＰＬ 27　第991号住居跡完掘状況，第993号住居跡完掘状況，第993号住居跡竈完掘状況

ＰＬ 28　第993号住居跡竈遺物出土状況，第994号住居跡完掘状況，第994号住居跡竈完掘状況

ＰＬ 29　第996号住居跡完掘状況，第997号住居跡完掘状況，第997号住居跡遺物出土状況(1)

ＰＬ 30　第997号住居跡遺物出土状況(2)，第997号住居跡竈遺物出土状況，第998号住居跡完掘状況

ＰＬ 31　第999号住居跡完掘状況，第999号住居跡遺物出土状況，第999号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ 32　第1000号住居跡完掘状況，第1001号住居跡遺物出土状況，第1002号住居跡完掘状況

ＰＬ 33　第1002号住居跡竈完掘状況，第1003号住居跡完掘状況，第1003号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 34　第1006号住居跡完掘状況，第1007号住居跡完掘・遺物出土状況，第1008号住居跡完掘状況
ＰＬ 35　第1009号住居跡完掘状況，第1011号住居跡完掘状況，第1012号住居跡完掘状況
ＰＬ 36　第1012号住居跡遺物出土状況，第1012号住居跡竈完掘状況，第1013号住居跡完掘状況
ＰＬ 37　第1014号住居跡完掘状況，第1017号住居跡完掘状況，第1018号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 38　第1019号住居跡完掘状況，第1019号住居跡竈灰出土状況，第1020号住居跡完掘状況
ＰＬ 39　第1023号住居跡完掘状況，第1024号住居跡完掘状況，第1027号住居跡完掘状況
ＰＬ 40　第1027号住居跡遺物出土状況，第1028号住居跡完掘状況，第1028号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 41　第1030号住居跡完掘状況，第1030号住居跡竈灰出土状況，第1031号住居跡完掘状況
ＰＬ 42　第1032号住居跡完掘状況，第1032号住居跡竈遺物出土状況，第1033号住居跡完掘状況
ＰＬ 43　第1033号住居跡竈遺物出土状況，第1034号住居跡完掘状況，第1034号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 44　第1035号住居跡完掘状況，第1035号住居跡竈完掘状況，第1037号住居跡完掘状況
ＰＬ 45　第1040号住居跡完掘状況，第1040号住居跡竈遺物出土状況，第1042号住居跡完掘状況
ＰＬ 46　第1043号住居跡完掘状況，第1044・1045号住居跡完掘状況，第1045号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 47　第1046号住居跡完掘状況，第1047号住居跡完掘状況，第1047号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 48　第1047・1048号住居跡完掘状況，第1049号住居跡完掘状況，第1049号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 49　第1049号住居跡遺物出土状況，第1049号住居跡竈完掘状況，第1051号住居跡完掘状況
ＰＬ 50　第1052号住居跡完掘状況，第1053号住居跡完掘状況，第1053号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 51　第1054号住居跡完掘状況，第1054号住居跡遺物出土状況，第1055号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 52　第1055号住居跡ピット３遺物出土状況，第1055号住居跡ピット４遺物出土状況，第1056号住居跡完掘状況
ＰＬ 53　第1056号住居跡竈完掘状況，第1059号住居跡完掘状況，第1059号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 54　第1060号住居跡完掘状況，第1060号住居跡遺物出土状況，第1060号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 55　第1061号住居跡完掘状況，第1061号住居跡遺物出土状況，第1062号住居跡完掘状況
ＰＬ 56　第1063号住居跡完掘状況，第1063号住居跡壁掘り方状況，第1063号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 57　第1064号住居跡完掘状況，第1064号住居跡遺物出土状況，第1065号住居跡完掘状況
ＰＬ 58　第1065号住居跡遺物出土状況，第1067号住居跡完掘状況，第1067号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 59　第1068号住居跡完掘状況，第1068号住居跡遺物出土状況，第1068号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 60　第1069号住居跡完掘状況，第1069号住居跡竈完掘状況，第1069号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 61　第1070号住居跡完掘状況，第1070号住居跡竈遺物出土状況，第1071号住居跡完掘状況
ＰＬ 62　第1071号住居跡竈遺物出土状況，第1072号住居跡完掘状況，第1073号住居跡完掘状況
ＰＬ 63　第1073号住居跡竈遺物出土状況，第1074号住居跡完掘状況，第1074号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 64　第1075号住居跡遺物出土状況(1)・(2)，第

1075号住居跡竈灰出土状況
ＰＬ 65　第1076号住居跡完掘状況，第1076号住居跡遺物出土状況，第1077号住居跡完掘状況
ＰＬ 66　第1077号住居跡竈遺物出土状況，第1077号住居跡竈袖部内遺物出土状況，第1078号住居跡完掘状況
ＰＬ 67　第1078号住居跡竈完掘状況，第1080号住居跡完掘状況，第1080号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 68　第1080号住居跡竈完掘状況，第1100号住居跡完掘状況，第1101号住居跡完掘状況
ＰＬ 69　第1102号住居跡完掘状況，第1104号住居跡完掘状況，第1106号住居跡完掘状況
ＰＬ 70　第1107号住居跡完掘状況，第1109号住居跡完掘状況，第1110号住居跡完掘状況
ＰＬ 71　第1110号住居跡貯蔵穴完掘状況，第1110号住居跡遺物出土状況，第1113号住居跡完掘状況
ＰＬ 72　第1115号住居跡完掘状況，第1115号住居跡遺物出土状況(1)・(2)
ＰＬ 73　第1116号住居跡完掘状況，第1119号住居跡完掘状況，第1120号住居跡完掘状況
ＰＬ 74　第1121号住居跡完掘状況，第1122号住居跡完掘状況，第1122号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 75　第1123号住居跡完掘状況，第1123号住居跡遺物出土状況，第1123号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 76　第1128号住居跡完掘状況，第1131・1136・1138・1139号住居跡完掘(1)・(2)
ＰＬ 77　第1133号住居跡完掘状況，第1134号住居跡完掘状況，第1133・1134号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 78　第1140号住居跡完掘状況，第1144号住居跡完掘状況，第1144号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 79　第1144号住居跡竈完掘状況，第1145号住居跡完掘状況，第1145号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 80　第1145号住居跡竈遺物出土状況，第1146号住居跡完掘状況，第1146号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 81　第1147号住居跡完掘状況，第1148号住居跡完掘状況，第1148号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 82　第1149号住居跡遺物出土状況，第1149号住居跡竈完掘状況，第1154号住居跡完掘状況
ＰＬ 83　第1154号住居跡竈完掘状況，第1155号住居跡完掘状況，第1157号住居跡完掘状況
ＰＬ 84　第1158号住居跡完掘状況，第1159号住居跡完掘状況，第1161号住居跡完掘状況
ＰＬ 85　第1162号住居跡完掘状況，第1163号住居跡完掘状況，第1163号住居跡遺物出土状況(1)
ＰＬ 86　第1163号住居跡遺物出土状況(2)，第1163号住居跡竈完掘状況，第1164号住居跡完掘状況
ＰＬ 87　第1165号住居跡完掘状況，第1165号住居跡遺物出土状況，第1166号住居跡完掘状況
ＰＬ 88　第1166号住居跡竈完掘状況，第1168号住居跡完掘状況，第1170号住居跡完掘状況
ＰＬ 89　第1171号住居跡完掘状況，第1172号住居跡・第821号土坑完掘状況，第1172号住居跡竈完掘状況
ＰＬ 90　第1173号住居跡遺物出土状況，第1456号住居跡完掘状況，第1461号住居跡完掘状況
ＰＬ 91　第1463号住居跡完掘状況，第1464号住居跡完掘状況，第1465号住居跡完掘状況
ＰＬ 92　第1465号住居跡竈遺物出土状況，第53号掘立柱建物跡完掘状況，第54号掘立柱建物跡完掘状況
ＰＬ 93　第55号掘立柱建物跡完掘状況，第55号掘立柱建物跡ピット７完掘状況，第56号掘立柱建物跡完掘状況
ＰＬ 94　第57号掘立柱建物跡完掘状況，第57号掘立柱建物跡堀り方完掘状況，第57号掘立柱建物跡ピット６掘り方完掘状況
ＰＬ 95　第58号掘立柱建物跡完掘状況，第59号掘立柱建物跡完掘状況，第60号掘立柱建物跡完掘状況
ＰＬ 96　第129号掘立柱建物跡完掘状況，第１号鍛冶工房跡完掘状況，第９号方形竪穴状遺構完掘状況

ＰＬ 97　第10号方形竪穴状遺構完掘状況，第11号方形竪穴状遺構完掘状況，第12号方形竪穴状遺構完掘状況
ＰＬ 98　第13号方形竪穴状遺構完掘状況，第14号方形竪穴状遺構完掘状況，第15号方形竪穴状遺構完掘状況
ＰＬ 99　第16号方形竪穴状遺構完掘状況，第17号方形竪穴状遺構完掘状況，第18号方形竪穴状遺構完掘状況
ＰＬ100　第19号方形竪穴状遺構完掘状況，第35Ａ号溝完掘状況(1)・(2)
ＰＬ101　第59号溝完掘状況，第60号溝完掘状況(1)・(2)・(3)，第62号溝完掘状況，第63号溝完掘状況，第65号溝完掘状況，第28号井戸跡完掘状況(1)
ＰＬ102　第28号井戸跡完掘状況(2)，第21号地下式壙完掘状況，第22号地下式壙完掘状況，第23号地下式壙完掘状況，第24号地下式壙完掘状況，第25号地下式壙完掘状況，第26号地下式壙完掘状況，第４号ピット群完掘状況
ＰＬ103　第５号ピット群完掘状況，第６号ピット群完掘状況，第120号土坑完掘状況，第723号土坑完掘状況，第736号土坑遺物出土状況，第742号土坑完掘状況，第754号土坑完掘状況，第755号土坑遺物出土状況
ＰＬ104　第766・769号土坑完掘状況，第775号土坑完掘状況，第776・777号土坑完掘状況，第778・785号土坑完掘状況，第781・782号土坑完掘状況，第788～790・792・793・795号土坑完掘状況，第794号土坑完掘状況，第809号土坑完掘状況
ＰＬ105　第811号土坑完掘状況，第812号土坑完掘状況，第814・815号土坑完掘状況，第833号土坑完掘状況，第900号土坑完掘状況，第903号土坑完掘状況，第906号土坑完掘状況，第913号土坑完掘状況
５区
ＰＬ106　第748号住居跡ピット２遺物出土状況，第1451号住居跡完掘状況，第1451号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ107　第1452号住居跡完掘状況，第1453号住居跡完掘状況，第1453号住居跡竈完掘状況
ＰＬ108　第1454号住居跡完掘状況，第1455号住居跡完掘状況，第1458号住居跡完掘・遺物出土状況
ＰＬ109　第1458号住居跡遺物出土状況，第1459号住居跡完掘状況，第128号掘立柱建物跡完掘状況
８区
ＰＬ110　第520号住居跡完掘状況，第520号住居跡遺物出土状況，第520号住居跡竈完掘状況
ＰＬ111　第926号住居跡完掘状況，第931号住居跡遺物出土状況，第933号住居跡完掘状況
ＰＬ112　第933号住居跡遺物出土状況(1)・(2)，第936号住居跡完掘状況
ＰＬ113　第939・941・944号住居跡完掘状況，第941号住居跡遺物出土状況，第945号住居跡完掘状況
ＰＬ114　第1200号住居跡完掘状況，第1200号住居跡遺物出土状況(1)・(2)
ＰＬ115　第1200号住居跡竈完掘状況，第1201号住居跡完掘状況，第1201号住居跡竈完掘状況
ＰＬ116　第1202号住居跡完掘状況，第1203号住居跡完掘状況，第1203号住居跡竈完掘状況
ＰＬ117　第1204号住居跡完掘状況，第1204号住居跡竈完掘状況，第1207号住居跡完掘状況
ＰＬ118　第1207号住居跡竈完掘状況，第1208・1209号住居跡完掘状況，第1208号住居跡遺物出土状況
ＰＬ119　第1208号住居跡竈完掘状況，第1209号住居跡竈完掘状況，第1209号住居跡遺物出土状況
ＰＬ120　第1210号住居跡完掘状況，第1210号住居跡竈完掘状況，第1210号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ121　第1211号住居跡完掘状況，第1211号住居跡

遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ122　第1211号住居跡竈完掘状況，第1211号住居跡竈遺物出土状況，第1214号住居跡完掘状況

ＰＬ123　第1214号住居跡遺物出土状況，第1214号住居跡竈遺物出土状況，第1215号住居跡完掘状況

ＰＬ124　第1215号住居跡遺物出土状況，第1215号住居跡竈完掘状況，第1216号住居跡完掘状況

ＰＬ125　第1219号住居跡完掘状況，第1219号住居跡遺物出土状況，第1219号住居跡竈完掘状況

ＰＬ126　第1220号住居跡完掘状況，第1220号住居跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ127　第1220号住居跡竈完掘状況，第1221号住居跡完掘状況，第1221号住居跡遺物出土状況

ＰＬ128　第1221号住居跡竈完掘状況，第1221号住居跡竈袖部断割・遺物出土状況，第1222号住居跡完掘状況

ＰＬ129　第1222号住居跡遺物出土状況，第1222号住居跡竈完掘状況，第1223号住居跡完掘状況

ＰＬ130　第1223号住居跡遺物出土状況，第1223号住居跡竈完掘状況，第1223号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ131　第1224・1225・1230号住居跡完掘状況，第1224・1225・1230号住居跡遺物出土状況，第1226号住居跡完掘状況

ＰＬ132　第1226号住居跡遺物出土状況，第1226号住居跡竈完掘状況，第1227号住居跡完掘状況

ＰＬ133　第1227号住居跡遺物出土状況，第1227号住居跡竈完掘状況，第1228号住居跡完掘状況

ＰＬ134　第1228号住居跡遺物出土状況，第1228号住居跡竈完掘状況，第1231号住居跡完掘状況

ＰＬ135　第1231号住居跡遺物出土状況，第1231号住居跡竈付近遺物出土状況，第1231号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ136　第1233号住居跡完掘状況，第1233号住居跡遺物出土状況，第1233号住居跡竈完掘状況

ＰＬ137　第1234号住居跡完掘状況，第1234号住居跡遺物出土状況，第1234号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ138　第1235号住居跡完掘状況，第1235号住居跡遺物出土状況，第1235号住居跡竈完掘状況

ＰＬ139　第1236号住居跡完掘状況，第1236号住居跡遺物出土状況，第1236号住居跡竈完掘状況

ＰＬ140　第1238号住居跡・第880号土坑完掘状況，第1238号住居跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ141　第1239号住居跡完掘状況，第1239号住居跡遺物出土状況，第1239号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ142　第1241号住居跡完掘状況，第1241号住居跡遺物出土状況，第1241号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ143　第1242号住居跡完掘状況，第1242号住居跡遺物出土状況，第1243号住居跡完掘状況

ＰＬ144　第1401号住居跡完掘状況，第1401号住居跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ145　第1401号住居跡遺物出土状況(3)，第1404号住居跡完掘状況，第1404号住居跡遺物出土状況

ＰＬ146　第1405号住居跡完掘状況，第1405号住居跡遺物出土状況，第1407号住居跡完掘状況

ＰＬ147　第1408・1409・1420号住居跡完掘状況，第1410号住居跡完掘状況，第1410号住居跡遺物出土状況

ＰＬ148　第1410号住居跡竈完掘状況，第1411号住居跡完掘状況，第1411号住居跡遺物出土状況(1)

ＰＬ149　第1411号住居跡遺物出土状況(2)，第1412号住居跡完掘状況，第1412号住居跡遺物出土状況

ＰＬ150　第1413号住居跡完掘状況，第1413号住居跡遺物出土状況，第1413号住居跡竈完掘状況

ＰＬ151　第1414号住居跡完掘状況，第1414・1415号住居跡遺物出土状況，第1414号住居跡竈遺物出土状況

ＰＬ152　第1415号住居跡完掘状況，第1417号住居跡

完掘状況，第1419号住居跡完掘状況

ＰＬ153　第1420号住居跡完掘状況，第1421号住居跡完掘状況，第1421号住居跡遺物出土状況(1)

ＰＬ154　第1421号住居跡遺物出土状況(2)，第1422号住居跡完掘状況，第1423号住居跡遺物出土状況

ＰＬ155　第1424号住居跡完掘状況，第1424号住居跡遺物出土状況，第1424号住居跡竈完掘状況

ＰＬ156　第1424号住居跡竈遺物出土状況，第1425Ａ・Ｂ号住居跡完掘状況，第1425Ａ号住居跡遺物出土状況

ＰＬ157　第1425Ａ号住居跡炭化材・炭化物出土状況，第1425Ａ・Ｂ号住居跡竈完掘状況，第1426号住居跡完掘状況

ＰＬ158　第1427号住居跡完掘状況，第1427号住居跡竈完掘状況，第1428号住居跡完掘状況

ＰＬ159　第1428号住居跡遺物出土状況，第1428号住居跡竈遺物出土状況，第1429号住居跡完掘状況

ＰＬ160　第1429号住居跡遺物出土状況(1)・(2)，第1429・1430・1432号住居跡完掘状況

ＰＬ161　第1430号住居跡竈完掘状況，第1431号住居跡完掘状況，第1431号住居跡遺物出土状況

ＰＬ162　第1431号住居跡竈完掘状況，第1432号住居跡完掘状況，第1439号住居跡完掘状況

ＰＬ163　第1439号住居跡遺物出土状況，第1440号住居跡完掘状況，第1441号住居跡完掘状況

ＰＬ164　第1441号住居跡遺物出土状況，第1442号住居跡完掘状況，第1442号住居跡遺物出土状況

ＰＬ165　第1442号住居跡竈遺物出土状況，第1443号住居跡完掘状況，第1443号住居跡遺物出土状況

ＰＬ166　第1445Ａ号住居跡完掘状況，第1445Ａ号住居跡遺物出土状況，第1445Ａ号住居跡竈完掘状況

ＰＬ167　第37号掘立柱建物跡完掘状況，第41号掘立柱建物跡完掘状況，第44・45号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ168　第46号掘立柱建物跡完掘状況，第46・121・123号掘立柱建物跡完掘状況，第47号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ169　第70号掘立柱建物跡完掘状況，第71号掘立柱建物跡完掘状況，第72号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ170　第73号掘立柱建物跡完掘状況，第74号掘立柱建物跡完掘状況，第75号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ171　第77号掘立柱建物跡完掘状況，第78号掘立柱建物跡完掘状況，第79号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ172　第81号掘立柱建物跡完掘状況，第82号掘立柱建物跡完掘状況，第83号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ173　第84号掘立柱建物跡完掘状況，第85号掘立柱建物跡完掘状況，第87号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ174　第88号掘立柱建物跡完掘状況，第89号掘立柱建物跡完掘状況，第100号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ175　第101号掘立柱建物跡完掘状況，第102号掘立柱建物跡完掘状況，第103号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ176　第104号掘立柱建物跡完掘状況，第105号掘立柱建物跡完掘状況，第106号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ177　第107号掘立柱建物跡完掘状況，第108号掘立柱建物跡完掘状況，第109号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ178　第110号掘立柱建物跡完掘状況，第118・127号掘立柱建物跡完掘状況，第119号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ179　第120号掘立柱建物跡完掘状況，第121号掘立柱建物跡完掘状況，第123号掘立柱建物跡完掘状況

ＰＬ180　第124号掘立柱建物跡完掘状況，第125・

126号掘立柱建物跡完掘，８区遺構群

ＰＬ181　第16号溝完掘状況，第16・35Ｂ号溝完掘状況，第16号溝遺物出土状況(1)・(2)・(3)

ＰＬ182　第35Ｂ号溝北側完掘状況，第35Ｂ号溝遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ183　第35Ｂ号溝遺物出土状況(3)・(4)，第35Ｂ号溝覆土堆積状況

ＰＬ184　第67号溝完掘状況，第81号溝完掘状況，第82号溝完掘状況

ＰＬ185　第84号溝遺物出土状況，第86号溝１～３区完掘状況，第86号溝２・３区完掘状況

ＰＬ186　第30号井戸跡完掘状況，第30号井戸跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ187　第30号井戸跡馬骨出土状況(1)・(2)，第30号井戸跡完掘状況(1)・(2)，第30号井戸跡遺物出土状況(1)・(2)

ＰＬ188　第29号井戸跡完掘状況，第31号井戸跡完掘状況，第32号井戸跡完掘状況

ＰＬ189　第690号土坑完掘状況，第834号土坑完掘状況，第835号土坑完掘状況，第836号土坑完掘状況，第839号土坑完掘状況，第841・842号土坑完掘状況，第845号土坑完掘状況，第846号土坑完掘状況

ＰＬ190　第848号土坑完掘状況，第850号土坑完掘状況，第851号土坑完掘状況，第852号土坑完掘状況，第853号土坑完掘状況，第855号土坑完掘状況，第856号土坑完掘状況，第857号土坑完掘状況

ＰＬ191　第858号土坑完掘状況，第860Ａ・Ｂ号土坑完掘状況，第861号土坑完掘状況，第862号土坑完掘状況，第863号土坑完掘状況，第864号土坑完掘状況，第865号土坑完掘状況，第865号土坑遺物出土状況

ＰＬ192　第866号土坑完掘状況，第867号土坑完掘状況，第867号土坑遺物出土状況，第868号土坑完掘状況，第869号土坑完掘状況，第870号土坑完掘状況，第871号土坑完掘状況，第872号土坑完掘状況

ＰＬ193　第881・884・886・887号土坑完掘状況，第881号土坑灰出土状況，第881・884・886・887号土坑遺物出土状況，第885号土坑完掘状況，第889号土坑完掘状況

ＰＬ194　第892号土坑完掘状況，第893号土坑完掘状況，第895号土坑完掘状況，第898号土坑完掘状況，第980号土坑完掘状況，第981号土坑完掘状況，第983号土坑完掘状況，第987号土坑完掘状況

ＰＬ195　第989号土坑完掘状況，第991号土坑完掘状況，第994号土坑完掘状況，第995号土坑完掘状況，第996号土坑完掘状況，第998号土坑完掘状況，第999号土坑完掘状況，第1000号土坑完掘状況

ＰＬ196　第1003号土坑完掘状況，第1006号土坑完掘状況，第1010号土坑完掘状況，第1013号土坑完掘状況，第1014号土坑完掘状況，第1015号土坑完掘状況，第1025号土坑完掘状況，第1026号遺物出土状況

ＰＬ197　第1027号土坑完掘状況，第1028号土坑完掘状況，第1029号土坑完掘状況，第1030号土坑完掘状況，第1032号土坑完掘状況，第1037号土坑遺物出土状況，第1041・1042号土坑完掘状況，第1046Ａ・Ｂ号土坑完掘状況

ＰＬ198　第1049号土坑完掘状況，第1051号土坑完掘状況，第1052号土坑遺物出土状況，第1053号土坑完掘状況，第1054号土坑完掘状況，第1055号土坑完掘状況，第1056号土坑完掘状況，第1061号土坑完掘状況

ＰＬ199　第1057号土坑完掘状況，第1069号土坑完掘状況，第1079号土坑完掘状況，第1081号土坑完掘状況，第1082号土坑完掘状況，第1083号土坑完掘状況，第1084号土坑完掘状況，第1098号土坑完掘状況

ＰＬ200　第1250号土坑完掘状況，第1259号土坑完掘状況，第1263号土坑完掘状況，第1270号土坑完掘状況，第1331号土坑完掘状況，第

1343号土坑完掘状況，第1344号土坑遺物出土状況，第1345号土坑完掘状況

2区

ＰＬ201　第1244・1245・1246号住居跡出土土器，遺構外出土土器

4区

ＰＬ202　第20・21・22・407・956・966号住居跡出土土器

ＰＬ203　第956・957・958号住居跡出土土器

ＰＬ204　第960・963・964・968・970・971号住居跡出土土器

ＰＬ205　第970・971・972・973・974・975・978・979号住居跡出土土器

ＰＬ206　第974・975・978・979・981・987号住居跡出土土器

ＰＬ207　第987・990・991・994・998・1002号住居跡出土土器

ＰＬ208　第1001・1002・1007・1008・1010・1012号住居跡出土土器

ＰＬ209　第1012・1029・1032・1034・1037・1040号住居跡出土土器

ＰＬ210　第1032・1034・1044・1045・1048・1049・1051号住居跡出土土器

ＰＬ211　第1049・1051・1055・1061・1063・1064号住居跡出土土器

ＰＬ212　第1064・1074・1075・1076・1078号住居跡出土土器

ＰＬ213　第1078・1079・1080・1103・1110号住居跡出土土器

ＰＬ214　第1078・1080・1110・1115号住居跡出土土器

ＰＬ215　第1110・1115・1119・1121・1122・1123号住居跡出土土器

ＰＬ216　第1122・1123・1133・1134・1139・1144・1145・1154号住居跡出土土器

ＰＬ217　第1144・1145・1159・1163号住居跡出土土器

ＰＬ218　第1163・1165・1166号住居跡出土土器

ＰＬ219　第1163・1166・1463・1465号住居跡出土土器，出土土製品

ＰＬ220　出土土製品・鉄器・鉄製品

ＰＬ221　出土鉄器・鉄製品・石製品

ＰＬ222　出土土製品・石器・石製品

ＰＬ223　第129・954・965・976・977・982号住居跡出土土器

ＰＬ224　第985・988・989・993・997号住居跡出土土器

ＰＬ225　第997・999・1003号住居跡出土土器

ＰＬ226　第1003・1009・1013・1014・1017・1019・1027号住居跡出土土器

ＰＬ227　第1003・1027・1028・1030・1039・1042・1059号住居跡出土土器

ＰＬ228　第1030・1035・1042・1043・1046・1052・1053・1056・1059号住居跡出土土器

ＰＬ229　第1042・1052・1053・1056・1059・1060・1062・1065号住居跡出土土器

ＰＬ230　第1046・1060・1065・1066・1068・1069・1070号住居跡出土土器

ＰＬ231　第1069・1070・1071・1072・1073号住居跡出土土器

ＰＬ232　第1073・1077・1101・1104・1109・1113号住居跡出土土器

ＰＬ233　第1104・1112・1120・1124・1126・1128・1135・1136・1138・1140・1141号住居跡出土土器

ＰＬ234　第1140・1146・1147・1149号住居跡出土土器

ＰＬ235　第1146・1148・1149・1151・1153・1157・1158・1168・1169・1172・1173・1176・1461号住居跡出土土器

ＰＬ236　第1158・1169号住居跡出土土器，出土土製品，出土鉄器・鉄製品，第1号鍛冶工房跡出土鞴羽口

ＰＬ237　出土鉄器・鉄製品

ＰＬ238　出土鉄器・鉄製品，第1号鍛冶工房跡出土粒状滓・鍛造剥片（大・中・小）

ＰＬ239　出土石器・石製品
ＰＬ240　第28・59号掘立柱建物跡出土土器，第28号井戸跡出土土器，第755・1416号土坑出土土器，第57号掘立柱建物跡出土土製品，第35Ａ号溝・第794号出土古銭，第35Ａ号溝出土石製品，遺構外出土遺物
ＰＬ241　遺構外出土遺物
5区
ＰＬ242　第748・1451・1452・1453・1458・1459・1460号住居跡出土土器，第128号掘立柱建物跡出土土器
8区
ＰＬ243　第509・919・926・927・933・943・1200号住居跡出土土器
ＰＬ244　第943・1200・1207・1211号住居跡出土土器
ＰＬ245　第1211・1216・1219号住居跡出土土器
ＰＬ246　第1216・1219・1224・1235・1243・1401号住居跡出土土器
ＰＬ247　第1401・1405・1409・1416・1417・1419・1421号住居跡出土土器
ＰＬ248　第1421・1422号住居跡出土土器
ＰＬ249　第1422・1423・1424・1426・1427・1429号住居跡出土土器
ＰＬ250　第1429・1430・1434・1439号住居跡出土土器
ＰＬ251　第1439・1441・1445Ａ号住居跡出土土器
ＰＬ252　第1441・1445Ａ号住居跡出土土器
ＰＬ253　出土土製品
ＰＬ254　出土土製品・鉄器・鉄製品・石器・石製品
ＰＬ255　第514・520・918・931・936・1201・1203号住居跡出土土器
ＰＬ256　第1203・1204・1205・1208・1209・1210・1213号住居跡出土土器
ＰＬ257　第1210・1212・1213・1214・1215・1218・1220・1221号住居跡出土土器
ＰＬ258　第1220・1221・1222・1223・1226・1231号住居跡出土土器
ＰＬ259　第1222・1225・1226・1227・1231・1232・1233号住居跡出土土器
ＰＬ260　第1226・1232・1233・1234号住居跡出土土器
ＰＬ261　第1234・1236・1238号住居跡出土土器
ＰＬ262　第1237・1238・1239・1241号住居跡出土土器
ＰＬ263　第1237・1241・1242号住居跡出土土器
ＰＬ264　第1242・1408・1410・1411・1412号住居跡出土土器
ＰＬ265　第1408・1410・1412・1413・1414・1415・1420号住居跡出土土器
ＰＬ266　第1413・1420・1425Ａ・1425Ｂ号住居跡出土土器
ＰＬ267　第1425Ａ・1428・1431号住居跡出土土器
ＰＬ268　第1431・1432・1442・1443・1447号住居跡出土土器
ＰＬ269　第37・47・70・71・73・74・75・78・79・80Ａ・80Ｂ・81号掘立柱建物跡出土土器
ＰＬ270　第81・86・88・109・124・125号掘立柱建物跡出土土器，第16号溝出土土器
ＰＬ271　第75・84・85・86・87Ａ・89・100・101・103・108・109・118・121・127号掘立柱建物跡出土土器，第16号溝出土土器
ＰＬ272　第16号溝出土土器
ＰＬ273　第16・35Ｂ号溝出土土器
ＰＬ274　第16・35Ｂ号溝出土土器
ＰＬ275　第35Ｂ号溝出土土器
ＰＬ276　第30号井戸跡出土土器
ＰＬ277　第30号井戸跡出土土器，第856・857・881号土坑出土土器
ＰＬ278　第30号井戸跡出土土器，第881・886号土坑出土土器
ＰＬ279　第31号井戸跡出土土器，第881・886・1026・1344・1355号土坑出土土器，第21号方形竪穴状遺構出土土器，遺構外出土土器
ＰＬ280　出土土製品・鉄器

ＰＬ281　出土鉄器・鉄製品・銅製品
ＰＬ282　出土鉄器・鉄製品・古銭
ＰＬ283　出土鉄器・鉄製品・鉄滓
ＰＬ284　出土石器・石製品・木製品

付　　図

付図１　熊の山遺跡４区遺構全体図
付図２　熊の山遺跡８区遺構全体図
付図３　熊の山遺跡遺構全体図

(2) 掘立柱建物跡

調査８区からは，53棟の掘立柱建物跡が検出されている。内訳は，古墳時代後期のものが１棟，奈良・平安時代のものが，北部で19棟，南部で33棟の計52棟である。その内，『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集で既に報告されている４棟を除いた49棟について掲載する。

①古墳時代

第120号掘立柱建物跡（第599図）

位置　調査８区の西部。M8h6区。

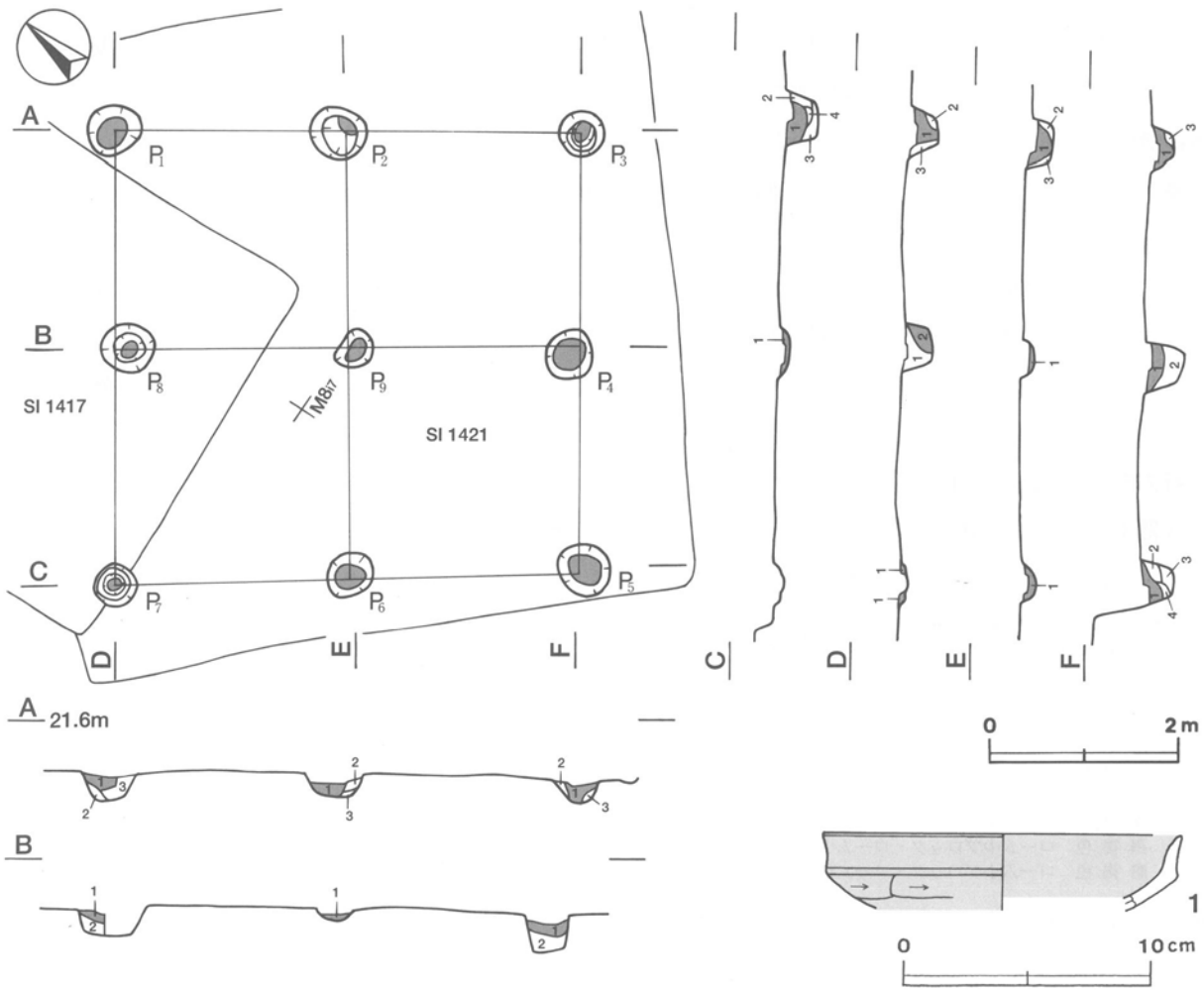
重複関係　全体が第1421号住居に，北部が第1417号住居に掘り込まれている。

規模　２間×２間の総柱式の建物跡で，一辺の長さ4.80m，柱間寸法は2.30～2.50mである。柱穴は９か所（Ｐ１～Ｐ９）で，平面形は長径0.40～0.58m，短径0.36～0.50mの円形または楕円形であり，断面形はU字形を呈し，深さは14～40cmである。

桁行方向　N－33°－W

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，第２～４層は埋土と考えられる。

Ｐ１～Ｐ９土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量



第599図　第120号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物　土師器片22点が，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ８・Ｐ９の埋土及びＰ５の柱の抜き取り痕から出土している。第599図１の土師器坏は，Ｐ５の柱の抜き取り痕から出土している。

所見　本跡の時期は，６世紀後葉から７世紀前葉の第1421号住居に掘り込まれていることと，出土土器から，６世紀後半と考えられる。

第120号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第599図 1	坏 土師器	A［14.2］ B（3.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8909 10%

②　奈良・平安時代

第37号掘立柱建物跡（第600図）

位置　調査８区の北部に，「Ｌ」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する。L9d0区。平成９年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査もＰ４・Ｐ５の東半以東のＰ１～Ｐ３が平成９年度，それ以西のＰ６～Ｐ10が平成11年度と両年度にわたった。平成11年度調査区で検出されたＰ６～Ｐ10は，確認面での平面形が隅丸長方形の柱穴が重複しており，それらの柱穴それぞれに柱痕がみられた。このことから，重複または建て替えの可能性があるとして調査を開始した。しかし，土層断面において重複関係は認められないことから，平成９年度に調査した第37号掘立柱建物跡として調査した。

重複関係　北部のＰ５・Ｐ９・Ｐ10の上部が，第82号溝に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長6.94m，梁行長4.88mである。柱間寸法は桁行2.20～2.50m，梁行2.40～2.80mである。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形が長軸（径）0.96～1.50m，短軸（径）0.82～1.30mの円形・楕円形・隅丸長方形であり，断面形が逆台形状または，建物の内側に面した部分が浅い二段掘り状を呈し，深さは46～76cmである。特に，Ｐ７・Ｐ９の深さはそれぞれ68・76cmで，Ｐ６・Ｐ８・Ｐ10の深さはそれぞれ53～66cmであり，南西・北西コーナーに位置するＰ７・Ｐ９は，それ以外の柱穴よりやや深い。

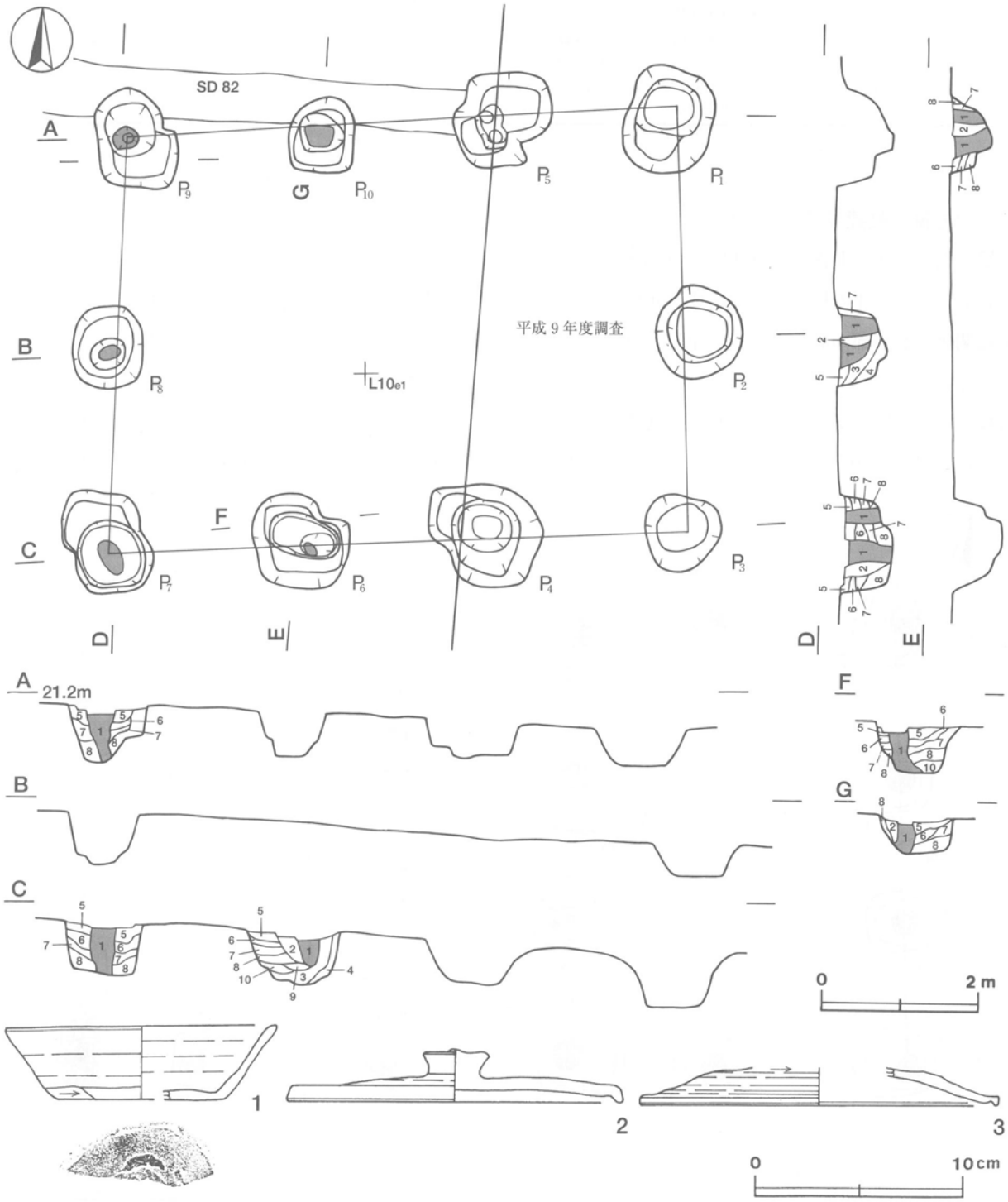
桁行方向　Ｎ－88°－Ｅ

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む暗褐色・黒褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ６～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。しまり弱い。
2　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
8　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
9　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物　須恵器片12点，土師器片75点が，Ｐ４・Ｐ６～Ｐ10の埋土から出土している。土師器片は細片であり，古墳時代後期のもので，混入したと思われる。第600図１の須恵器坏はＰ７，２の須恵器蓋はＰ６，３の須恵器蓋はＰ10の，それぞれ埋土から出土している。

所見　本跡のＰ６～Ｐ10で検出された建物の内側部分に位置する柱痕は，外側部分に位置するものより規模が小さく，また，掘り方も浅いことから，束柱の可能性がある。本跡は，調査８区の北部に「Ｌ」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する東西棟であり，『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集に掲載されている第38号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向が一致する。また，本跡の南部に位置する南北棟の第47・124・125号掘立柱建物跡と時期がほぼ一致していることから，これらは，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第600図　第37号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第37号掘立柱建物跡出土遺物観察表

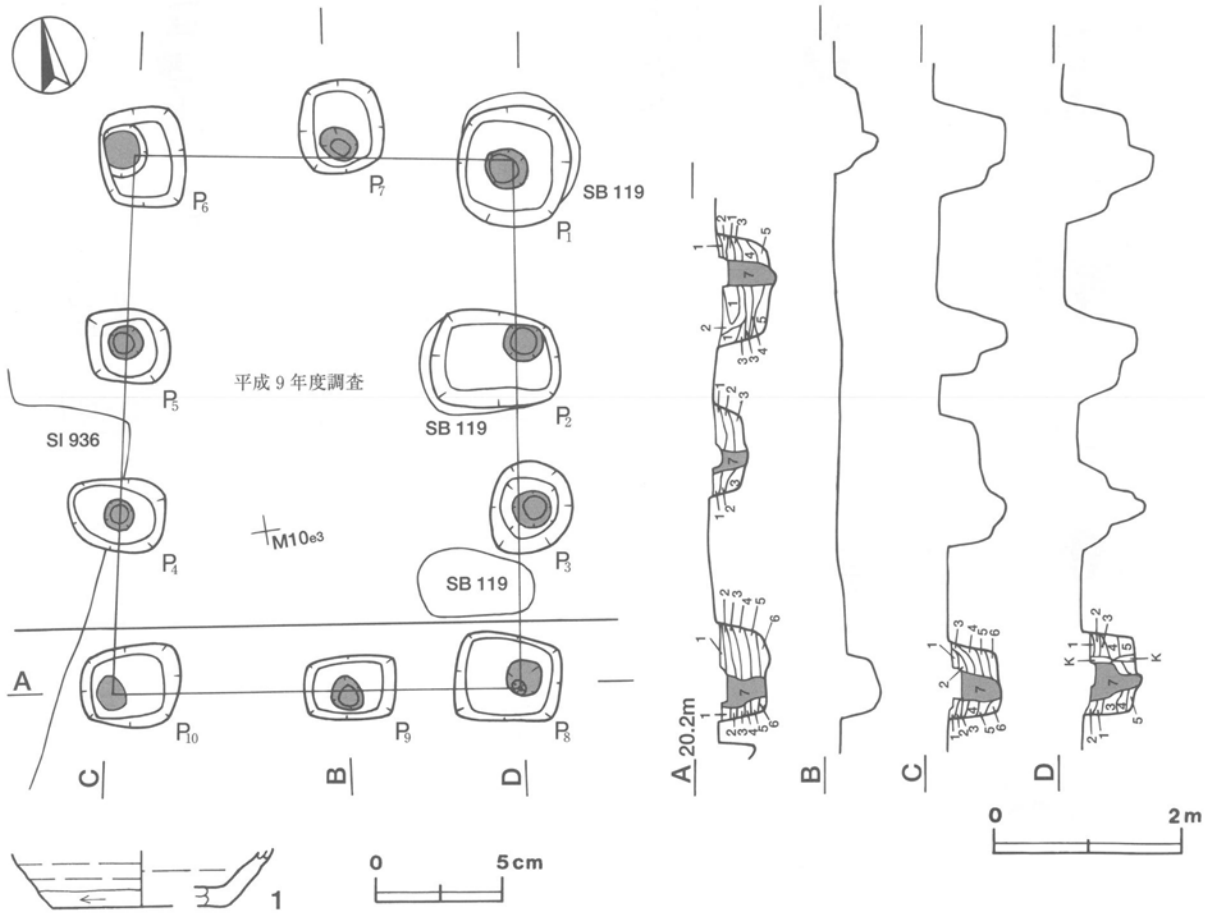
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第600図 1	坏 須恵器	A [13.0] B 3.5 C [8.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す，ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P8882 50% PL269
2	蓋 須恵器	A [16.0] B 2.4 F 3.1 G 1.1	天井部から口縁部にかけての破片。天井頂部は平坦で外方に開き，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは擬宝珠状。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部，口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P8883 35% PL269
3	蓋 須恵器	A [17.2] B (1.8)	天井部から口縁部にかけての破片。天井頂部は平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部，口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P8885 10%

第41号掘立柱建物跡（第601図）

位置　調査8区の北部。M10d2区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査もP3・P4の柱穴以北が平成9年度，それ以南のP8～P10の柱穴が平成11年度と両年度にわたった。

重複関係　北東部のP1・P2で第119号掘立柱建物跡を掘り込み，南西部のP4が第936号住居に掘り込まれている。

規模　桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長5.60m，梁行長4.27mである。柱間寸法は桁行1.75～2.00m，梁行1.80～2.50mである。柱穴は10か所（P1～P10）で，平面形が長軸0.80～1.34m，短軸0.67～



第601図　第41号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

1.18mの隅丸方形・隅丸長方形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは48～94cmである。

桁行方向　N－10°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第7層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む暗褐色・褐色土で，版築状に突き固められている。

P8～P10土層解説（各柱穴共通）

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
7　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。しまり弱い。

遺物　土師器片12点，須恵器片4点が，P8～P10の埋土から出土している。第601図1の須恵器坏はP9の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，9世紀後葉の第936号住居跡に掘り込まれていることから，それ以前と考えられ，第119号掘立柱建物跡との重複関係及び出土土器から9世紀前半と考えられる。本跡の北部に位置する第42号掘立柱建物跡，北西部に位置する第43号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向が，ほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。

第41号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第601図1	坏 須恵器	B（2.2） C［7.2］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P8886 10%

第42号掘立柱建物跡（第602図）

位置　調査8区の北部。M10a3区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査もP1～P9が平成9年度，北部に位置するP10～P12が平成11年度と両年度にわたった。

重複関係　北部のP11・P12で第1445A号住居跡を掘り込み，P10～P12が第1447号住居に掘り込まれている。さらに，北西部のP7～P10で第44号掘立柱建物跡を掘り込み，P7・P8が第937号住居に掘り込まれている。

規模　桁行4間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長8.08m，梁行長4.10mである。柱間寸法は桁行2.10～2.30m，梁行1.80～2.20mである。柱穴は12か所（P1～P12）で，平面形が長軸（径）0.85～1.58m，短軸（径）0.70～1.23mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さはP12が16cmと浅く，その他は40～69cmである。

桁行方向　N－10°－E

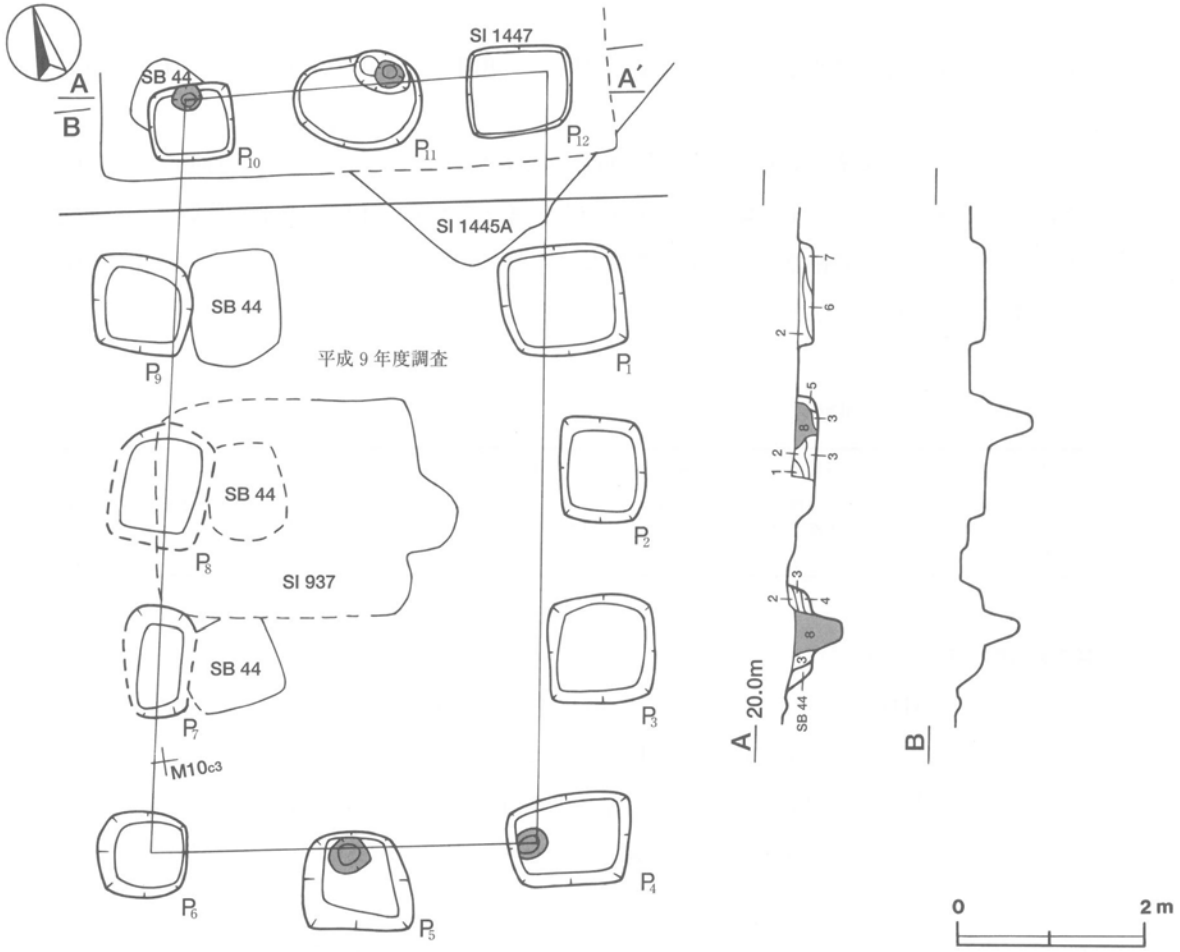
柱穴覆土　土層断面図中，P10の第8層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック主体の暗褐色・褐色土で，版築状に突き固められている。

P10～P12土層解説（各柱穴共通）

1　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
7　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
8　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片34点，須恵器片２点が，Ｐ11～Ｐ12の埋土から出土している。土師器片は細片であり，古墳時代後期のもので，混入したものと思われる。出土土器は細片であるため，図示はできなかった。

所見　本跡の時期は，出土土器からは細片であるため断定できないが，９世紀の第937号住居，９世紀後葉の第1447号住居に掘り込まれている。さらに，９世紀前葉の第45号掘立柱建物跡と隣接しているが，間隔が狭いため同時に存在した可能性は低く，周囲の掘立柱建物跡の配置から，９世紀前葉から中葉と考えられる。本跡の西部に位置する第43号掘立柱建物跡，南部に位置する第41号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。



第602図　第42号掘立柱建物跡実測図

第44号掘立柱建物跡（第603図）

位置　調査８区の北部。M10a2区。平成９年度の調査区ではＰ１～Ｐ９の柱穴が確認されており，『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集において，桁行２間，梁行２間の総柱式の建物跡と報告されている。しかし，平成11年度の調査区において，その北側に連続する柱穴Ｐ10～Ｐ12が検出されたことから，同一の建物として調査し，規模等を変更する。

重複関係　東部のＰ２が第937号住居に，北部のＰ12が第1447号住居に，東部が第42号掘立柱建物に，西部が第45号掘立柱建物に，それぞれ掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の総柱式の建物跡で，桁行長5.76m，梁行長3.66mである。柱間寸法は桁行1.90～2.10m，梁行1.80～2.00mである。柱穴は12か所（Ｐ１～Ｐ12）で，平面形が長軸0.90～1.16m，短軸0.64～

0.92mの隅丸方形・隅丸長方形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは35～64cmである。

桁行方向　N－1°－W

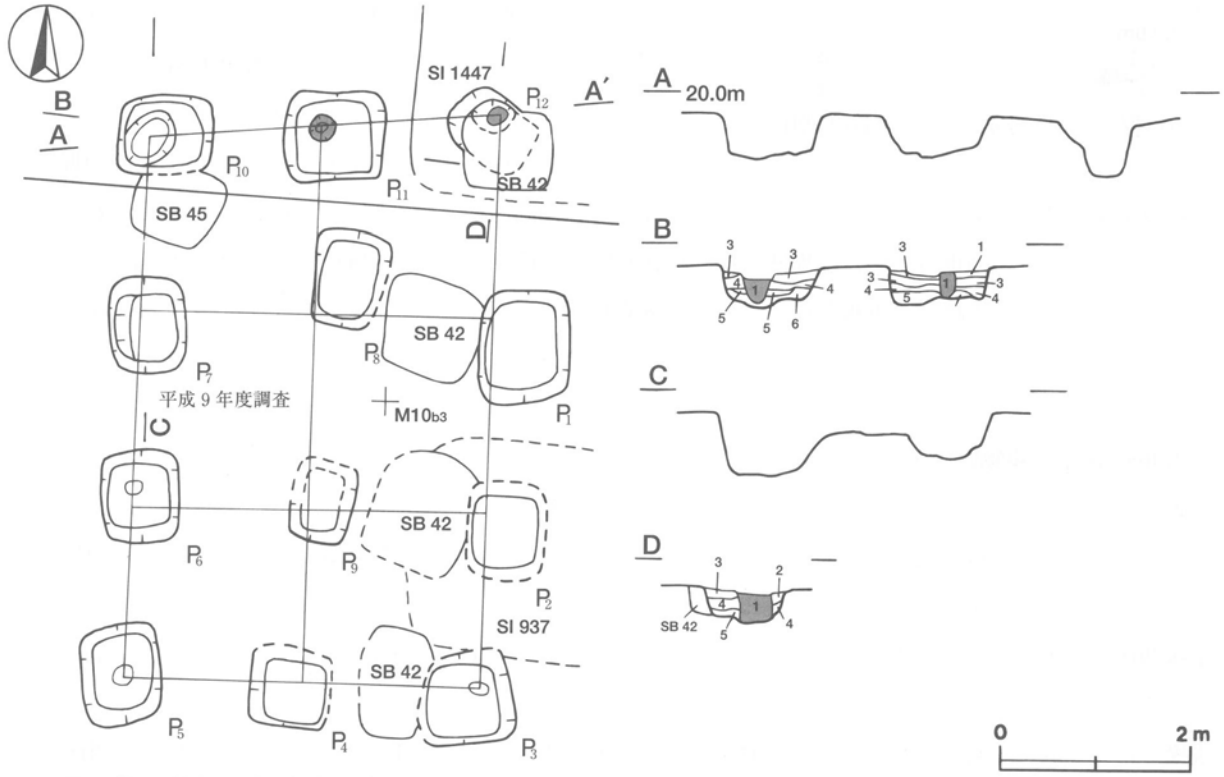
柱穴覆土　土層断面図中，第1層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む暗褐色・黒褐色土で，版築状に突き固められている。

P10～P12土層解説（各柱穴共通）

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6　黒褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片31点，須恵器片7点が，P10～P12の埋土から出土している。土師器片は細片であり，古墳時代後期のもので，混入したものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片であるため断定できないが，9世紀の第937号住居，9世紀後葉の第1447号住居，9世紀中葉から後半の第42号掘立柱建物，9世紀前葉と考えられる第45号掘立柱建物に掘り込まれていることから，9世紀前葉以前と考えられる。また，周囲の掘立柱建物跡の重複関係から，時期差がさほどない期間内に，ほぼ同一の場所に建て替えが行われたと考えられる。これらの重複関係及び周囲の掘立柱建物跡の配置から，8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。また，重複関係から本跡が廃絶された後に第45号掘立柱建物が建てられ，その後，第42号掘立柱建物が建てられたと考えられる。

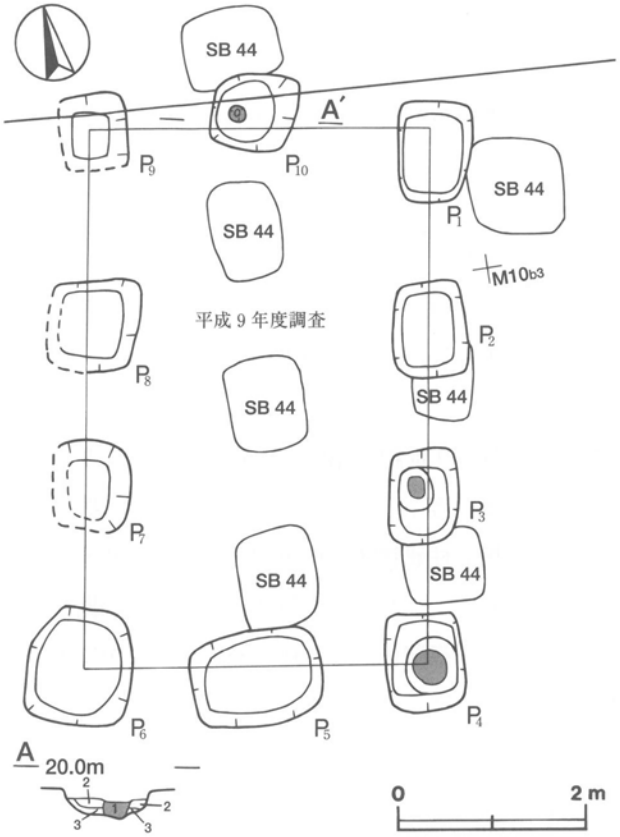


第603図　第44号掘立柱建物跡実測図

第45号掘立柱建物跡（第604図）

位置　調査8区の北部。M10b2区。平成9年度の調査区ではP1～P9が確認されており，『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集において，桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡と報告されている。平成11年度の調査区において，その北側に柱穴P10が検出されたことから，同一の建物として調査した。

重複関係　東部で第44号掘立柱建物跡を掘り込み，西部が第43号掘立柱建物に掘り込まれている。



第604図　第45号掘立柱建物跡実測図

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長5.50m，梁行長3.62mである。柱間寸法は桁行1.80～1.90m，梁行1.80～2.00mである。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形が長軸（径）0.84～1.38m，短軸（径）0.74～1.00mの隅丸方形・隅丸長方形・楕円形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは30～55cmである。

桁行方向　Ｎ－３°－Ｅ

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック主体の暗褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ10土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。しまり弱い。
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量。しまり強い。
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量。しまり強い。

所見　本跡からは土器が出土していないため，土器から時期を判断することはできないが，重複関係からは，９世紀中葉の第43号掘立柱建物に掘り込まれているため，それ以前と考えられる。また，第44号掘立柱建物跡を掘り込んでいるが，周囲の掘立柱建物跡の重複関係や密集の度合いから，時期差がさほどない期間内に，ほぼ同一の場所に建て替えられたものと考えられる。これらの重複関係及び周囲の掘立柱建物跡の配置から，９世紀前葉から中葉の時期幅におさまると考えられる。また本跡は，重複関係から第44号掘立柱建物が廃絶された後に建てられ，その後，第43号掘立柱建物が建てられたと考えられる。

第46号掘立柱建物跡（第605図）

位置　調査８区の北部に，「Ｌ」字状に集中する掘立柱建物跡群の南部に位置する南北棟である。L9i9区。平成９年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も南部のＰ１～Ｐ３が平成９年度，北部のＰ４～Ｐ10が平成11年度と両年度にわたった。

重複関係　西半で第47号掘立柱建物跡を掘り込み，北部のＰ６・Ｐ７が第123・126号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長6.22m，梁行長4.26mである。柱間寸法は桁行1.80～2.10m，梁行1.70～2.30mである。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形が長軸（径）1.02～1.10m，短軸（径）0.84～0.91mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が逆台形状を呈し，深さは44～66cmである。

桁行方向　Ｎ－10°－Ｅ

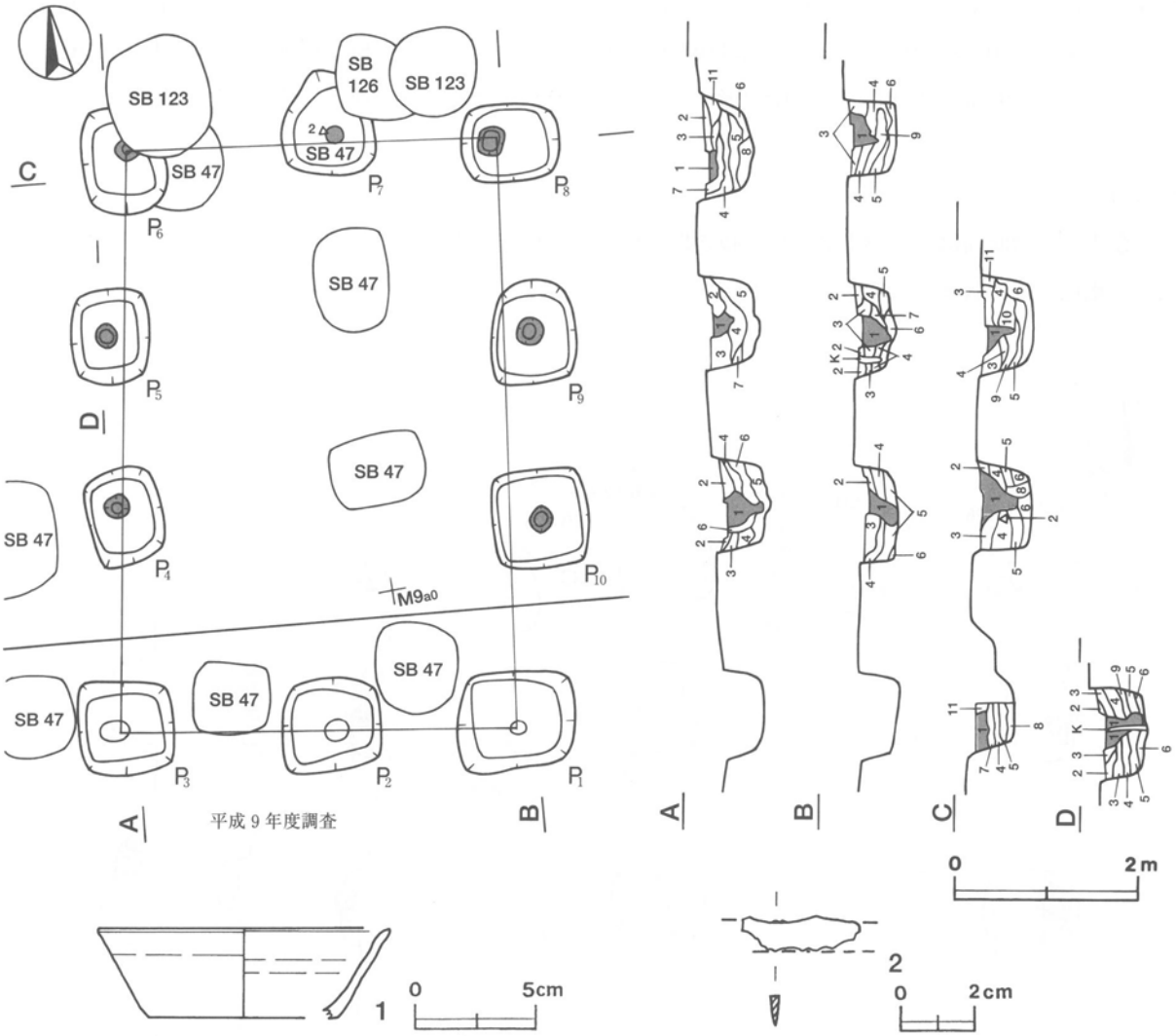
柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ４～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
5　黒褐色　ローム中ブロック多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
7　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
8　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
10　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

遺物　土師器片53点，須恵器片12点，鉄器１点（刀子）が，Ｐ４～Ｐ10の埋土から出土している。土師器片は細片であるが，そのほとんどが古墳時代後期のもので，混入したものと思われる。第605図１の須恵器坏はＰ８の埋土から，２の刀子はＰ７の埋土から，それぞれ出土している。

所見　本跡は，重複している第47号掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されており，時期差があまりないことから，第47号掘立柱建物の廃絶後に建て替えられた建物の可能性がある。時期は，重複関係及び出土土器から８世紀中葉から後葉と考えられる。



第605図　第46号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第46号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第605図 1	坏 須恵器	A［11.8］ B　3.6 C［7.8］	体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P8887 15%

図版番号	器　種	計測値						材質	特　徴	備　考
		全長（cm）	刀身長（cm）	身幅（cm）	重ね（cm）	茎長（cm）	重量（g）			
第605図２	刀　子	(3.3)	(2.1)	(0.9)	0.2	(1.2)	(1.3)	鉄	刃部，茎部一部欠損。棟区残存。	M8445

第47号掘立柱建物跡（第606・607図）

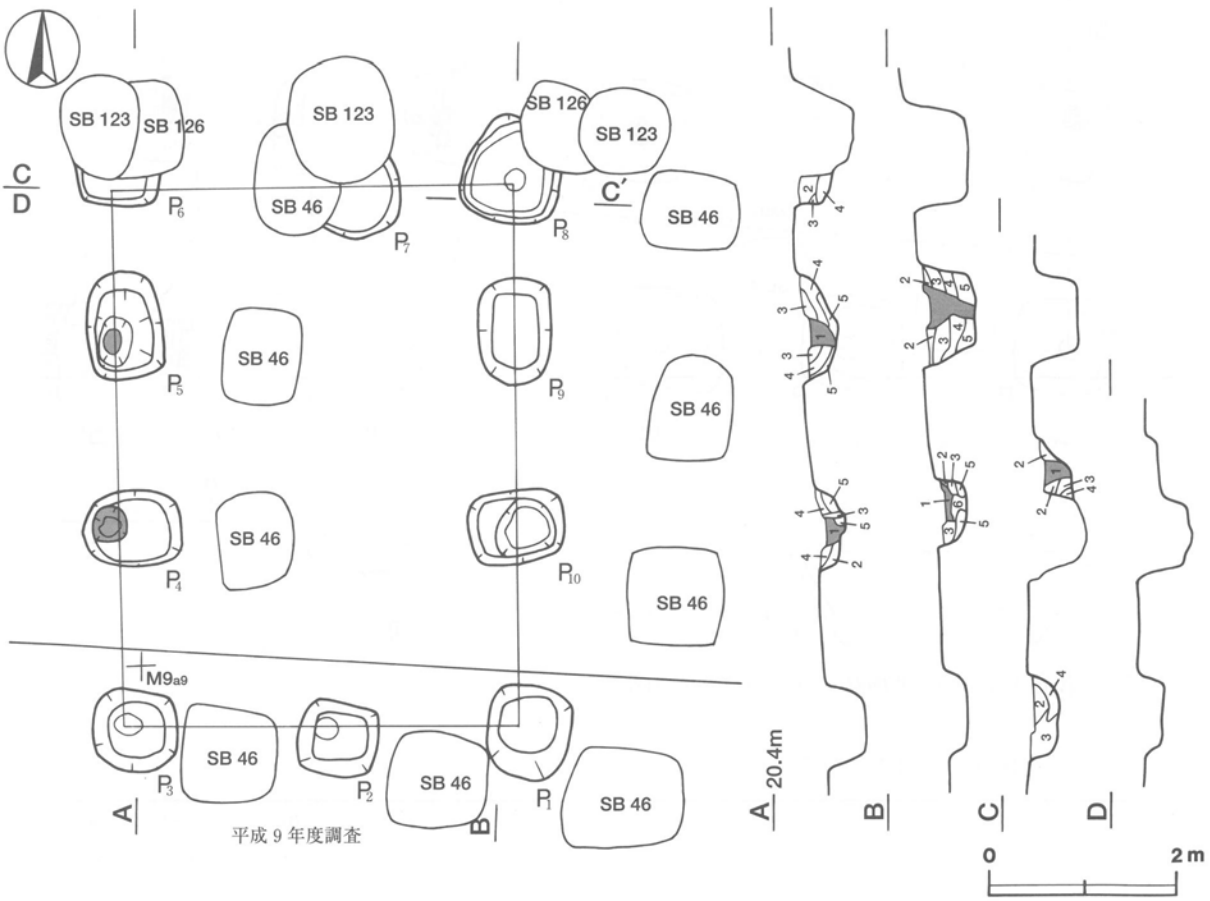
位置　調査８区の北部に，「Ｌ」字状に集中する掘立柱建物跡群の南部に位置する南北棟であり，南北に延びる第35Ｂ号溝から東側2.5mに位置している。L9i9区。平成９年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査の南部のＰ１～Ｐ３が平成９年度，それ以北のＰ４～Ｐ10が平成11年度と両年度にわたった。

重複関係　北部のＰ６～Ｐ８が第123・126号掘立柱建物に，東半が第46号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長5.76m，梁行長4.21mである。柱間寸法は桁行1.90～2.00m，梁行1.80～2.40mである。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形が長軸（径）1.04～1.22m，短軸（径）0.80～1.08mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは24～64cmである。

桁行方向　Ｎ－１°－Ｅ

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土で，版築状に突き固められている。

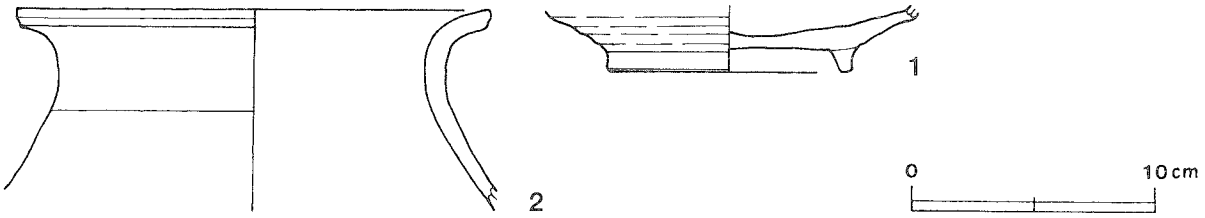


第606図　第47号掘立柱建物跡実測図

P 4～P 7 ・ P 9 ・ P10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
5　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子少量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック中量

遺物　土師器片23点，須恵器片９点が，Ｐ４～Ｐ７・Ｐ９の埋土及びＰ５・Ｐ７・Ｐ９の柱の抜き取り痕から出土している。土師器片は細片であり，そのほとんどが古墳時代後期のもので，混入したものと思われる。第607図１の須恵器盤はＰ９の埋土から，２の土師器甕の口縁部片はＰ７の柱の抜き取り痕から，それぞれ出土している。

所見　本跡は，重複している第46号掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されている。また，調査区８区の北部に「Ｌ」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する南北棟であり，西側2.5mの位置を南北に延びる第35Ｂ号溝と桁行方向が一致している。時期は，重複関係及び出土土器から８世紀中葉と考えられる。



第607図　第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第47号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第607図 1	盤 須恵器	B（2.7） C　9.8 E　1.0	高台部から体部にかけての破片。体部は大きく外方に開く。高台はわずかに外方へふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8888 30% PL269
2	甕 土師器	A［19.0］ B（8.0）	頸部から口縁部にかけての破片。頸部はゆるやかにくびれ，口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8889 5%

第70号掘立柱建物跡（第608・609図）

位置　調査８区の南西部。O8e2区。

重複関係　北部で第1224・1226号住居跡を掘り込み，中央部が第20号方形竪穴状遺構に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長6.70m，梁行長4.60mである。柱間寸法は桁行2.05～2.35m，梁行2.25～2.40mである。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形が長軸0.66～1.10m，短軸0.63～0.96mの隅丸長方形・隅丸方形であり，断面形が逆台形状を呈し，深さは41～93cmである。

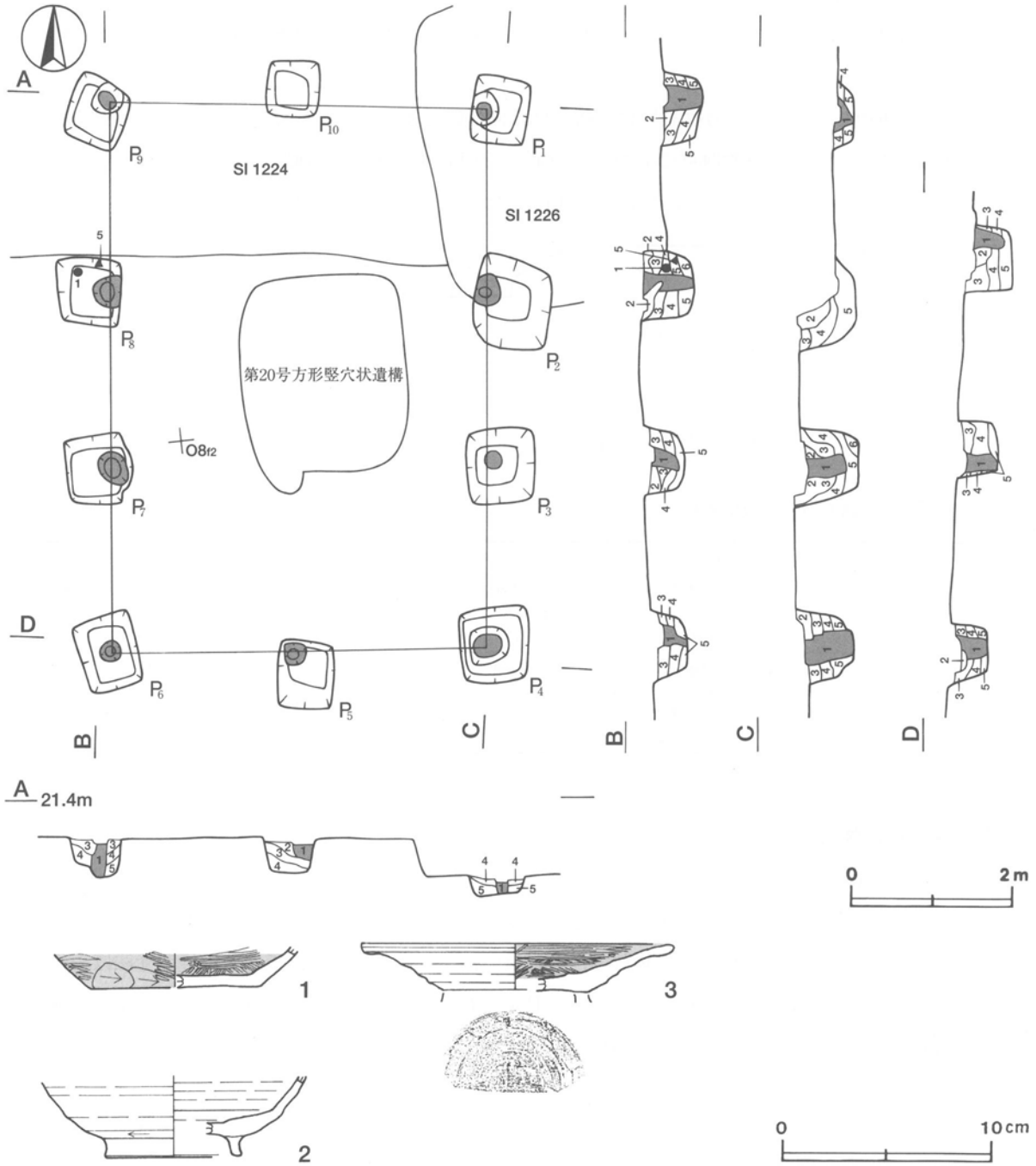
桁行方向　Ｎ－６°－Ｅ

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。埋土はロームブロック主体の暗褐色・褐色土で，版築状に突き固められている。

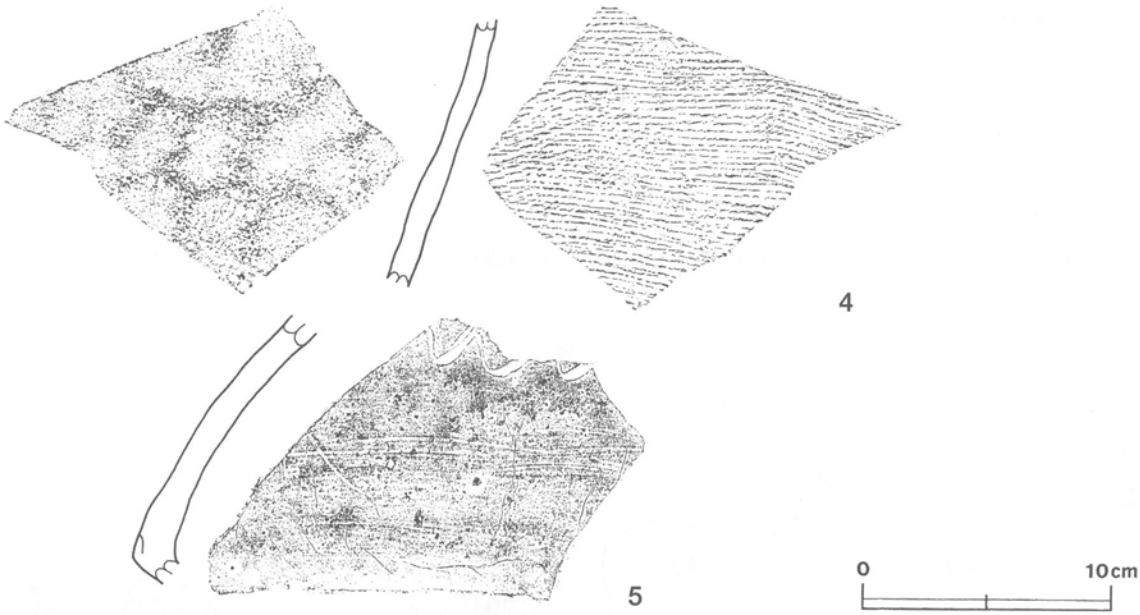
Ｐ１～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量。しまり弱い。
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化物少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片86点，須恵器片32点が，すべての柱穴の埋土から出土している。第608・609図１の土師器坏はＰ８の埋土中から，２の土師器高台付坏，３の土師器皿はＰ７の埋土から，それぞれ出土している。４の須恵器甕の体部片，５の須恵器甕の口縁部片は，Ｐ８の埋土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。本跡の北側にある第71・73号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。



第608図　第70号掘立柱建物跡・出土遺物実測図



第609図　第70号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第70号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第608図 1	坏 土師器	B（1.6） C［8.0］	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ヘラ磨き，下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 黒色 普通	P8890 15%
2	高台付坏 須恵器	B（3.6） D［6.4］ E　0.9	高台部から体部下位にかけての破片。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がる。高台は底部内側にあり，「ハ」の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 黒色 普通	P8892 15% PL269
3	皿 土師器	A［14.3］ B（2.1）	底部から口縁部にかけての破片。高台欠損。体部は外反気味に開き，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け痕あり。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P8893 40% PL269
第609図 4	甕 須恵器	B（10.7）	体部の破片。	体部外面横位の平行叩き，一部擬格子目の叩き。内面指頭による押圧痕を残すナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	TP8418 10% PL269
5	甕 須恵器	B（9.1）	頸部の破片。頸部は外反気味に立ち上がる。	頸部内・外面ロクロナデ。外面に櫛描波状文。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色，普通	TP8425　10% PL269

第71号掘立柱建物跡（第610・611図）

位置　調査8区の南西部。O8b2区。

重複関係　南部で第1224・1225・1230号住居跡を，北部のP11で第105号掘立柱建物跡のP6を掘り込んでいる。

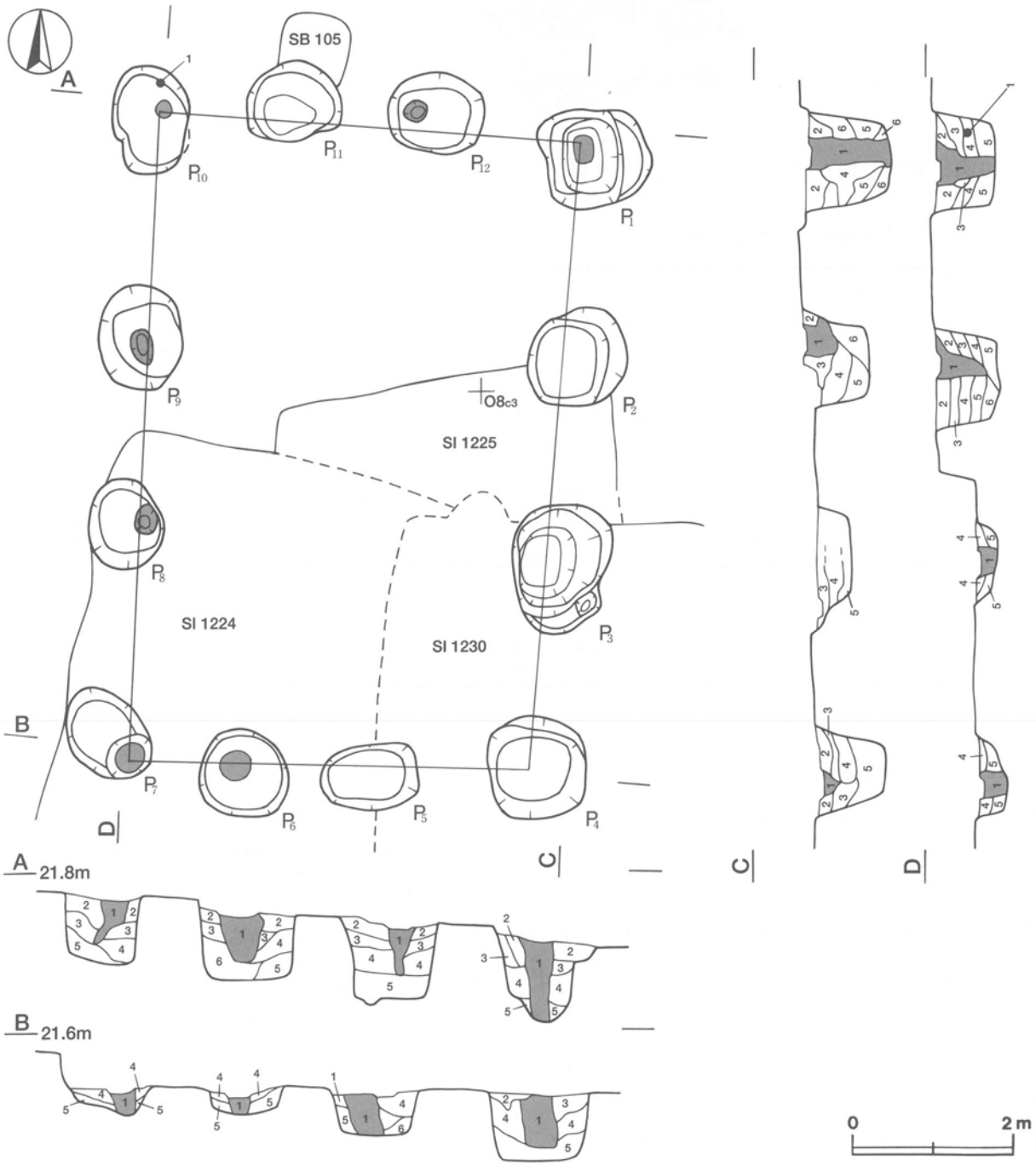
規模　桁行3間，梁行3間の側柱式の建物跡で，桁行長7.82m，梁行長5.24mである。柱間寸法は桁行2.20～2.90m，梁行1.30～2.10mである。柱穴は12か所（P1～P12）で，平面形が長軸（径）1.16～1.56m，短軸（径）0.81～1.20mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が逆台形状・二段掘り状を呈し，深さは32～111cmである。

桁行方向　N－1°－W

柱穴覆土　土層断面図中，第1層が柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック主体の暗褐色・褐色土で，版築状に突き固められている。

P１～P12土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・砂粒微量。しまり弱い。
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物少量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，粘土中ブロック微量

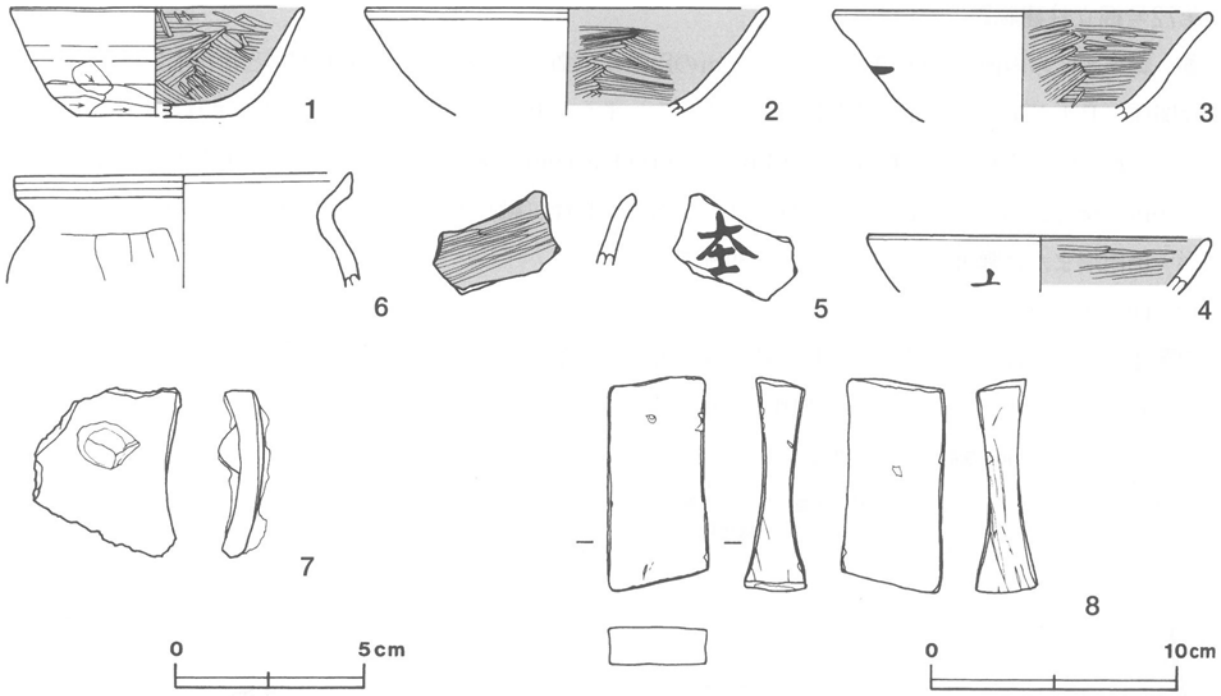
遺物　土師器片63点，須恵器片24点，不明鉄製品１点，石器１点（砥石）が，すべての柱穴の埋土から出土している。第611図１の土師器坏はP10の埋土から，２の土師器坏はP７の埋土から，それぞれ出土している。３の土師器坏，６の土師器甕はP９の埋土から，それぞれ出土している。３の土師器坏の体部外面に墨書されているが，判読は不能である。４の土師器坏はP９の埋土から出土しており，体部外面に墨書されている。判読は不能である。５の土師器坏はP10の埋土から出土しており，体部外面に「杢」と墨書されている。７の不



第610図　第71号掘立柱建物跡実測図

明鉄製品はＰ12の埋土から，８の砥石はＰ11の埋土から，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。本跡の北側にある第73号掘立柱建物跡，南側にある第70号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。



第611図　第71号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第71号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第611図 1	坏 土師器	A［11.6］ B　4.3 C［6.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部１方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	Ｐ8894 35% ＰＬ269
2	坏 土師器	A［16.0］ B（4.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 浅黄橙色 普通	Ｐ8895 20%
3	坏 土師器	A［15.0］ B（4.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	Ｐ8896 10% 体部外面に墨痕
4	坏 土師器	A［13.6］ B（2.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	Ｐ8884　5％ 体部外面に墨書 判読不能
5	坏 土師器	B（2.7）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部内面斜位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	Ｐ8902　5％ 体部外面に墨書 「杢」
6	甕 土師器	A［13.4］ B（4.5）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状にくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	Ｐ8897 5％

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第611図7	不明	(4.5)	(3.8)	1.2	(33.5)	鉄	やや彎曲して突起部を有す。	M8446

図版番号	器　種	計　測　値					石質	特　徴	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）			
第611図8	砥　石	8.5	4.0	1.5	0.3	101.5	凝灰岩	直方体で側面4面が砥面，端部に深さ5㎜の孔。	Q8414　PL284

第72号掘立柱建物跡（第612図）

位置　調査8区の南西部，O7j0区。北西へ8mの距離に位置する第74号掘立柱建物跡と並列する。

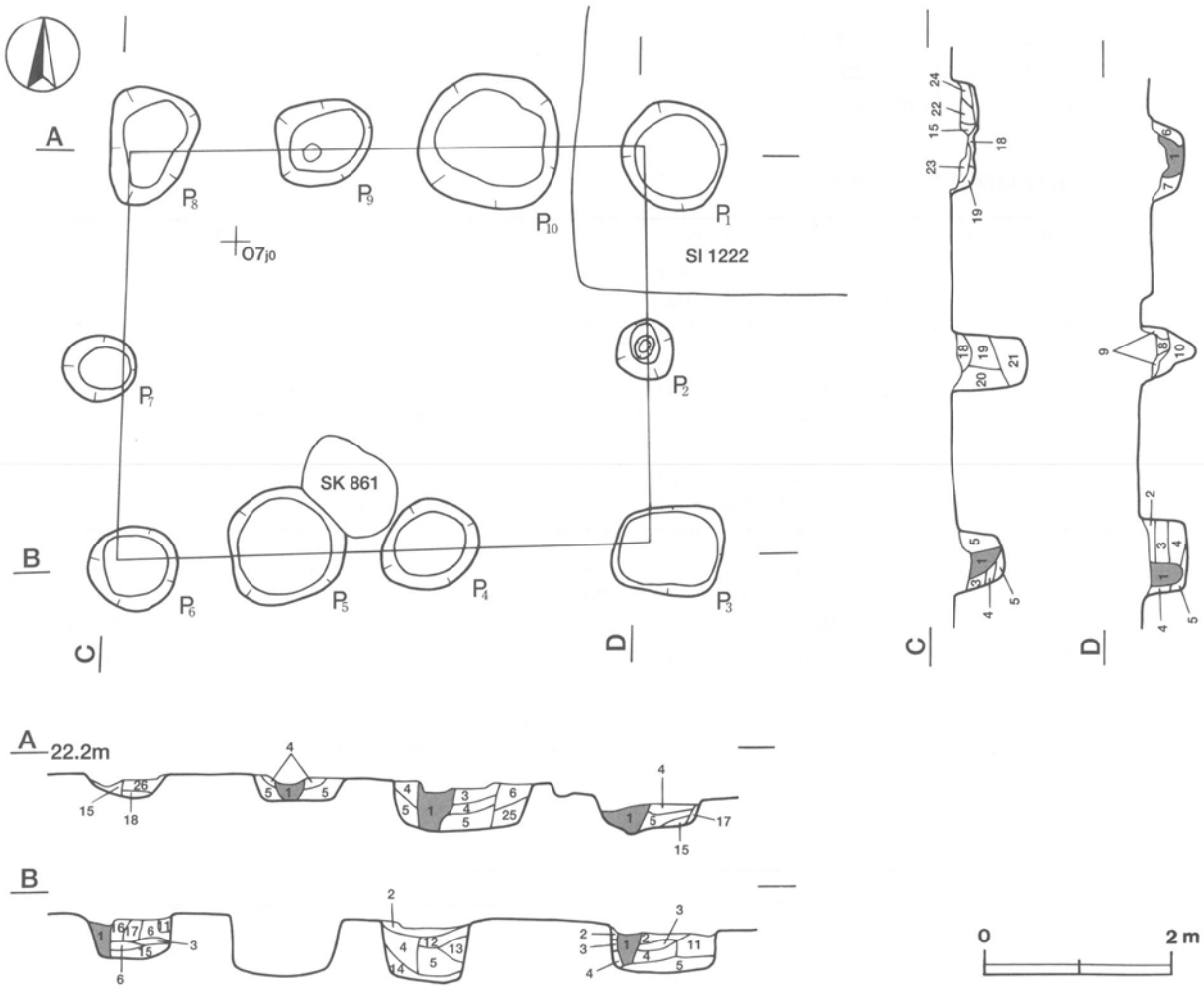
重複関係　P1が第1222号住居跡を掘り込んでいる。また，P5を第861号土坑に掘り込まれている。

規模　桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長5.60m，梁行長4.43mである。柱間寸法は桁行1.70m～2.30m，梁行2.10～2.40mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.64～1.52m，短径（軸）0.59～1.20mの円形・楕円形または隅丸方形で，深さ28～80cmである。

桁行方向　N－88°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第1層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含んだ暗褐色・褐色土であり，強く突き固められてはいない。

P1～P4，P6～P10土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量



第612図　第72号掘立柱建物跡出土遺物実測図

5　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
7　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
11　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量
12　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
13　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
14　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
15　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
16　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
17　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
18　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
19　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
20　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
21　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
22　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
23　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
24　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
25　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
26　暗褐色　ローム中ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片86点，須恵器片８点が，Ｐ７を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。そのうち土師器片55点は甕の体部細片である。また，土師器坏の細片が28点，土師器皿の細片が３点，須恵器甕の体部細片が２点，須恵器坏小片が６点出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため特定が困難なものの，わずかながらうかがえる出土土器の特徴，隣接する９世紀中葉と考えられる第74号掘立柱建物跡と桁行方向が一致しており，同時期の可能性が考えられること，８世紀前葉と考えられる第1222号住居跡を掘り込んでいることなどから，９世紀中葉と推定される。

第73号掘立柱建物跡（第613図）

位置　調査８区の南西部，N8j2区。東へ５ｍの距離に位置する第1221号住居跡と並列する。

重複関係　Ｐ７～Ｐ９が第1222号住居跡を，Ｐ10が第105号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長5.75m，梁行長3.40mである。柱間寸法は桁行1.80～2.00m，梁行1.10～1.60mである。柱穴は，平面形が長径0.78～1.00m，短径0.68～0.75mの円形または楕円形で，深さ51～69cmである。

桁行方向　Ｎ－４°－Ｅ

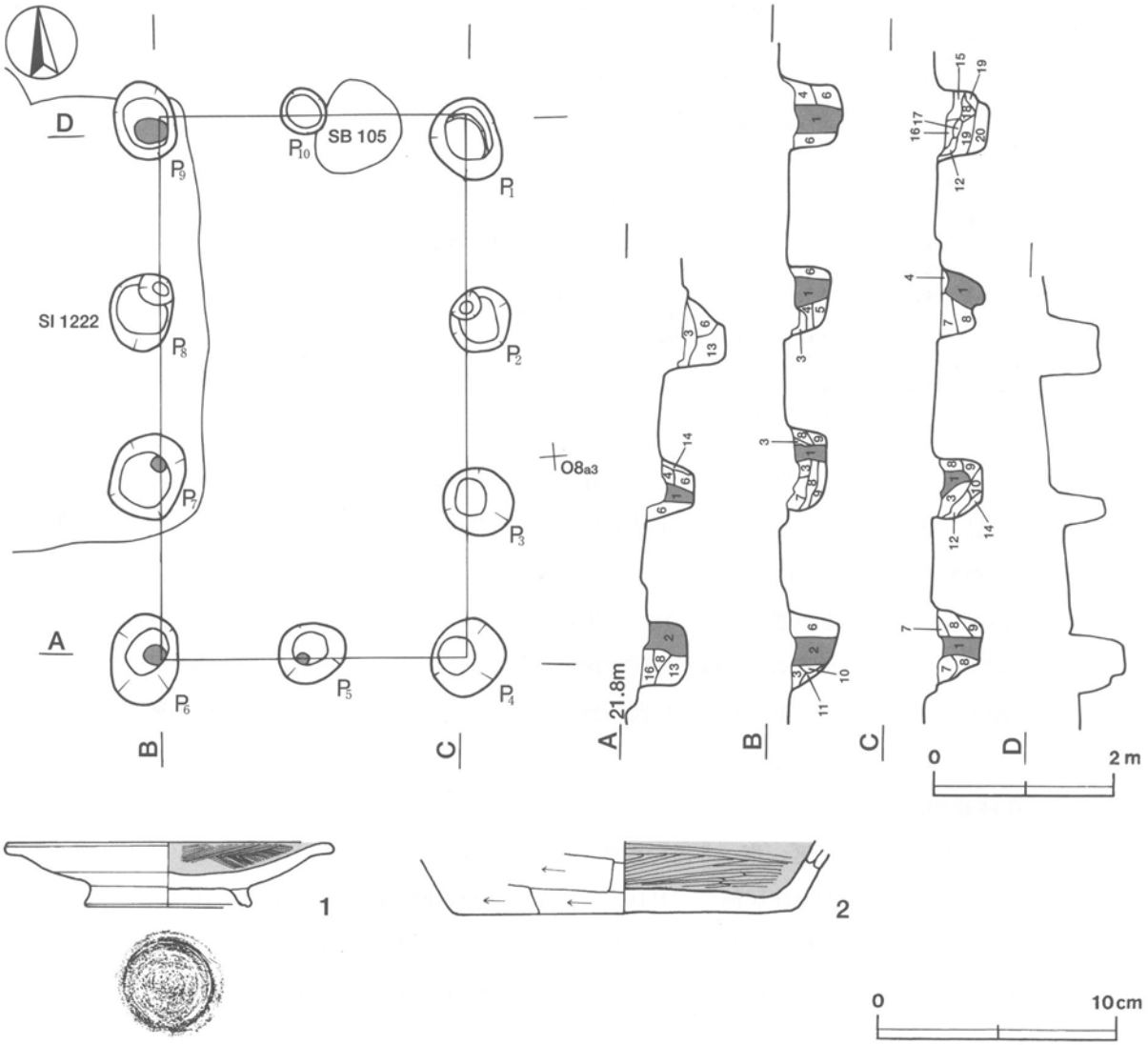
柱穴覆土　土層断面図中，第１・２層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含んだ暗褐色・褐色土であり，強く突き固められてはいない。

Ｐ１～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
11　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
12　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化物微量
13　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
14　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
15　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
16　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
17　褐　色　炭化物中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
18　褐　色　ローム小ブロック少量
19　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
20　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片26点が，Ｐ１・Ｐ３・Ｐ６・Ｐ８・Ｐ10の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第613図の１の土師器皿はＰ２の埋土から，２の土師器鉢はＰ６の埋土から出土している。

所見　本跡の桁行方向が隣接する第1221号住居跡の主軸方向と一致することから，同時期に一連の施設として

機能していた可能性が考えられる。時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第613図　第73号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 73 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第613図 1	皿 土師器	A 13.6 B 2.7 D 6.8 E 0.9	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は緩やかに外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P8348 50% PL269
2	鉢 土師器	B (3.0) C [14.4]	底部から体部下端の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部摩滅により調整不明。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P8349 30% PL269

第74号掘立柱建物跡（第614図）

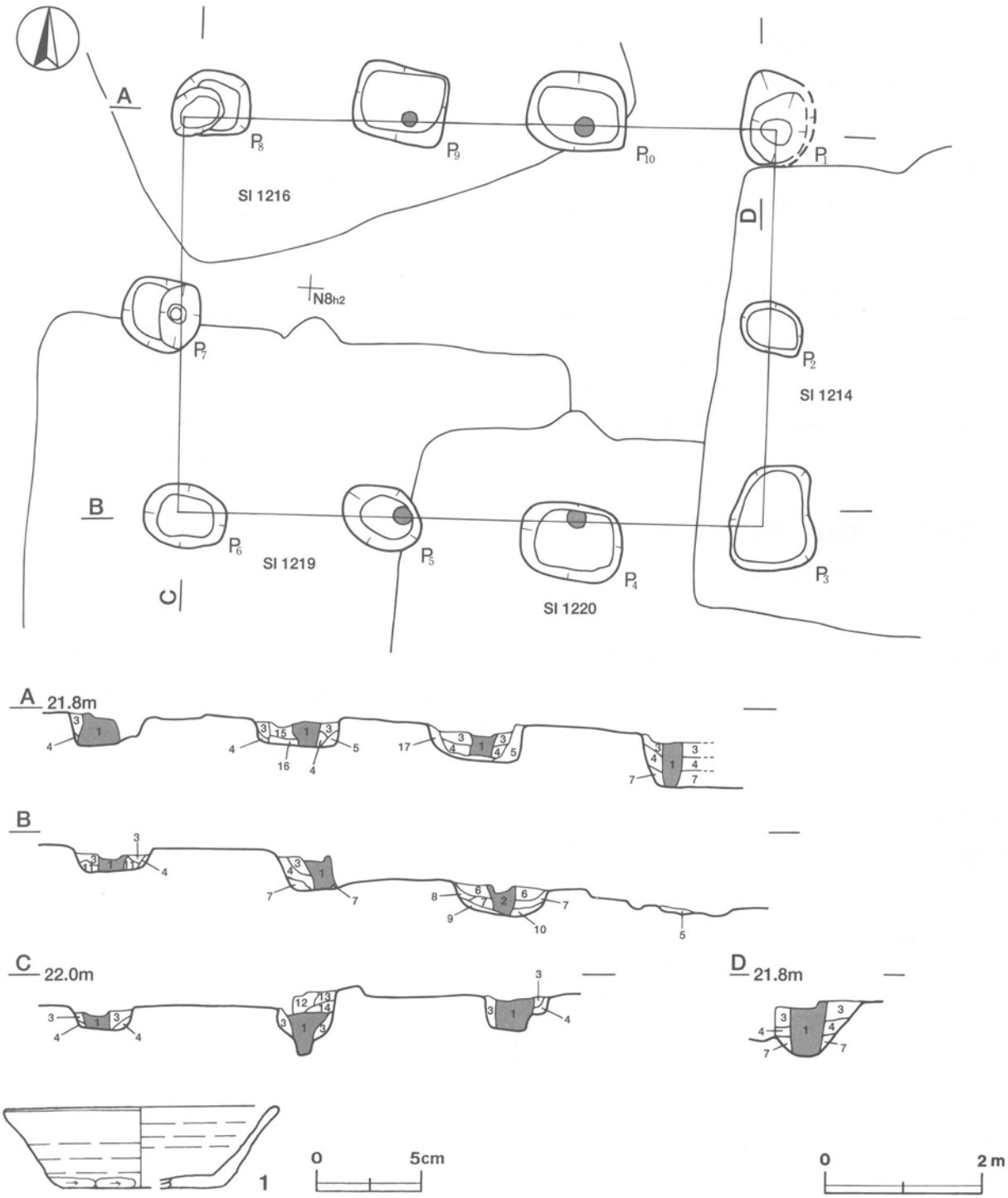
位置　調査８区の南西部，N8h2区。西へ９ｍの距離に位置する第81号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係　Ｐ２・Ｐ３が第1214号住居跡を，Ｐ４が第1220号住居跡を，Ｐ５～Ｐ７が第1219号住居跡を，Ｐ８～Ｐ10が第1216号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長7.30m，梁行長4.98mである。柱間寸法は桁行2.10m～2.60m，梁行2.30～2.40mである。柱穴は，平面形が長径（軸）1.00～1.40m，短径（軸）0.91～1.10mの不整楕円形または隅丸長方形で，深さ15～85cmである。

桁行方向　N－88°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含んだ暗褐色・褐色土であり，強く突き固められてはいない。



第614図　第74号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

P 1～P10土層解説（各柱穴共通）

1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化物微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
7　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量，炭化物微量
10　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
11　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，炭化物・炭化粒子少量
12　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量
13　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物微量
14　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物微量
15　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化物微量
16　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化物微量
17　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化物微量

遺物　土師器片41点，須恵器片５点が，Ｐ１・Ｐ４・Ｐ７～Ｐ９の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第614図１の須恵器坏はＰ４の埋土から出土しているが，第1220号住居跡から混入したものと思われる。

所見　本跡は，隣接する９世紀中葉と考えられる第81号掘立柱建物跡と桁行方向が一致しており，同時期の一連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は，８世紀後葉と考えられる第1220号住居跡を掘り込んでいることや，第81号掘立柱建物跡との関連及び出土土器から９世紀中葉と推定される。

第74号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第614図 1	坏 須恵器	A［12.8］ B　3.9 C［7.4］	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8350 30% PL269

第75号掘立柱建物跡（第615図）

位置　調査８区の中央部，N8g0区。

重複関係　Ｐ６・Ｐ７が第89号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長8.18m，梁行長5.39mである。柱間寸法は桁行2.30m～3.26m，梁行2.40～2.85mである。柱穴の平面形は，Ｐ８が撹乱を受け長径0.46m，短径0.36mの楕円形が確認できた。深さは15cmである。それ以外の柱穴の平面形は長径0.90～1.38m，短径0.85～1.20mの円形または楕円形で，深さ31～114cmである。

桁行方向　N－0°

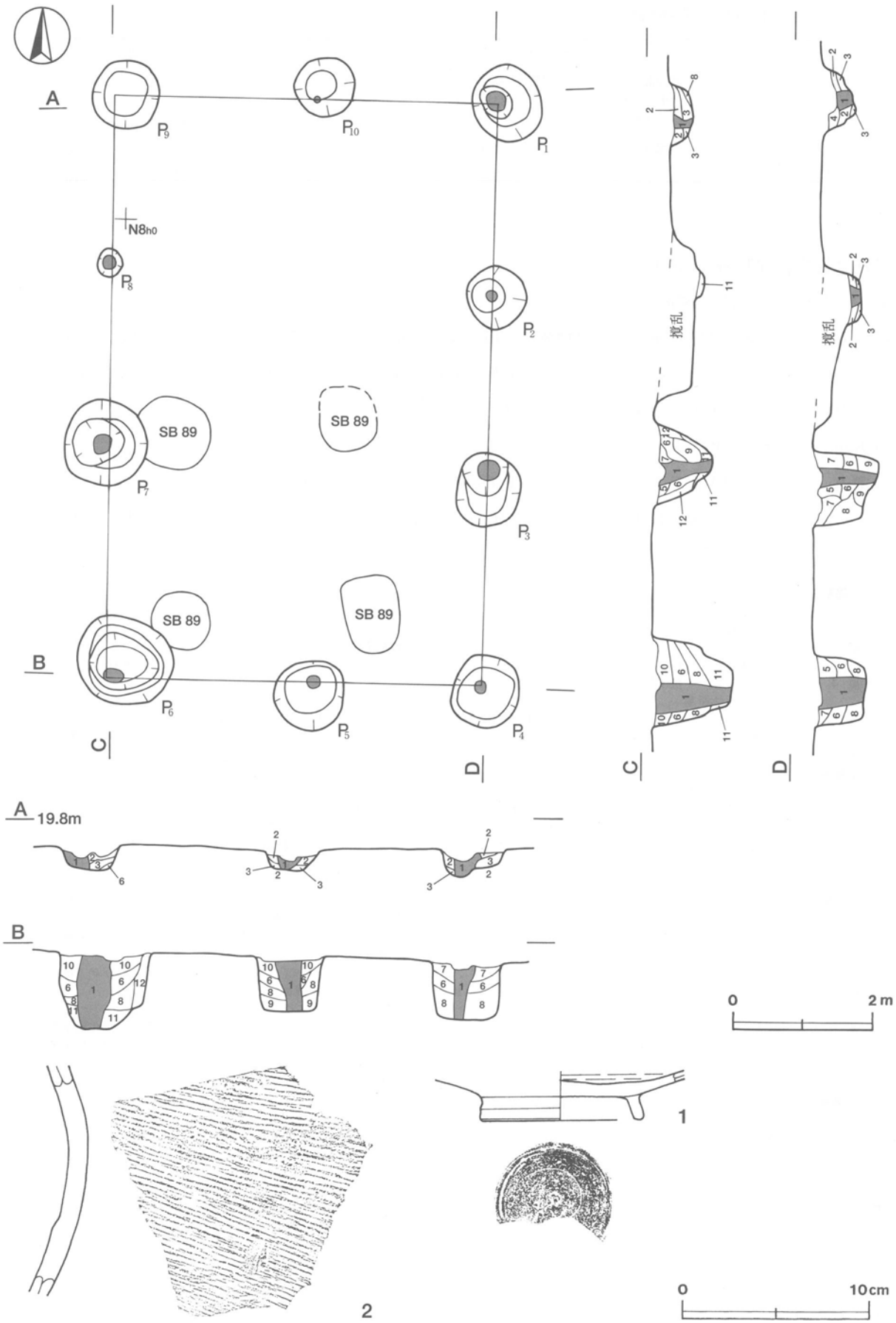
柱穴覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土は粘土ブロックを含む黒褐色土を主体としており，粘性の強い層と弱い層が互層をなしている。

P 1～10土層解説（各柱穴共通）

1　黒褐色　ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，炭化物微量
3　黒褐色　ローム小ブロック中量，粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　粘土小ブロック多量，粘土中ブロック中量，粘土粒子少量
5　黒褐色　粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
6　黒褐色　粘土小ブロック少量
7　黒褐色　粘土小ブロック少量，粘土中ブロック・焼土小ブロック微量
8　黒褐色　炭化物微量
9　黒褐色　粘土中ブロック・粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
10　黒褐色　焼土粒子・炭化物微量
11　黒褐色　粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量
12　黒褐色　粘土小ブロック少量

遺物　土師器片52点，須恵器片58点が，Ｐ１・Ｐ９を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第615図１の須恵器高台付坏，２の須恵器甕体部片は，Ｐ６の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から，８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる。



第615図　第75号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第75号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第615図 1	盤 須恵器	B [2.7] D 8.6 E 1.4	高台部から体部下端の破片。高台は中位に稜をもち，ハの字状に開く。体部は大きく開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8351 10% PL269
2	甕 須恵器	B (12.5)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横位の平行叩き。	砂粒・雲母 灰色，普通	TP8210 5% PL271

第76号掘立柱建物跡（第616図）

位置　調査8区の南部，O8b8区。

規模　桁行2間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長4.90m，梁行長4.57mである。柱間寸法は桁行1.70～3.00m，梁行2.20～2.30mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.63～1.05m，短径（軸）0.61～0.96mの円形・楕円形または隅丸方形で，深さ34～70cmである。

桁行方向　N－86°－W

柱穴覆土　土層断面図中，P1・P3・P5・P6の第1層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック・焼土粒子を含んだ暗赤褐色土・黒褐色土・黒色土であり，強く突き固められてはいない。

P1土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
3　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量，炭化物微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

P2土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量，炭化物微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化物微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
4　黒　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

P3土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
4　黒褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量

P4土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
2　黒褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量

P5土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
4　黒褐色　焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　黒　色　焼土粒子・炭化粒子微量

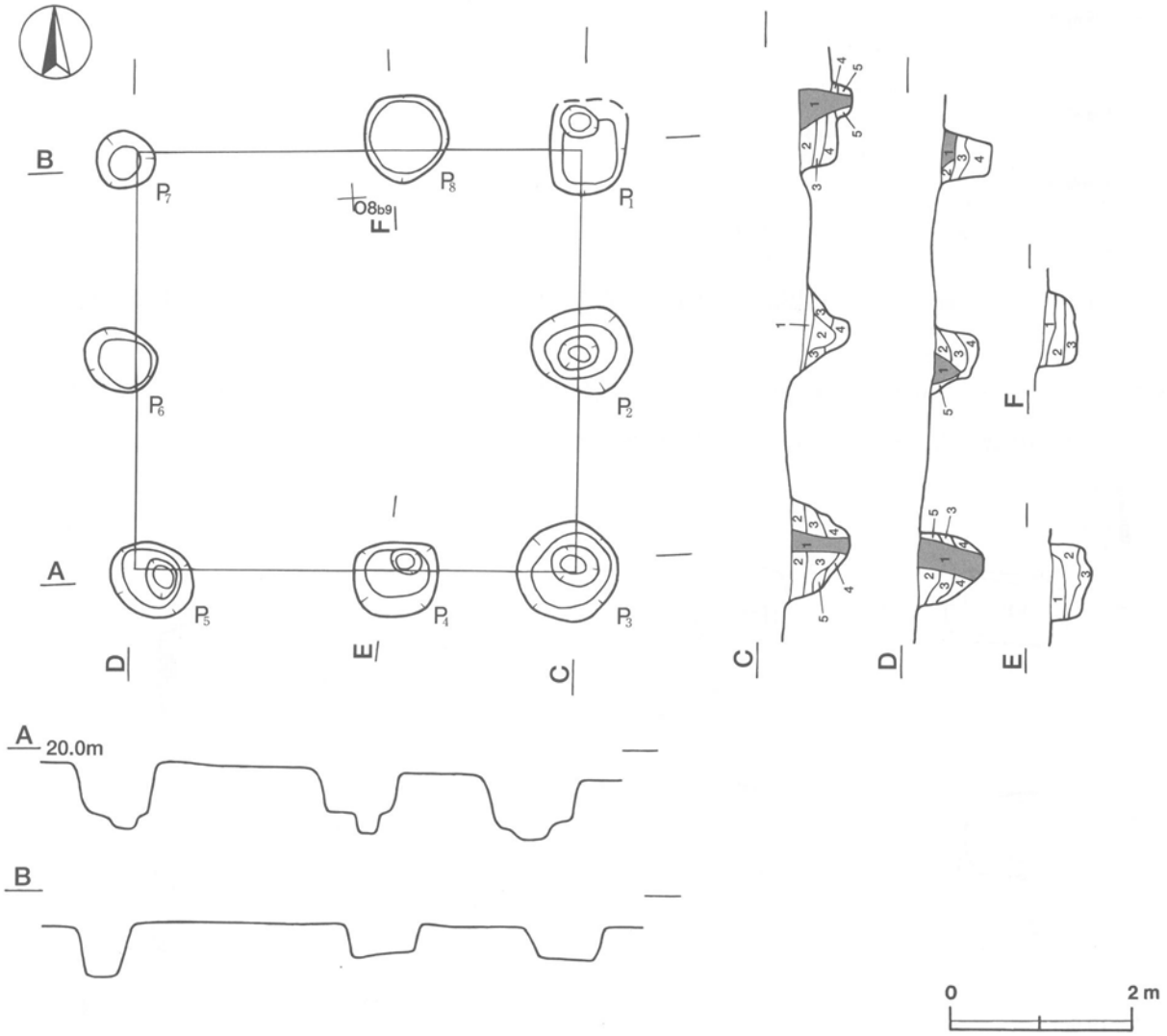
P6土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・コーム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　黒　色　焼土粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

P7土層解説
1　黒　色　粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　黒　色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

P8土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量，炭化物微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック少量

遺物　土師器片90点，須恵器片20点が，P6・P8を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。土師器片のうち81点は甕の体部細片，9点は坏の細片である。須恵器片のうち12点が甕の体部細片，8点が坏小片である。

所見　柱穴は，平面形・断面形・規模ともに不ぞろいで，柱間寸法についても規則性に乏しい。同じ構造の掘立柱建物跡は検出されていない。時期は，出土土器から，奈良・平安時代と考えられるが，詳細は不明である。



第616図　第76号掘立柱建物跡実測図

第77号掘立柱建物跡（第617図）

位置　調査８区の南部，O9f1区。

重複関係　Ｐ１～Ｐ４が第1239号住居跡に掘り込まれている。

規模　南部が撹乱をうけているため桁行長は不明であるが，さらに南へ延びる可能性があり，桁行１間以上，梁行１間の建物跡である。規模は，桁行長3.00m以上，梁行長2.70mである。柱間寸法は桁行2.50m，梁行2.70mである。柱穴は，平面形が長径（軸）1.17～1.51m，短径（軸）0.90～1.03mの不整楕円形または隅丸方形で，深さ30～34cmである。

桁行方向　N－２°－E

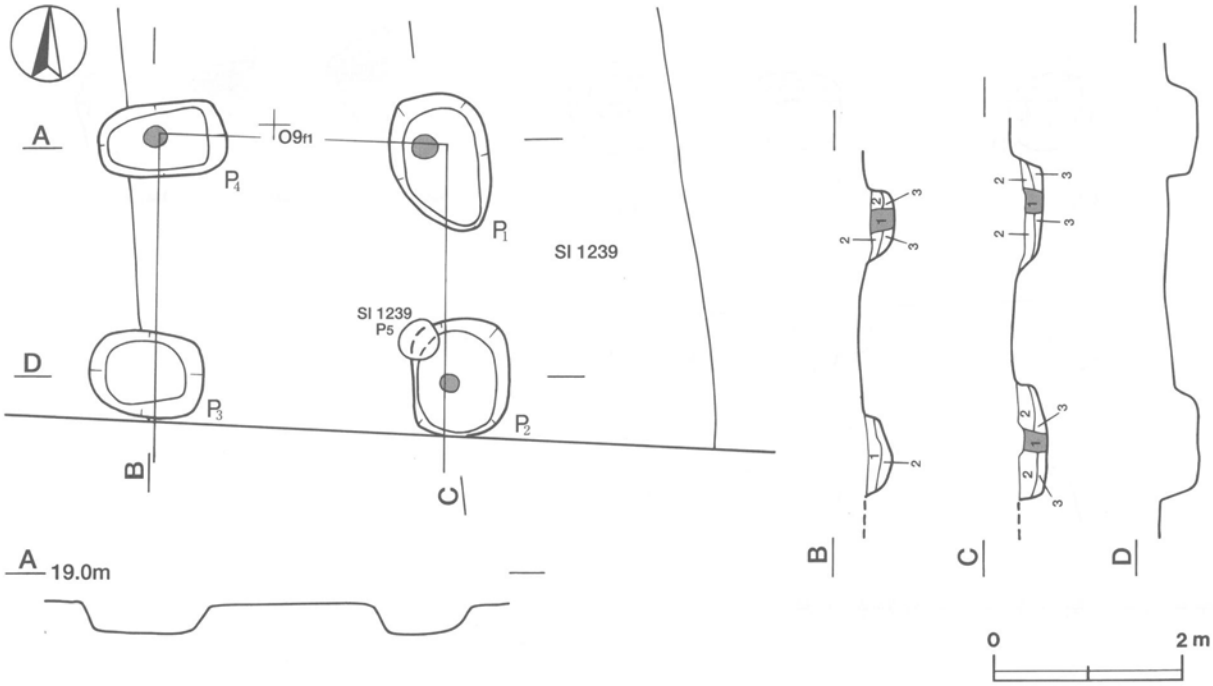
柱穴覆土　土層断面図中，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４の第１層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック・炭化粒子を含む黒色土で，強く突き固められてはいないが互層をなしている。

Ｐ１土層解説
1　黒色　炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　黒色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量
3　黒色　ローム小ブロック少量

P 2 土層解説
1　黒色　炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2　黒色　炭化粒子少量
3　黒色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
P 3 土層解説
1　黒色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　黒色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
P 4 土層解説
1　黒色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
2　黒色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　黒色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

遺物　土師器甕体部細片11点，須恵器甕体部細片３点，須恵器盤細片１点が，Ｐ３を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，９世紀中葉と考えられる第1239号住居に掘り込まれていること，わずかながらうかがえる出土土器の特徴から，８世紀後半から９世紀中葉と考えられる。



第617図　第77号掘立柱建物跡実測図

第78号掘立柱建物跡（第618・619図）

位置　調査８区の南西，N8g6区。

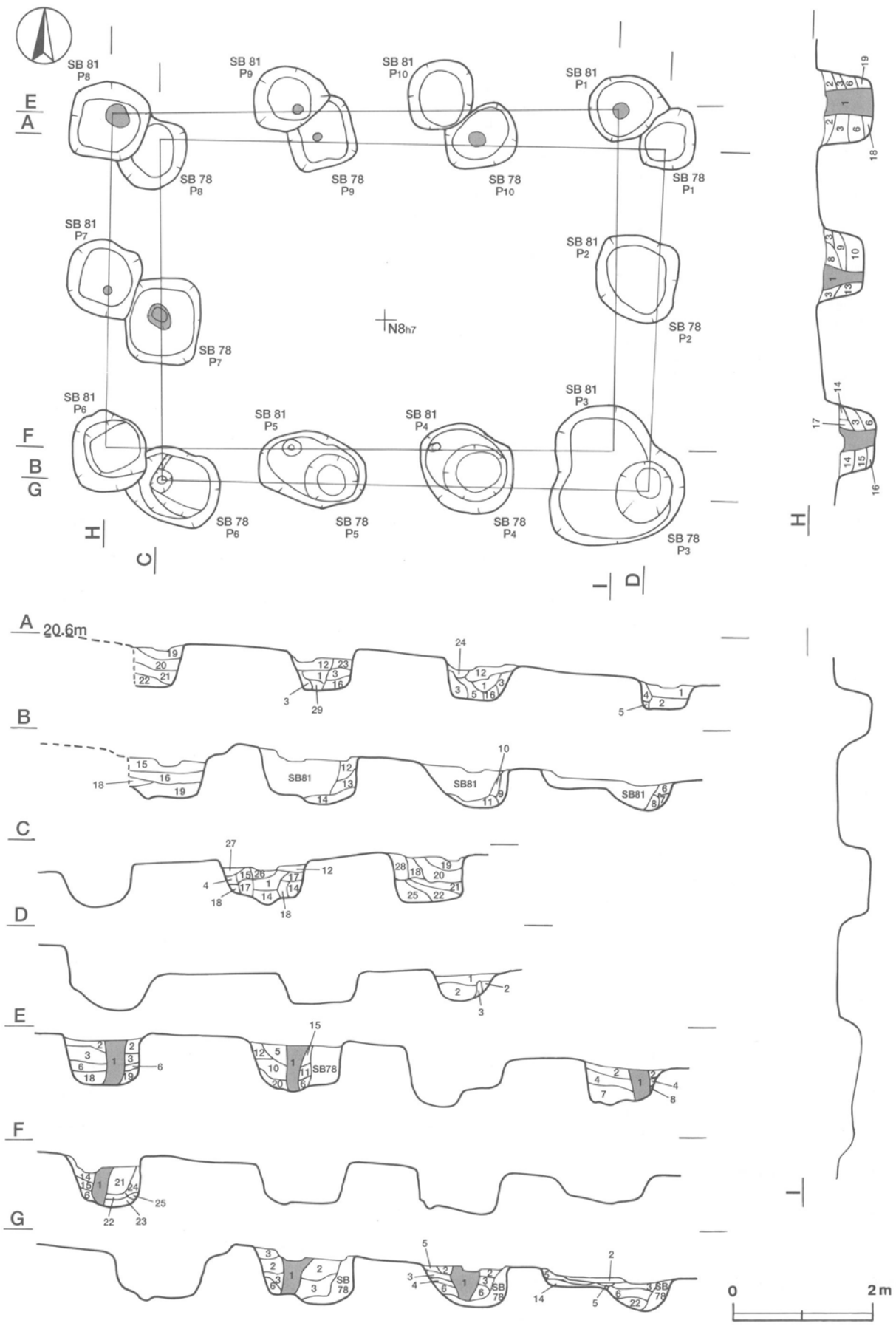
重複関係　すべての柱穴が第81号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長7.07m，梁行長4.82mである。柱間寸法は桁行2.30～2.70m，梁行2.00～2.80mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.95～1.95m，短径（軸）0.82～1.63mの楕円形・隅丸長方形または不定形で，深さ44～95cmである。

桁行方向　N－85°－E

柱穴覆土　土層断面でとらえたのは，すべて埋土である。埋土はロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土であり，強く突き固められてはいない。

P 1～P10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

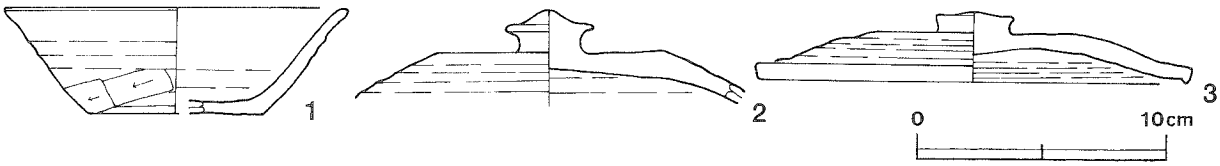


第618図　第78・81号掘立柱建物跡実測図

5　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子多量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
10　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物・粘土大ブロック微量
11　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
12　黒褐色　ローム小ブロック中量，炭化物微量
13　黒褐色　ローム小ブロック中量，炭化物・炭化粒子微量
14　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
15　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，炭化物・炭化粒子微量
17　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
18　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
19　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
20　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，炭化物微量
21　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
22　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
23　黒褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
24　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
25　黒褐色　ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
26　黒褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
27　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
28　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
29　黒褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，炭化物微量

遺物　土師器片131点，須恵器片116点が，Ｐ２・Ｐ４を除く各柱穴の埋土から出土している。第619図１の須恵器坏はＰ９の埋土から，２の須恵器蓋はＰ６の埋土から，３の須恵器蓋はＰ７の埋土からそれぞれ出土している。

所見　柱穴にはそれぞれ第81号掘立柱建物の柱穴との重複が見られ，本跡が第81号掘立柱建物に建て替えられた可能性が考えられる。本跡の時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第619図　第78号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第78号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第619図 1	坏 須恵器	A［13.6］ B　4.2 C［7.0］	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色，普通	Ｐ8352 20%
2	蓋 須恵器	B（3.8） F［3.6］ G　1.7	口縁部欠損。天井部から外周部の破片。天井部は笠形で，擬宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り。外周部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色，普通	Ｐ8353 40% ＰＬ269
3	蓋 須恵器	A　17.2 B　2.8 F　3.1 G　0.9	天井部から口縁部の破片。天井部は頂部が平坦で外周部はなだらかに下降し，口縁部は下方へ屈曲する。つまみはボタン状を呈する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 暗灰色 普通	Ｐ8354 20% ＰＬ269

第79号掘立柱建物跡（第620・621図）

位置　調査８区の中央部，N8j8区。

重複関係　Ｐ10が第107号掘立柱建物跡を，Ｐ１～Ｐ３・Ｐ６～Ｐ９が第108号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長5.86m，梁行長4.80mである。柱間寸法は桁行1.50～2.30m，梁行2.08～2.70mである。柱穴は，平面形が長径0.79～1.73m，短径0.78～1.22mの円形または不整楕円形で，深さ44～88cmである。

桁行方向　N－88°－E

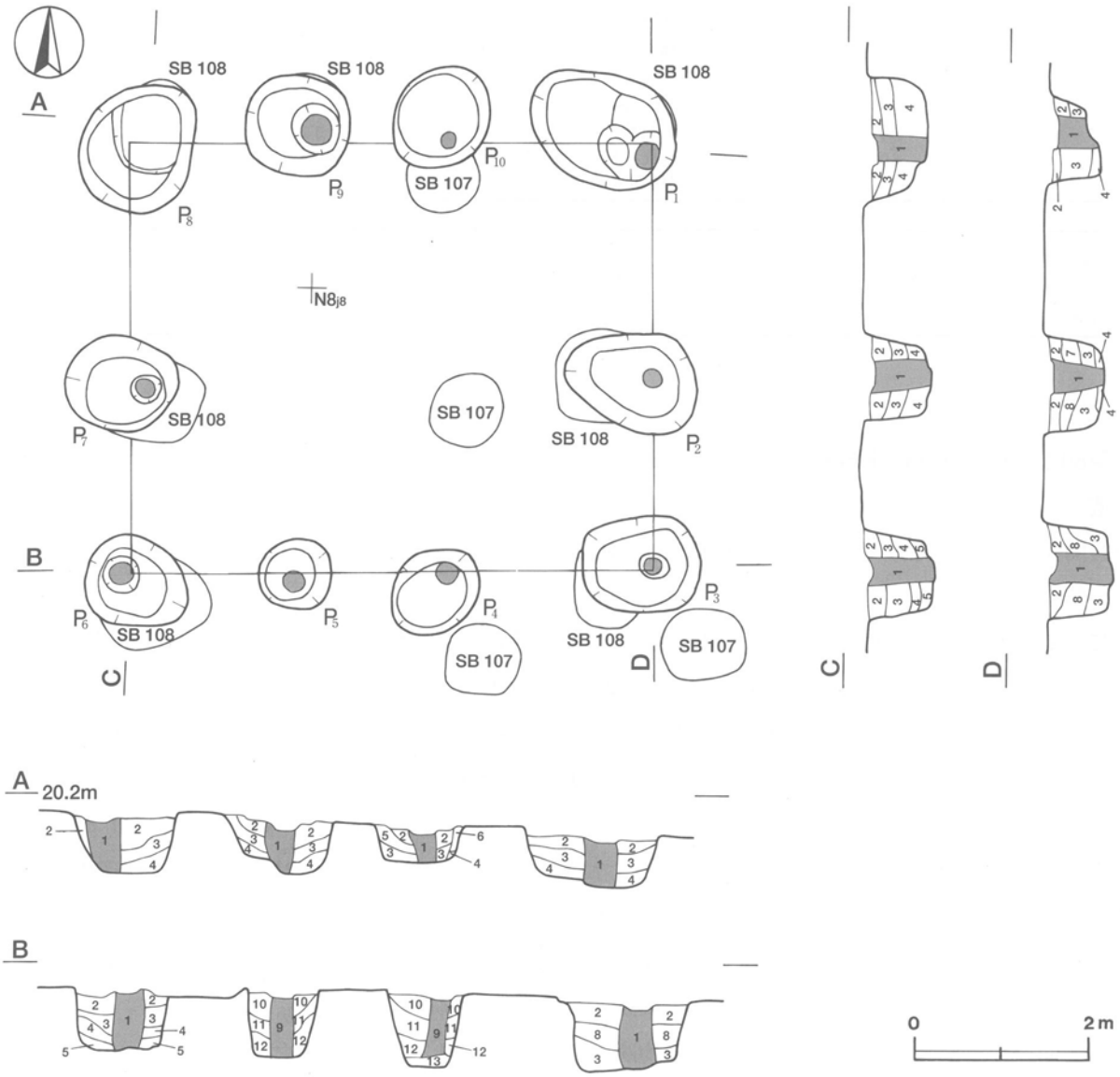
柱穴覆土　土層断面図中，第１・９層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒色土・黒褐色土・暗褐色土であり，強く突き固められてはいないが互層をなしている。

Ｐ１～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）

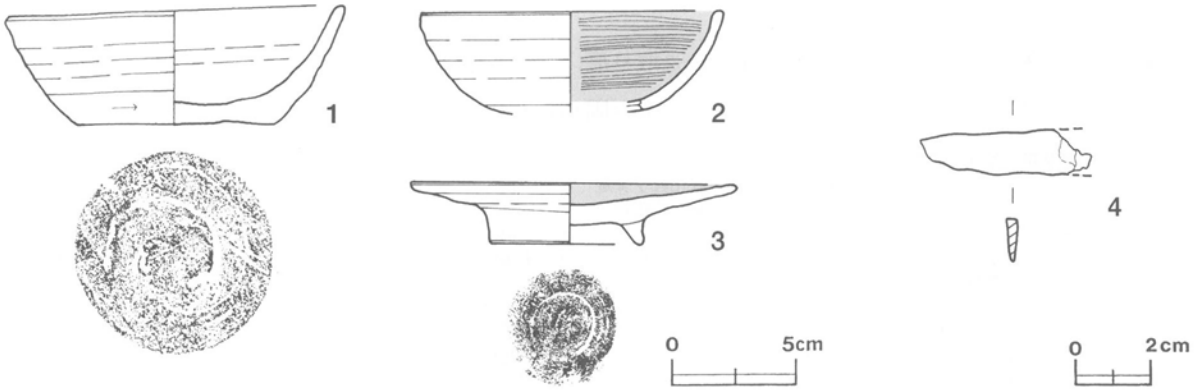
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
3　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・粘土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
7　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物・粘土粒子微量
9　黒褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
10　黒褐色　ローム小ブロック少量
11　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
12　黒褐色　炭化粒子微量
13　黒　色　粘土粒子中量

遺物　土師器片134点，須恵器片49点，鉄器１点（刀子）が，Ｐ４・６を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第621図１の土師器坏はＰ７の埋土から，２の土師器坏はＰ10の埋土から，３の土師器皿はＰ２の埋土から，４の刀子はＰ８の埋土からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀後半と考えられる。



第620図　第79号掘立柱建物跡実測図



第621図　第79号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第79号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第621図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.7 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 浅黄橙色，普通	P8355 70% PL269
2	坏 土師器	A [12.0] B 4.0 C [5.8]	底部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色，普通	P8356 10% PL269
3	皿 土師器	A [12.8] B 2.4 D 6.0 E 1.1	高台部から口縁部の破片。高台は底部外周にあり，ハの字状に開く。体部は緩やかに外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P8357 30% PL269

図版番号	器　種	計測値					材質	特　徴	備　考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	重量(g)			
第621図4	刀　子	(4.6)	(4.6)	1.2	0.3	(4.7)	鉄	刀身部の破片。	M8223　PL282

第80A・B号掘立柱建物跡（第622～625図）

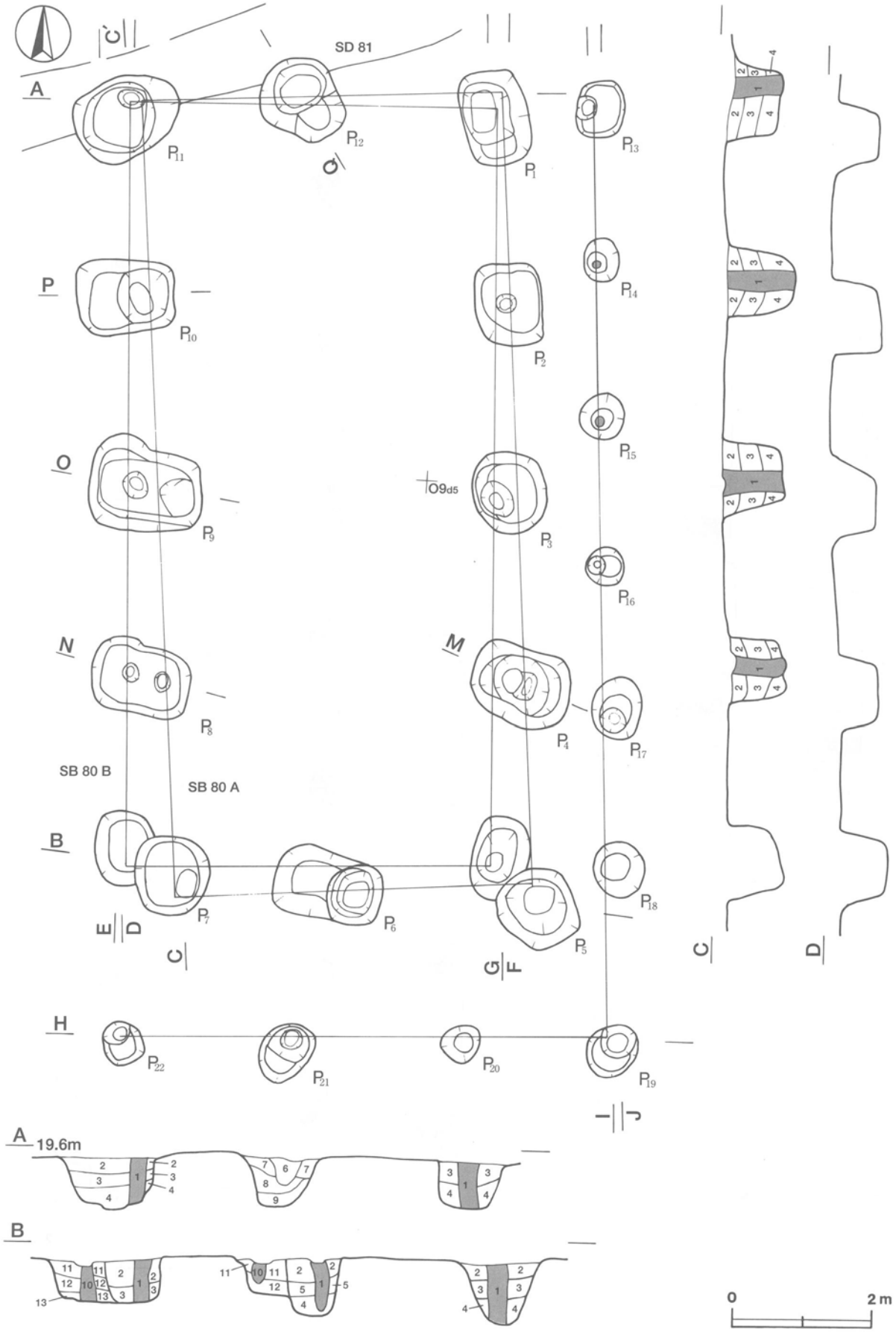
位置　調査8区の南部，O9c4区。

重複関係　第80A号掘立柱建物跡が第80B号掘立柱建物跡のすべての柱穴を掘り込んでいる。また，P11・P12が第81号溝を掘り込んでいる。

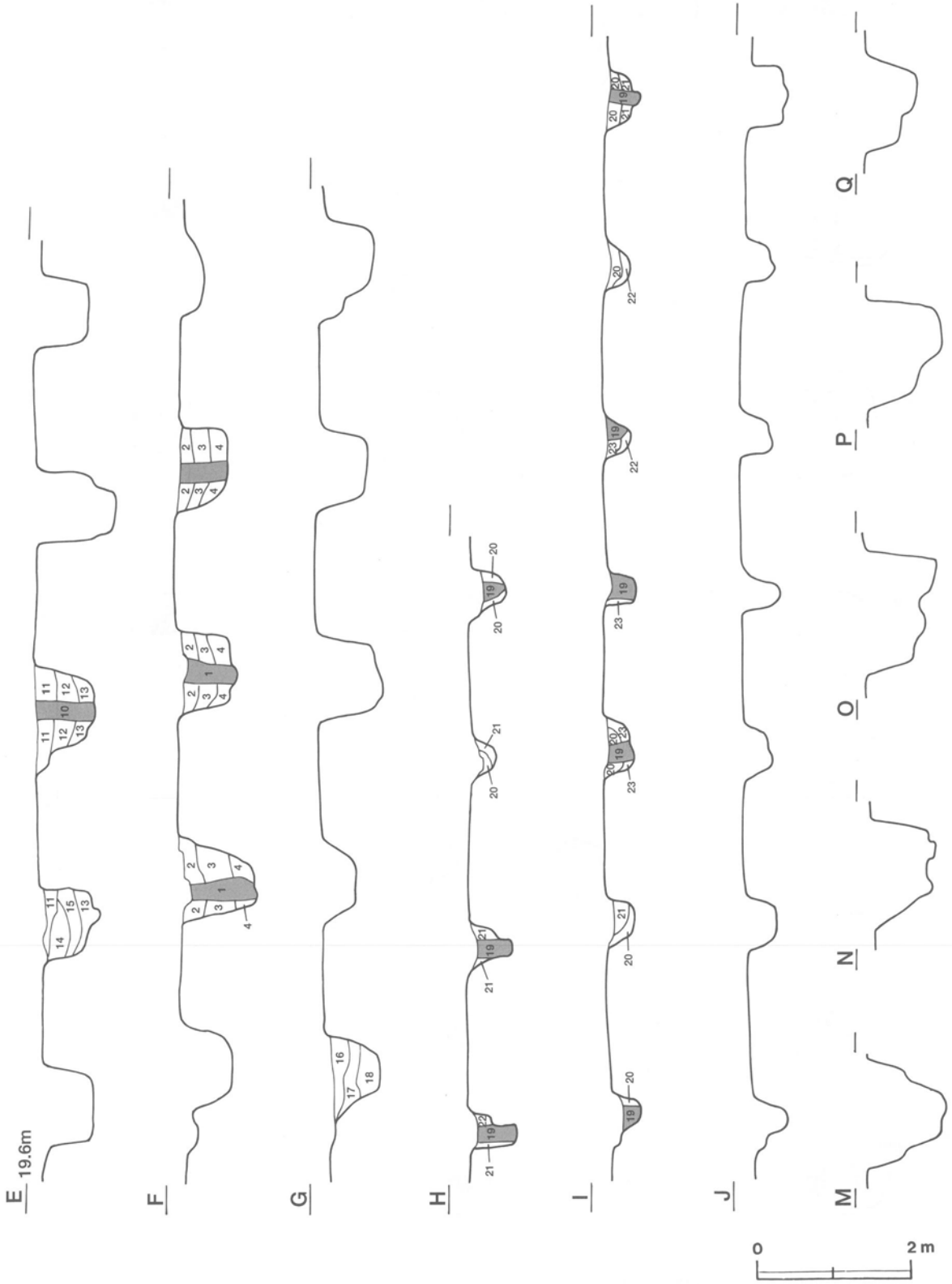
規模　第80A号掘立柱建物跡は，桁行4間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長11.10m，梁行長5.00mである。柱間寸法は桁行2.70m～2.80m，梁行2.50mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.90～1.52m，短径（軸）0.70～1.10mの円形・楕円形または隅丸長方形で，深さ60～103cmである。第80B号掘立柱建物跡は，桁行4間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長10.60m，梁行長5.10mである。柱間寸法は桁行2.60～2.70m，梁行2.50～2.60mである。確認できた柱穴の平面形は，長径（軸）0.99～1.04cm，短径（軸）81～93cmの円形・楕円形または隅丸長方形で，深さ45～78cmである。また，東側へ1.50m離れて東桁行に，南側へ2.40m離れて南梁行にそれぞれ平行してL字状の柱列（P13～P22）を検出した。規模は，P13～P19の長さ13.10m，P19～P22の長さ6.65m，柱間寸法は2.20m～2.40mである。柱穴は平面形が長径（軸）0.45～0.75m，短径（軸）0.48～0.58mの円形・楕円形または隅丸方形で，深さ41～58cmである。

桁行方向　N－5°－W（第80A号掘立柱建物跡），N－1°－W（第80B号掘立柱建物跡）

柱穴覆土　土層断面図中，第1～9層が第80A号掘立柱建物跡，第10～23層が第80B号掘立柱建物跡の土層で



第622図　第80A・B号掘立柱建物跡実測図（1）



第623図　第80A・B号掘立柱建物跡実測図（2）

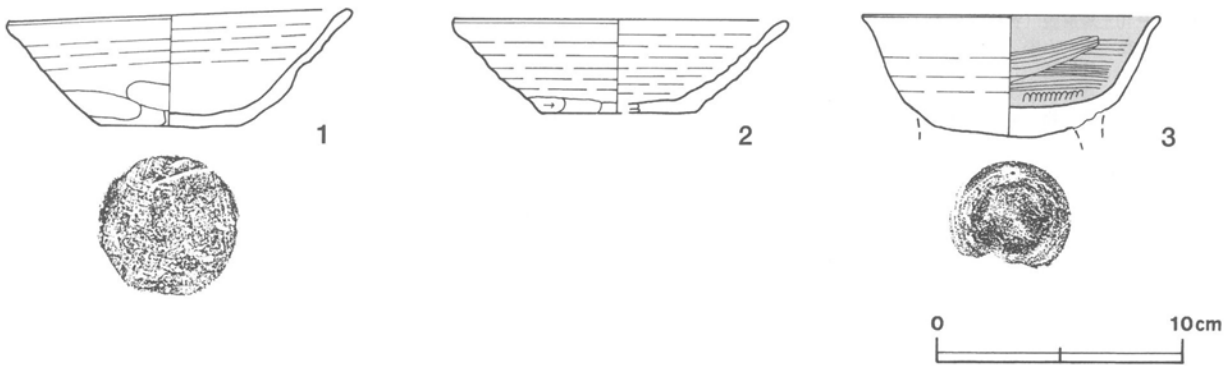
ある。第１・10・19層が柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック・粘土ブロックを含む黒褐色土を基調に互層にし，突き固められている。特に第５・８・13層は強く突き固められている。

Ｐ１～Ｐ22土層解説（各柱穴共通）

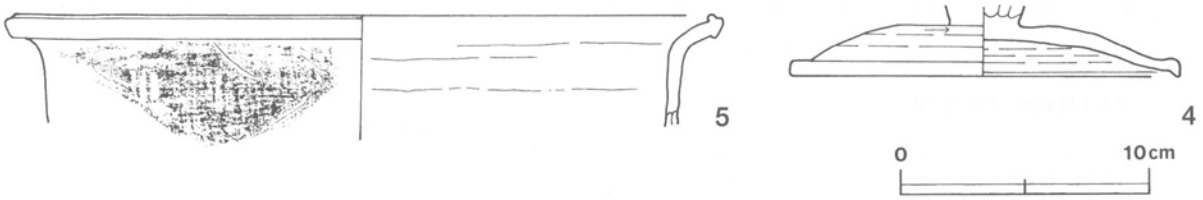
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
2　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
3　黒 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
4　黒 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・粘土小ブロック微量
5　黒 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8　黒 褐 色　粘土粒子中量，ローム小ブロック少量
9　灰黄褐色　炭化物・粘土粒子・灰中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　黒 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
11　黒 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
12　黒 褐 色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量
13　黒 褐 色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，炭化物少量
14　暗 褐 色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
15　褐 灰 色　粘土粒子中量，粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物・粘土中ブロック微量
16　黄 褐 色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム小ブロック少量
17　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，炭化粒子・粘土小ブロック少量
18　暗 褐 色　ローム小ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量
19　黒 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・粘土小ブロック少量
20　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
21　黒 褐 色　ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量
22　暗 褐 色　ローム粒子・粘土粒子中量
23　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　第80Ａ号掘立柱建物跡からは，土師器片335点，須恵器片239点が，第80Ｂ号掘立柱建物跡からは，土師器片39点，須恵器片101点がＰ14・Ｐ22を除く各柱穴柱抜き取り痕や埋土から出土している。第624・625図の１～３・５は第80Ａ号掘立柱建物跡から出土している。４は第80Ｂ号掘立柱建物跡から出土している。１の須恵器坏は，Ｐ11の埋土から出土した２片が接合したものである。２の須恵器坏は，Ｐ12の埋土から出土した数片が接合したものである。３の土師器高台付坏は，Ｐ２の埋土から出土した２片が接合したものである。４の須恵器蓋はＰ13の埋土から，５の須恵器甕はＰ９の埋土からそれぞれ出土している。

所見　柱穴にはそれぞれ重複が見られ，第80Ｂ号掘立柱建物跡から第80Ａ号掘立柱建物跡に建て替えられた可能性が考えられる。また，東側と南側にＬ字状の柱列を検出した。庇を想定するには柱筋が合わないが，第80Ｂ号掘立柱建物跡の東桁行と南梁行に平行していることから，第80Ｂ号掘立柱建物跡の付属施設の可能性が考えれる。第80Ａ号掘立柱建物跡の時期は出土土器から，９世紀中葉と考えられる。第80号Ｂ掘立柱建物跡の時期は第80Ａ号掘立柱建物跡に掘り込まれていることや，わずかながらうかがえる出土土器の特徴から９世紀前葉から９世紀中葉と考えられる。



第624図　第80Ａ号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第625図　第80A・B号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第80A・B号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第624図 1	坏 須恵器	A 13.6 B 4.7 C 5.6	底部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色，普通	P8359 50%
2	坏 須恵器	A [13.2] B 3.7 C [6.0]	底部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P8360 40% PL269
3	高台付坏 土師器	A [13.2] B (5.3)	高台部欠損。底部から口縁部の破片。体部は下位に稜をもち，外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P8358 30% PL269
第625図 4	蓋 須恵器	A 15.6 B (2.8)	つまみ部欠損。天井部は頂部が平坦で外周部はなだらかに下降し，口縁部は下方へ屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8361 50% PL269
5	甕 須恵器	A [28.0] B (4.4)	体部上位から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁端部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目状の叩き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P8362 5%

第81号掘立柱建物跡（第618・626図）

位置　調査8区の南西部，N8g6区。

重複関係　すべての柱穴が第78号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模　桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長7.21m，梁行長4.74mである。柱間寸法は桁行2.10m～2.58m，梁行2.21～2.53mである。柱穴は，平面形が長径（軸）1.10～1.47m，短径（軸）0.84～1.16mの円形・楕円形または隅丸方形で，深さ24～74cmである。

桁行方向　N－88°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第1層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土を基調としており，特に突き固められてはいないが互層をなしている。

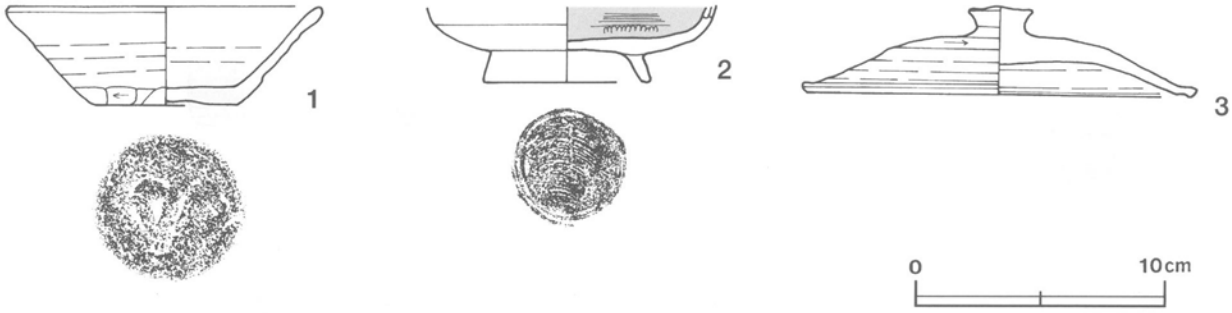
P1～P10土層解説（各柱穴共通）

1　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量，炭化物微量
2　黒褐色　ローム小ブロック中量，粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
7　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
8　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量，焼土小ブロック微量
9　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
12　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
13　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物微量
14　暗褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
15　暗褐色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム小ブロック少量
16　暗褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　灰褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・炭化物・灰少量
18　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物微量
19　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
20　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
21　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物微量
22　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化物微量
23　黒褐色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子微量

24　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・炭化物微量　　25　灰褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・灰・砂粒中量，炭化物・炭化粒子少量

遺物　土師器片66点，須恵器片67点が，Ｐ３・Ｐ10を除く各柱穴から出土している。第626図１の須恵器坏はＰ９の埋土から，２の土師器高台付坏はＰ３の埋土から，３の須恵器蓋はＰ10の埋土からそれぞれ出土している。

所見　柱穴にはそれぞれ第78号掘立柱建物跡の柱穴との重複が見られ，第78号掘立柱建物跡から本跡に建て替えられた可能性が考えられる。本跡の時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第626図　第81号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第81号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第626図 1	坏 須恵器	A　12.4 B　3.9 C　5.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	Ｐ8364 90% ＰＬ270
2	高台付坏 土師器	B（3.0） D　6.6 E　1.1	高台部から体部下位の破片。高台は短くハの字状に広がる。体部は下位に稜をもつ。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	Ｐ8363 20% ＰＬ270
3	蓋 須恵器	A［15.4］ B　3.5 F［2.6］ G　0.9	天井部から口縁部の破片。天井部は笠形で，腰高のボタン状のつまみが付く。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	Ｐ8365 35% ＰＬ269

第82号掘立柱建物跡（第627図）

位置　調査８区の南西部，O8f3区。

重複関係　北東部が第1236号住居に掘り込まれている。そのため，北東部の柱穴は確認できなかった。また，Ｐ３の上部が第872号土坑に掘り込まれている。

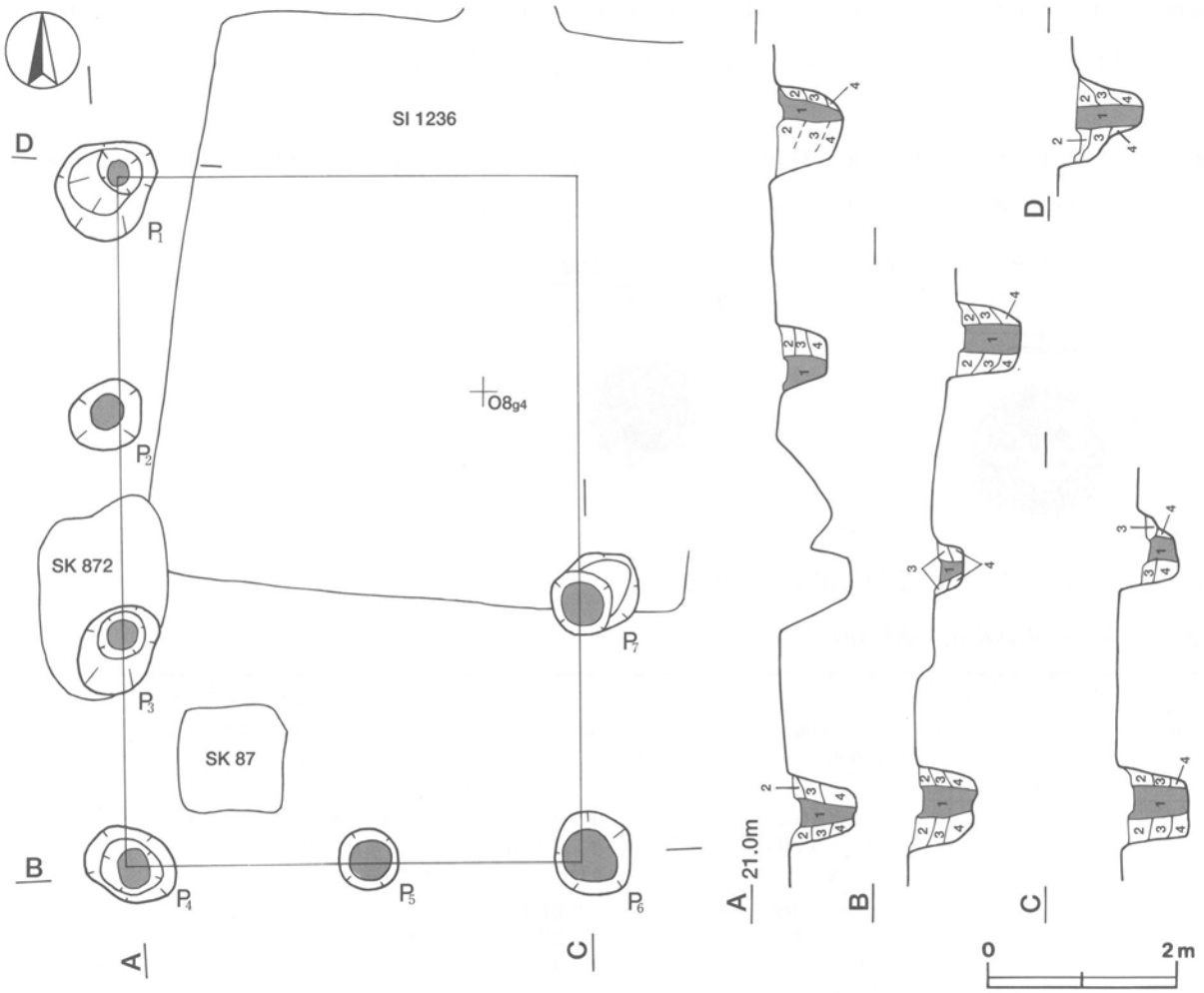
規模　確認できたＰ１～Ｐ７の柱穴の配置から，桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡であったと考えられ，桁行長7.16m，梁行長4.82mである。柱間寸法は桁行2.40～2.70m，梁行2.30～2.50mである。柱穴は７か所（Ｐ１～Ｐ７）で，平面形が長軸（径）0.62～1.10m，短軸（径）0.62～1.05mの隅丸方形・円形であり，断面形が逆台形状を呈し，深さは34～82cmである。

桁行方向　Ｎ－１°－Ｗ

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ１～Ｐ７土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

所見　本跡の時期は，土器が出土していないため断定することは難しいが，９世紀中葉の第1236号住居に掘り込まれていることと，遺構の形態及び位置関係から８世紀から９世紀中葉の時期幅におさまると考えられる。



第627図　第82号掘立柱建物跡実測図

第83号掘立柱建物跡（第628図）

位置　調査８区の南部。O8g5区。

重複関係　北部で第1228号住居跡を掘り込んでいる。

規模　南部が調査区外に位置しているため，全容は不明である。検出された北部は，東西軸が３間で，南北軸が１間であるが，南北軸はそれ以上の側柱式の建物跡であったと考えられる。東西長6.99m，南北長2.15mである。柱間寸法は，東西が2.10～2.60m，南北が2.05～2.15mで，柱穴は６か所（Ｐ１～Ｐ６）で，平面形は長軸（径）0.86～1.27m，短軸（径）0.70～1.20mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形は逆台形状を呈し，深さは26～52cmである。

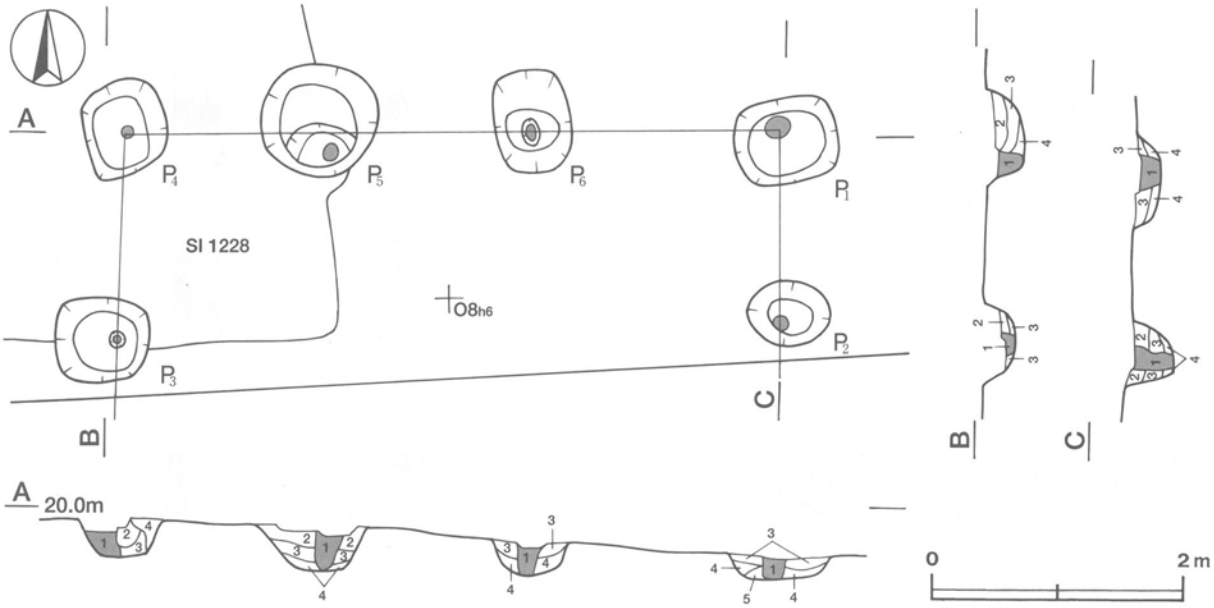
長軸方向　N－89°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ１～Ｐ６土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

3　黒褐色　粘土粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

所見　本跡から遺物は出土しなかった。時期は，９世紀中葉の第1228号住居を掘り込んいることから，９世紀中葉以降と考えられる。



第628図　第83号掘立柱建物跡実測図

第84号掘立柱建物跡（第629図）

位置　調査８区の南部。O8f5区。

重複関係　北部のＰ１・Ｐ11・Ｐ12が第1233・1237・1238号住居に，南西部のＰ６・Ｐ７が第1228号住居，東部のＰ２が第85号掘立柱建物に，それぞれ掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行３間の側柱式の建物跡で，桁行長7.20m，梁行長5.60mである。柱間寸法は桁行2.20～2.50m，梁行1.70～1.95mである。柱穴は12か所（Ｐ１～Ｐ12）で，平面形はＰ１が第1233号に掘り込まれているため径0.37の円形であり，その他は，長軸（径）0.80～1.20m，短軸（径）0.66～0.86mの隅丸長方形・楕円形または円形であり，断面形が逆台形状を呈し，深さは24～72cmである。

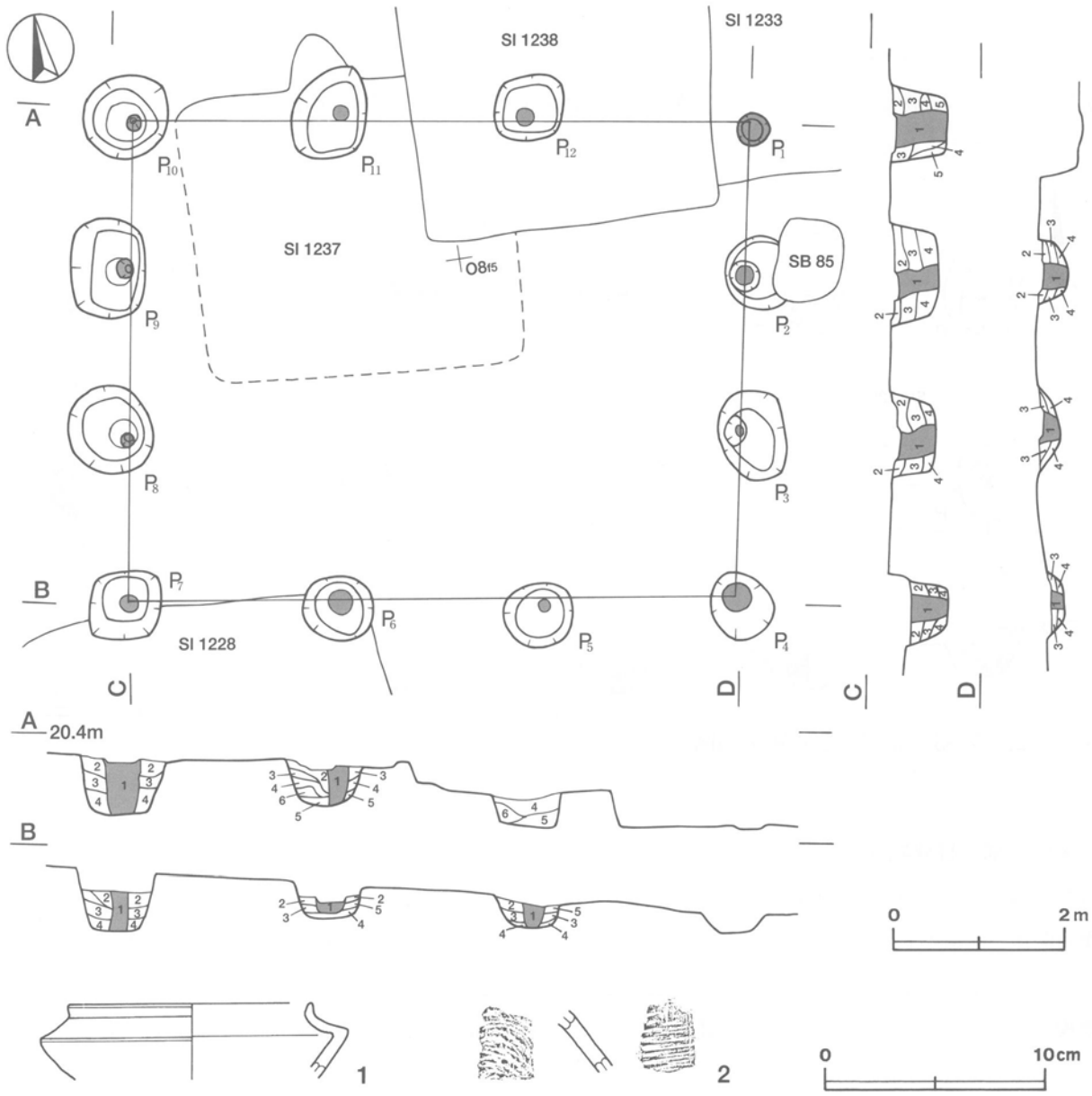
桁行方向　N－81°－W

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ２～Ｐ12土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量

遺物　土師器片９点，須恵器片７点が，Ｐ５・Ｐ６・Ｐ９の埋土から出土している。第629図１の須恵器小形短頸壺，２の須恵器甕の体部片は，Ｐ５の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，９世紀後葉の第1233号住居，９世紀前葉から後葉の第85号掘立柱建物に掘り込まれていることと出土土器から，８世紀前葉から９世紀前葉と考えられる。



第629図　第84号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第84号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第629図 1	小形短頸壺 須恵器	A［10.8］ B（3.3）	体部上位から頸部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，屈曲して頸部に至る。頸部は短く直立する。	頸部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P8898 10%
2	甕 須恵器	B（2.5）	体部の破片。	体部外面横位の平行叩き，内面同心円状の当て具痕。	砂粒・長石 灰黄色 普通	TP8419 5% PL271

第85号掘立柱建物跡（第630・631図）

位置　調査8区の南部。O8f7区。

重複関係　第84・86号掘立柱建物跡を掘り込み，北西部が第1233号住居に掘り込まれている。

規模　北西部が第1233号住居に掘り込まれていて確認できず，全容は不明である。確認できた南東部から，桁

行３間，梁行３間の側柱式の建物跡であったと考えられる。桁行長6.81m，梁行長4.75mで，柱間寸法は桁行2.00～2.40m，梁行1.60mである。柱穴は８か所（Ｐ１～Ｐ８）で，平面形は長軸（径）0.98～1.38m，短軸（径）0.90～1.15mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形は逆台形状を呈し，深さは32～71cmである。

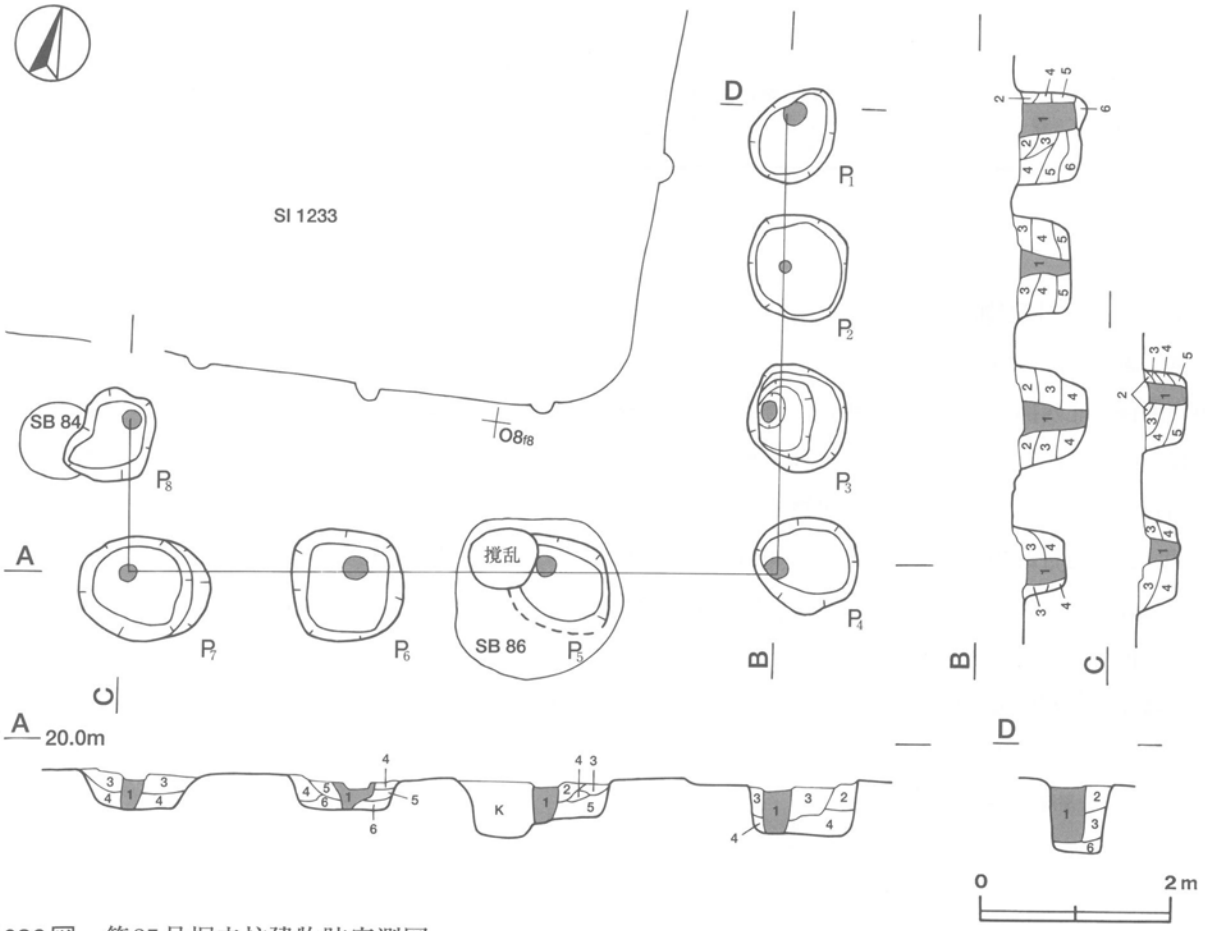
桁行方向　N－83°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土であり，版築状に突き固められている。

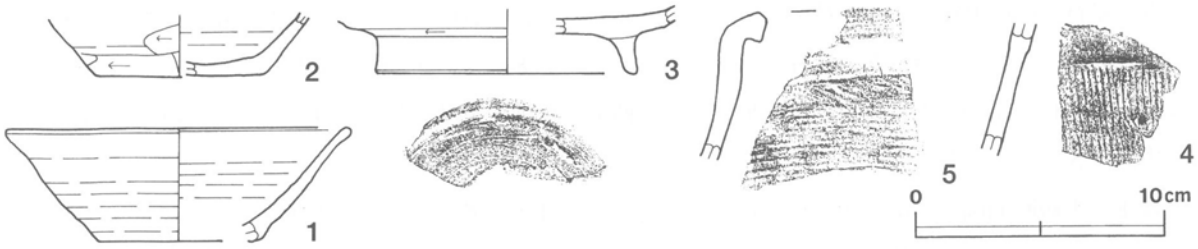
Ｐ１～Ｐ８土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土小ブロック微量
6　褐　色　ローム粒子少量，粘土小ブロック・粘土粒子微量

遺物　土師器片32点，須恵器片12点が，すべての柱穴の埋土から出土している。第630図１の須恵器坏はＰ２の埋土から，２の須恵器坏はＰ８の埋土から，３の須恵器盤はＰ５の埋土から，それぞれ出土している。４の須恵器鉢の体部片はＰ８の埋土から，５の須恵器鉢の口縁部片はＰ３の埋土から，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，９世紀後葉の第1233号住居に掘り込まれていることと出土土器から，９世紀前葉から後葉と考えられる。



第630図　第85号掘立柱建物跡実測図



第631図　第85号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第85号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第631図 1	坏 須恵器	A［13.6］ B　4.4 C［6.4］	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P8899 10%
2	坏 須恵器	B（2.4） C［6.6］	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	P8900 15%
3	盤 須恵器	B（2.6） D［10.4］ E　1.5	高台部から体部下位にかけての破片。体部は大きく外方に開く。高台はわずかに外方にふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P8901 10%
4	鉢 須恵器	B（5.3）	体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	TP8420 5% PL271
5	鉢 須恵器	B（5.8）	体部上位部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。端部は下方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	TP8436 5% PL271

第86号掘立柱建物跡（第632図）

位置　調査8区の南部。O8e8区。

重複関係　北西部が第1233号住居に，南部が第85号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　北西部は，第1233号住居に掘り込まれているため確認できず，全容は不明である。確認できた南東部から桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡であったと考えられる。規模は，桁行長7.35m，梁行長4.80mである。柱間寸法は桁行2.40m，梁行2.20～2.40mである。柱穴は7か所（P1～P7）で，平面形は長径0.71～1.74m，短径0.64～1.62mの楕円形であり，断面形は逆台形状を呈し，深さは47～70cmである。

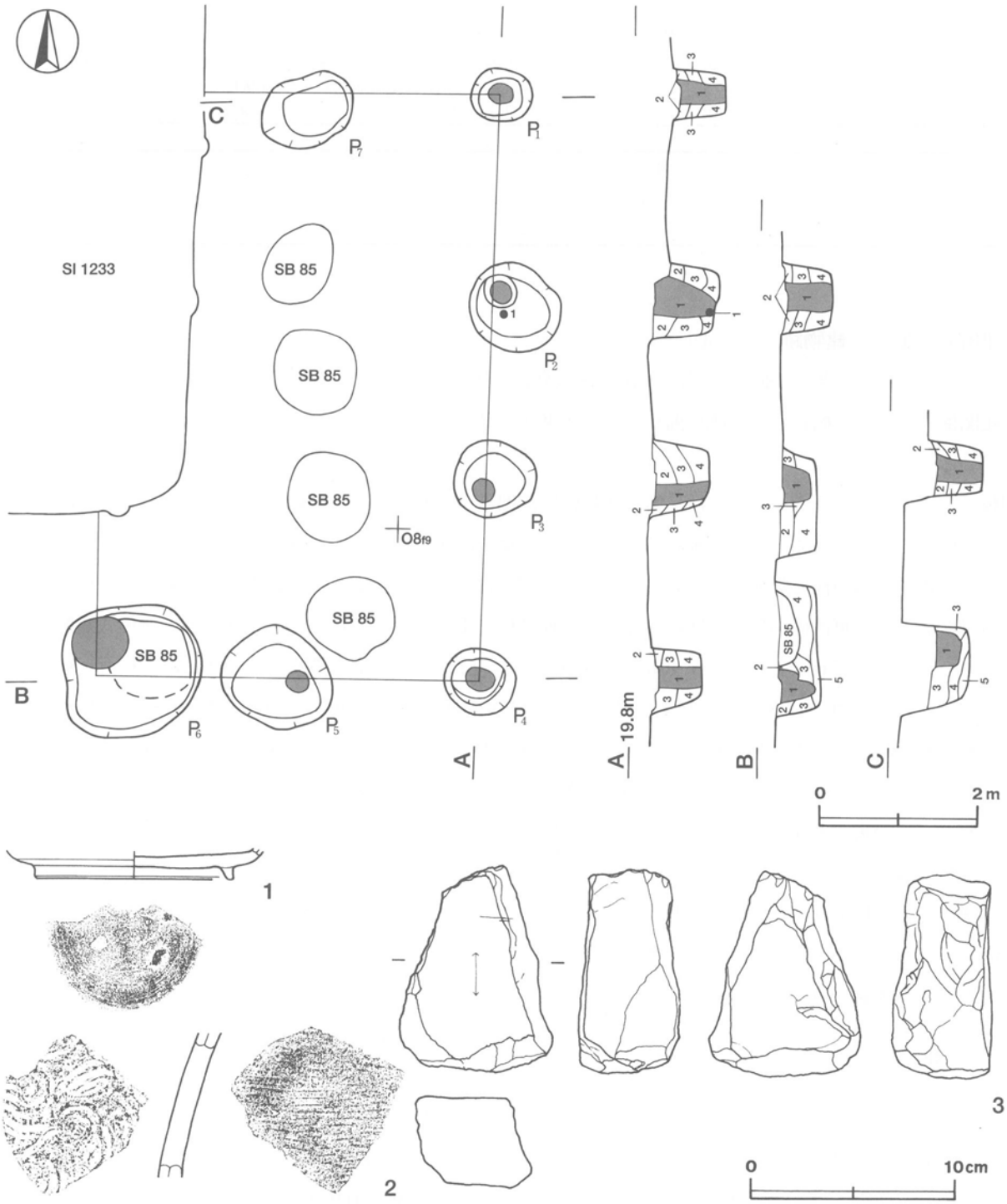
桁行方向　N－1°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第1層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土で，版築状に突き固められている。

P1～P7土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土小ブロック微量

遺物　土師器片67点，須恵器片18点，石器1点（砥石）がP1～P5・P7の埋土から，それぞれ出土している。第632図1の須恵器高台付坏はP2の埋土中から，2の須恵器甕の体部片はP5の埋土から，それぞれ出土している。3の砥石はP2の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，９世紀後葉の第1233号住居，９世紀前葉から後葉の第85号掘立柱建物に掘り込まれていることと出土土器から，８世紀中葉から後葉と考えられる。



第632図　第86号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第86号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第632図 1	高台付坏 須恵器	B (1.3) D 9.6 E 0.6	高台部から体部下位にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。高台は底部外周部にあり，わずかに「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P8903 10% PL270
2	甕 須恵器	B (6.9)	体部の破片。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面同心円状の当て具痕。	砂粒・雲母・長石 暗灰色 普通	TP8421 5% PL271

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第632図 3	砥石	9.9	7.4	4.5	(427.0)	凝灰岩	側面3面が砥面，中央部が薄くなっている。	Q8415 PL284

第87A号掘立柱建物跡（第633図）

位置　調査8区の南部。O8g3区。南部は調査区域外に位置している。

重複関係　第87B号掘立柱建物跡を掘り込み，北東部のP4～P6の上部が，第1228・1236号住居に掘り込まれている。

規模　身舎の北東コーナーの柱穴は，第1236号住居に掘り込まれているため確認できず，また，南部は調査区域外に位置しているため，全容は確認できなかった。東西両側の南北に並ぶ柱穴は，その内側の柱穴よりも，いずれも掘り込みが浅く規模が小さいことから，庇部の柱穴として調査した。調査できた範囲は，桁行1間，梁行は2間とその東西両面に付く庇部である。規模は構造上，桁行1間以上で，2面庇付の側柱式建物跡と考えられ，桁行長2.85mで，梁行長5.40m，庇部を含めた全長は10.75mである。柱間寸法は，桁行・梁行ともに2.85mである。柱穴は8か所（P1～P8）で，身舎の柱穴は，平面形が長軸（径）0.86～1.16m，短軸（径）0.83～1.10mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が逆台形状を呈し，深さは62～82cmである。庇部の柱穴は，平面形が長軸（径）0.85～1.27m，短軸（径）0.64～0.95mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が逆台形状・二段掘り状を呈し，深さは22～59cmである。

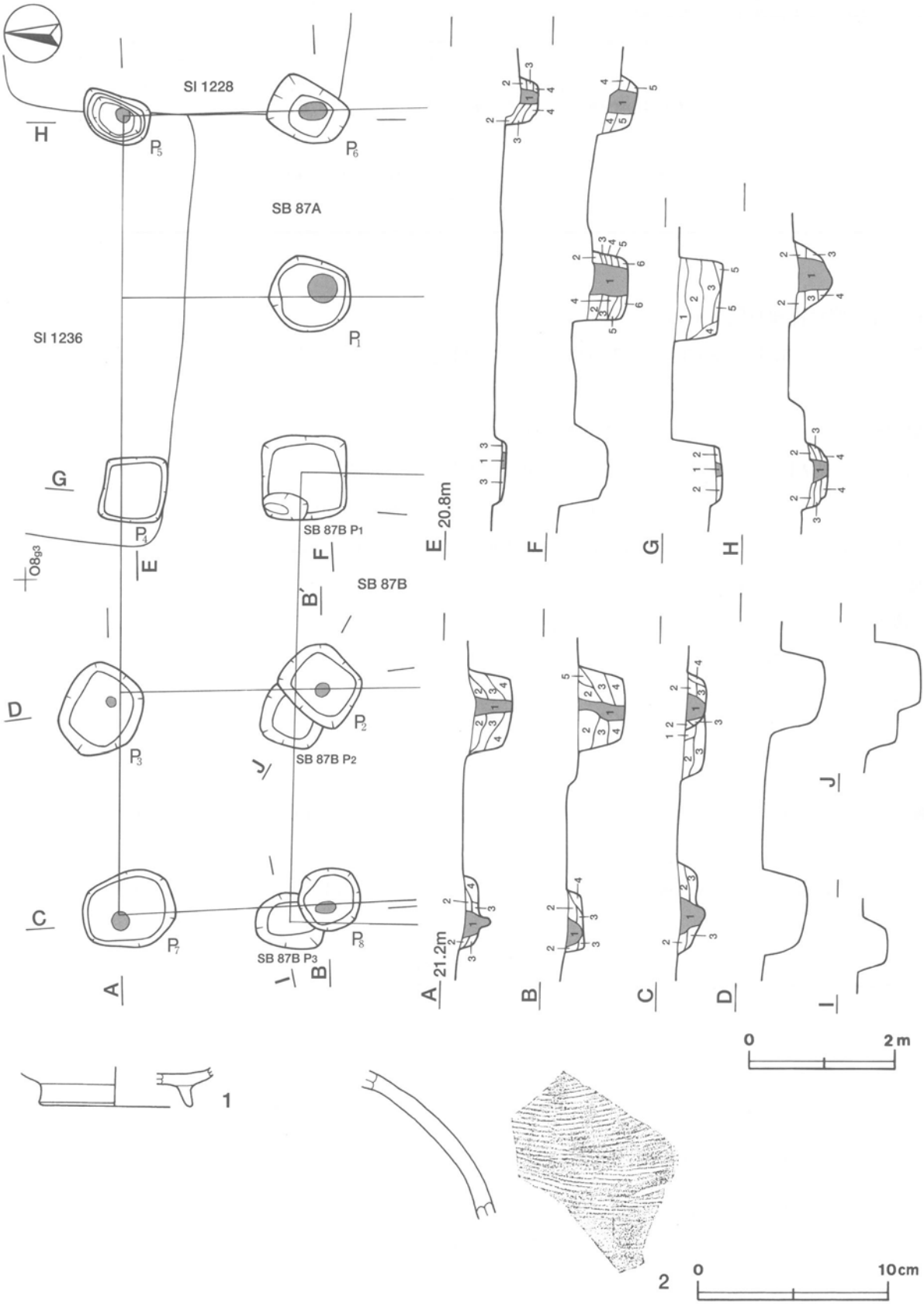
桁行方向　N－2°－W

柱穴覆土　土層断面図中，第1層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土であり，版築状に突き固められている。

P1～P8土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・粘土中ブロック微量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量

遺物　土師器片12点，須恵器片3点が，P3・4・7の埋土から出土している。第633図1の須恵器高台坏はP7の埋土中から，2の須恵器甕の体部片はP4の埋土から，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，9世紀中葉の第1236号住居に掘り込まれていることと出土土器から，8世紀後葉から9世紀中葉と考えられる。



第633図　第87A・B号掘立柱建物跡実測図，第87A号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第87A号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第633図 1	高台付坏 土師器	B（2.0） D［7.8］ E　1.1	高台部から体部下位にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。高台は底部外周にあり，「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P8904 10%
2	甕 須恵器	B（7.4）	体部の破片。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰色 普通	TP8422 5% PL271

第87B号掘立柱建物跡（第633・634図）

位置　調査8区の南部。O8h2区。北部のP1～P3を確認したが，その南側は調査区域外に位置しており，確認できなかった。

重複関係　P1～P3の柱穴が，第87A号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　南部が調査区域外に位置しているため，全容は不明である。調査できたP1～P3は，東西2間，長さは6.00mである。柱穴は3か所（P1～P3）で，平面形は長軸（径）0.94～1.24m，短軸（径）0.74～1.16mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形は逆台形状を呈し，深さは40～58cmである。

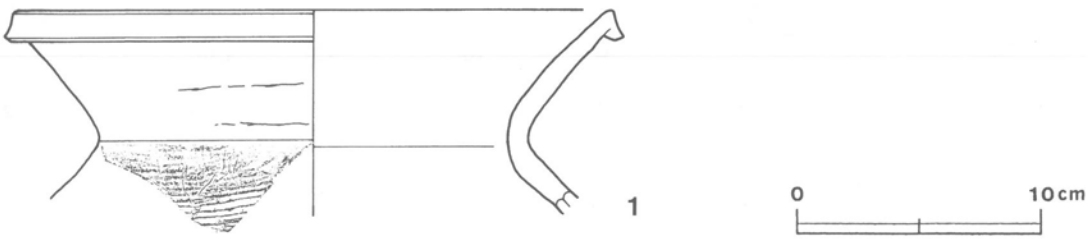
長軸方向　N－87°－W。

柱穴覆土　埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土である。

P1・P3土層解説（両柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片2点，須恵器片3点が，P1の埋土から出土している。第634図1の須恵器甕は，P1の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，第87A号掘立柱建物に掘り込まれていることと出土土器から，8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。



第634図　第87B号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第87B号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第634図 1	甕 須恵器	A［24.0］ B（8.1）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。端部は下方に突出している。	口縁部，頸部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面に横位の平行叩き。	砂粒・雲母・長石・石英 紫灰色 普通	P8905 5%

第88号掘立柱建物跡（第635図）

位置　調査８区の南部，O9a3区。

重複関係　Ｐ９・Ｐ10が第1242号住居に掘り込まれている。

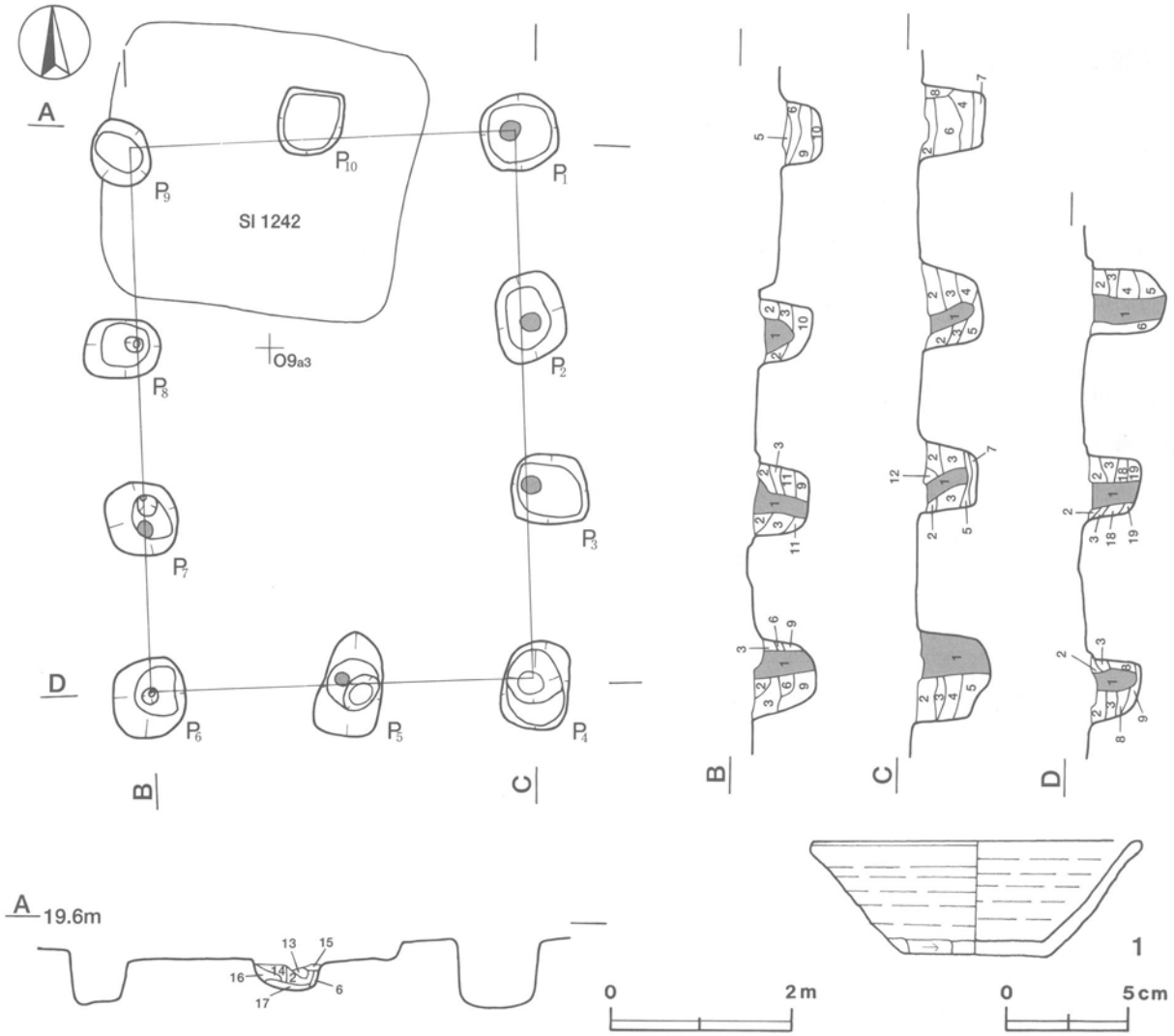
規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長5.89m，梁行長4.20mである。柱間寸法は桁行1.70～2.10m，梁行2.00～2.20mである。柱穴は，平面形が長軸（径）0.71～0.98m，短軸（径）0.66～0.72mの隅丸方形または楕円形で，深さ30～85cmである。

桁行方向　Ｎ－２°－Ｗ

柱穴覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土は粘土ブロック・粘土粒子を含む黒褐色土を基調にしており，粘性の多い層と少ない層が互層をなしている。

Ｐ１～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
3　黒　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
4　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，ローム粒子少量
6　黒　褐　色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
7　黒　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　粘土粒子中量，粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
10　黒　褐　色　粘土小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量



第635図　第88号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

11　黒　褐　色　炭化粒子・粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
12　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
13　黒　褐　色　ローム中ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
14　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
15　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
16　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，炭化物微量
17　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
18　暗　赤　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
19　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量

遺物　土師器片19点，須恵器片12点が，Ｐ３・Ｐ８～Ｐ10を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第635図１の須恵器坏はＰ５の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，９世紀後葉と考えられる第1242号住居に掘り込まれていることや，出土土器から９世紀中葉と考えられる。

第88号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第635図 1	坏 須恵器	A　13.6 B　4.9 C　6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	Ｐ8366 75% ＰＬ270

第89号掘立柱建物跡（第636図）

位置　調査８区の中央部，N8i0区。

重複関係　Ｐ６～Ｐ８が第107号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また，Ｐ10・Ｐ11を第75号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の総柱式の建物跡で，桁行長7.80m，梁行長5.73mである。柱間寸法は桁行2.60m，梁行2.60～2.90mである。柱穴は，平面形が長軸（径）0.59～1.08m，短軸（径）0.53～0.78mの円形または隅丸長方形で，深さ51～83cmである。

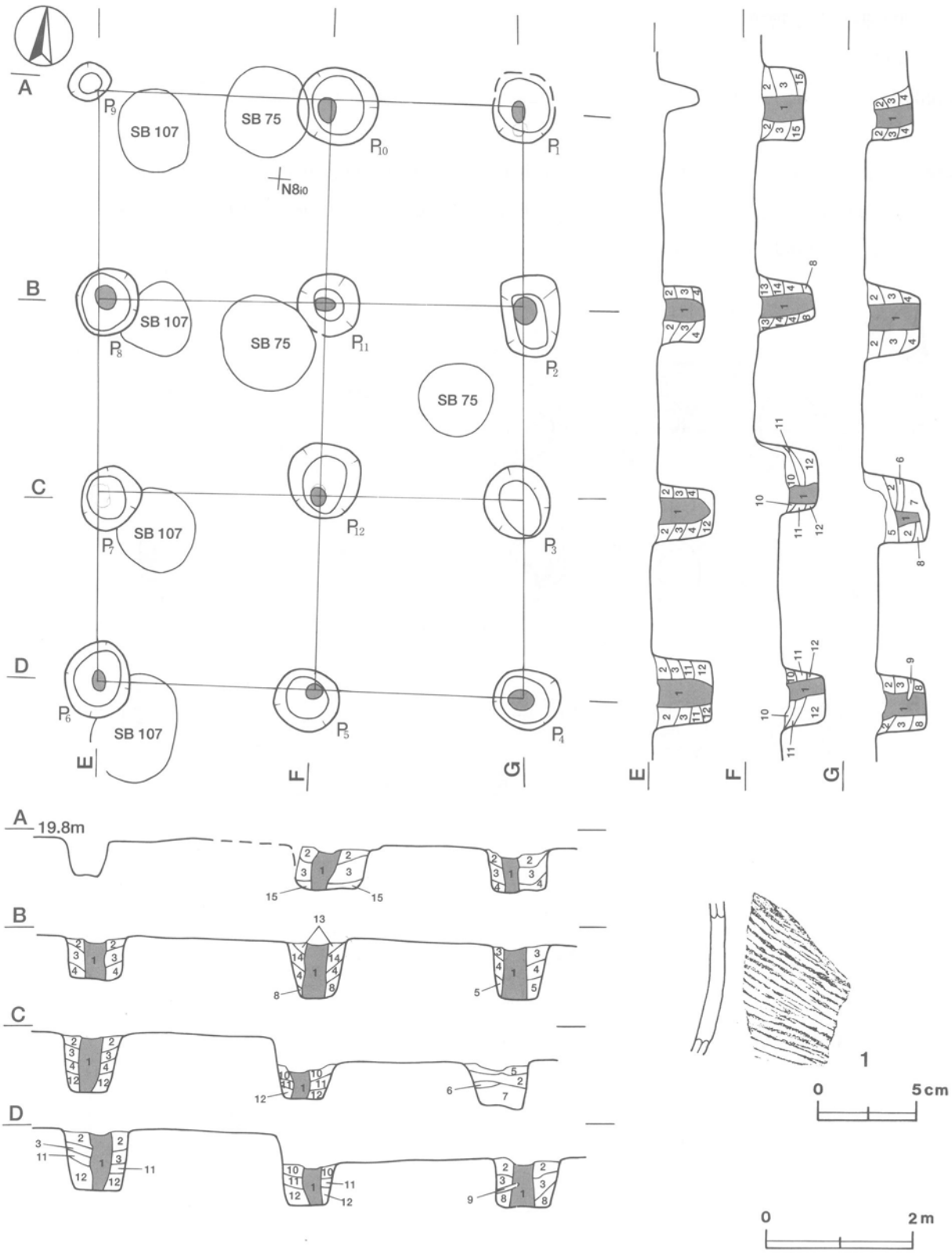
桁行方向　N－６°－W

柱穴覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒色土を基調にしており，特に強く突き固められてはいないが互層をなしている。

Ｐ１～Ｐ12土層解説（各柱穴共通）
1　黒　　色　ローム小ブロック・粘土粒子少量
2　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　　色　ローム小ブロック・粘土粒子微量
4　黒　　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，粘土粒子微量
6　黒　褐　色　粘土小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
7　にぶい黄褐色　粘土粒子多量
8　黒　　色　ローム小ブロック微量
9　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，粘土小ブロック少量
10　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
11　黒　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
12　黒　　色　粘土小ブロック微量
13　黒　褐　色　炭化物少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片41点，須恵器片30点が，Ｐ３～Ｐ５・Ｐ８・Ｐ９を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第636図１の須恵器甕体部片は，Ｐ７の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため特定が困難なものの，８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる第75号掘立柱建物跡に掘り込まれていることや，わずかながらうかがえる出土土器の特徴などから８世紀と推定される。



第636図　第89号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 89 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

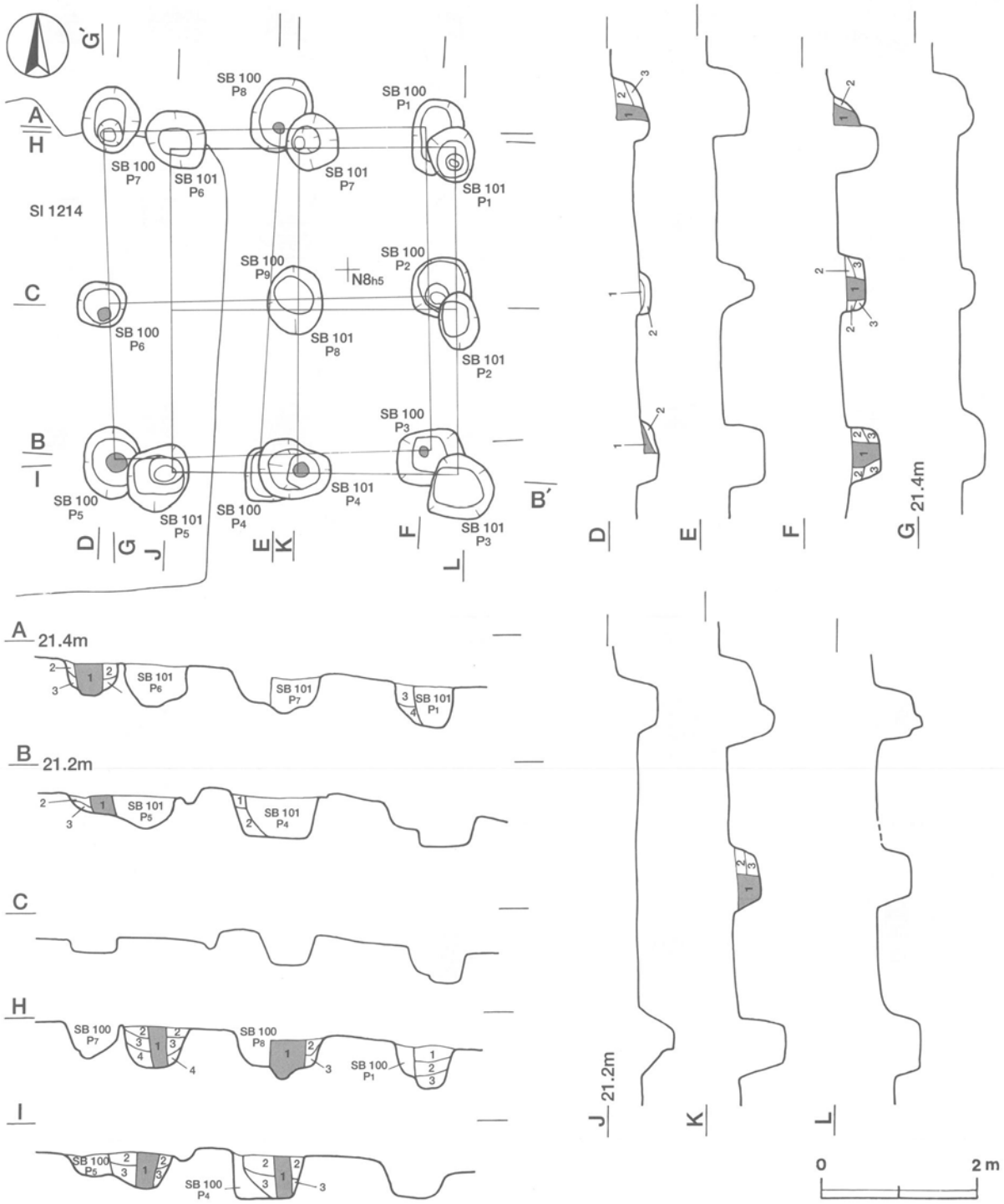
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第636図 1	甕 須恵器	B（7.9）	体部片。	体部外面斜位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英，灰色，普通	TP8213 5％　PL271

第100号掘立柱建物跡（第637・638図）

位置　調査８区の南西部，N8h4区。

重複関係　Ｐ５～Ｐ７が第1214号住居跡を掘り込んでいる。また，Ｐ１～Ｐ５・Ｐ８・Ｐ９が第101号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行２間，梁行２間の総柱式の建物跡で，桁行長4.08m，梁行長4.04mである。柱間寸法は桁行1.90～2.20m，梁行1.80～2.20mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.60～0.98m，短径（軸）0.58～0.70mの円形・楕円形または隅丸方形で，深さ18～65cmである。



第637図　第100・101号掘立柱建物跡実測図

桁行方向　N－0°

柱穴覆土　土層断面図中，Ｐ１～Ｐ３，Ｐ５・Ｐ７の第１層が柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土，暗褐色土で，強く突き固められてはいないが互層をなしている。

Ｐ１土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

Ｐ２土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量

Ｐ３土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

Ｐ４土層解説
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量

Ｐ５土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量

Ｐ６土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量

Ｐ７土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化物少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片30点，須恵器片13点が，Ｐ２・Ｐ６を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第638図１の須恵器蓋口縁部片は，Ｐ１の埋土から出土している。２の須恵器甕体部片は，Ｐ１の埋土から出土している。外面に篦書が施されているが判読不能である。

所見　本跡の身舎を構成する柱穴のうち，ほとんどが第101号掘立柱建物の柱穴と重複しており，本跡が第101号掘立柱建物に建て替えられた可能性が考えられる。また，本跡の桁行方向が，隣接する８世紀後葉と考えられる第1220号住居跡の主軸方向とほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は，出土土器が細片のため特定が困難なものの，わずかにうかがえる出土土器の特徴，８世紀中葉と考えられる第1214号住居跡を掘り込んでいること，第1220号住居跡との関連から８世紀後半と推定される。

第638図　第100号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第100号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第638図 1	蓋 須恵器	A［17.0］ B（1.5）	外周部から口縁部の破片。外周部はなだらかに下降し，口縁部は平坦面をもつ。端部は下方へ短く屈曲する。	外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P8367 5％
2	甕 須恵器	B（4.3）	体部片。	体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 暗灰色，普通	TP8217　1％ PL271　体部外面篦書

第101号掘立柱建物跡（第637・639図）

位置　調査８区の南西部，N8h4区。

重複関係　Ｐ５・Ｐ６が第1214号住居跡を掘り込んでいる。また，Ｐ６を除くすべての柱穴が第100号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模　桁行２間，梁行２間の総柱式の建物跡で，桁行長4.07m，梁行長3.59mである。柱穴は８か所（Ｐ１～

Ｐ８）確認できた。柱間寸法は桁行1.80～2.10m，梁行1.60～2.00mである。柱穴は，平面形が長径0.69～0.85m，短径0.50～0.70mの円形・楕円形または不整楕円形で，深さ18～60cmである。

桁行方向　Ｎ－０°

柱穴覆土　土層断面図中，Ｐ４～Ｐ６・Ｐ８の第１層が柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はローム ブロックを含む黒褐色土・暗褐色土であり，強く突き固められてはいないが互層をなしている。

Ｐ１土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

Ｐ４土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

Ｐ５土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

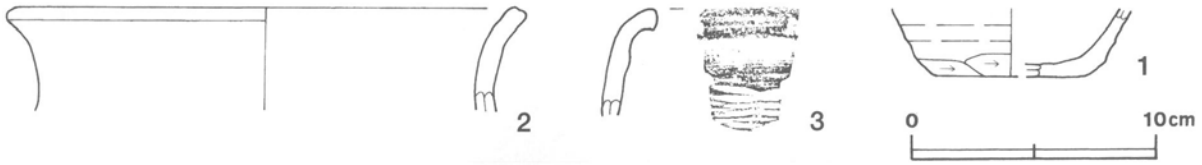
Ｐ６土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化物微量

Ｐ７土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

Ｐ８土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片48点，須恵器片25点が，Ｐ４・Ｐ５を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第639図１の須恵器坏はＰ７の埋土から，２の須恵器甕の口縁部片はＰ１の埋土から，３須恵器鉢の体部から口縁部にかけての破片はＰ２の埋土からそれぞれ出土している。

所見　本跡の身舎を構成する柱穴のうち，ほとんどが第100号掘立柱建物跡の柱穴と重複しており，第100号掘立柱建物跡から本跡に建て替えられた可能性が考えられる。時期は，出土土器が細片のため特定が困難なものの，わずかにうかがえる出土土器の特徴，８世紀中葉と考えられる第1214号住居跡を掘り込んでいることから，８世紀後半と推定される。



第639図　第101号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第101号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第639図 1	坏 須恵器	B（2.7） C［6.0］	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英，褐灰色，普通	P8369 5％
2	甕 須恵器	A［20.0］ B（4.1）	口縁部片。口縁部は外反して開き端部は面取りをして角張らせている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英，灰色，普通	P8371 5％
3	鉢 須恵器	B（4.3）	体部上位から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	TP8216 5％ PL271

第102号掘立柱建物跡（第640図）

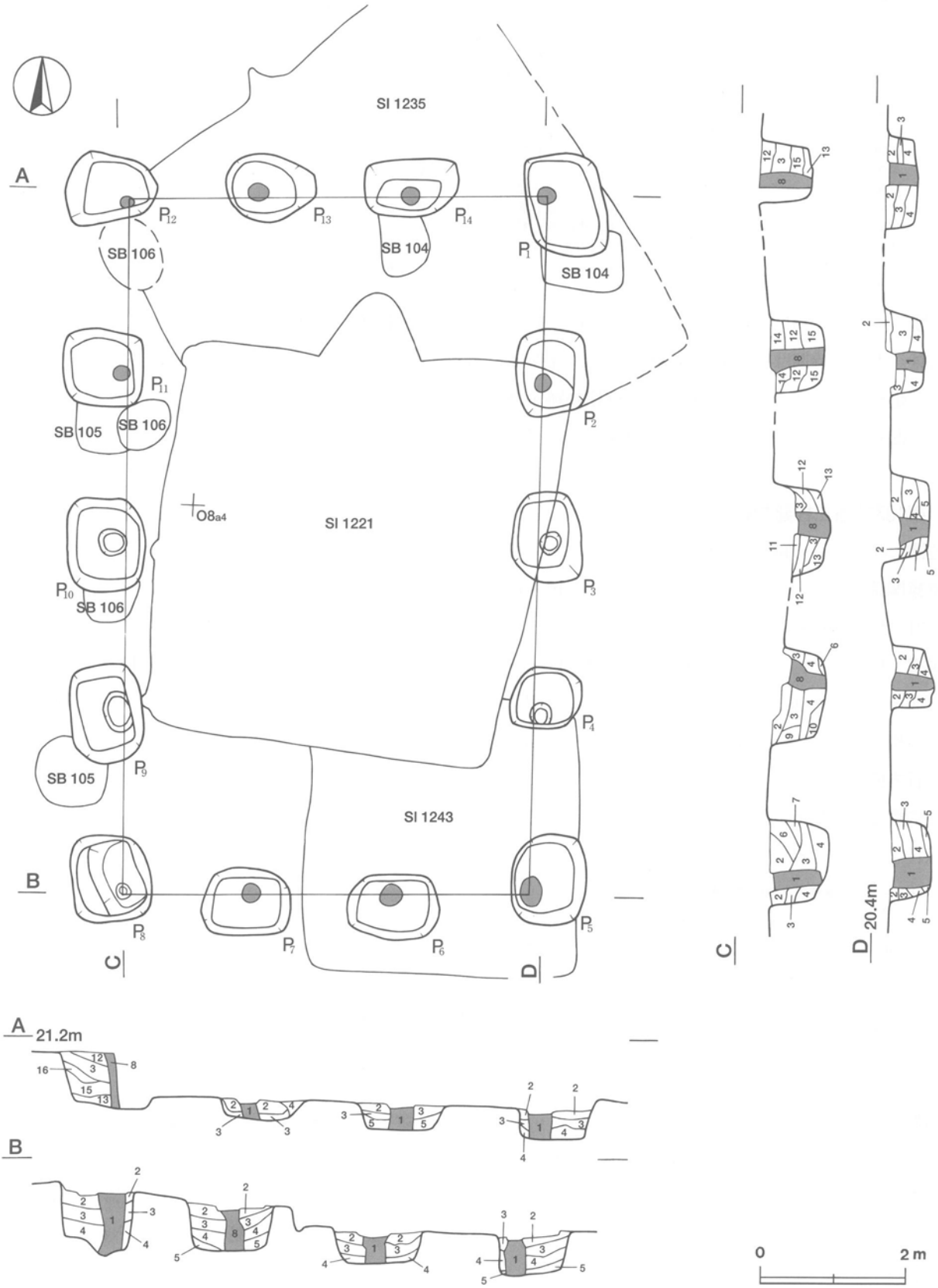
位置　調査８区の南西部，O8a3区。

重複関係　Ｐ１・Ｐ２・Ｐ12～Ｐ14が第1235号住居跡を，Ｐ４～Ｐ６が第1243号住居跡を，Ｐ１・Ｐ14が第104号掘立柱建物跡を，Ｐ９～Ｐ11が第105号掘立柱建物跡を，Ｐ10～Ｐ12が第106号掘立柱建物跡をそれぞれ掘り込んでいる。また，Ｐ２・Ｐ３を第1221号住居跡に掘り込まれている。

規模　桁行４間，梁行３間の側柱式の建物跡で，桁行長9.37m，梁行長5.66mである。柱間寸法は桁行2.20～

2.50m，梁行1.70～2.00mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.90～1.36m，短径（軸）0.84～1.03mの楕円形・隅丸方形または隅丸長方形で，深さ30～95cmである。

桁行方向　N－2°－W



第640図　第102号掘立柱建物跡実測図

柱穴覆土　土層断面図中，第１・８層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土で，突き固められてはいないが互層をなしている。

Ｐ１～Ｐ14土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・炭化粒子少量
6　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
7　黒褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
8　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
9　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
10　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
11　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
12　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
13　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
14　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
15　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
16　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片231点，須恵器片41点が，Ｐ７を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため特定が困難なものの，わずかながらうかがえる出土土器の特徴，８世紀後半と考えられる第104号掘立柱建物跡を掘り込んでいること，９世紀後葉と考えられる第1221号住居跡に掘り込まれていることから，９世紀と考えられる。

第103号掘立柱建物跡（第641・642図）

位置　調査８区の南西部，O8a5区。

重複関係　Ｐ８・Ｐ９が第1235号住居跡を掘り込んでいる。Ｐ３を第104号掘立柱建物に，Ｐ６・Ｐ７を第1221号住居に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長6.21m，梁行長4.34mである。柱間寸法は桁行1.90～2.50m，梁行2.00～2.30mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.72～1.15m，短径（軸）0.69～0.90mの円形・楕円形または隅丸方形で，深さ20～63cmである。

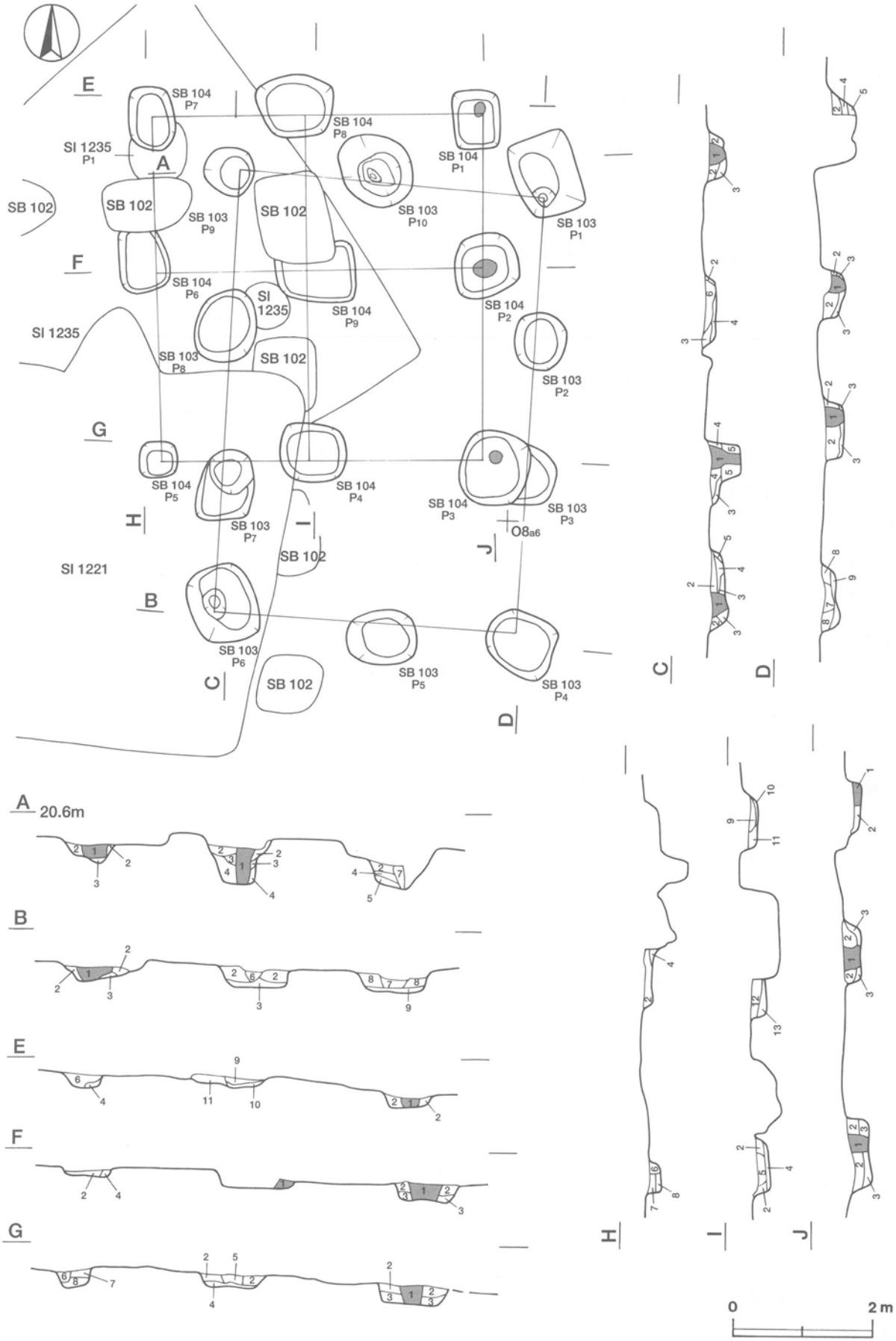
桁行方向　Ｎ－４°－Ｅ

柱穴覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロック・ローム粒子を含む黒褐色土・暗褐色土であり，ローム粒子の多い層と少ない層が互層をなしている。

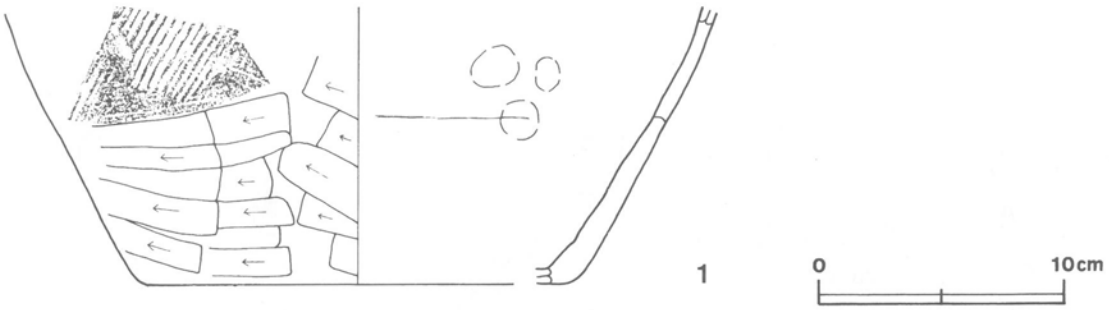
Ｐ１～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粘土小ブロック微量
5　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
6　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
9　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物　土師器片19点，須恵器片７点が，Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第642図１の須恵器鉢体部片は，Ｐ６の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため特定が困難なものの，わずかにうかがえる出土土器の特徴，８世紀後半と考えられる第104号掘立柱建物に掘り込まれていることなどから，８世紀中葉と考えられる。



第641図　第103・104号掘立柱建物跡実測図



第642図　第103号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第103号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第642図 1	鉢 須恵器	B (11.0) C [17.4]	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き，内面指頭圧痕，輪積み痕有り。	砂粒・雲母・長石 灰色，普通	P8372　10% PL271

第104号掘立柱建物跡（第641図）

位置　調査8区の南西部，N8i5区。北へ4mの距離に位置する第100号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係　P6～P9が第1235号住居跡を，P3が第103号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。P4・P5を第1221号住居に，P6・P9を第102号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行2間，梁行2間の総柱式の建物跡で，桁行長4.88m，梁行長4.66mである。柱間寸法は桁行2.30～2.60m，梁行2.40～2.60mである。柱穴は，平面形が長軸（径）0.54～1.04m，短軸（径）0.53～0.96mの隅丸方形または隅丸楕円形で，深さ12～26cmである。

桁行方向　N－2°－W

柱穴覆土　土層断面図中，第1層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土は黒褐色土・暗褐色土・褐色土であり，突き固められてはいないが互層をなしている。

P1～P9土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土小ブロック微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　黒　色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，粘土小ブロック微量
7　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物・粘土小ブロック微量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
9　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
10　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
11　暗褐色　ローム小ブロック少量
12　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は，出土土器がなく特定できないものの，隣接する8世紀後半と考えられる第100号掘立柱建物跡と桁行方向や構造がほぼ同じであることから，8世紀後半と推定される。

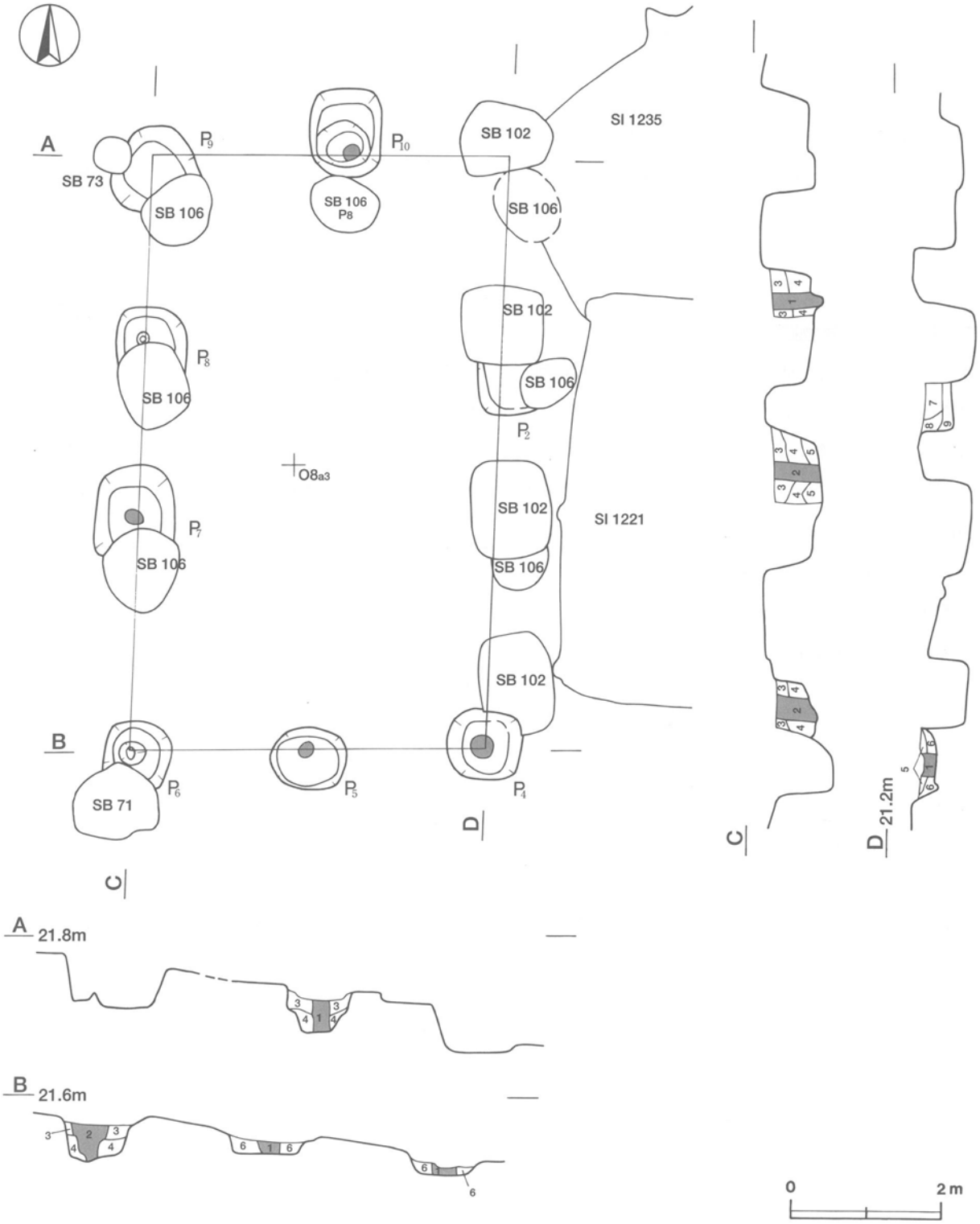
第105号掘立柱建物跡（第643図）

位置　調査8区の南西部，O8a2区。

重複関係　P1～P4が第102号掘立柱建物に，P2・P3・P7～P10が第106号掘立柱建物に，P6が第71

号掘立柱建物に，Ｐ９が第73号掘立柱建物にそれぞれ掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長7.68m，梁行長4.69mである。柱穴は，第102・106号掘立柱建物に掘り込まれていると思われる２か所を除いて８か所（Ｐ２・Ｐ４～Ｐ10）が確認できた。柱間寸法は桁行2.30～3.00m，梁行2.10～2.30mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.98～1.18m，短径（軸）0.83～0.95mの楕円形・隅丸方形または隅丸長方形で，深さ18～80cmである。



第643図　第105号掘立柱建物跡実測図

桁行方向　N－2°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第1・2層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む暗褐色土を基調とし，強く突き固められてはいないが互層をなしている。

P2・P4～P10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック少量，粘土小ブロック微量
6　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
7　黒褐色　ローム小ブロック少量，炭化物微量
8　黒　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片37点，須恵器片1点が，P4・P6・P7の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片なため特定することが困難なものの，わずかながらうかがえる出土土器の特徴，8世紀後半と考えられる第106号掘立柱建物跡に掘り込まれていることなどから，8世紀後半以前と考えられる。

第106号掘立柱建物跡（第644図）

位置　調査8区の南西部，N8j3区。東へ5mの距離に位置する第104号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係　P1が第1235号住居跡，P2・P5～P8が第105号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また，P3を第102号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行2間，梁行2間の総柱式の建物跡で，桁行長4.80m，梁行長4.75mである。柱間寸法は桁行2.30～2.40m，梁行2.20～2.50mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.84～1.10m，短径（軸）0.61～0.82mの楕円形または隅丸長方形で，深さ20～70cmである。

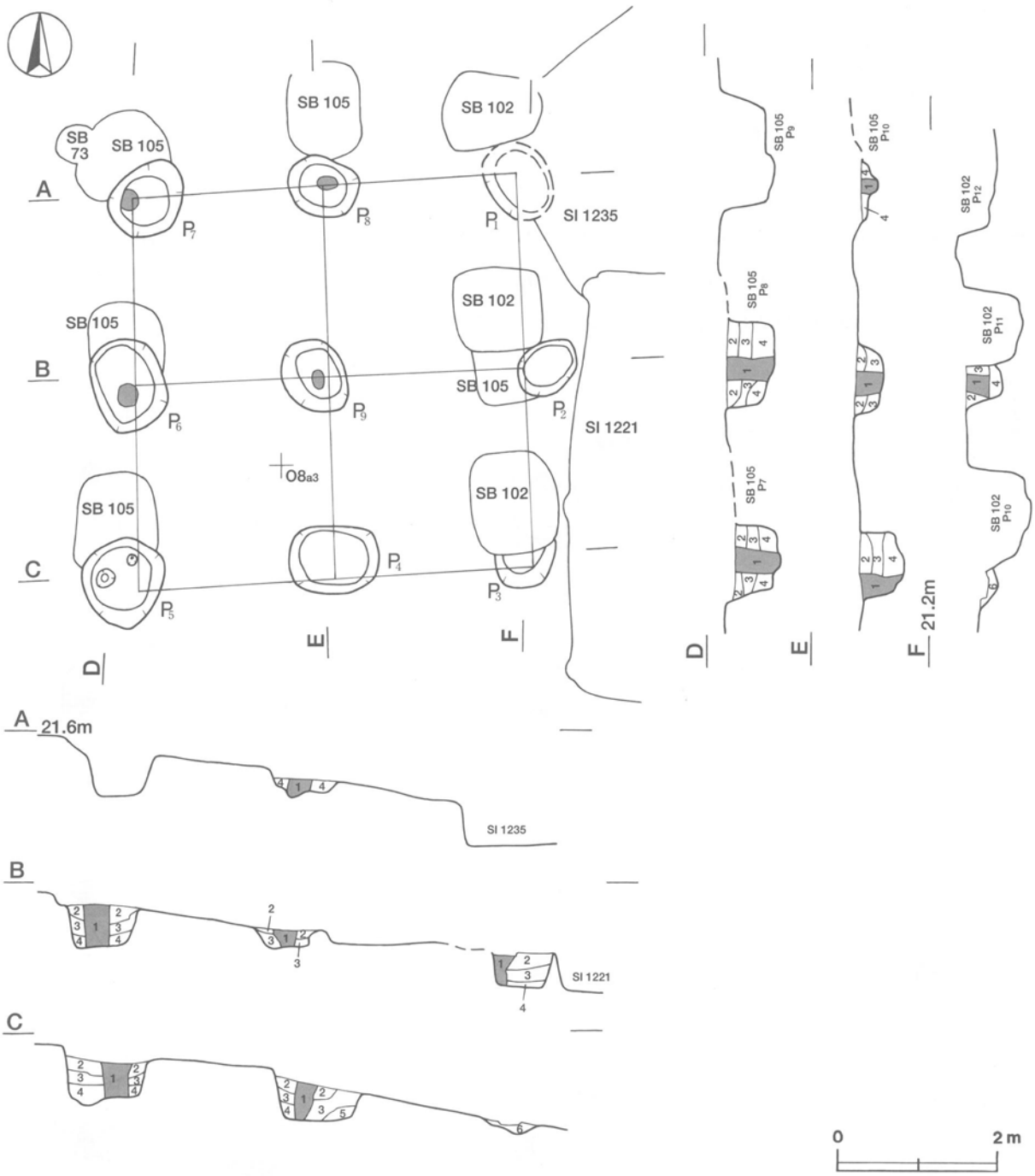
桁行方向　N－2°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第1層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色土・褐色土であり，突き固められてはいないが互層をなしている。

P2～P6・P8・P9土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・粘土粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子多量

遺物　土師器片84点，須恵器片4点が，P2・P5～P7の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため特定することが困難なものの，わずかながらうかがえる出土土器の特徴，隣接する第104号掘立柱建物跡と桁行方向と構造がほぼ一致しており，同時期の可能性が考えられること，9世紀と考えられる第102号掘立柱建物跡に掘り込まれていることなどから，8世紀後半と考えられる。



第644図　第106号掘立柱建物跡実測図

第107号掘立柱建物跡（第645図）

位置　調査８区の中央部，N8j9区。

重複関係　Ｐ２～Ｐ４が第89号掘立柱建物に，Ｐ８が第79号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長8.20m，梁行長5.00mである。柱間寸法は桁行2.50～2.70m，梁行2.20～2.80mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.86～1.48m，短径（軸）0.80～1.10mの円形・楕円形・隅丸方形または隅丸長方形で，深さ30～85cmである。

桁行方向　N－５°－W

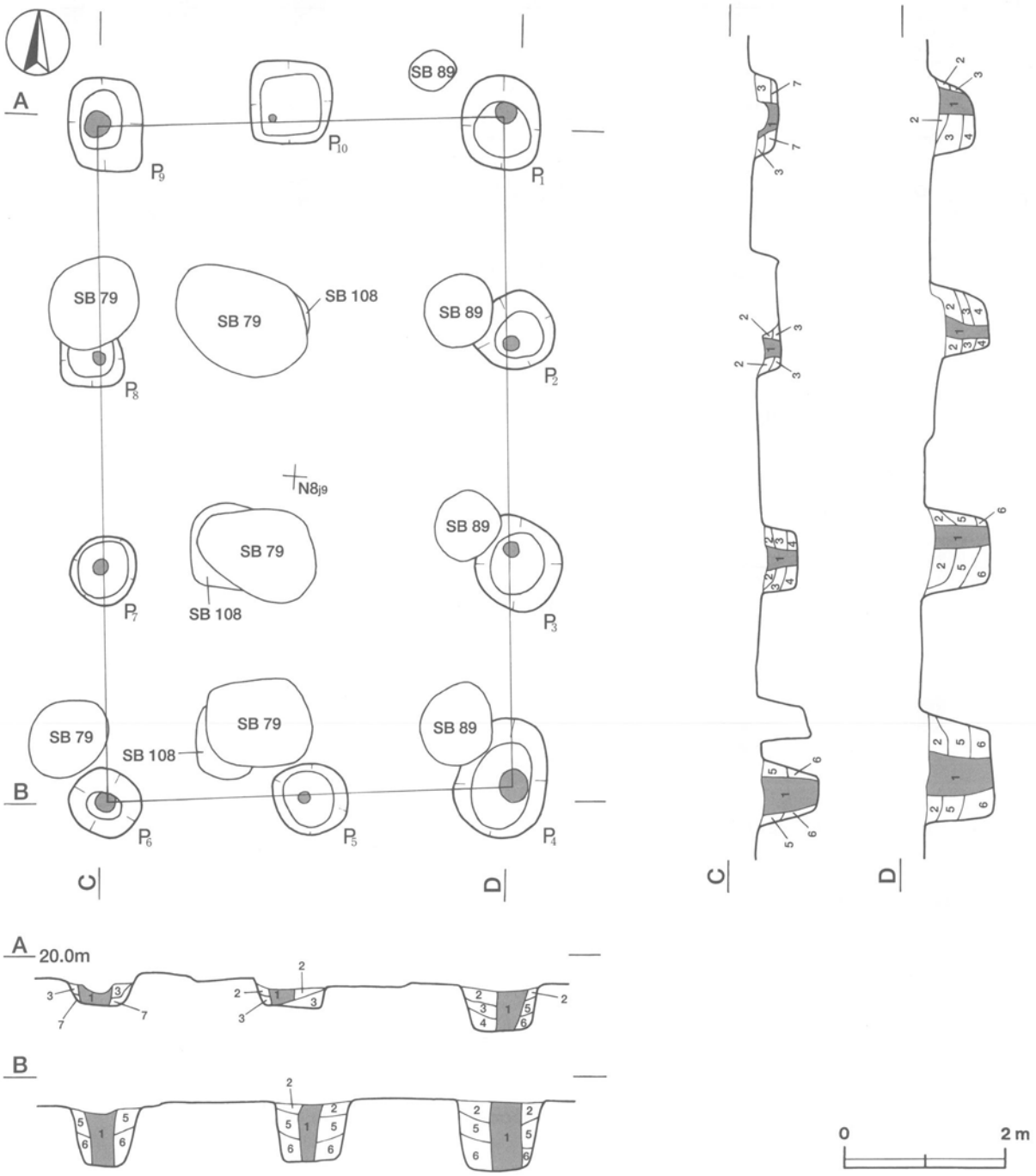
柱穴覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含

む黒褐色土・暗褐色土であり，強く突き固められてはいないが互層をなしている。

Ｐ１～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
2　黒褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック少量，粘土粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック・粘土粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片44点，須恵器片16点が，Ｐ１・Ｐ３～Ｐ７の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため特定が困難なものの，わずかながらうかがえる出土土器の特徴，８世紀と考えられる第89号掘立柱建物跡に掘り込まれていることなどから，８世紀と推定される。



第645図　第107号掘立柱建物跡実測図

第108号掘立柱建物跡（第646図）

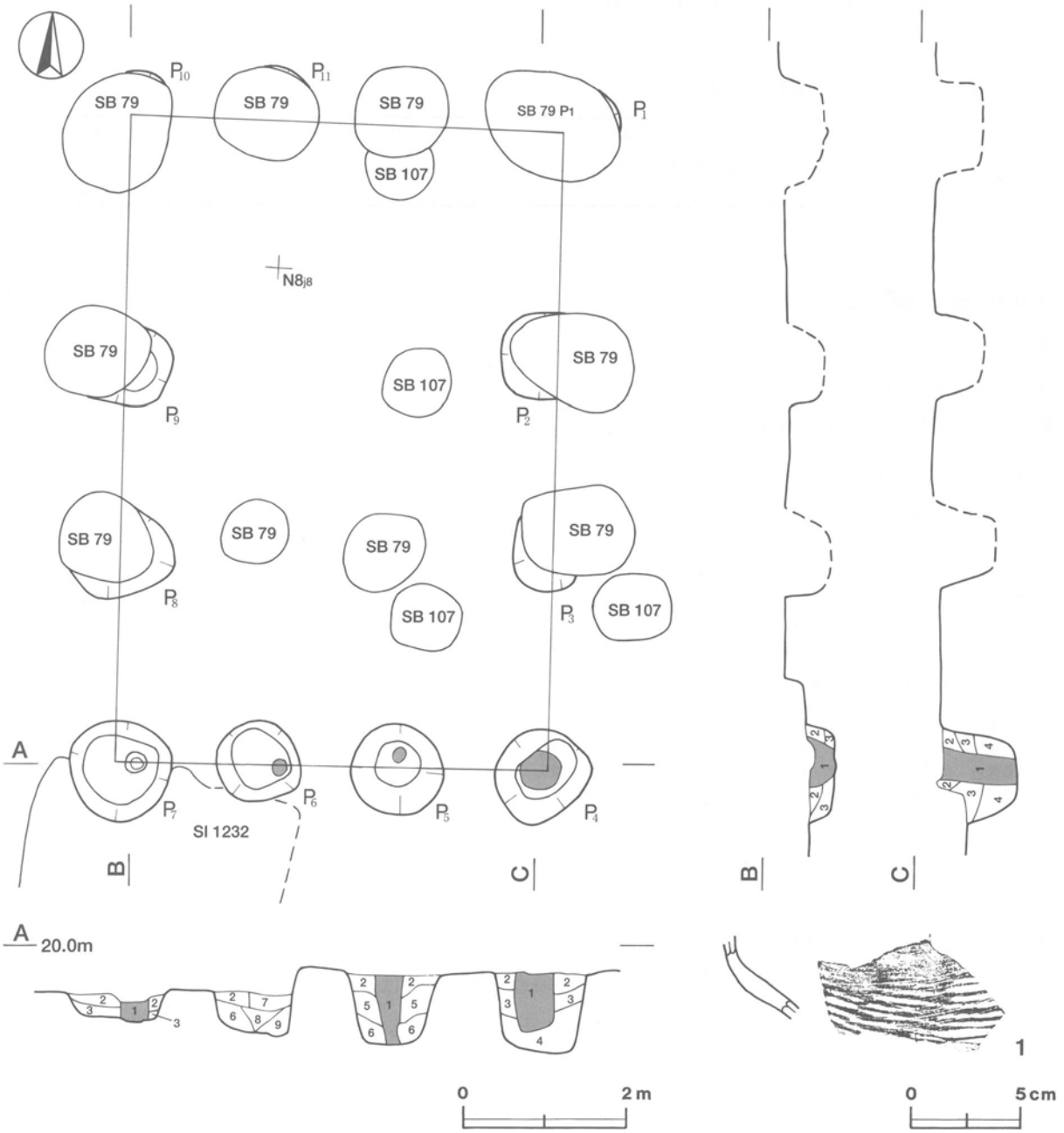
位置　調査８区の中央部，N8j8区。東へ４ｍの距離に位置する第89号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係　Ｐ６・Ｐ７を第1232号住居に，Ｐ１～Ｐ３・Ｐ８～Ｐ12を第79号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行３間の側柱式の建物跡で，桁行長7.70ｍ，梁行長5.20ｍである。柱穴は第79号掘立柱建物跡に完全に掘り込まれている１か所を除き11か所（Ｐ１～Ｐ11）が確認できた。柱間寸法は桁行2.40～3.00ｍ，梁行1.50～1.80ｍである。柱穴は，平面形が長径0.98～1.50ｍ，短径0.95～1.20ｍの円形・楕円形または不整楕円形で，深さ35～95㎝である。

桁行方向　Ｎ－１°－Ｗ

柱穴覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒色土・黒褐色土であり，強く突き固められてはいないが互層をなしている。



第646図　第108号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

P４～P７土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
5　黒　色　ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
6　黒　色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
8　黒　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
9　黒　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片39点，須恵器片22点が，Ｐ４～７の各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第646図１の須恵器甕体部片は，Ｐ７の埋土から出土している。

所見　本跡は，隣接する第89号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致することから，同時期の一連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は，出土土器が細片のため特定が困難なものの，わずかながらうかがえる出土土器の特徴，第89号掘立柱建物跡との関連などから８世紀と考えられる。

第108号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第646図1	甕 須恵器	B（3.9）	体部片。体部は内傾し，頸部に至る。	体部外面横位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色，普通	TP8214　5％ PL271

第109号掘立柱建物跡（第647図）

位置　調査８区の南部，O8c0区。

重複関係　全体を第1241号住居に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長7.15m，梁行長5.24mである。柱間寸法は桁行2.30～2.50m，梁行2.50mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.85～1.15m，短径（軸）0.72～0.85mの円形・楕円形または隅丸長方形で，深さ15～43cmである。

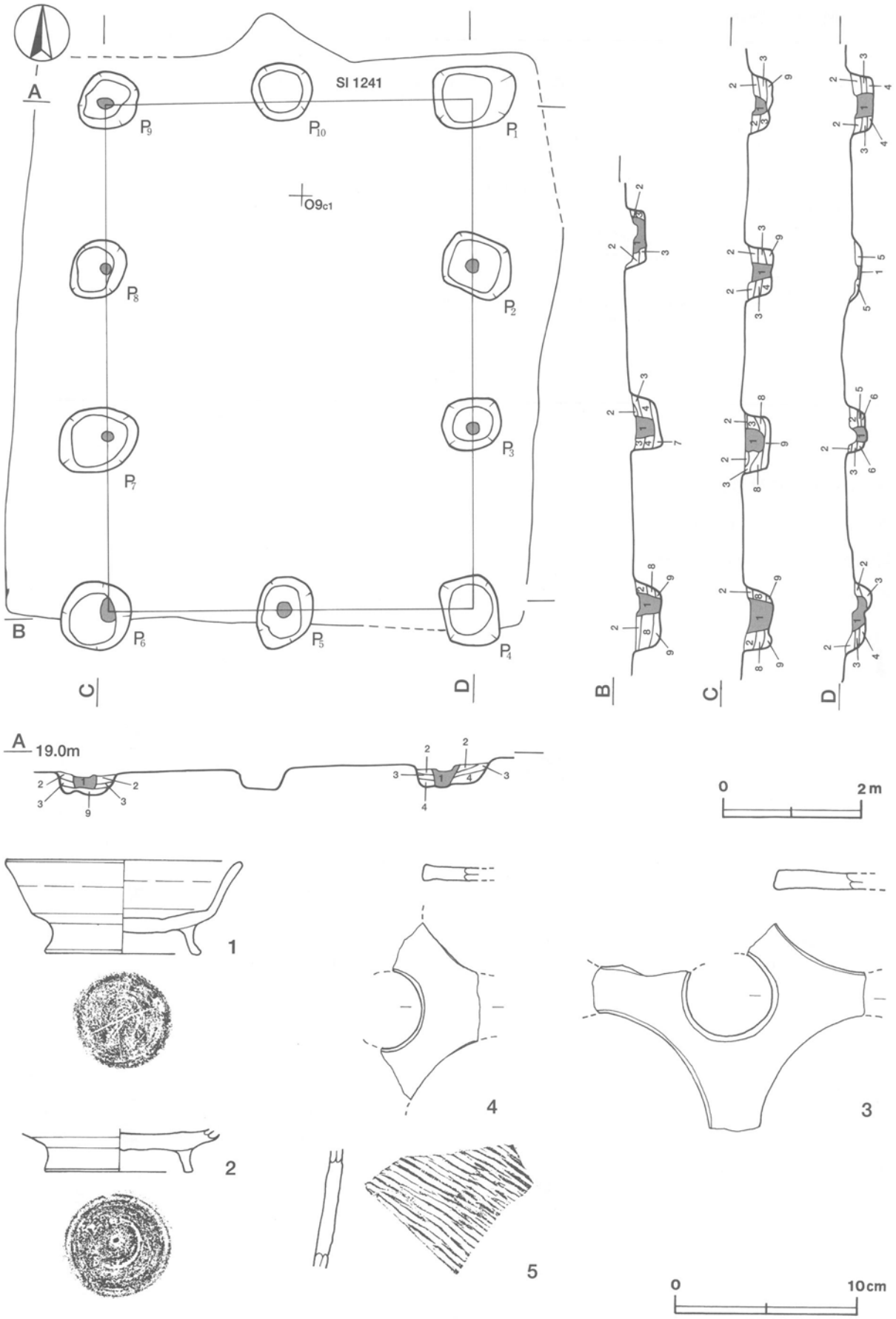
桁行方向　N－２°－W

柱穴覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土は黒褐色土を基調にし，ロームブロックを含む層と粘土粒子を含む層が版築状に突き固められている。

P１～P10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5　黒褐色　粘土粒子中量，粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
7　暗褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量
8　黒褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
9　黒褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・粘土小ブロック微量

遺物　土師器片61点，須恵器片53点が，Ｐ２を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第647図１・２の須恵器高台付坏はＰ６の埋土から，３・４の須恵器甑底部片はＰ５の埋土からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，９世紀中葉と考えられる第1241号住居に掘り込まれていることや出土土器から，８世紀後半と考えられる。



第647図　第109号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第109号掘立柱建物跡出土遺物観察表

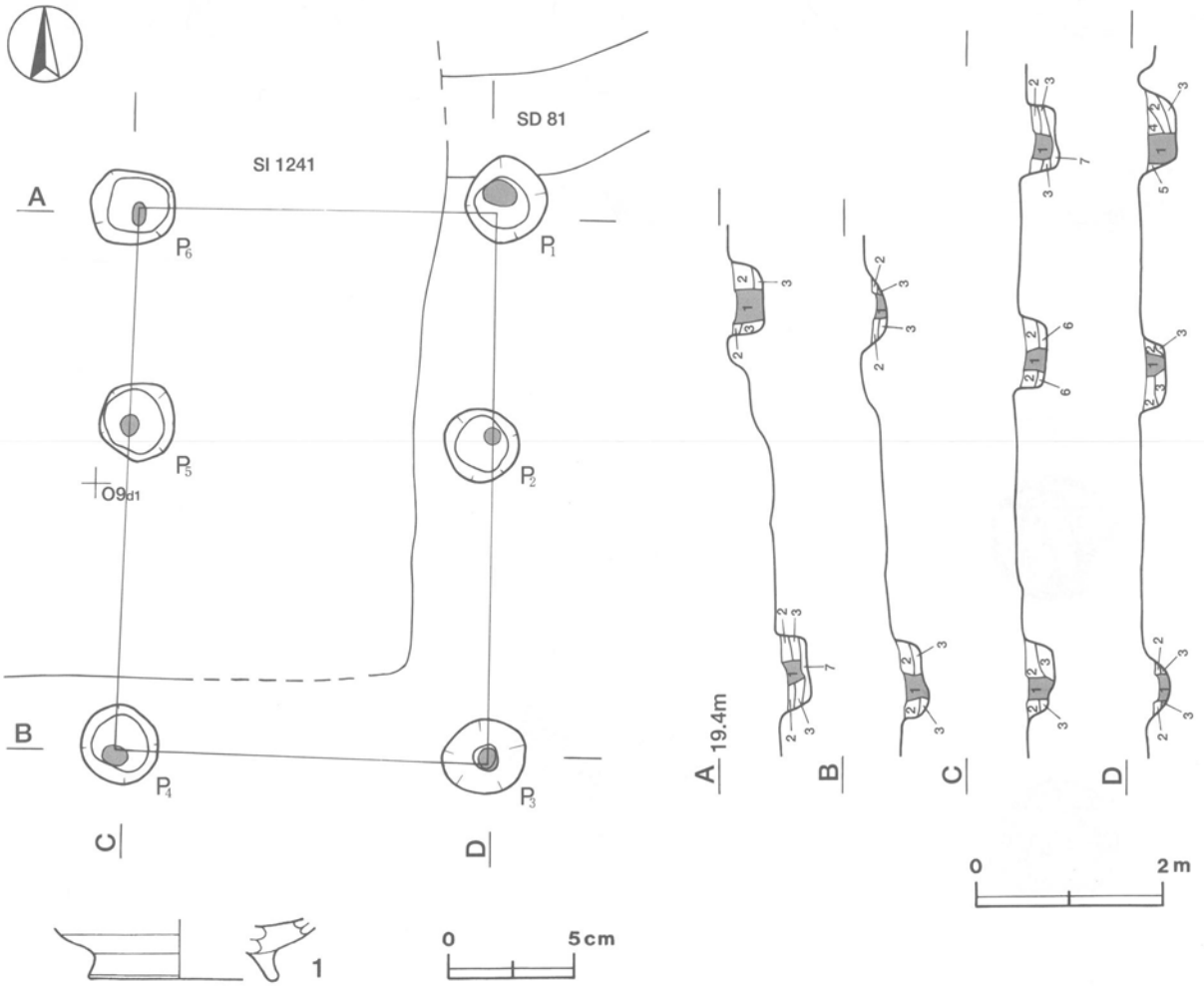
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第647図 1	高台付坏 須恵器	A [12.5] B 5.0 D 8.2 E 1.6	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は下端に稜をもち，外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P8373 60% PL270 底部外面箆記号「+」
2	高台付坏 須恵器	B (2.3) D 7.8 E 1.3	高台部から底部の破片。高台は短くハの字状に広がる。接地面は平ら。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P8374 20% PL270
3	甑 須恵器	B (1.0) C (14.7)	底部片。底部中央に円形の孔1，周縁に木葉形の孔4を穿孔する。五孔式。	穿孔面ヘラ状工具による穿孔後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8375 5% PL271
4	甑 須恵器	B (0.9) C [9.5]	底部片。底部中央に円形の孔1，周縁に木葉形の孔4を穿孔する。五孔式。	穿孔面ヘラ状工具による穿孔後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8376 3%
5	甕 須恵器	B (6.5)	体部片。	体部外面横位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英，灰色，普通	TP8215　3% PL271

第110号掘立柱建物跡（第648図）

位置　調査8区の南部，O9c1区。

重複関係　P1が第81号溝を掘り込み，P5・P6が第1241号住居に掘り込まれている。

規模　桁行2間，梁行1間の側柱式の建物跡で，桁行長5.74m，梁行長3.93mである。柱間寸法は桁行2.20～



第648図　第110号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

3.40m，梁行3.80～3.90mである。柱穴は，平面形が長径（軸）0.85～0.90m，短径（軸）0.70～0.75mの円形または隅丸長方形で，深さ20～45cmである。

桁行方向　N－2°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第1層は柱の抜き取り痕，その他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土であり，強く突き固められてはいないが互層をなしている。

P1～P6土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック少量
6　暗褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
7　黒褐色　粘土粒子多量，ローム小ブロック・粘土小ブロック中量

遺物　土師器片14点，須恵器片6点が，P1・P3の埋土から出土している。第648図1の須恵器高台付坏底部片は，P1の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片であるため特定が困難であるものの，出土土器の様相，9世紀中葉と考えられる第1241号住居跡に掘り込まれていることから，9世紀中葉以前と推定される。

第110号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第648図1	高台付坏	B（2.4） D［7.4］	高台部から体部下端の破片。高台は短くハの字状に開く。体部下端に稜を有する。	体部下端内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	P8377 5%
	須恵器	E　1.2				

第118号掘立柱建物跡（第649図）

位置　調査8区の北部。L10i2区。

重複関係　北東部が第918・919号住居に，東部が第127号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長6.20m，梁行長4.48mである。柱間寸法は桁行1.90～2.30m，梁行1.80～2.40mである。柱穴は10か所（P1～P10）で，平面形は長軸（径）0.86～1.10m，短軸（径）0.68～0.84mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形は逆台形状を呈し，深さは18～50cmである。

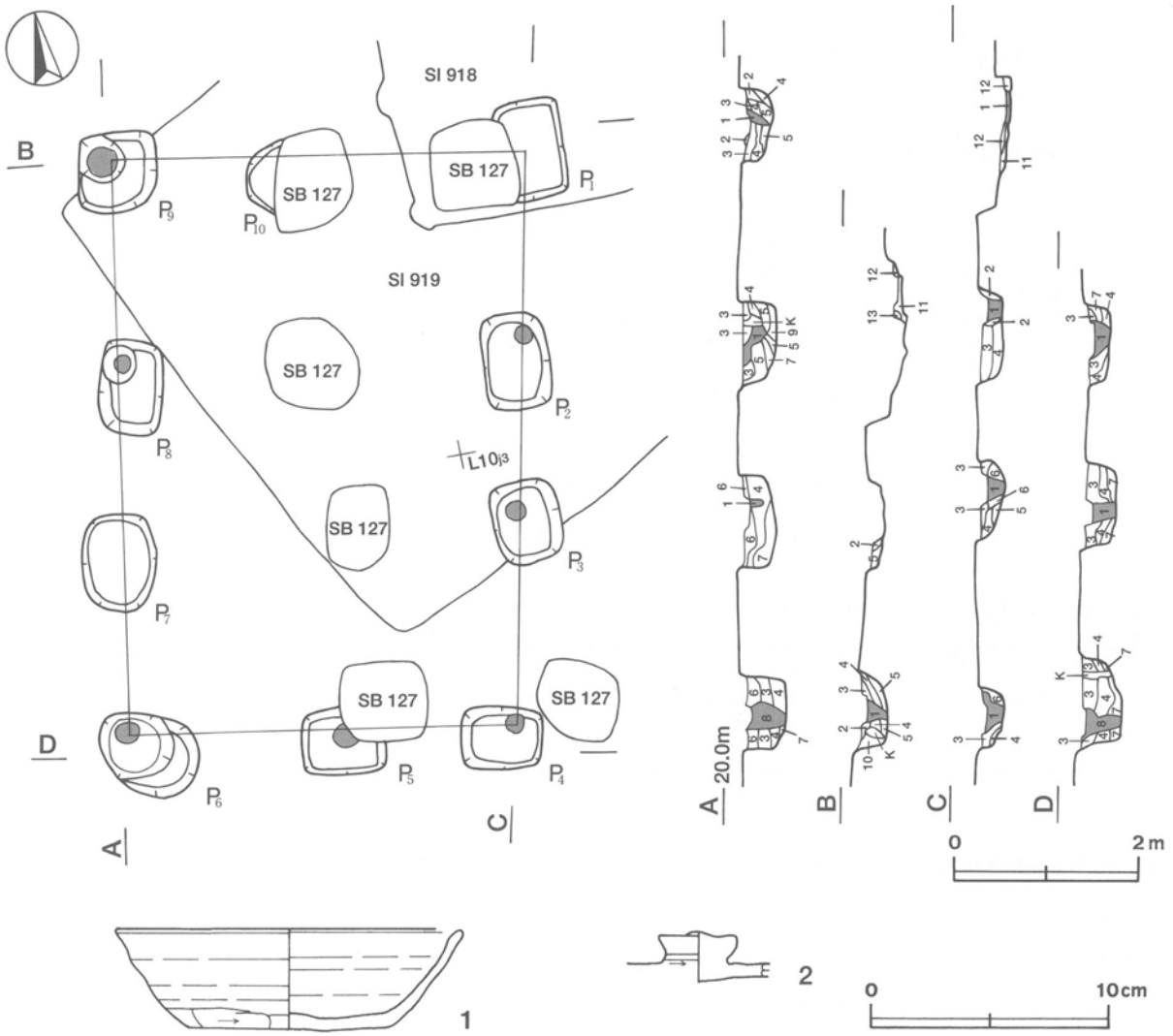
桁行方向　N－10°－E

柱穴覆土　土層断面図中，第1・8層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・褐色土で，版築状に突き固められている。

P1～P9土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。しまり弱い。
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
7　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
9　褐　色　ローム粒子多量
10　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
11　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
12　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量

遺物　土師器片43点，須恵器片7点が，すべての柱穴の埋土から出土している。第649図1の須恵器坏はP7の埋土中から，2の須恵器蓋はP8埋土から，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。本跡の西部に位置する第46号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。



第649図　第118号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第118号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第649図 1	坏 須恵器	A［14.2］ B　4.1 C　8.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	P8906 40% PL271
2	蓋 須恵器	B（2.0） F　3.2 G　1.3	天井頂部の破片。天井頂部は平坦である。つまみは擬宝珠状。	天井頂部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8907 10%

第119号掘立柱建物跡（第650図）

位置　調査８区の北部。M10d4区。東部は調査区域外に位置している。

重複関係　北西部のＰ４・Ｐ５が，第41号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　東部が調査区域外に位置しているため，柱穴は８か所（Ｐ１～Ｐ８）が確認されただけであり，全容は確認できなかった。検出された部分から，桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡と考えられる。桁行長は現存

値が5.50m，梁行長4.41mである。柱間寸法は桁行1.70～2.20m，梁行2.10～2.30mである。平面形は長軸（径）0.78～1.44m，短軸（径）0.62～1.46mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形は二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは16～96cmである。

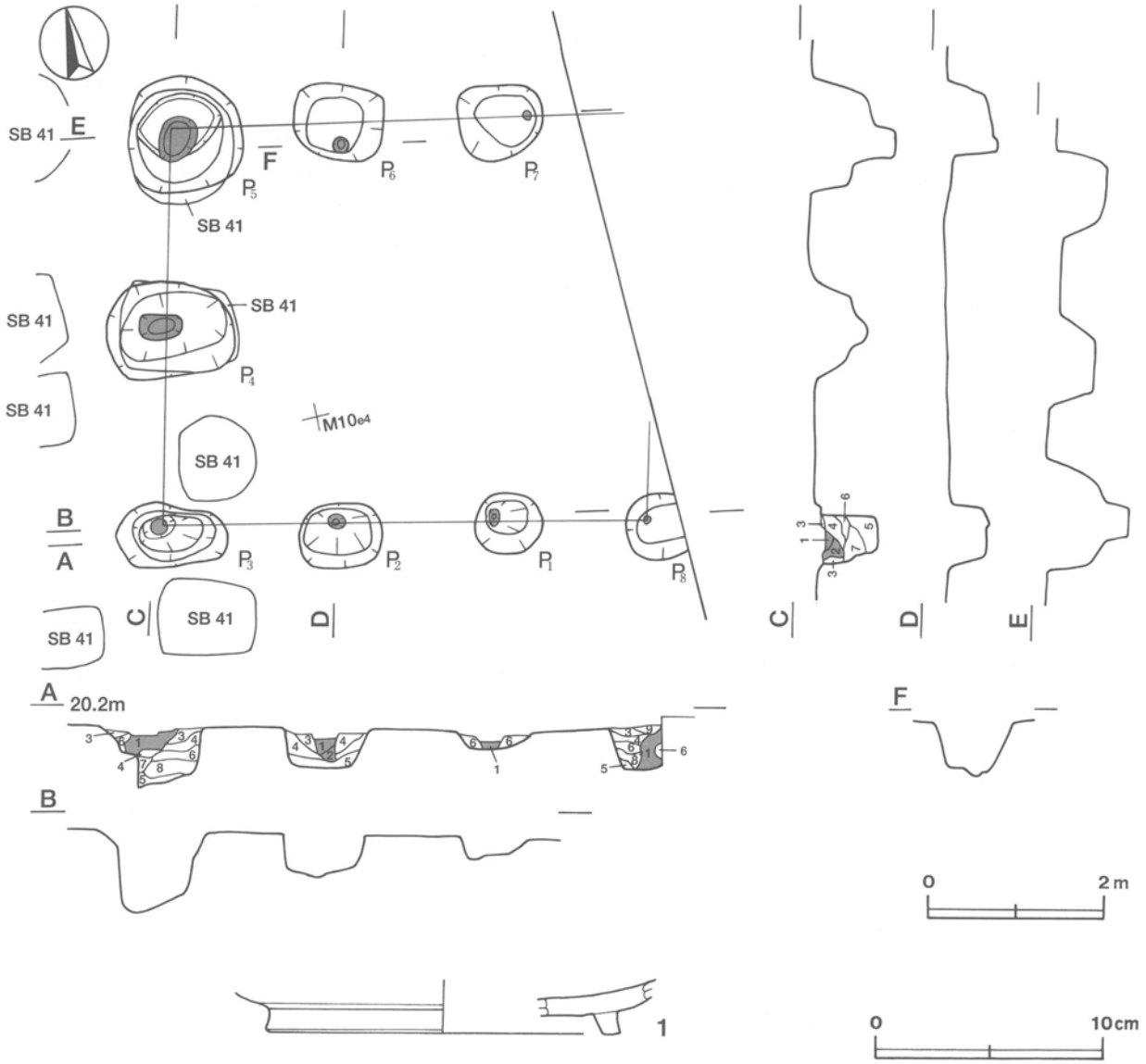
桁行方向　N－77°－W

柱穴覆土　土層断面図中，第１・２層が柱の抜き取り痕と考えられる。埋土はロームブロックを含む暗褐色・黒褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ１～Ｐ３・Ｐ８土層解説（各柱穴共通）

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
7　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
8　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
9　暗褐色　ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物　土師器片14点，須恵器片４点が，Ｐ２・Ｐ３・Ｐ８の埋土及びＰ８の柱の抜き取り痕から出土している。



第650図　第119号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第650図１の須恵器盤はＰ８の柱の抜き取り痕から出土している。

所見　本跡の時期は，９世紀前半の第41号掘立柱建物に掘り込まれていることと，出土土器から８世紀後半と考えられる。本跡の北西部に位置する第44号掘立柱建物跡と時期がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。

第119号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第650図 1	盤 須恵器	B（2.3） D［15.2］ E　1.0	高台部から体部下位にかけての破片。体部は内彎気味に大きく，外方に開く。高台は「ハ」の字状に開く。接地面は平ら。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	Ｐ8908 10%

第121号掘立柱建物跡（第651図）

位置　調査８区の北部に「Ｌ」字状に集中する掘立柱建物跡群の北部に位置する。L9e9区。

重複関係　Ｐ５・Ｐ７・Ｐ８・Ｐ12～Ｐ14が，第124号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行２間，梁行２間の２面庇付の側柱式の建物跡で，桁行長3.90m，梁行長3.90mである。柱間寸法は桁行1.80～2.00m，梁行1.70～2.00mである。柱穴は14か所（Ｐ１～Ｐ14）で，身舎の柱穴は平面形が長軸（径）0.81～1.07m，短軸（径）0.64～0.87mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは32～63cmである。庇部の柱穴は，平面形が長軸（径）0.85～1.04m，短軸（径）0.65～0.86mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは27～70cmである。

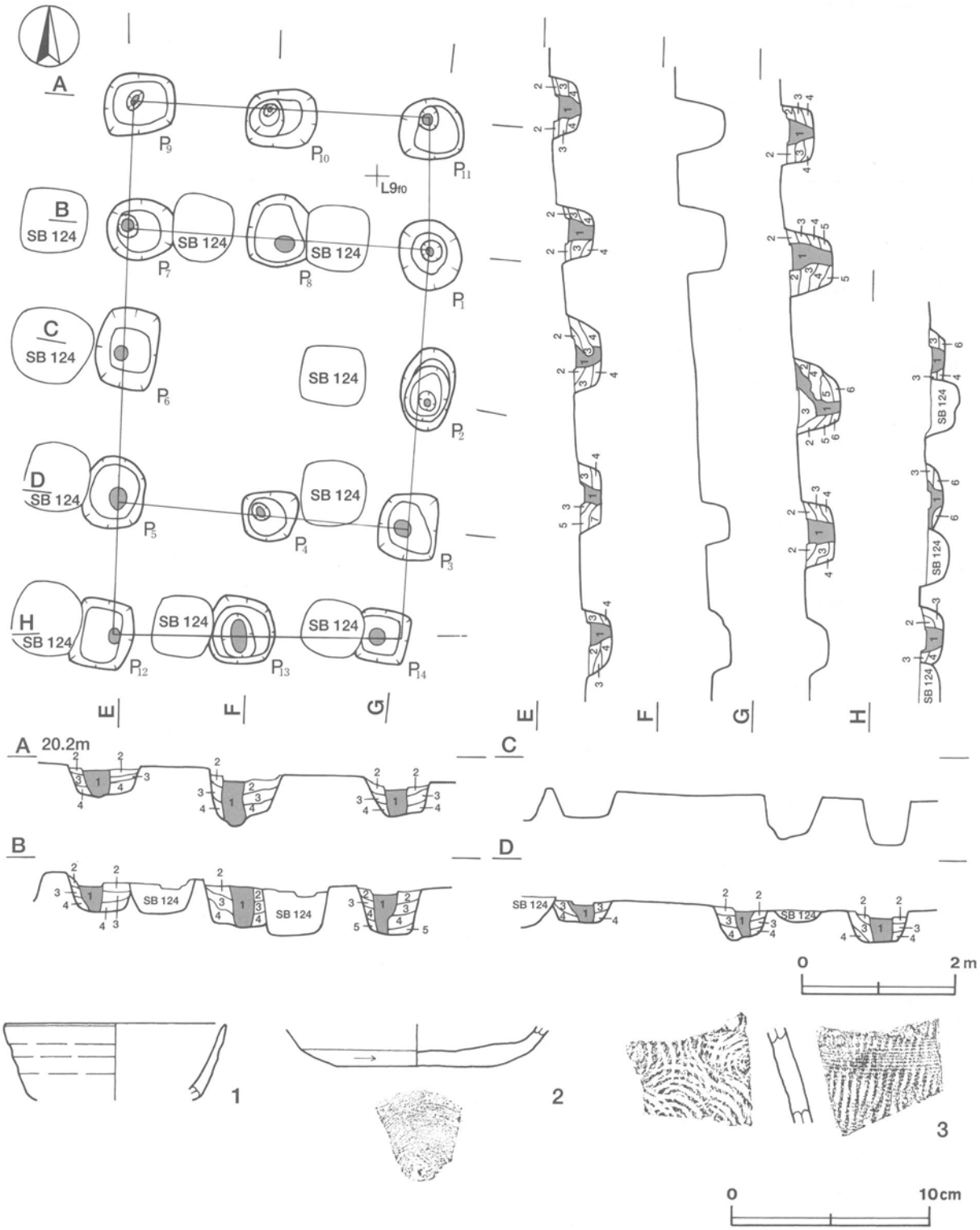
桁行方向　N－86°－W

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ１～Ｐ14土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
5　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
7　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量

遺物　土師器片93点，須恵器片９点が，Ｐ12を除いた柱穴の埋土から出土している。土師器片は細片であり，古墳時代後期のもので，混入したものと思われる。第651図１の須恵器坏はＰ６の埋土から，２の須恵器坏はＰ７の埋土から，それぞれ出土している。３の須恵器甕の体部片はＰ８の埋土から出土している。

所見　本跡は，調査区８区の北部に「Ｌ」字状に集中する掘立柱建物跡群の北部に位置する南北棟であり，西側2.5mの位置を南北に延びる第35Ｂ号溝と桁行方向が一致している。時期は，出土土器から８世紀前葉から中葉と考えられる。



第651図　第121号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第121号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第651図 1	坏 須恵器	A［11.0］ B（3.8）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色，普通	P8910 10%

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第651図 2	坏 須恵器	B（2.0） C［8.0］	底部から体部下位にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P8911 15%
3	甕 須恵器	B（4.7）	体部の破片。	体部外面縦位の平行叩き，内面同心円状の当て具痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰色 普通	TP8423 5% PL271

第123号掘立柱建物跡（第652図）

位置　調査8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する。L9h9区。

重複関係　南部で第46・47号掘立柱建物跡を，全体で第125・126号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模　桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長6.99m，梁行長5.31mである。柱間寸法は桁行2.10～2.60m，梁行2.30～2.60mである。柱穴は10か所（P1～P10）で，平面形は長軸（径）0.90～1.24m，短軸（径）0.68～1.12mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形は二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは28～50cmである。

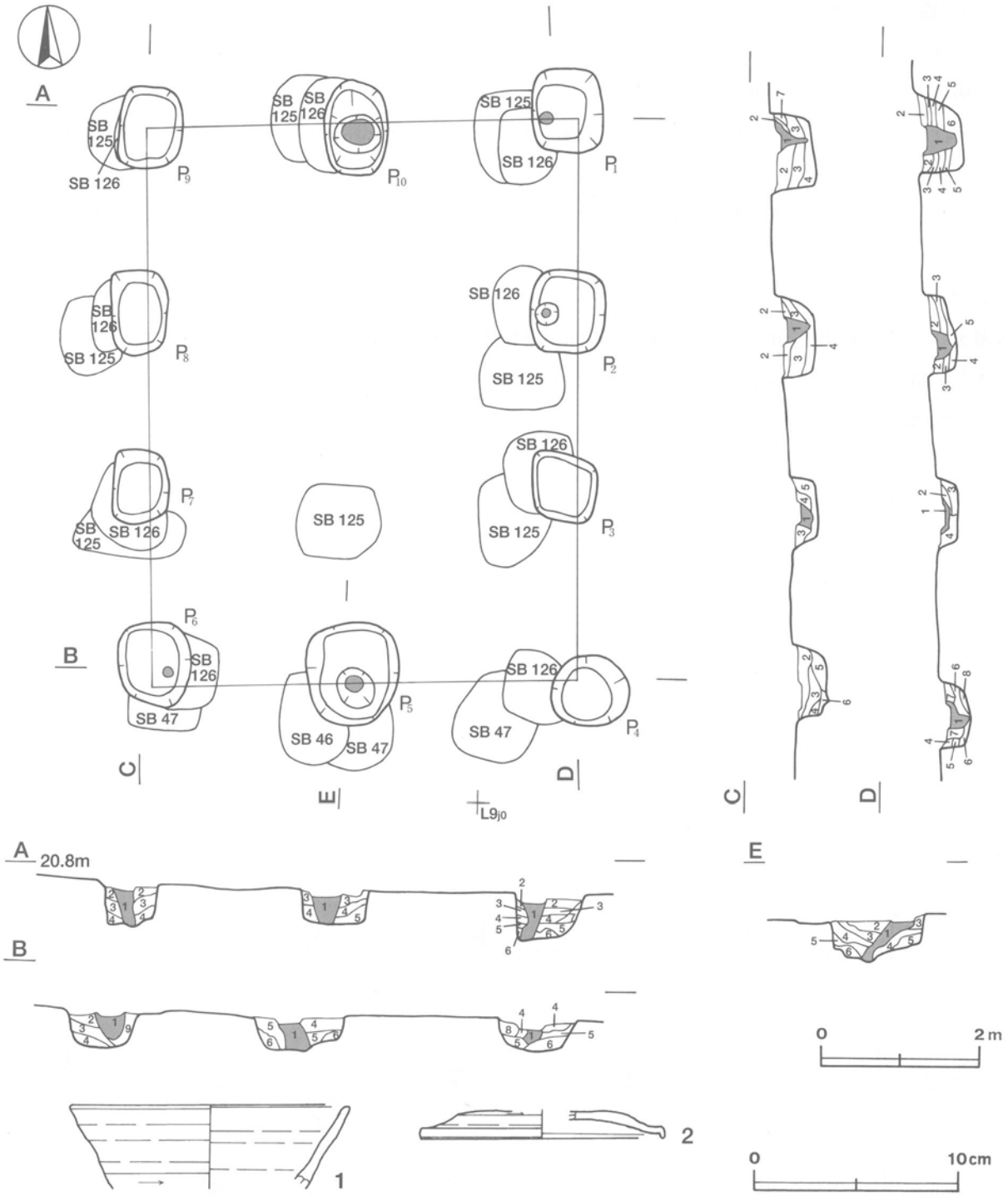
桁行方向　N－3°－W

柱穴覆土　上層断面図中，第1層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で，版築状に突き固められている。

P1～P10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量。しまり強い。
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量。しまり強い。
4　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック中量
6　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
7　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
8　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量

遺物　土師器片120点，須恵器片34点が，すべての柱穴の埋土及びP1・P3・P4・P10の柱の抜き取り痕から出土している。土師器片は細片であり，古墳時代後期のもので，混入したものと思われる。第652図1の須恵器坏はP5の埋土から，2の須恵器蓋はP9の埋土から，それぞれ出土している。

所見　本跡は，重複している第125・126号掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されており，それらの掘立柱建物を掘り込んでいる。さらに，本跡のP4・P5・P6は，南部に位置する第46・47号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第46・47・125・126号掘立柱建物跡の時期は，8世紀中葉から9世紀前葉と考えられる。時期は，このような重複関係及び出土土器から，9世紀前半と考えられる。また，第125・126号掘立柱建物跡とほぼ同位置で重複していることから，この3棟は建て替えが行われたものと考えられ，これら3棟の時期幅は8世紀後葉から9世紀前半におさまることからも推察される。本跡は，調査区8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する南北棟であり，西側2.5mの位置を南北に延びる第35B号溝と桁行方向が一致している。



第652図　第123号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 123 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第652図 1	坏 須恵器	A［13.2］ B（3.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P 8912 15%
2	蓋 須恵器	A［11.7］ B（1.3）	天井部から口縁部にかけての破片。天井頂部は平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲して，短く垂下する。	天井頂部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	P 8914 10%

第124号掘立柱建物跡（第653・645図）

位置　調査８区の北部に「Ｌ」字状に集中する掘立柱建物跡群の北部に位置する。L9f9区。

重複関係　第121号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

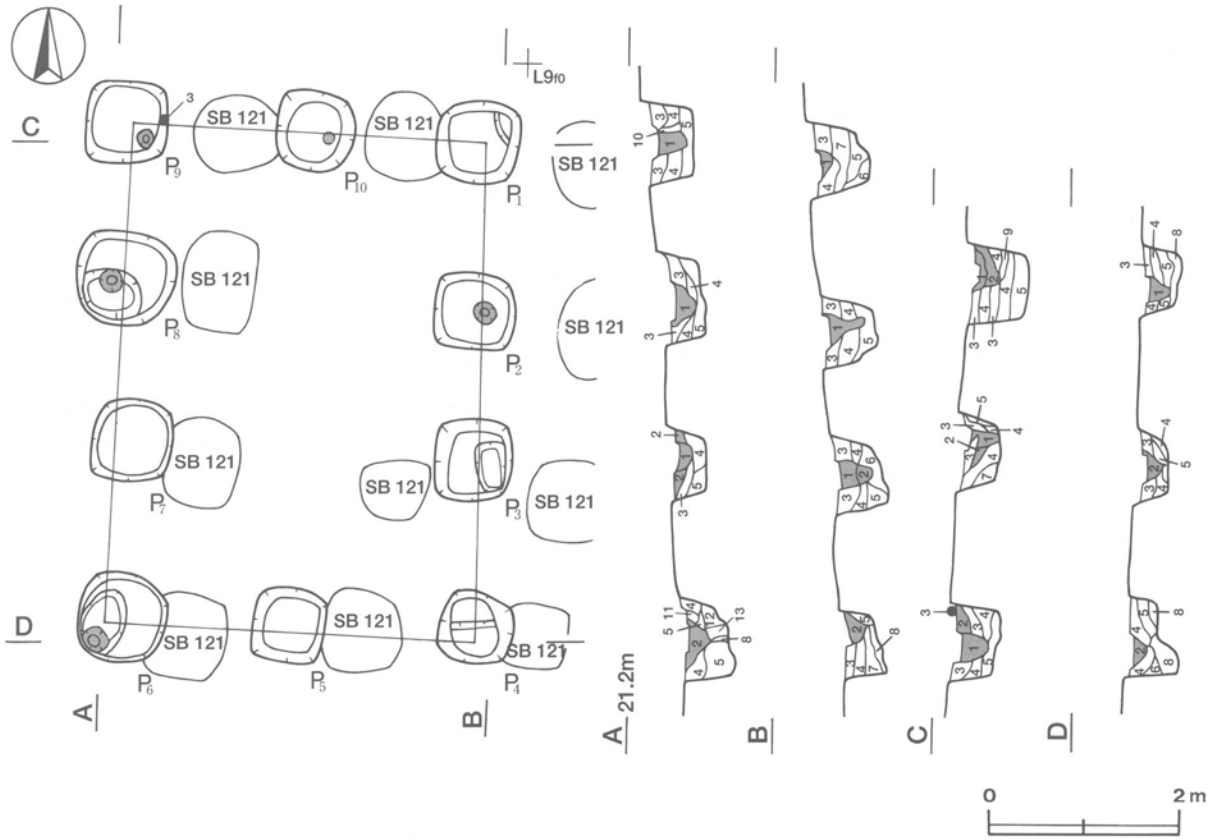
規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長5.17m，梁行長3.81mである。柱間寸法は桁行1.50～2.10m，梁行1.80～2.00mである。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形は長軸（径）0.78～1.08m，短軸（径）0.76～0.98mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形は二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは34～66cmである。

桁行方向　Ｎ－10°－Ｅ

柱穴覆土　土層断面図中，第１・２層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ１～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
6　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
7　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
8　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
11　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
13　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

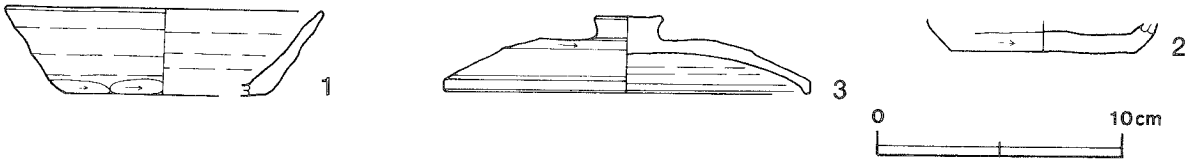
遺物　土師器片86点，須恵器片17点が，すべての柱穴の埋土及びＰ１～Ｐ３・Ｐ５・Ｐ８・Ｐ10の柱の抜き取り痕から出土している。土師器片は細片であり，古墳時代後期のもので，混入したものと思われる。第654図



第653図　第124号掘立柱建物跡実測図

1・2の須恵器坏，3の須恵器蓋はＰ９の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，８世紀前葉から中葉と考えられる第121号掘立柱建物跡を掘り込んでいることと出土土器から，８世紀中葉から後葉と考えられる。また，第121号掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されており，時期も近いことから，第121号掘立柱建物が廃絶された後に，建て替えらたものと考えられる。本跡の北部に位置する第37・38号掘立柱建物跡とは「Ｌ」字状に並び，南部に位置する第47・125号掘立柱建物跡とは桁行方向が一致し，ほぼ時期が一致していることから，これらは一連の施設として機能していた可能性がある。



第654図　第124号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第124号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第654図 1	坏 須恵器	A［12.8］ B 3.3 C［8.0］	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	Ｐ8915 15%
2	坏 須恵器	B（1.2） C 7.4	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	Ｐ8916 15%
3	蓋 須恵器	A［14.8］ B 3.1 F 2.7 G 1.0	天井部から口縁部にかけての破片。天井頂部は平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲して，短く垂下する。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部，口縁部内・外面ロクロナ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	Ｐ8917 40% ＰＬ270

第125号掘立柱建物跡（第655・656図）

位置　調査８区の北部に「Ｌ」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する。L9h8区。

重複関係　全体が第123・126号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　２間×２間の側柱式の建物跡で，一辺の長さ4.85～5.15m，柱間寸法は2.20～3.10mである。柱穴は８か所（Ｐ１～Ｐ８）で，平面形が長軸（径）0.88～1.45m，短軸（径）0.78～0.88mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは26～51cmである。

桁行方向　Ｎ－１°－Ｗ

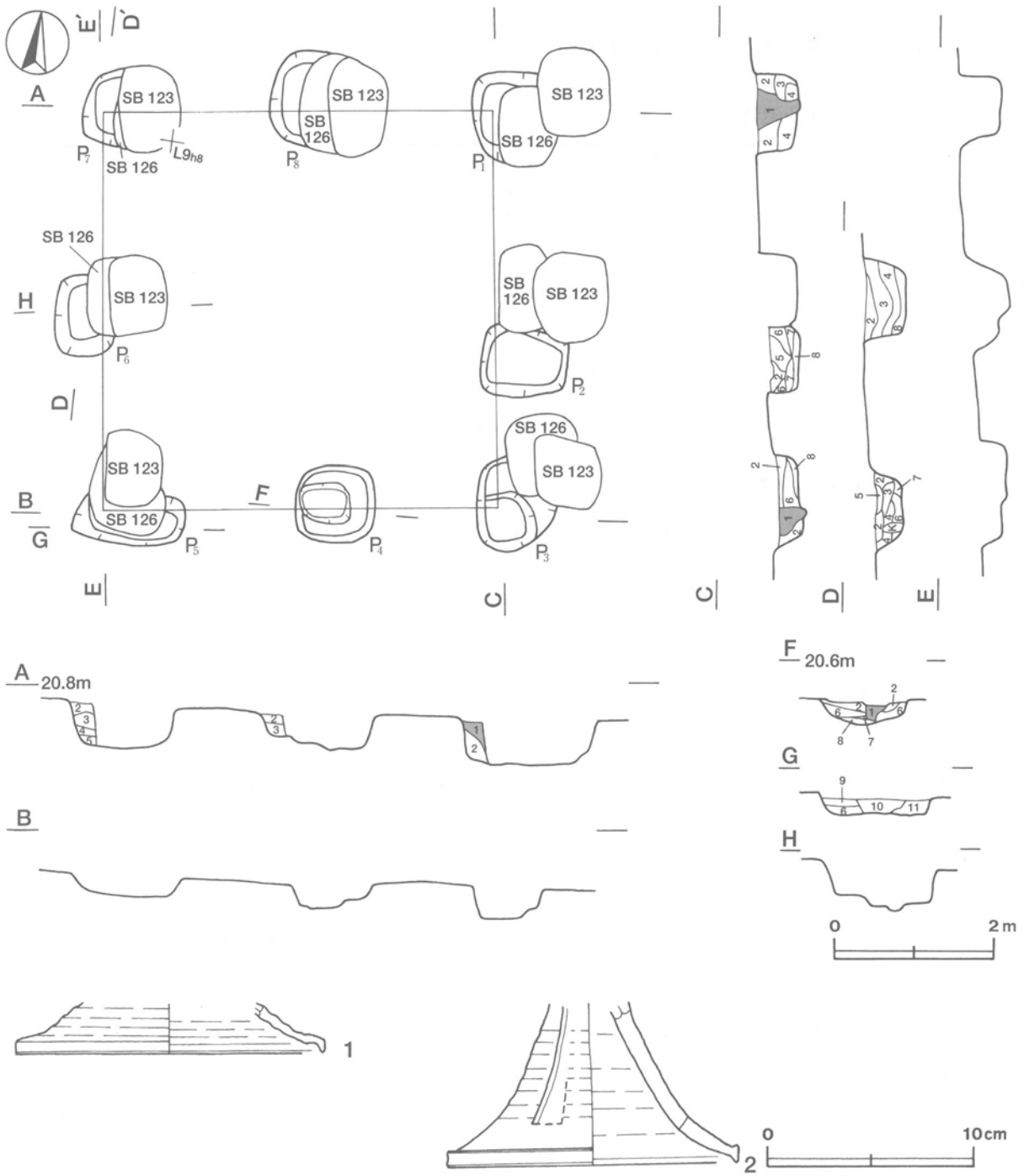
柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。埋土はロームブロック主体の黒褐色・暗褐色土であり，版築状に突き固められている。

Ｐ１～Ｐ８土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
4　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
5　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
7　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
8　黒褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
9　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
10　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，
11　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量

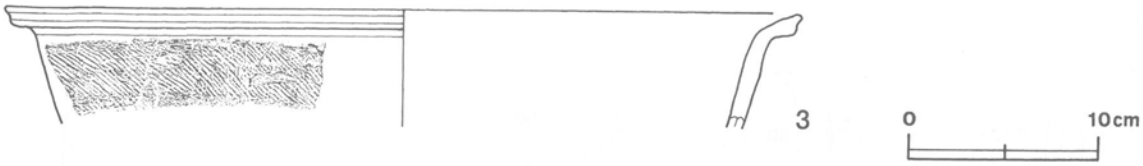
遺物　土師器片42点，須恵器片10点が，柱穴の埋土及びＰ１・Ｐ２・Ｐ４の柱の抜き取り痕から出土している。土師器片は細片であり，古墳時代後期のもので，混入したものと思われる。第655・656図１の須恵器蓋はＰ８

の埋土から，２の須恵器高坏の脚部片はＰ３の埋土から，それぞれ出土している。３の須恵器鉢はＰ２とＰ６の埋土から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡は，８世紀末葉から９世紀前葉と考えられる第126号掘立柱建物，９世紀前半と考えられる第123号掘立柱建物に掘り込まれていることと出土土器から，８世紀後葉と考えられる。また，第123・126号掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されており，３棟の時期幅は８世紀後葉から９世紀前半におさまることから，建て替えが行われたと考えられる。本跡の北部に位置する第37・38号掘立柱建物跡とは「Ｌ」字状に並び，北部に位置する第124号掘立柱建物跡，南部に位置する第47号掘立柱建物跡とは桁行方向が一致し，ほぼ時期も一致していることから，これらは一連の施設として機能していた可能性がある。



第655図　第125号掘立柱建物跡・出土遺物実測図



第656図　第125号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第125号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第655図 1	蓋 須恵器	A［14.8］ B（2.3）	外周部から口縁部にかけての破片。外周部はなだらかに下降し，口縁部に至る。端部は短く垂下する。	外周部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色，普通	P8918 5％
2	高　盤 須恵器	B（7.5） D［14.0］	脚部の破片。脚部はラッパ状に開き，三方に長方形の透かし孔を有する。	脚部内・外面ロクロナデ。脚部ヘラ状工具による透かし。	砂粒・雲母 灰色 普通	P8919 10％ PL270
第656図 3	鉢 須恵器	A［41.8］ B（6.1）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，屈曲して，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナ。体部外面斜位の平行叩き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8920 5％ PL270

第126号掘立柱建物跡（第657図）

位置　調査8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する。L9h9区。

重複関係　南部で第46・47号掘立柱建物跡を，中央部以北で第125号掘立柱建物跡を掘り込み，全体が第123号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長6.87m，梁行長4.90mである。柱間寸法は桁行2.00～2.70m，梁行2.20～2.50mで，柱穴は10か所（P1～P10）で，平面形は長軸（径）0.90～1.24m，短軸（径）0.70～0.82mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは30～58cmである。

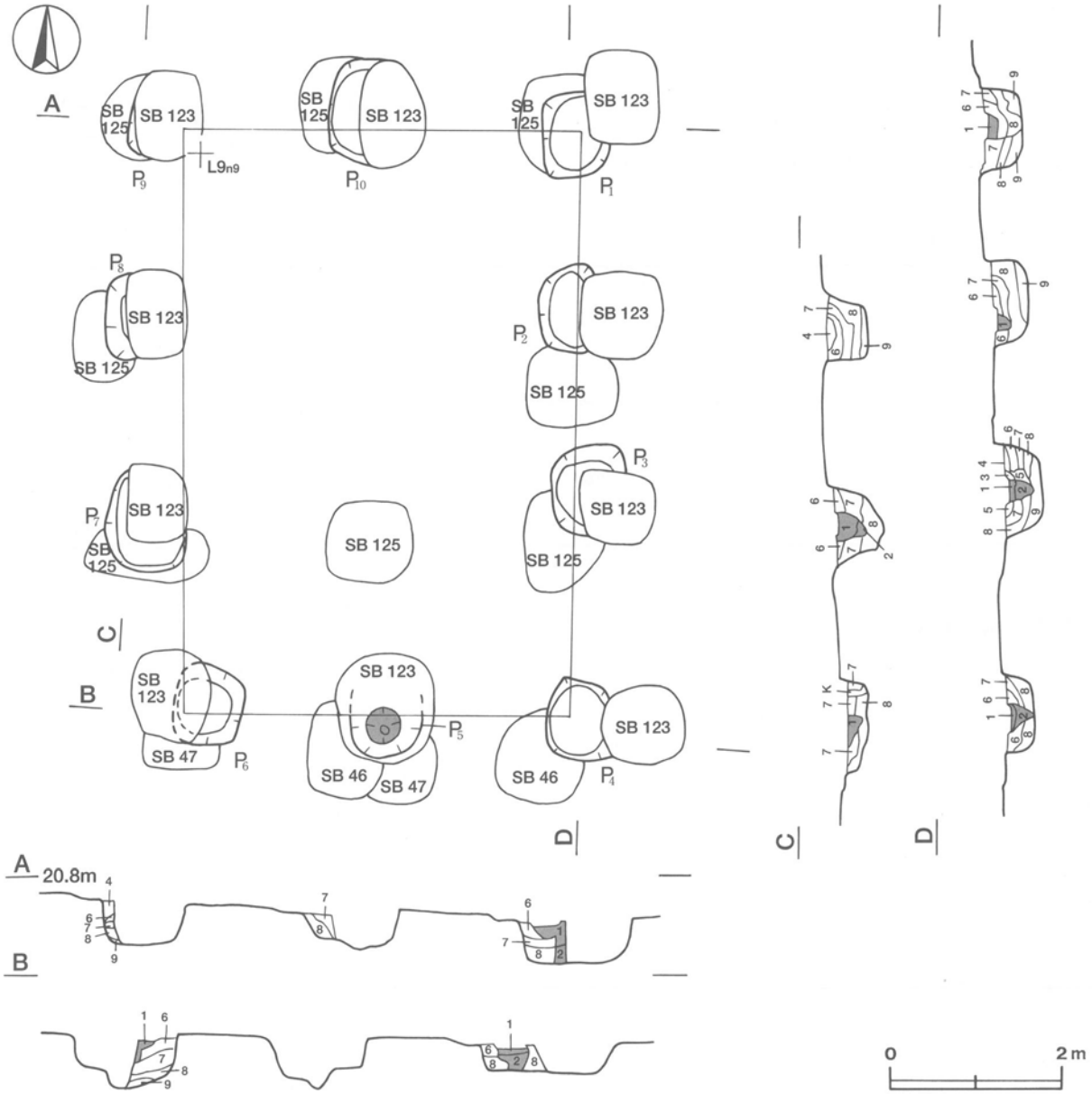
桁行方向　N－0°

柱穴覆土　土層断面図中，第1・2層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・黒色土で，版築状に突き固められている。

P1～P4・P6～P10土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量。しまり弱い。
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
8　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片21点，須恵器片8点が，すべての柱穴の埋土及びP1・P6・P8の柱の抜き取り痕から出土している。いずれも細片のため図示はできなかった。

所見　本跡の時期は，8世紀後葉と考えられる第125号掘立柱建物跡を掘り込み，9世紀前半と考えられる第123号掘立柱建物に掘り込まれていることから，8世紀末葉から9世紀前葉と考えられる。また，これらの掘立柱建物跡とほぼ同位置で検出されており，3棟の時期幅は8世紀後葉から9世紀前半におさまることから，第125号掘立柱建物を廃絶した後に建て替えられたものと考えられる。また，調査区8区の北部に「L」字状に集中する掘立柱建物跡群の北西部に位置する南北棟であり，西側2.5mの位置を南北に延びる第35B号溝と桁行方向が一致している。



第657図　第126号掘立柱建物跡実測図

第127号掘立柱建物跡（第658図）

位置　調査８区の北部。L10i2区。

重複関係　北部で第918・919号住居跡を，南部で第1445A・B号住居跡を，西部で第118号掘立柱建物跡を掘り込み，南部が第1447号住居に掘り込まれている。

規模　桁行３間，梁行２間の側柱式の建物跡で，桁行長5.84m，梁行長4.08mである。柱間寸法は桁行1.70～2.40m，梁行1.70～2.30mである。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形は長軸（径）0.78～1.16m，短軸（径）0.58～0.98mの隅丸長方形・楕円形であり，断面形が二段掘り状・逆台形状を呈し，深さは28～54cmである。

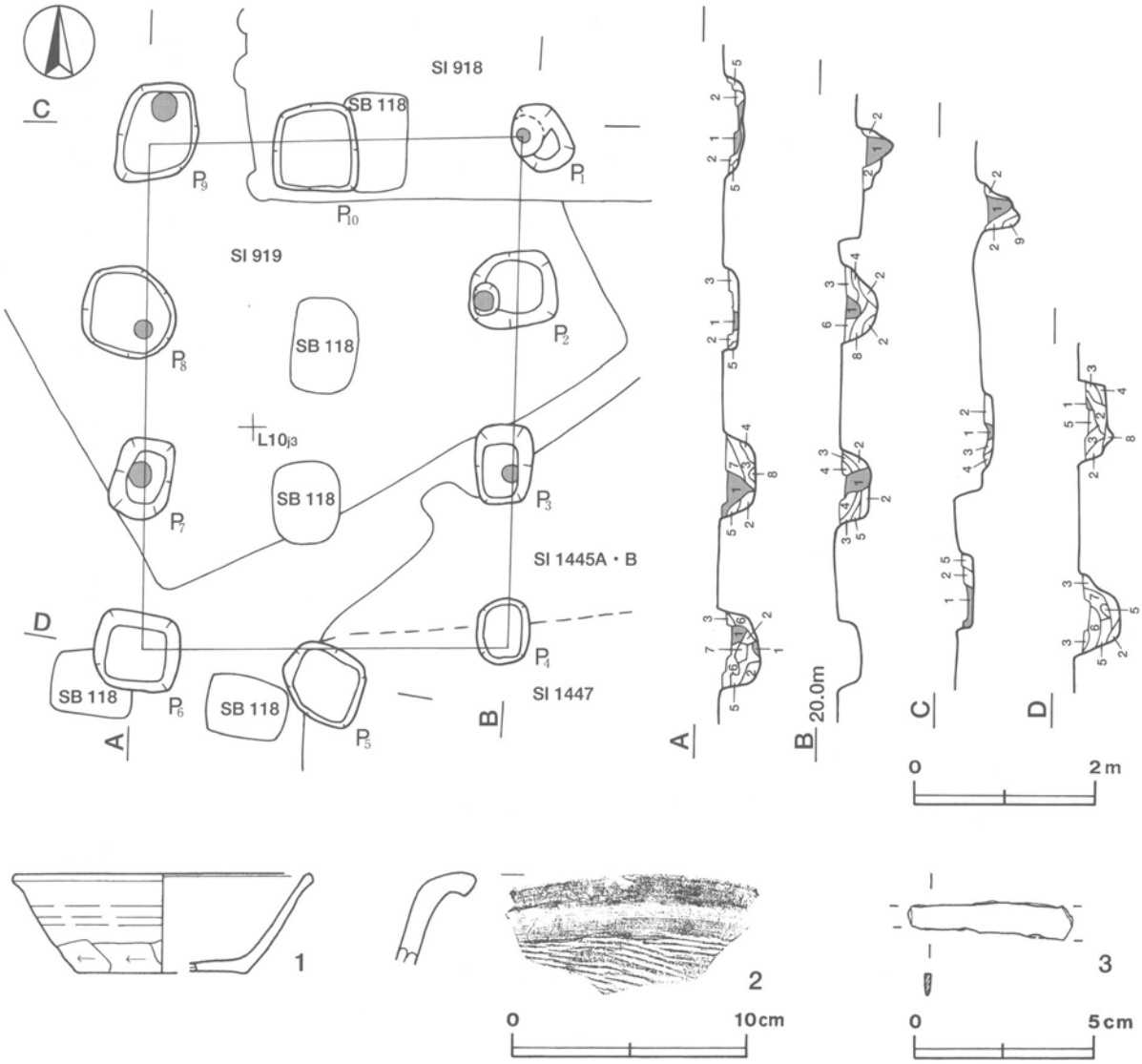
桁行方向　Ｎ－３°－Ｅ

柱穴覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕，他は埋土と考えられる。埋土はロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土で，版築状に突き固められている。

Ｐ１～Ｐ10土層解説（各柱穴共通）
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。しまり弱い。
2　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
7　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
9　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物　土師器片43点，須恵器片14点が，Ｐ10を除く柱穴の埋土及びＰ１～Ｐ７・Ｐ９の柱の抜き取り痕から出土している。第658図１の須恵器坏はＰ１の埋土から，２の須恵器甕はＰ８の埋土から，それぞれ出土している。３の刀子は，Ｐ３の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，８世紀後葉と考えられる第118号掘立柱建物跡を掘り込んでいることと出土土器から，８世紀末葉から９世紀前葉と考えられる。本跡の南部に位置する第45号掘立柱建物跡と時期及び桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。



第658図　第127号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第127号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第658図 1	坏 須恵器	A [12.4] B 4.1 C [7.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色，普通	P8921 20%
2	鉢 須恵器	B (3.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，屈曲して口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面に横位の平行叩き。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	TP8424 5% PL271

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第658図3	刀子	(4.7)	(2.0)	(0.9)	0.2	(2.7)	(3.2)	鉄	刃部，茎部一部欠損	M8447

表13　8区掘立柱建物跡一覧表

掘立柱建物跡番号	位置	桁行方向	桁×梁(間)	規模(m)	面積(㎡)	桁行柱間(m)	梁行柱間(m)	柱穴(cm) 構造	柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ	出土遺物	備考 遺構番号 新旧関係(古→新)
37	L9d0	N-88°-E	3×2	6.94×4.88	33.87	2.20～2.50	2.40～2.80	側柱	10	円形・楕円形・隅丸長方形	96～150	82～130	46～76	土師器片，須恵器(蓋)	本跡→SD82
41	M10d2	N-10°-E	3×2	5.60×4.27	23.91	1.75～2.00	1.80～2.50	側柱	10	隅丸方形・隅丸長方形	80～134	67～118	48～94	土師器片，須恵器(坏)	SB119→本跡→SI936
42	M10a3	N-10°-E	4×2	8.08×4.10	33.13	2.10～2.30	1.80～2.20	側柱	12	隅丸長方形・楕円形	85～158	70～123	16～69	土師器片，須恵器片	SI1445AB→本跡→SI1447
44	M10a2	N-1°-W	3×2	5.76×3.66	21.08	1.96～2.10	1.80～2.00	総柱	12	隅丸長方形・隅丸方形	90～116	64～92	35～64	土師器片，須恵器片	本跡→SB45，本跡→SB44→SB42→SI937
45	M10b2	N-3°-E	3×2	5.50×3.62	19.91	1.80～1.90	1.80～2.00	側柱	10	隅丸長方形・隅丸方形・楕円形	84～138	74～100	30～55		SB44→本跡→SB43
46	L9i9	N-10°-E	3×2	6.22×4.26	26.50	1.80～2.10	1.70～2.30	側柱	10	隅丸長方形・楕円形	102～110	84～91	44～66	土師器片，須恵器片，刀子	SB47→本跡→SB123・126
47	L9i9	N-1°-E	3×2	5.76×4.21	24.25	1.90～2.00	1.80～2.40	側柱	10	隅丸長方形・楕円形	104～122	80～108	24～64	土師器(甕)，須恵器(盤)	本跡→SB46・123・126
70	O8e2	N-6°-E	3×2	6.70×4.60	30.82	2.05～2.35	2.25～2.40	側柱	10	隅丸長方形・隅丸方形	66～110	63～96	41～93	土師器(坏，皿)，須恵器(甕)	SI1224→SI1226→本跡→第20号方形竪穴状遺構
71	O8b2	N-1°-W	3×3	7.82×5.24	40.98	2.20～2.90	1.30～2.10	側柱	12	隅丸長方形・楕円形	116～156	81～120	32～111	土師器片，須恵器片，鉄製品，砥石	SI1224→SI1230→SI1225→本跡，SB105→本跡
72	O7j0	N-88°-E	3×2	5.60×4.43	24.80	1.70～2.30	2.10～2.40	側柱	10	円形・楕円形・隅丸方形	64～152	59～120	28～80	土師器(皿・甕)，須恵器(甕)	SI1222→本跡→SK861
73	N8j2	N-4°-E	3×2	5.75×3.40	19.56	1.80～2.00	1.10～1.60	側柱	10	円形・楕円形	78～100	68～75	51～69	土師器(皿・鉢)	SI1222・SB105→本跡
74	N8h2	N-88°-E	3×2	7.30×4.98	36.35	2.10～2.60	2.30～2.40	側柱	10	不整楕円形・隅丸長方形	100～140	91～110	15～85	土師器片，須恵器(坏)	SI1214・1216・1219・1220→本跡
75	N8g0	N-0°	3×2	8.18×5.39	44.09	2.30～3.26	2.40～2.85	側柱	10	円形・楕円形	46～138	36～120	31～114	土師器片，須恵器(高台付坏・甕)	SB89→本跡
76	O8b8	N-86°-W	2×2	4.90×4.57	22.39	1.70～3.00	2.20～2.30	側柱	8	円形・楕円形・隅丸方形	63～105	61～96	34～70	土師器片，須恵器片	
77	O9f1	N-2°-E	(1×1)	(3.00×2.70)	(8.10)	2.50～3.10	2.70	側柱	(4)	不整楕円形・隅丸方形	117～151	90～103	30～34	土師器片，須恵器片	本跡→SI1239
78	N8g6	N-85°-E	3×2	7.07×4.82	34.08	2.30～2.70	2.00～2.80	側柱	10	楕円形・隅丸長方形・不定形	95～195	82～163	44～95	土師器片，須恵器(坏・甕)	本跡→SB81
79	N8j8	N-88°-E	3×2	5.86×4.80	28.13	1.50～2.30	2.08～2.70	側柱	10	円形・不整楕円形	79～173	78～122	44～88	土師器(坏，皿)，須恵器片，刀子	SB107・108→本跡
80A	O9c4	N-5°-W	4×2	11.10×5.00	55.50	2.70～2.80	2.50	側柱	12	円形・楕円形・隅丸長方形	90～152	70～110	60～103	土師器(高台付坏)，須恵器(坏)	SD81→SB80B→本跡
80B	O9c4	N-1°-W	4×2	10.60×5.10	54.06	2.60～2.70	2.50～2.60	側柱	12	円形・楕円形・隅丸長方形	99～104	81～93	45～78	土師器片，須恵器(蓋)	SD81→本跡→SB80A
81	N8g6	N-88°-E	3×2	7.21×4.74	34.18	2.10～2.58	2.21～2.53	側柱	10	円形・隅丸方形・楕円形	110～147	84～116	24～74	土師器片，須恵器片(坏，高台付坏)	SB78→本跡
82	O8f3	N-1°-W	3×2	7.16×4.82	34.51	2.40～2.70	2.30～2.50	側柱	7	円形・隅丸方形	62～110	62～105	34～82		本跡→SI1236・SK872
83	O8g5	N-89°-W	(3×1)	6.99×(2.15)	(15.03)	2.10～2.60	2.05～2.15	側柱	6	隅丸長方形・楕円形	86～127	70～120	26～52		SI1228→本跡
84	O8f5	N-81°-W	3×3	7.20×5.60	40.32	2.20～2.50	1.70～1.95	側柱	12	円形・楕円形・隅丸長方形	80～120	66～86	24～72	土師器片，須恵器片(短頸壺・甕)	本跡→SI1228・1233・1237・1238，SB85
85	O8f7	N-83°-E	3×3	6.81×4.75	32.35	2.00～2.40	1.60	側柱	8	隅丸長方形・楕円形	98～138	90～115	32～71	土師器片，須恵器片(坏・盤・鉢)	SB84・86→本跡→SI1233
86	O8e8	N-1°-E	3×2	7.35×4.80	35.28	2.40	2.20～2.40	側柱	7	楕円形	71～174	64～162	47～70	土師器片，須恵器片，石器(砥石)	本跡→SI1233・SB85
87A	O8g3	N-2°-W	1×2	10.75×2.85	30.64	2.85	2.85	2面底	9	楕円形・隅丸長方形	86～127	64～110	22～82	土師器片，須恵器片(高台付坏・甕)	SB87B→本跡→SI1228・1236
87B	O8h2	N-87°-W	－	－	－	2.50～3.20	－	－	3	隅丸長方形・楕円形	94～124	74～116	40～58	土師器片，須恵器片(甕)	本跡→SB87A
88	O9a3	N-2°-W	3×2	5.89×4.20	24.74	1.70～2.10	2.00～2.20	側柱	10	隅丸方形・楕円形	71～98	66～72	30～85	土師器片，須恵器片(坏)	本跡→SI1242
89	N8i0	N-6°-W	3×2	7.80×5.73	44.69	2.60	2.60～2.90	総柱	12	円形・隅丸長方形	59～108	53～78	51～83	土師器片，須恵器片(甕)	SB107→本跡→SB75
100	N8h4	N-0°	2×2	4.08×4.04	16.48	1.90～2.20	1.80～2.20	総柱	9	円形・楕円形・隅丸方形	60～98	58～70	18～65	土師器片，須恵器片(蓋・甕)	SI1214→本跡→SB101
101	N8h4	N-0°	2×2	4.07×3.59	14.61	1.80～2.10	1.60～2.00	総柱	8	円形・楕円形・不整楕円形	69～85	50～70	18～60	土師器片，須恵器片(坏・鉢・甕)	SI1214・SB100→本跡

掘立柱建物跡番号	位置	桁行方向	桁×梁（間）	規模（m）	面積（㎡）	桁行柱間（m）	梁行柱間（m）	柱穴（cm） 構造	柱穴	平面形	長径（軸）	短径（軸）	深さ	出土遺物	備考 遺構番号 新旧関係（古→新）
102	O8a3	N－2°－W	4×3	9.37×5.66	53.03	2.20～2.50	1.70～2.00	側柱	14	楕円形・隅丸方形・隅丸長方形	90～136	84～103	30～95	土師器片，須恵器片	SI1235・1243，SB104～106→本跡→SI1221
103	O8a5	N－4°－E	3×2	6.21×4.34	26.95	1.90～2.50	2.00～2.30	側柱	10	円形・楕円形・隅丸方形	72～115	69～90	20～63	土師器片，須恵器（鉢）	SI1235→本跡→SI1221・SB104
104	N8i5	N－2°－W	2×2	4.88×4.66	22.74	2.30～2.60	2.40～2.60	総柱	9	隅丸方形・隅丸楕円形	54～104	53～96	12～26		SI1235・SB103→本跡→SI1221・SB102
105	O8a2	N－2°－E	3×2	7.68×4.69	36.02	2.30～3.00	2.10～2.30	側柱	8（2）	楕円形・隅丸方形・隅丸長方形	98～118	83～95	18～80	土師器片，須恵器片	本跡→SB71・73・102・106
106	N8j3	N－2°－E	2×2	4.80×4.75	22.80	2.30～2.40	2.20～2.50	総柱	9	楕円形・隅丸長方形	84～110	61～82	20～70	土師器片，須恵器片	SI1235・SB105→本跡→SB102
107	N8j9	N－5°－W	3×2	8.20×5.00	41.00	2.50～2.70	2.20～2.80	側柱	10	円形・楕円形・隅丸方形・隅丸長方形	86～148	80～110	30～85	土師器片，須恵器片	本跡→SB89・79
108	N8j8	N－1°－W	3×3	7.70×5.20	40.04	2.40～3.00	1.50～1.80	側柱	11（1）	円形・楕円形・不整楕円形	98～150	95～120	35～95	土師器片，須恵器（甕）	本跡→SI1232・SB79
109	O8c0	N－2°－W	3×2	7.15×5.24	37.47	2.30～2.50	2.50	側柱	10	円形・楕円形・隅丸長方形	85～115	72～85	15～43	土師器片，須恵器（高台付坏・甑）	本跡→SI1241
110	O9c1	N－2°－E	2×1	5.74×3.93	22.56	2.20～3.40	3.80～3.90	側柱	6	円形・隅丸長方形	85～90	70～75	20～45	土師器片，須恵器（高台付坏）	本跡→SI1241・SD81
118	L10i2	N－10°－E	3×2	6.20×4.48	27.78	1.90～2.30	1.80～2.40	側柱	10	楕円形・隅丸長方形	86～110	68～84	18～50	土師器片，須恵器（坏・蓋）	SI918・919→本跡→SB127
119	M10d4	N－77°－W	[3×2]	(5.50)×4.41	(24.26)	1.70～2.20	2.10～2.30	側柱	8	楕円形・隅丸長方形	78～144	62～146	16～96	土師器片，須恵器（盤）	本跡→SB41
120	M8h6	N－33°－W	2×2	4.80×4.74	22.75	2.30～2.50		総柱	9	円形・楕円形	40～58	36～50	14～40	土師器（坏）	本跡→SI1417・1421
121	L9e9	N－86°－W	2×2	6.85×3.80	26.03	1.80～2.00	1.70～2.10	2面庇	14	楕円形・隅丸長方形	81～107	64～87	27～70	土師器片，須恵器（坏，甕）	本跡→SB124
123	L9h9	N－3°－W	3×2	6.99×5.31	37.12	2.10～2.60	2.30～2.60	側柱	10	楕円形・隅丸長方形	90～124	68～112	28～50	土師器片，須恵器（坏・蓋）	SB46・47・125・126→本跡
124	L9f9	N－10°－E	3×2	5.17×3.81	19.70	1.50～2.10	1.80～2.00	側柱	10	楕円形・隅丸長方形	78～108	76～98	34～66	土師器片，須恵器（坏，蓋）	SB121→本跡
125	L9h8	N－1°－W	2×2	5.15×4.85	24.98	2.20～3.10		総柱	8	楕円形・隅丸長方形	88～145	78～88	26～51	土師器片，須恵器（蓋・高坏・鉢）	本跡→SB123・126
126	L9h9	N－0°	3×2	6.87×4.90	33.66	2.00～2.70	2.20～2.50	側柱	10	楕円形・隅丸長方形	90～124	70～82	30～58	土師器片，須恵器片	SB46・47・125→本跡→SB123
127	L10i2	N－3°－E	3×2	5.84×4.08	23.83	1.70～2.40	1.70～2.30	側柱	10	楕円形・隅丸長方形	78～116	58～98	28～54	土師器片，須恵器（坏・甕），刀子	SI918・919・1416A・B・SB118→本跡→SI1417

(3) 溝

調査８区では７条の溝を検出した。特徴的な遺構について記載し，それ以外の遺構の特徴や遺物については，一覧表で掲載する。溝の平面図は８区遺構全体図（付図２・３）に示す。

第16号溝（第659～666図，付図２・３）

位置　調査８区の南東部，M10j4～N9a7区，N9f6～O9h6区。平成８年度の調査区と平成10・11年度の調査区にまたがって位置している。そのため，中央部（N9b6～N9e6区）を平成８年度，南部を（N9f6～O9h6区）を平成10年度，北部から東部（M10j4～N9a7区）を平成11年度に調査した。

重複関係　東部（M10j3区）で第1422号住居跡を掘り込んでいる。東部（M10j3区）を第９号道路状遺構に，南部（O9b5区）を第81号溝に掘り込まれている。北部（N9a7区）で，第35Ｂ号溝とつながっている。覆土が連続した堆積状況であることから第35Ｂ号溝と第16号溝は同時期に廃絶したもの考えられる。

規模と形状　上幅75～210cm，下幅42～105cmで，確認面からの深さは50～82cmである。底部は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。確認できる長さは平成８年度調査を含めて98mで，東端と南端で調査区域外に延びている。方向や形状から，平成９年度の調査７区に位置する第20号溝とつながるものと考えられる。

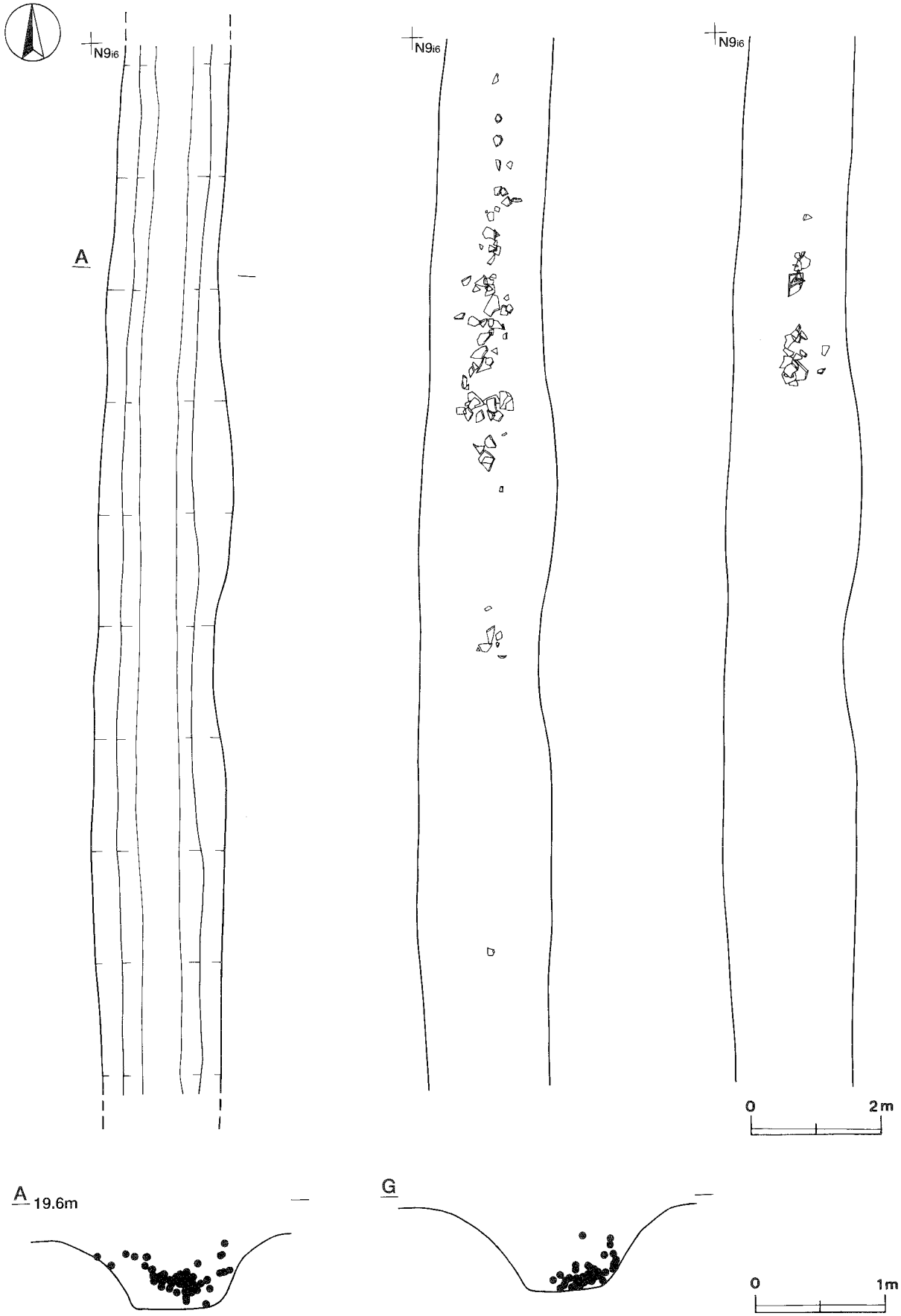
方向　O9h6区から北方向（Ｎ－０°）に直線的に延び，N9a7区で東方向（Ｎ－86°－Ｅ）にほぼ直角に屈曲し，直線的に延びてM10j4区に至る。

覆土　８層からなり，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
8　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量

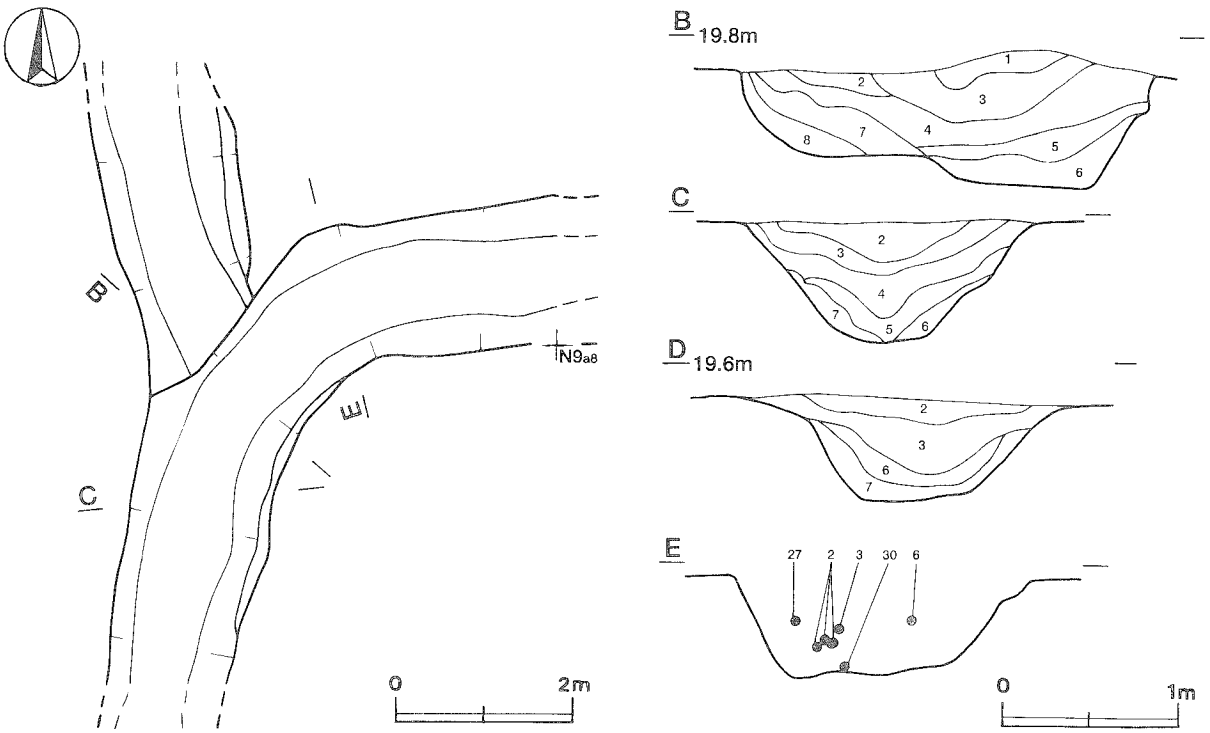
遺物　土師器片1174点，須恵器片679点，不明鉄製品１点，銅製品１点（巡方）が出土している。第662～666



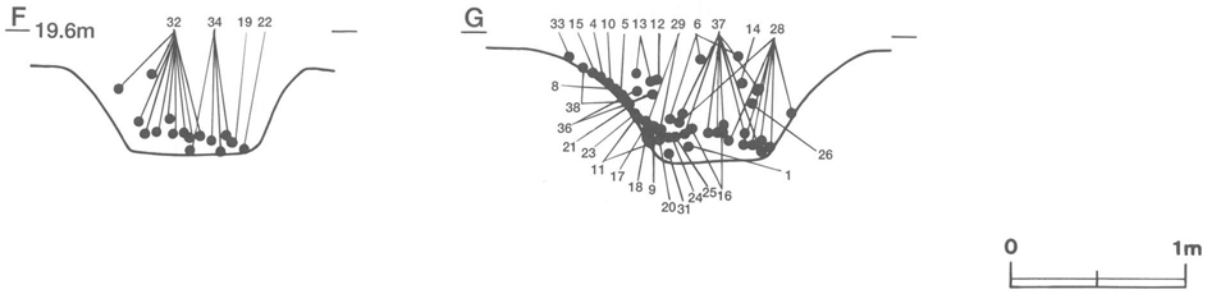
第659図　第16号溝・須恵器大甕（39）出土状況図

図2・3・7・27・30・35は，北部M9j8～M10j1区から出土している。2・3の土師器坏，35の土師器甕は覆土下層から，30の須恵器長頸壺は覆土下層から正位でそれぞれ出土している。7の須恵器坏，27の須恵器蓋は覆土中層から出土している。1・14・16・18～20・22～26・28・31・37は南部のN9i6～O9c6区から出土している。ここからは遺物が集中して出土している。1の土師器坏は斜位で，14の須恵器坏，16の土師器皿は覆土下層からそれぞれ逆位で出土している。18～20・22～26は須恵器蓋である。26以外はいずれも覆土下層から逆位で出土している。26は覆土中層から出土した破片である。28の須恵器鉢，31の須恵器小形短頸壺，37の須恵器甕は，覆土下層から出土した破片が接合したものである。32の須恵器壺は，南部の北半のN9h6区の覆土下層から出土した破片が接合したものである。4・5・6・8～13・15・17・21・33・36・38は，南部の南半のO9d6～O9g6区から出土している。4の土師器坏は，覆土下層から出土している。5・6・8～13・15は須恵器坏である。5・8～10は覆土下層から正位で出土している。11は覆土下層から出土した2片が接合したものである。6は覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。12・13・15は覆土中層から出土している。17・21の須恵器蓋は覆土下層から正位で出土している。33の提瓶・36・38の須恵器甕は覆土中層から出土している。39の須恵器大甕は，南部の溝全体から出土した83点が接合したものである。破片の大部分はN9i6～N9j6区の覆土下層に集中していることから，破砕して投棄した可能性が考えられる。O9c6区の覆土中から出土している29の須恵器子持ち器台，N9j6区の覆土中から出土している34の須恵器提瓶は混入したものと考えられる。40の不明鉄製品は南部（O9e6区）の覆土下層から，41の巡方は北部（M10j1区）の覆土上層から出土している。

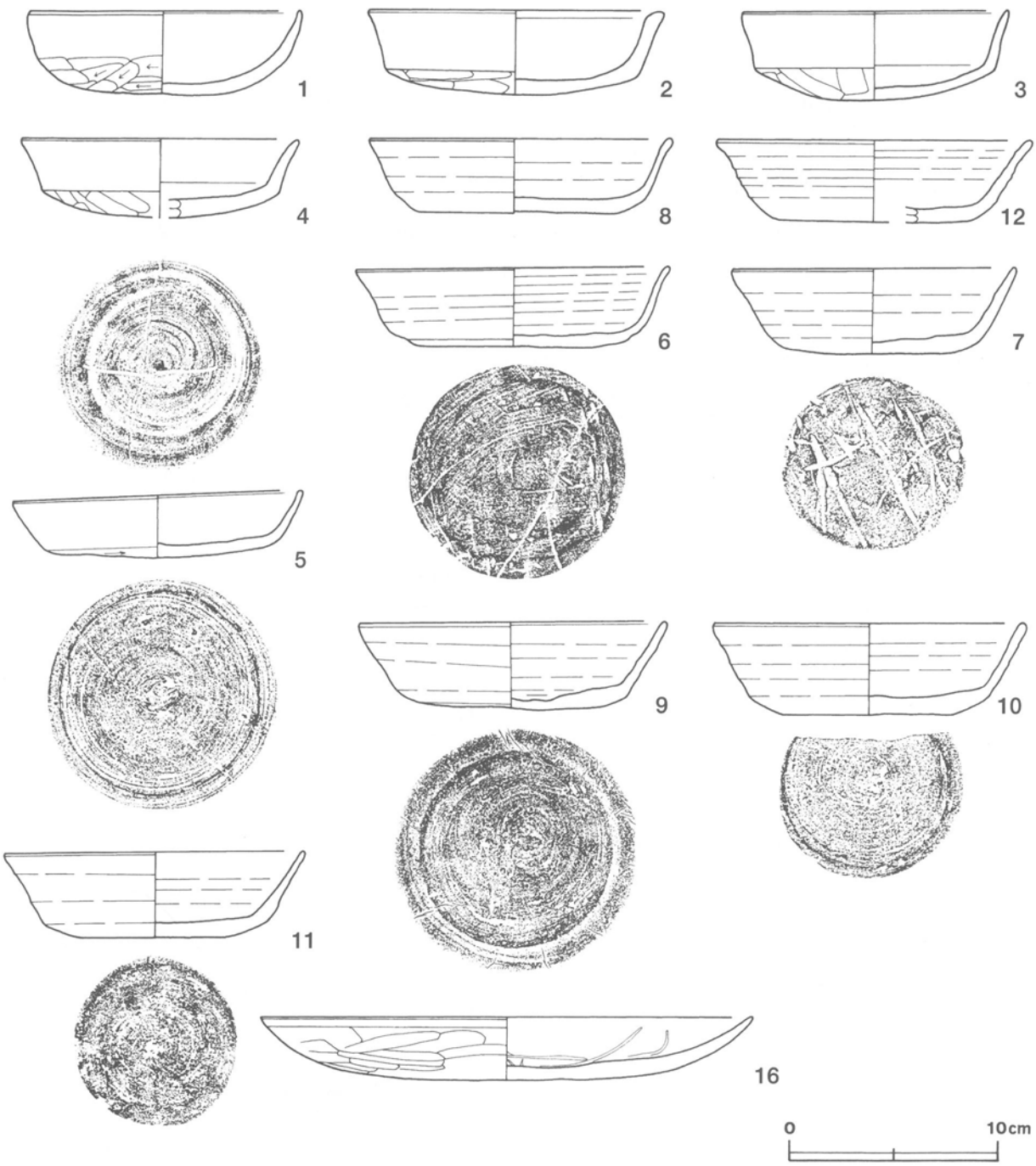
所見　本跡の中央部は平成8年度に調査が終了しており，その部分については，『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集を参照されたい。第35B号溝は，本跡の北コーナー部に連結しており，底部が一段高くなっている。このことから本跡が掘削された後，第35B号溝が掘削されたと考えられる。また，覆土は，本跡と連続した堆積状況であることから，一時的ではあるが同時期に存在し，廃絶も同時期と考えられる。本跡の時期は，出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



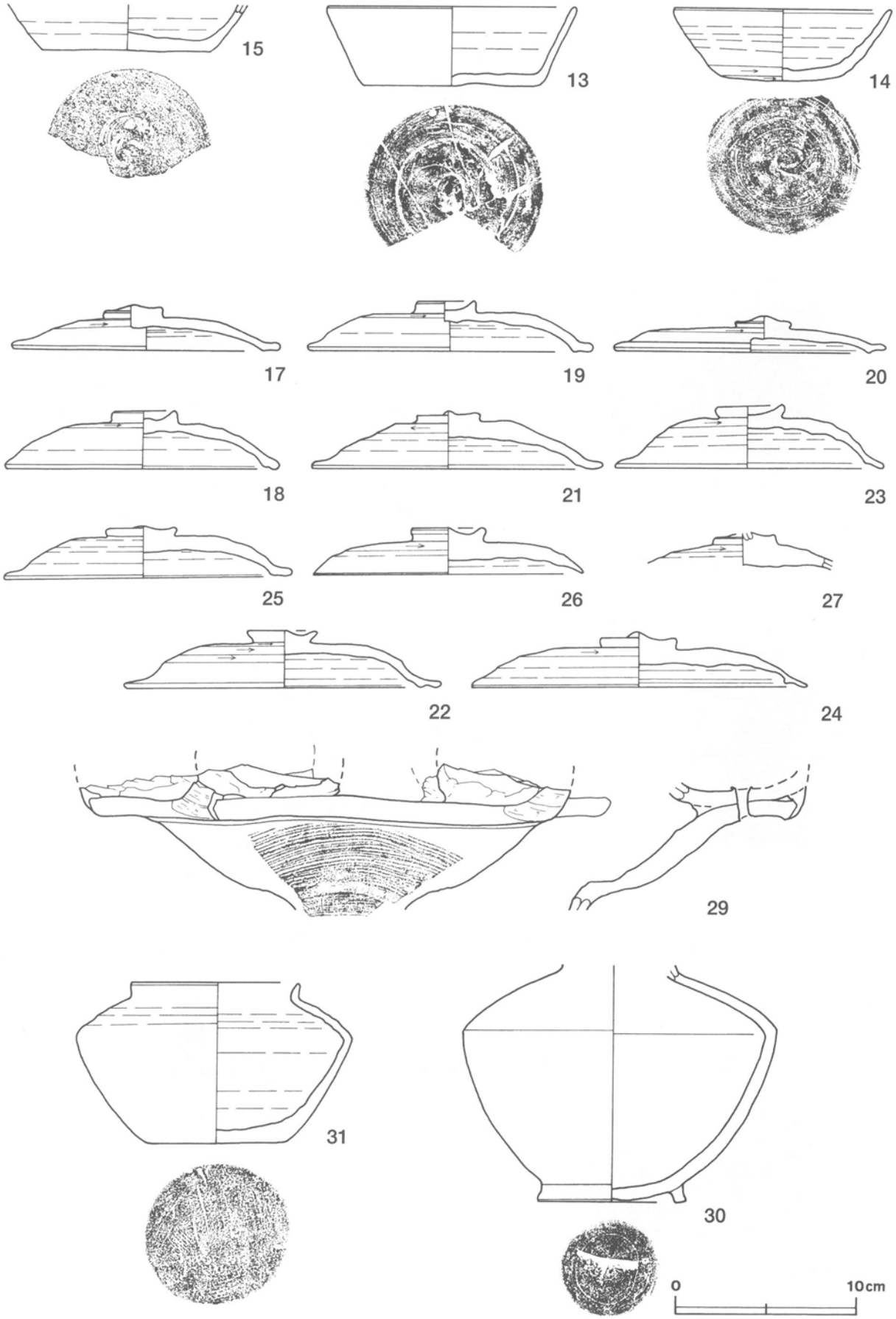
第660図　第16号溝実測図（1）



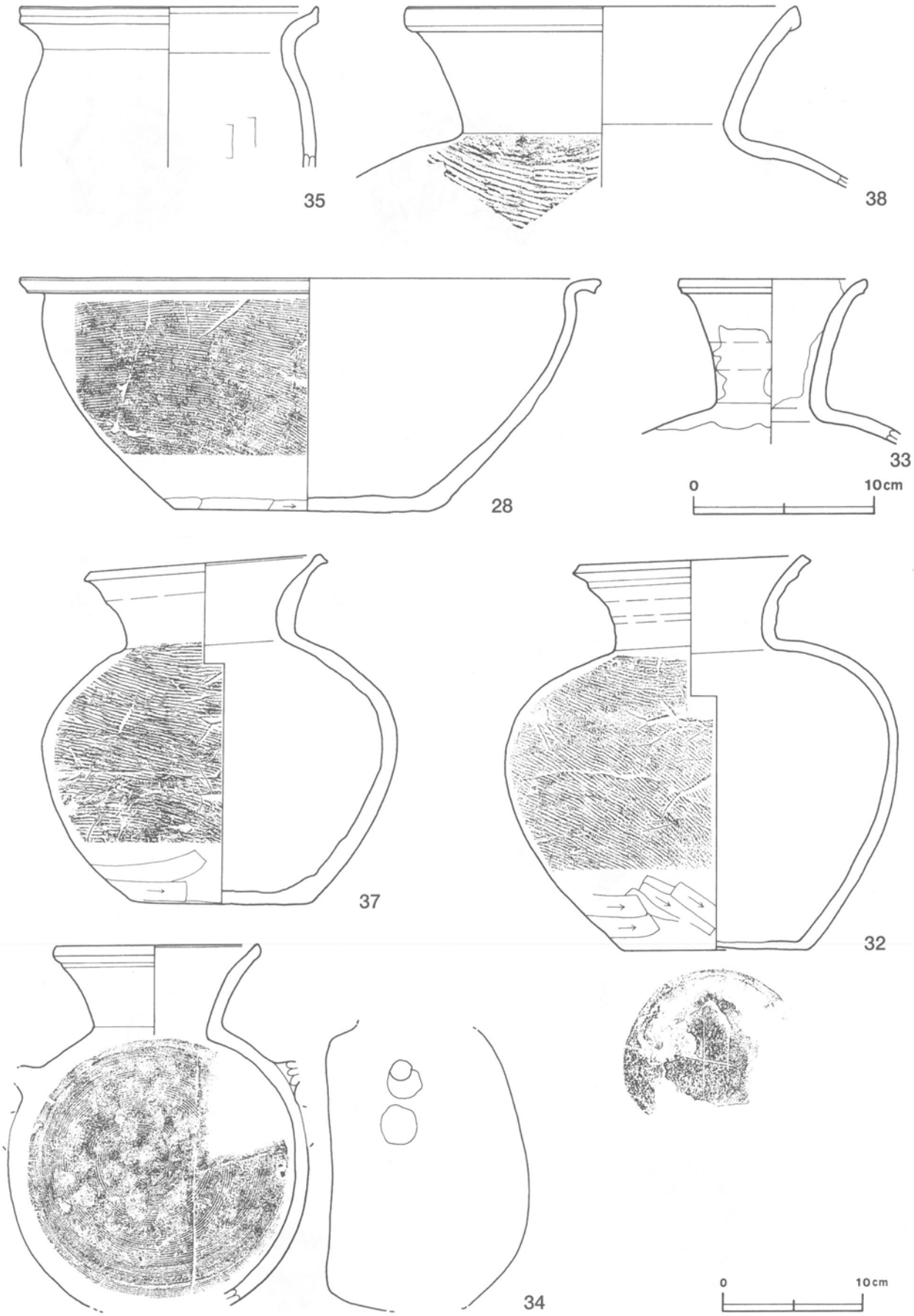
第661図　第16号溝実測図（2）



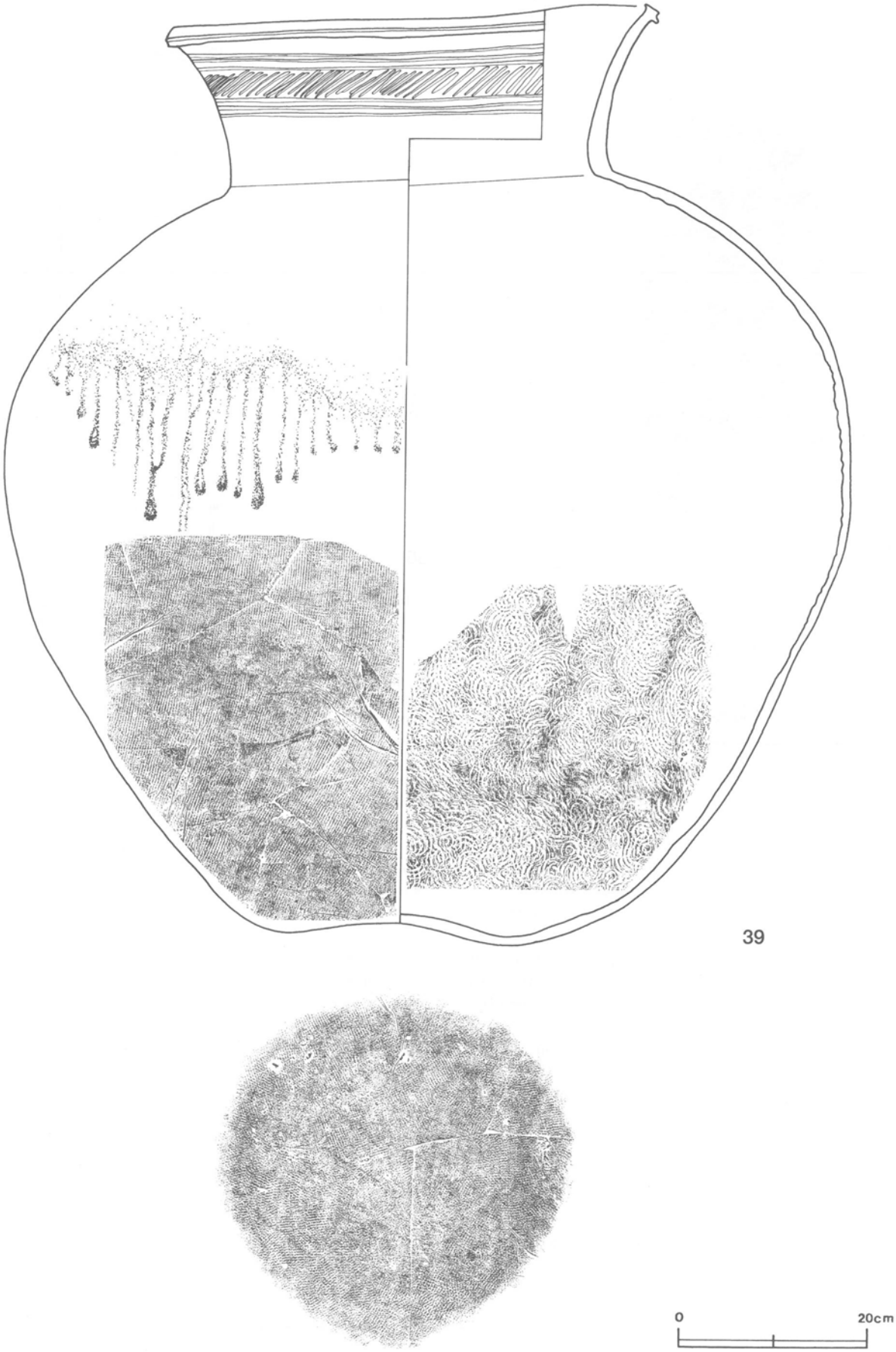
第662図　第16号溝出土遺物実測図（1）



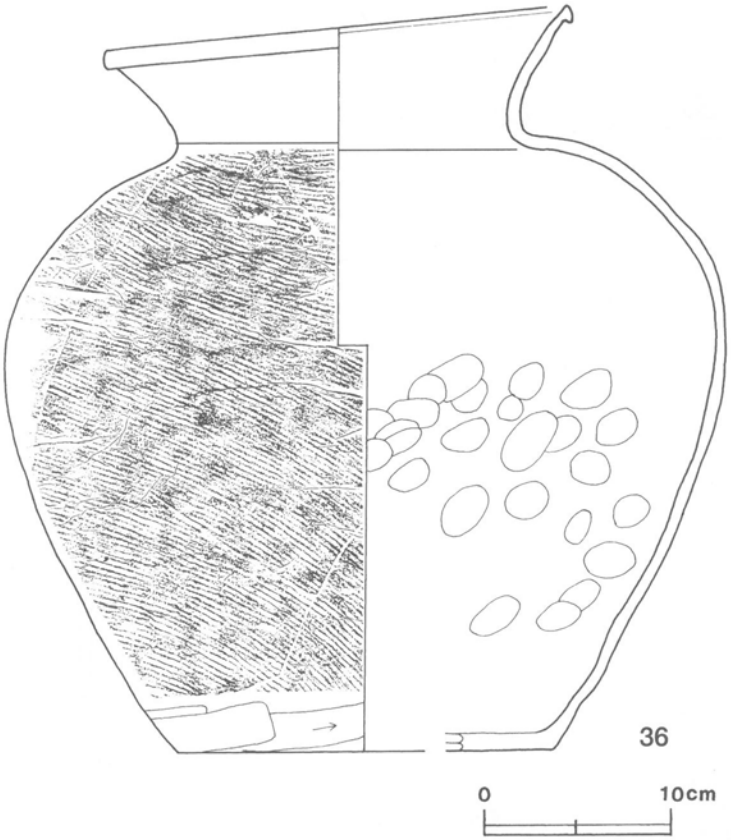
第663図　第16号溝出土遺物実測図（2）

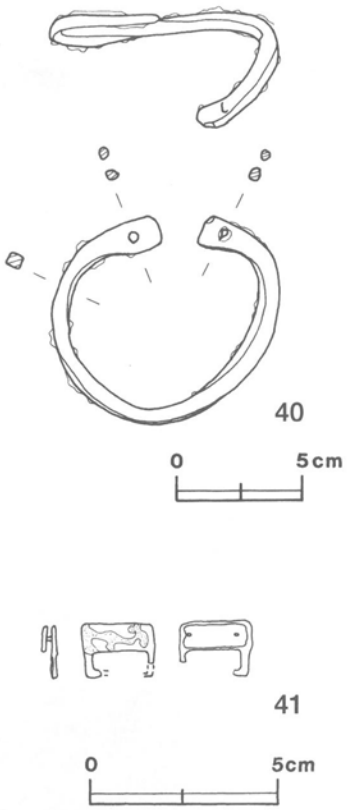


第664図　第16号溝出土遺物実測図（3）



第665図　第16号溝出土遺物実測図（4）





第666図　第16号溝出土遺物実測図（5）

第16号溝出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第662図 1	坏 土師器	A 12.6 B 3.9	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	P80001 90% PL270
2	坏 土師器	A 13.6 B 3.9	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外上方に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P80002 80% PL270
3	坏 土師器	A 12.4 B 4.2	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P80003 80% PL270
4	坏 土師器	A 13.0 B 3.7	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P80004 80% PL270
5	坏 須恵器	A 13.5 B 3.1 C 9.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P80007　90% PL270 底部内面篦記号「－」火襷
6	坏 須恵器	A 14.6 B 3.8 C 10.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色，普通	P80008 70% PL270
7	坏 須恵器	A 13.2 B 4.1 C 8.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P80009 90% PL272

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第662図 8	坏 須恵器	A 14.0 B 3.5 C 9.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P80010 70% PL272
9	坏 須恵器	A 14.3 B 4.2 C 8.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P80011 70% PL272
10	坏 須恵器	A [14.6] B 4.3 C 8.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P80012 50% PL272
11	坏 須恵器	A 14.0 B 4.1 C 7.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色，普通	P80013 50% PL272
12	坏 須恵器	A [14.6] B 3.8 C [3.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P80014 30%
第663図 13	坏 須恵器	A [13.2] B 4.3 C 9.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P80015 30%
14	坏 須恵器	A [11.2] B 4.9 C 6.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P80016 30%
15	坏 須恵器	B (2.5) C 9.0	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色，普通	P80017 30%
第662図 16	皿 土師器	A [22.9] B 3.0	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に大きく開き，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ後，放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	P80005 40% PL270
第663図 17	蓋 須恵器	A 14.5 B 2.5 F 3.0 G 0.7	完形。天井部は伏せ皿形。扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には，ごく小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P80018 100% PL272
18	蓋 須恵器	A 14.9 B 3.2 F 3.3 G 0.7	完形。天井部は伏せ皿形。中央部をくぼませた扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には，小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P80019 100% PL272
19	蓋 須恵器	A 15.4 B 2.7 F 3.1 G 0.6	完形。天井部は伏せ皿形。中央部をくぼませた扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には，小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P80020 100% PL272
20	蓋 須恵器	A 14.6 B 2.0 F 3.0 G 0.7	完形。天井部は伏せ皿形。中央部を隆起させた扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には，小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P80021 100% PL272
21	蓋 須恵器	A 15.6 B 3.2 F 3.4 G 0.6	完形。天井部は伏せ皿形。中央部を隆起させた扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には，ごく小さなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P80022 100% PL272
22	蓋 須恵器	A [16.6] B 3.1 F 3.5 G 0.7	天井部から口縁部の破片。天井部は伏せ皿形。扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には，かえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P80023 60% PL272
23	蓋 須恵器	A 14.4 B 3.4 F 3.3 G 0.6	天井部から口縁部の破片。天井部は伏せ皿形。中央部をくぼませた扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には，かえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P80024 60% PL272
24	蓋 須恵器	A 18.0 B 2.9 F 4.0 G 0.9	天井部から口縁部の破片。天井部は伏せ皿形。中央部を隆起させた扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には，かえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P80025 50% PL272

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第663図 25	蓋 須恵器	A 15.6 B 2.8 F 3.6 G 0.6	天井部から口縁部の破片。天井部は伏せ皿形。扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には，かえりが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色 普通	P80026 50% PL272
26	蓋 須恵器	A [15.5] B 2.5 F 3.7 G 0.7	口縁部欠損。天井部は伏せ皿形。扁平な擬宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。外周部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色 普通	P80027 60% PL272
27	蓋 須恵器	B (2.0) F 3.2	天井部片。天井部は伏せ皿形。扁平なボタン状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け。外周部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色，普通	P80028 50%
第664図 28	鉢 須恵器	A 41.5 B 16.8 C 18.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部で屈曲する。口縁端部を面取りして角張らせ，中央に1条の沈線を巡らしている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。下端横位のヘラ削り。内面ナデ。底部剥離により調整不明。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P80029 70%
第663図 29	子持器台 須恵器	A [29.2] B (6.6)	坏部片。体部は外反して立ち上がり，口縁部に水平な面を造り，その上面に貼付した坏の残存部2か所有り。坏貼付5か所カ。	口縁端部坏貼り付け後，ナデ。体部外面カキ目調整。内面ナデ。坏貼付箇所の中央部に，貫通する径8㎜の円孔がそれぞれ1か所穿たれている。	砂粒・長石 灰白色 普通	P80030 30% PL272
30	長頸壺 須恵器	B (12.8) D 8.0 E 1.0	口縁部から体部の破片。やや丸みを帯びた底部に，ハの字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，肩部で「く」の状に屈曲し内傾する。	体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。高台部自然釉。	砂粒 灰色 良好	P80031 60% PL272
31	小形短頸壺 須恵器	A 9.0 B 8.7 C 7.4	口縁部・体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，肩部で「く」の字状に屈曲し，口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P80033 80% PL271
第664図 32	壺 須恵器	A 15.8 B 28.0 C 13.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は球形を呈する。頸部は強く屈曲して直立し，口縁部は外反する。端部は面取りして角張らせている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き，下位横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 良好	P80036 80% PL270 底部外面箆記号「+」
33	提瓶 須恵器	A [10.0] B (8.9)	体部から口縁部の破片。頸部は比較的細く，口縁部はなだらかに外反して口縁部に至る	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ナデ。口縁部内・外面及び体部外面自然釉。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P80032 10% PL273
34	提瓶 須恵器	A [14.5] B (28.5)	体部から口縁部の破片。頸部は比較的太く，口縁部はなだらかに外反して端部に至る。体部は平らな偏球形を呈する。肩部に把手の剥離痕有り。	口縁部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。体部外面カキ目調整，内面ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P80034 60% PL273
35	甕 土師器	A [16.0] B (8.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲し口縁部に至る。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P80006 20%
第666図 36	甕 須恵器	A [24.2] B 38.6 C 19.8	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し，頸部で屈曲し口縁部に至る。端部は下方に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き，下位横位のヘラ削り，内面無文の当て具痕。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P80035 80% PL272
第664図 37	甕 須恵器	A 16.3 B 24.9 C 12.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し，頸部で屈曲し口縁部に至る。端部は面取りして角張らせている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き，下位横位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P80037 80% PL270
38	甕 須恵器	A [20.8] B (9.7)	体部上位から口縁部の破片。体部は大きく内傾・内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P80038 5% PL271
第665図 39	大甕 須恵器	A 49.7 B 90.0 C 23.9	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は縦長の球形を呈し，頸部で屈曲し口縁部に至る。口縁部は外反し，端部は面取りして角張らせている。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部外面に平行した3本1組の櫛状工具による平行線と斜めのヘラ描き沈線文施文。体部外面横位の平行叩き後，縦位の平行叩き。内面同心円状の当て具痕。外面自然釉。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 良好	P80039 80% 湖西産カ PL274

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第666図40	不明	8.2	9.3	0.6	57.3	鉄	環状。開口部に径4㎜の貫通する円孔がそれぞれ1か所穿たれている。	M8224 PL282

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第666図41	巡方	1.9	(1.4)	0.5	(1.9)	銅	方形。長軸1.4cm，短軸0.5cmの垂孔有。	M8225　PL283

第35B号溝（第667～673図，付図2・3）

位置　調査8区の中央部。L9b7～M9j6区。平成9年度と平成11年度の調査にまたがって位置しており，そのため，調査も北部の一部を平成9年度，それ以外を平成11年度と両年度にわたった。平成9年度調査分を掲載している『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集では，当遺跡北部の調査4・11区で確認された第35号溝に連結するものとして報告されているが，今回の調査で別の溝と判明したため，調査4・11区のものを第35A号溝と改め，本跡を第35B号溝とした。

重複関係　北部で第1419号住居跡を掘り込み，北部が第82号溝に掘り込まれている。南端が第16号溝のコーナーに連結しており，両溝の堆積状況は，土層断面から同時期に堆積したと考えられる。

規模と形状　規模は長さ74.88m，上幅71～254cm，下幅30～97cmで，確認面からの深さは47～102cmであり，形状は底面がほぼ平坦で，壁面が外傾して立ち上がる箱薬研状をしている。

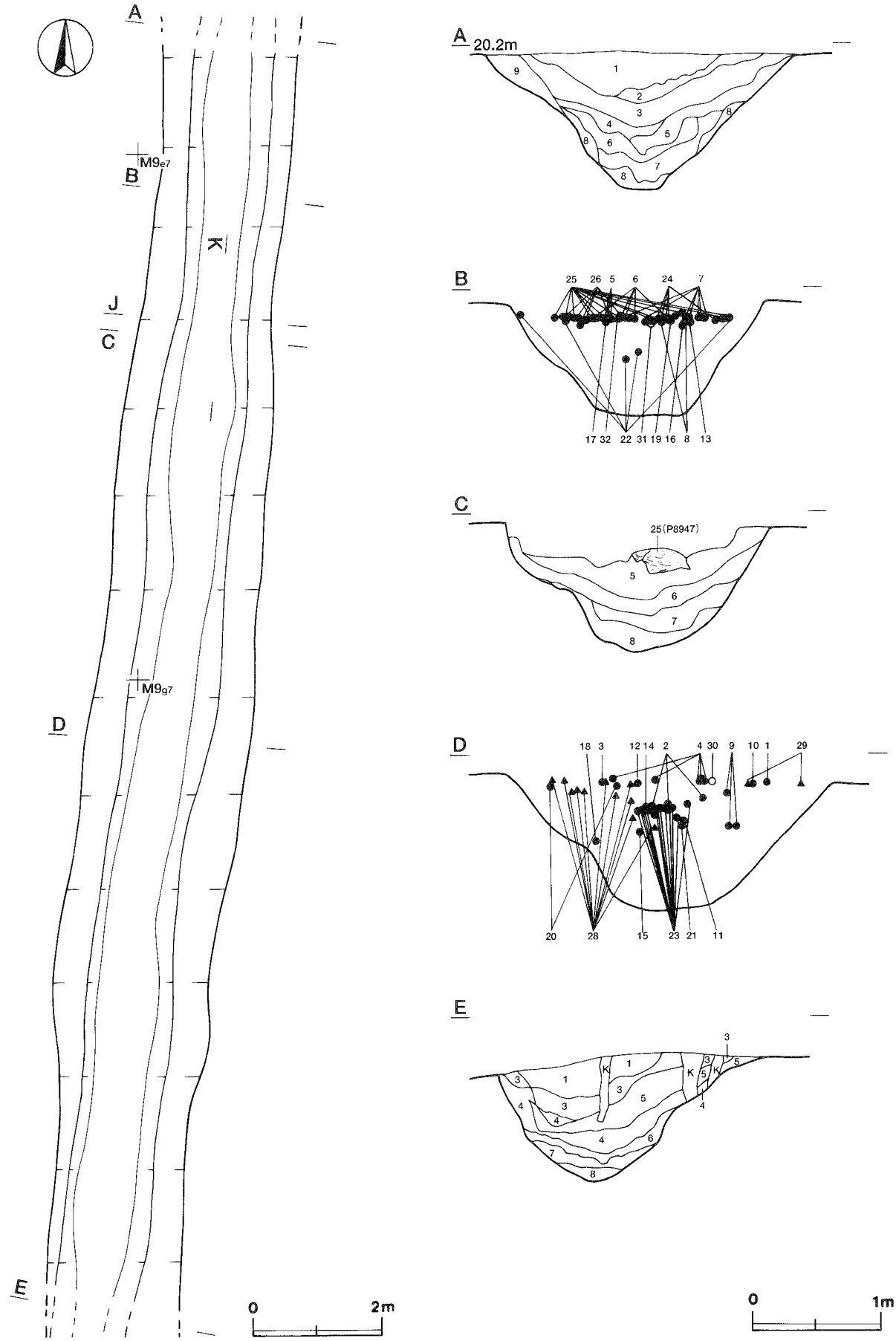
方向　M9j6区から北方向（N－0°）に，直線的に延びている。

覆土　9層に分層できた。ほぼレンズ状に堆積していることから，埋没する段階での自然堆積と考えられる。土層断面図中，第4・5層は全体的にややしまりがあり，その上部の幅2～3cmの部分がやや硬くしまっている。M9d7区の第1～3層中に，長径175cm，短径85cm，厚さ45cmの焼土塊が検出され，その焼土が第3層上面を南部のM9i7区付近まで流れていた。第10～14層が焼土塊の土層である。

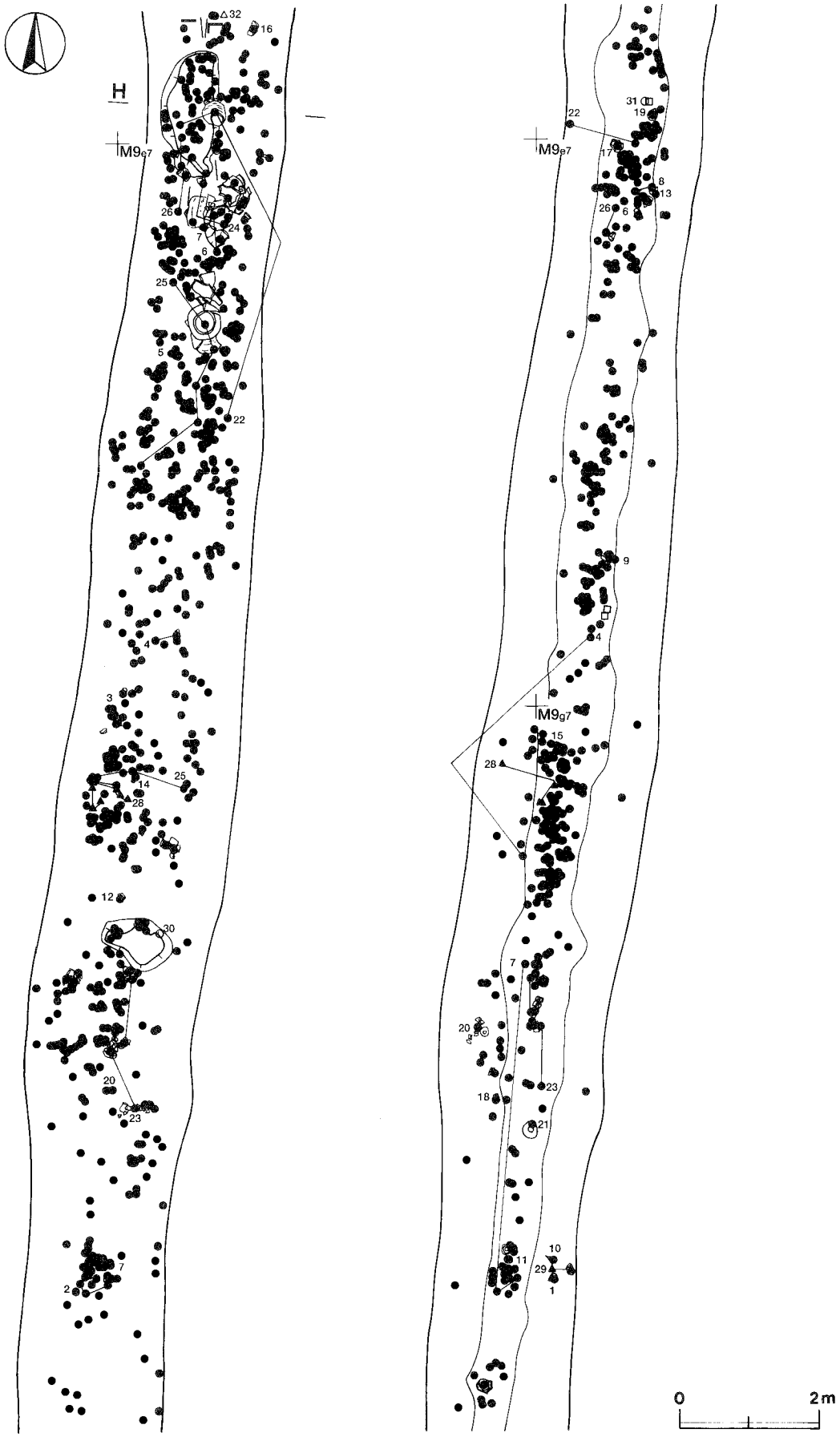
土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
4　黒色　ローム粒子少量。しまりやや強い。
5　黒褐色　ローム粒子・炭化物少量。しまりやや強い。
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
9　黒色　ローム粒子・焼土粒子微量
10　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック・粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量。ややしまりあり。
11　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量
12　暗赤灰色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物・粘土粒子少量
13　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
14　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

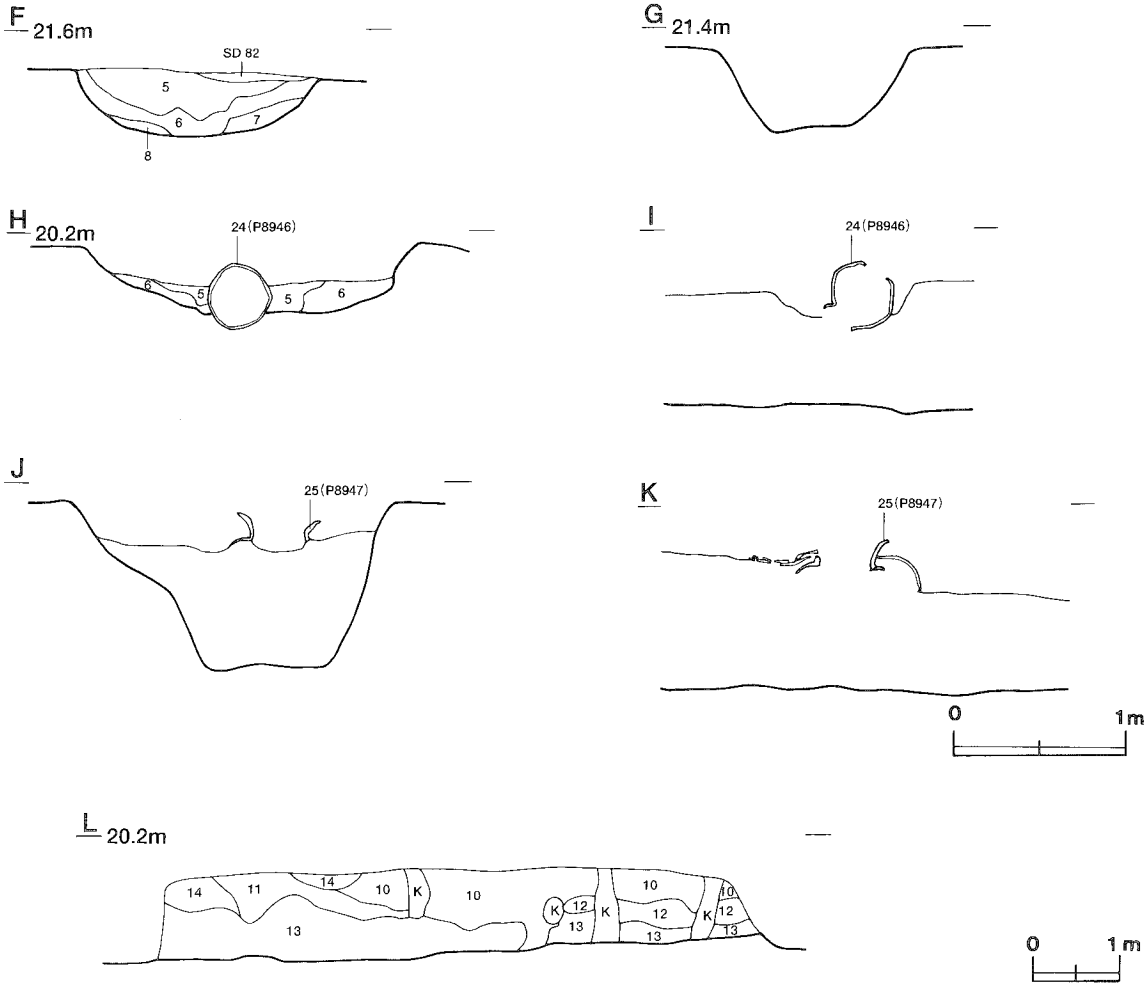
遺物　土師器片4,417点（坏273，高台付坏7，甕・甑類4,132，ミニチュア土器5），須恵器片1,200点（坏878，高台付坏17，蓋31，盤6，高盤4，甕・甑類261，鉢2，短頸壺1），土製品2点（球状土錘），鉄器2点（刀子1，手鎌1），鉄滓2点が出土している。出土遺物は，M9d7～M9i7区で出土し，大半はM9d7～M9e7区に集中している。また，覆土の土層断面図中，第1～3層から出土している。第670～673図3・4・5の須恵器坏，10の土師器高台付坏，12・13の須恵器盤，16・17の須恵器高盤，19の須恵器蓋，22の須恵器甕，30の球状土錘，32の刀子は，第1層から出土しており，10には体部外面と底部外面の2か所に「丕」と墨書されている。6・7の須恵器坏，14の須恵器盤，20の土師器鉢，26の土師器甑は第2層から，1の土師器坏，2・8の須恵器坏，11の高台付坏，21の須恵器短頸壺，23の須恵器甕，28の須恵器鉢の体部片，29の須恵器甕の体部片は，第3層から，それぞれ出土している。24・25の須恵器甕は，遺構の確認面から第1・2層にかけて出土してお



第667図　第35Ｂ号溝実測図（1）



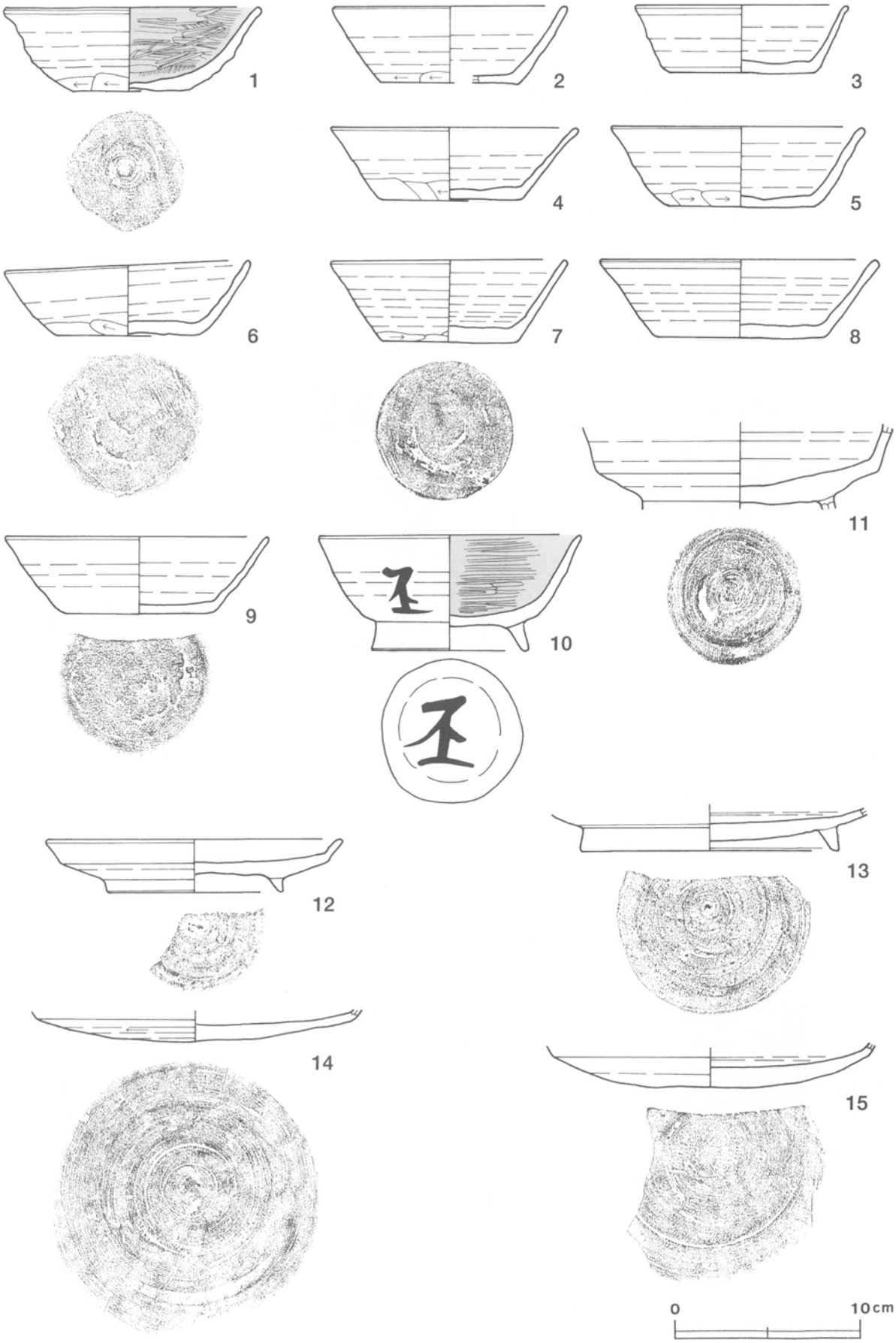
第668図　第35Ｂ号溝遺物出土状況図



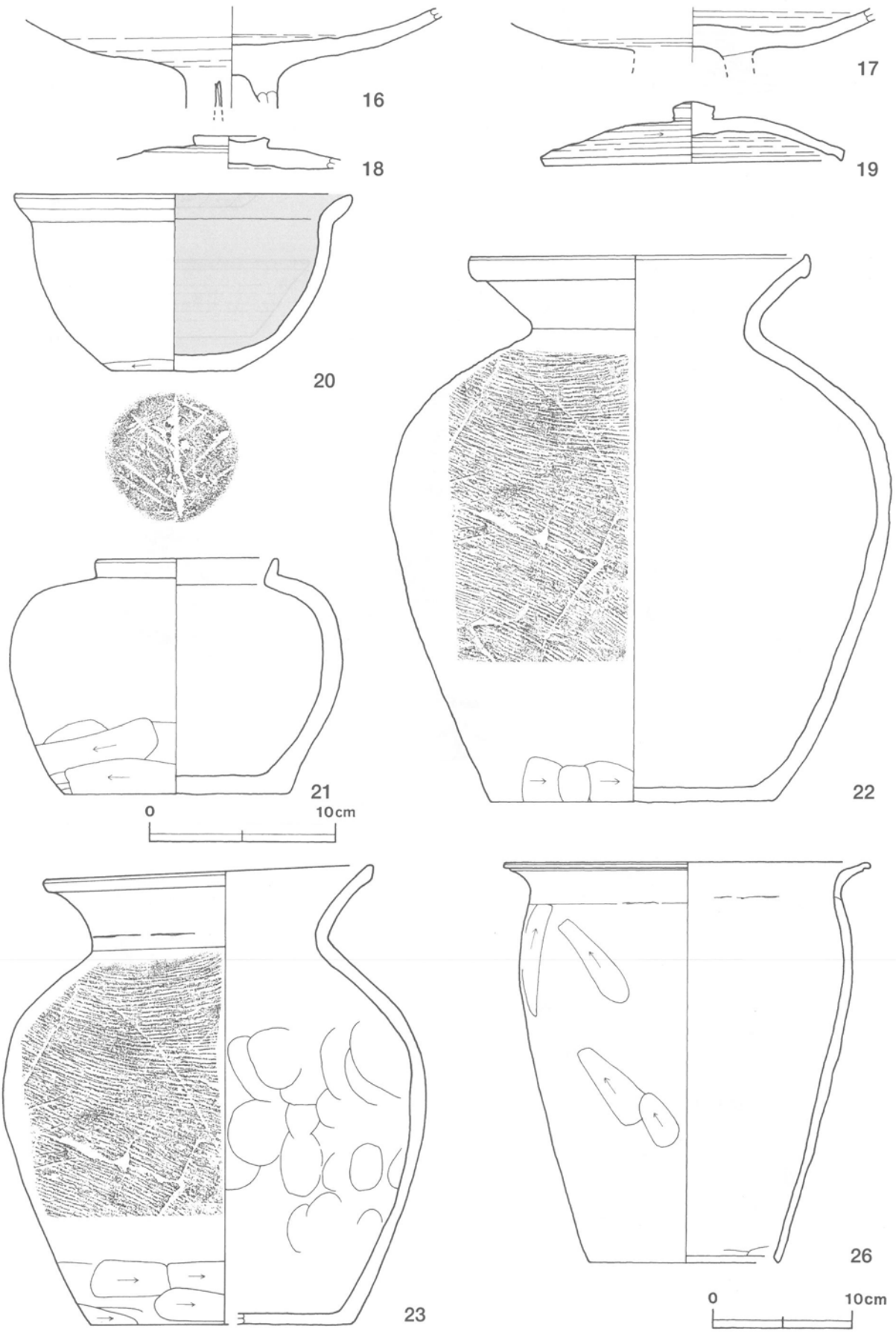
第669図　第35Ｂ号溝実測図（２）

り，25は上半部が正位で出土している。24の頸部の一部と25の下半部は，第30号井戸跡から出土した破片と接合した。９の須恵器坏，15の須恵器盤，31の土錘は，第４層から出土している。18の須恵器蓋は第８層から，第33の手鎌は第６層から，それぞれ出土している。１と10は，他の土器群とは異なり，新しい時期のものと考えられる。

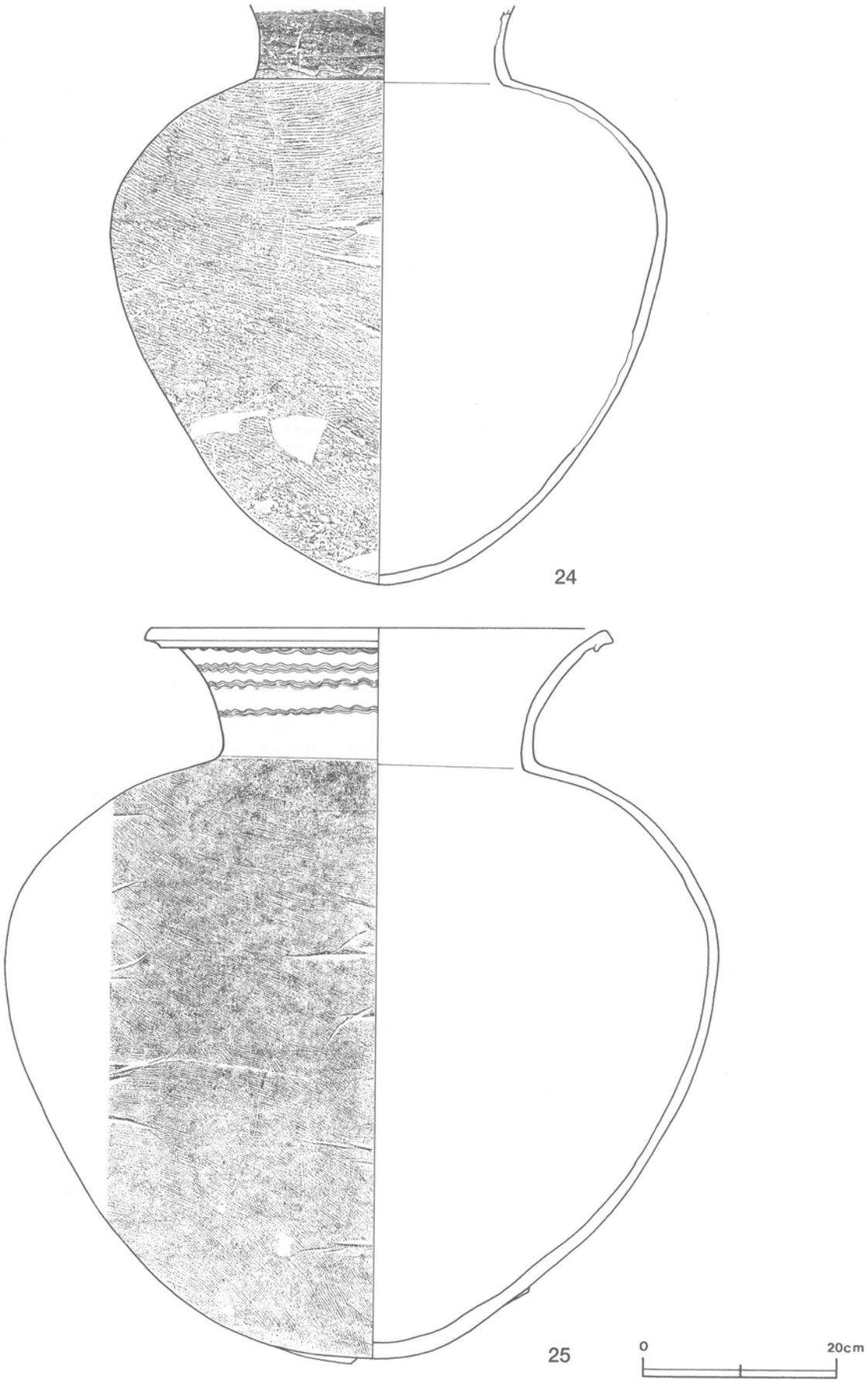
所見　本跡の性格は，南端が第16号溝のコーナーに連結しており，堆積状況から廃絶がほぼ同時期と考えられることから，同時期に機能していたことがいえる。本跡は南北に直線的に延びるものであるが，連結部では東方向に折れて連結しており，第16号溝より掘り込みが浅い。これらのことから，第16号溝の掘削時期より後に掘り込まれたものと考えられる。また，北端は第35Ａ号溝には連結していないものの，本跡と第35Ａ号溝とは形状及び長軸方向が同じであり，出土土器からほぼ同時期に機能していたものと考えられる。さらに本跡の東側には，本跡に長軸方向と桁行方向をほぼ同じにするＬ字状の掘立柱建物跡群が検出されていることから，掘立柱建物跡群と密接な関係があり，区画を目的として設けられた溝と考えられる。堆積状況からみて，中層に硬化した面が検出されたことから，廃絶後，埋没する段階で通路に使用された可能性がある。その後は，遺物の出土状況から，大量の土器類を投棄した場所と考えられる。時期は，７世紀前半の第1419号住居跡を掘り込んでいることと，８世紀中葉の土器が出土していることから，８世紀中葉以前には機能していたと考えられる。



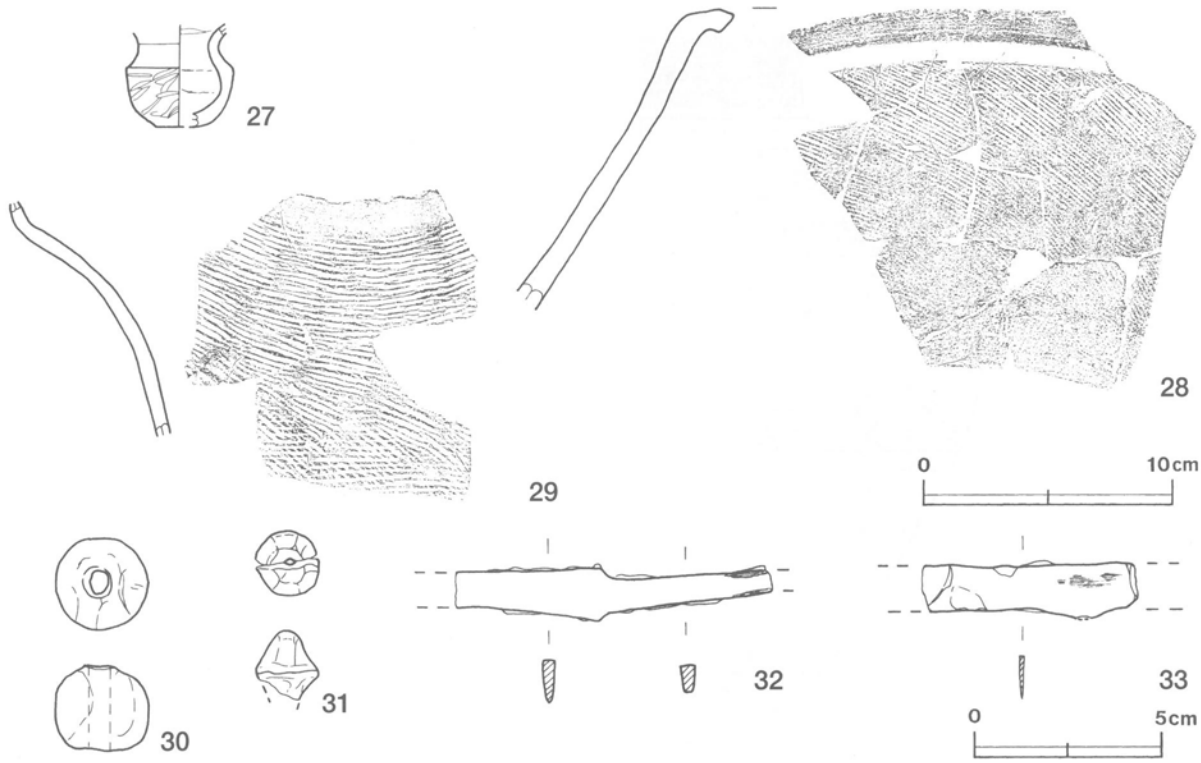
第670図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図（１）



第671図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図（２）



第672図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図（３）



第673図　第35Ｂ号溝出土遺物実測図（４）

第35Ｂ号溝出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第670図 1	坏 土師器	A［13.7］ B　4.4 C　6.0	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目強い。体部外面下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部１方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	Ｐ8891 70%
2	坏 須恵器	A［12.6］ B　4.0 C［7.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	Ｐ8925 45% ＰＬ275
3	坏 須恵器	A［11.4］ B　3.5 C　7.6	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	Ｐ8926　70% ＰＬ275 内・外面火襷あり
4	坏 須恵器	A　13.1 B　3.9 C　7.6	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	Ｐ8927　80% ＰＬ273 内・外面に煤付着
5	坏 須恵器	A　13.4 B　4.2 C　7.6	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色，普通	Ｐ8928 85% ＰＬ273
6	坏 須恵器	A　13.1 B　3.9 C　7.6	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り痕を残す，２方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	Ｐ8929 50% ＰＬ275
7	坏 須恵器	A　12.5 B　4.4 C　7.2	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	Ｐ8930 90% ＰＬ273
8	坏 須恵器	A　14.8 B　4.1 C　8.9	底部，体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	Ｐ8931 90% ＰＬ273
9	坏 須恵器	A［14.1］ B　4.1 C　7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り後，不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	Ｐ8932 60% ＰＬ273

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第670図 10	高台付坏 土師器	A [14.0] B 6.1 D 8.4 E 1.5	高台部から口縁部にかけての破片。体部は底部から外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台は底部外周にあり，「ハ」の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄橙色 普通	P8924 40% PL273 体部に「丕」，底部に「不」墨書
11	高台付坏 須恵器	B (4.6) E (0.8)	高台部，体部一部欠損。体部は底部から外傾して立ち上がる。高台は内側にある。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8933 50% PL273
12	盤 須恵器	A 15.6 B 2.8 D 9.4 E 0.7	高台部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して外方に開き，屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は三日月状。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色 普通	P8934 35% PL273
13	盤 須恵器	B (2.2) D 13.8 E 1.3	高台部から体部にかけての破片。体部は外傾して外方に開く。高台はわずかに外方にふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P8935 20% PL273
14	盤 須恵器	B (1.6)	体部の破片。丸底。体部は内彎気味に外方に大きく開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色，普通	P8936 75% PL273
15	盤 須恵器	B (2.3)	体部の破片。丸底。体部は内彎気味に外方に大きく開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色，普通	P8937 30% PL273
第671図 16	高盤 須恵器	B (5.4)	脚部上位から体部にかけての破片。体部は内彎気味に外方に大きく開く。脚部は円筒状を呈し，四方に切り込みがある。	体部，脚部内・外面ロクロナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8938 15% PL273
17	高盤 須恵器	B (2.9)	体部の破片。体部は内彎気味に外方に大きく開く。脚部は体部外面の痕跡から，円筒状を呈し，四方に透かし孔を有したと思われる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P8939 20% PL273
18	蓋 須恵器	B (1.8) F 4.1 G 0.7	天井部の破片。天井頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。つまみはボタン状。	天井部回転ヘラ削り，外周部ロクロナデ。つまみ部ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	P8940 30% PL273
19	蓋 須恵器	A 16.1 B 3.2 F 2.3 G 1.0	完形。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは腰高の擬宝珠状。	天井部回転ヘラ削り，外周部・口縁部ロクロナデ。つまみ部ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P8941 100% PL273
20	鉢 土師器	A [18.1] B 9.4 C 6.5	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，屈曲して口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，ナデ，内面ヘラナデ。内面黒色処理。底部木葉痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P8942 70% PL275
21	短頸壺 須恵器	A 9.8 B 12.5 C 12.2	底部，口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球形を呈し，頸部は体部から屈曲して，短く直立する。	頸部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り，内面横ナデ。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8943 95% PL275
22	甕 須恵器	A 23.8 B 38.2 C 20.2	底部，口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。端部はわずかに上下に突出している。	口縁部，頸部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，下端ヘラ削り，内面横ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P8944 90% PL275
23	甕 須恵器	A 22.8 B 32.0 C 18.4	体部，口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面当て具痕。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8945 80% PL275
第672図 24	大甕 須恵器	B (59.5)	体部，口縁部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部は直立気味に外傾する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面横ナデ。頸部に7条1単位の櫛描波状文と7条1単位の櫛描区画文が交互に2段施文されている。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色 普通	P8946 80% PL275
25	大甕 土師器	A 47.4 B 75.0	体部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部で屈曲し，口縁部は外傾して開く。端部は下方に突出している。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面横ナデ。頸部に3状1単位の櫛描波状文が4段施文されている。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色 普通	P8947 80% PL274 自然釉
第671図 26	甑 土師器	A [25.6] B 28.1 C [13.4]	体部下位から口縁部にかけての破片。無底式。体部下半は外傾して立ち上がり，上位でやや内彎する。口縁部は外反し，端部はわずかに，外上方につまみ上げられている。	口縁部，体部内・外面横ナデ。体部下端ヘラ削り。内・外面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P8948 20% PL275

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第673図27	ミニチュア土器 土師器	B (4.1) C [1.8]	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は球形を呈し，頸部はゆるやかにくびれ，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。	砂粒・長石・石英 明褐色 普通	P8949 45% PL275
28	鉢 須恵器	B (15.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，屈曲して口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き，下端ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黒色，普通	TP8429 20% PL275
29	甕 須恵器	B (12.7)	体部中位から頸部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部に至る。	頸部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	TP8430 10% PL275

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第673図30	球状土錘	2.2	2.5	0.8	13.4	やや扁平な球体。ナデ。	雲母，にぶい黄橙色	DP8435 PL280
31	球状土錘	1.7	1.9	0.3	2.8	やや扁平な球体。ナデ。	雲母・長石，黒褐色	DP8436 PL280

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第673図32	刀子	(8.4)	(4.0)	(1.4)	0.3～0.4	(4.4)	(9.6)	鉄	刃部，茎部一部欠損，両区あり。	M8448 PL282

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第673図33	手鎌	(5.9)	(1.4)	0.1	(3.8)	鉄	一部欠損。平面形は長方形で，薄手。	M8449 PL281

第82号溝（第674図，付図2・3）

位置　調査8区の北部。L9c4～L10d1区。西部は調査区域外に延びている。

重複関係　第1419号住居跡・第37号掘立柱建物跡・第35B号溝を掘り込み，第83号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西部は調査区域外に延びており，東部は掘り込みが浅くなり確認できなくなる。確認できた規模は，長さ26.95m，上幅24～68cm，下幅12～48cmで，確認面からの深さは最大10cmであり，形状は断面が「◡」状をしている。溝の底面から，径20～32cm，深さ17～27cmのピットが9基，1.50～2.30m間隔で検出された。ピットの性格については不明である。

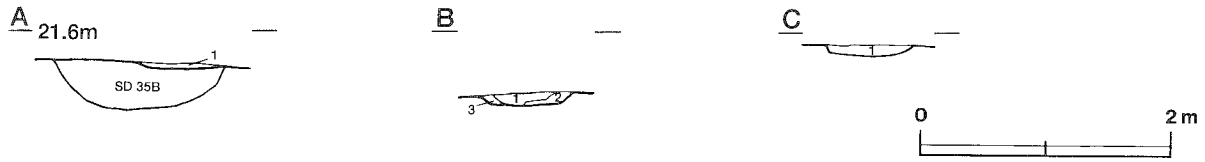
方向　L10d1区から西方向（N－89°－W）に，直線的に延びている。

覆土　3層に分層された。堆積状況は，覆土が薄いため断定することは難しいが，ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化物少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片6点が出土している。いずれも細片であるため，図示できなかった。

所見　本跡の性格は不明である。時期は，出土土器が細片のため不明であるが，8世紀後葉の第37号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，それ以降と考えられる。



第674図　第82号溝土層断面図

第83号溝（第675図，付図２・３）

位置　調査８区の北部。L9c6～L9e6区。北部は調査区域外に延びている。

重複関係　第82号溝を掘り込んでいる。

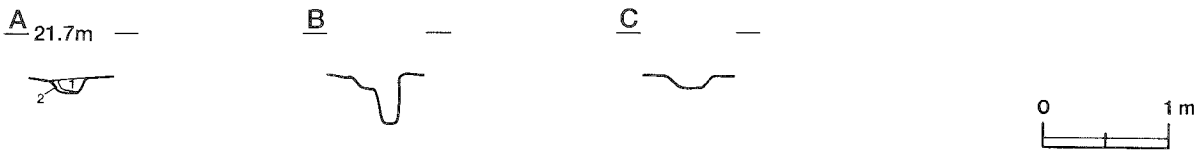
規模と形状　北部は調査区域外に延びているため，全容は確認できなかった。確認できた規模は，長さ7.98m，上幅22～44cm，下幅６～20cmで，確認面からの深さは８～10cmであり，形状は断面形がU字形をしている。溝の底面から，ピットが２か所（Ｐ１・Ｐ２）の検出された。Ｐ１・Ｐ２の径30cm・25cm，深さ28cm・32cmである。ピットの性格については不明である。

方向　L9e6区から北方向（N－10°－E）に，直線的に延びている。

覆土　２層に分層された。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量

所見　本跡からは土器は出土しておらず，時期及び性格については不明である。



第675図　第83号溝実測図

第84A・B号溝（第676図，付図２・３）

位置　調査８区の西部。第84A号溝はM8c4～M9h3区に位置し，第84B号溝は第84A号溝からM8e6区で分岐しており，M9c1区に至る。第84A号溝と第84B号溝が分岐する部分で，両者の新旧関係は認められないことから，同時期に機能していたものと考えられる。西部は調査区域外に延びている。

重複関係　第1423・1426・1434・1441号住居跡，第1354・1355号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　西部が調査区域外に延び，第84A号溝の東部と，第84B号溝の北東部で掘り込みが浅くなり，いずれも確認できなかった。確認できた規模は，第84A号溝が長さ24.14m，上幅44～96cm，下幅24～70cmで，確認面からの深さは最大で38cmであり，第84B号溝が長さ21.1m，上幅78～92cm，下幅38～49cmで，確認面からの深さは最大で44cmである。形状は断面形がいずれもU字形をしている。

方向　第84A号溝はM8e4区から東方向（N－110°－E）に，直線的に延び，第84B号溝はM8e6区で第84A号溝から分岐し，北東方向（N－63°－E）に，直線的に延びている。

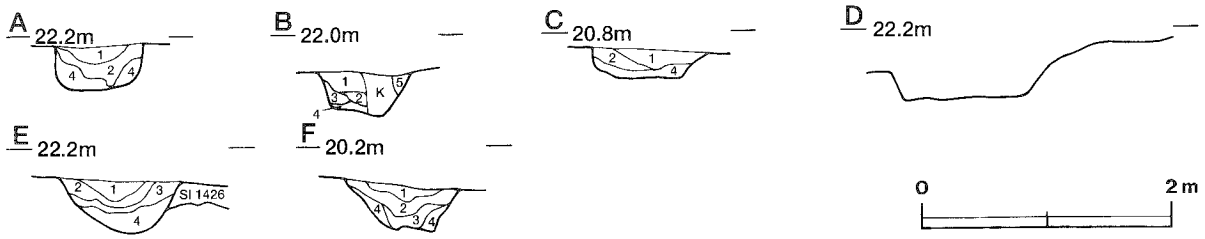
覆土　５層に分層できた。ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

3　黒 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

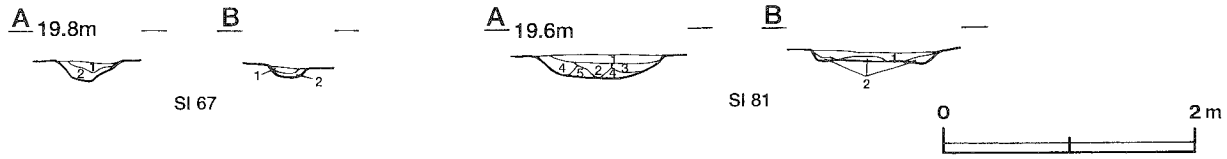
遺物　土師器片124点，須恵器片35点が出土している。いずれも細片であるため，図示はできなかった。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため不明であるが，6世紀後半から7世紀後半の第1423・1426・1434・1441号住居跡，10世紀後半の第1355号土坑を掘り込んでいることから，10世紀後半以降と考えられる。性格は不明である。



第676図　第84A・B号溝実測図

以下に，上述した遺構を除く溝の土層解説を記載する。（第677図）



第677図　第67・81号溝土層断面図

第67号溝土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

第81号溝土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

表14　8区溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模（m） 確認長	上幅	下幅	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係
16	N9a7～O9h6 N9a7～M10j4	北～南 西～東	L字状	(98.0)	0.75～2.10	0.42～1.05	50～82	外傾	平坦	自然	壺・土師器(坏・皿・甕),須恵器(坏・壺・提瓶・甕・鉢・子持ち器台),鉄製品(鎌,刀)	SI1422→本跡→第9号道路状遺構・SD81
35B	L9b7～M9j6	北～南	直線状	(74.9)	0.71～2.54	0.30～0.97	47～102	外傾	平坦	自然	土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(坏・高台付坏・壺・短頸壺・甕・大甕),刀子,鎌	SI1419→本跡→SD82
67	O9b6～O9e6	北～南	直線状	(11.5)	0.26～0.43	0.13～0.18	18	緩斜	平坦			
81	O9c1～O9b5	西～東	直線状	(17.0)	0.20～0.98	0.38～0.88	20	緩斜	平坦			
82	L9c4～L10d1	東～西	直線状	(27.0)	0.24～0.68	0.12～0.48	10	緩斜	平坦	自然	土師器片	SI1419・SB37・SD35B→本跡→SD83
83	L9c6～L9e6	北～南	直線状	(8.0)	0.22～0.44	0.06～0.20	8～10	外傾	U	自然		SD82→本跡
84A	M8e4～M9h3	東～西	直線状	A(24.1)	0.44～0.96	0.24～0.70	38	外傾	U		土師器片，須恵器片	SI1423・1426・1434・1441・SK1354・1355→本跡
84B	M8f6～M9c1	南西～北西	直線状	B(21.1)	0.78～0.92	0.38～0.49	44	外傾	U			

(4) 井戸跡

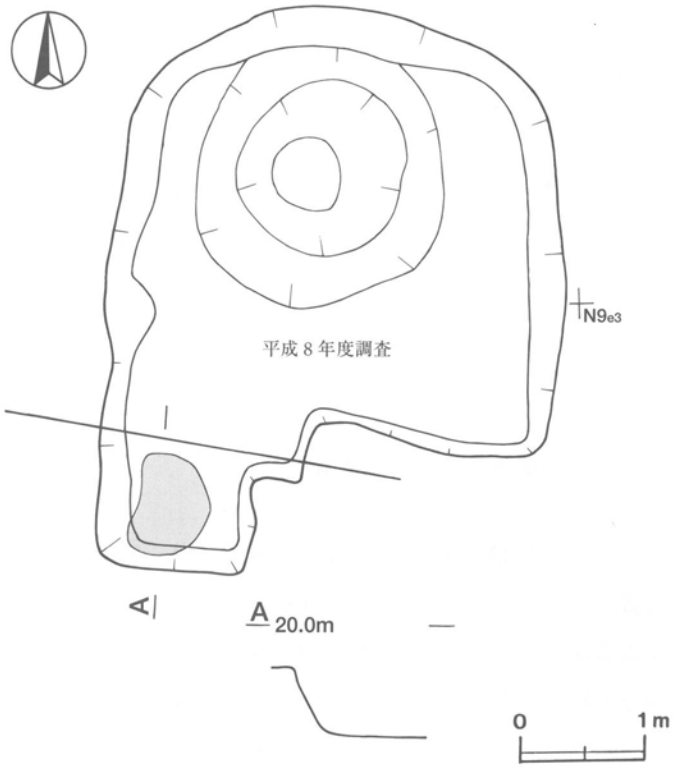
第４号井戸跡（第678図）

位置　調査８区の中央部，N9e2区。平成８年度の調査区と平成10年度の調査区にまたがって位置している。そのため，調査も大半を平成８年度に，南部の一部を平成10年度にと両年度にわたった。

規模と形状　大半が平成８年度に調査されており，平成10年度調査では，南側に張り出した部分を検出した。検出した規模は，長軸64㎝，短軸50㎝の不定形で，深さ55㎝である。底面は平坦で，薄く粘土が堆積していた。

遺物　土師器片28点，須恵器片10点が覆土中から出土している。

所見　本跡の大部分は平成８年度に調査が終了しており，その部分については『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集を参照されたい。時期は，判断する出土遺物がないため，不明である。



第678図　第４号井戸跡実測図

第29号井戸跡（第679図）［ＳＫ－1342］

位置　調査８区の北東部。M9d0区。

規模と形状　掘り方が確認されただけである。掘り方は漏斗状をしている。上部は平面形が長径1.80m，短径1.45mの楕円形で，確認面から約0.95mの深さまですぼまっていき，下部は長径0.98m，短径0.94mの楕円筒形に掘り込まれている。確認面から3.2mの深さまで掘り下げた時点で水が滲出してきたため，そこまでしか調査できなかったが，本跡はローム層と常総粘土層を掘り抜き，さらに下まで掘り込んでいる。

長径方向　N－82°－E

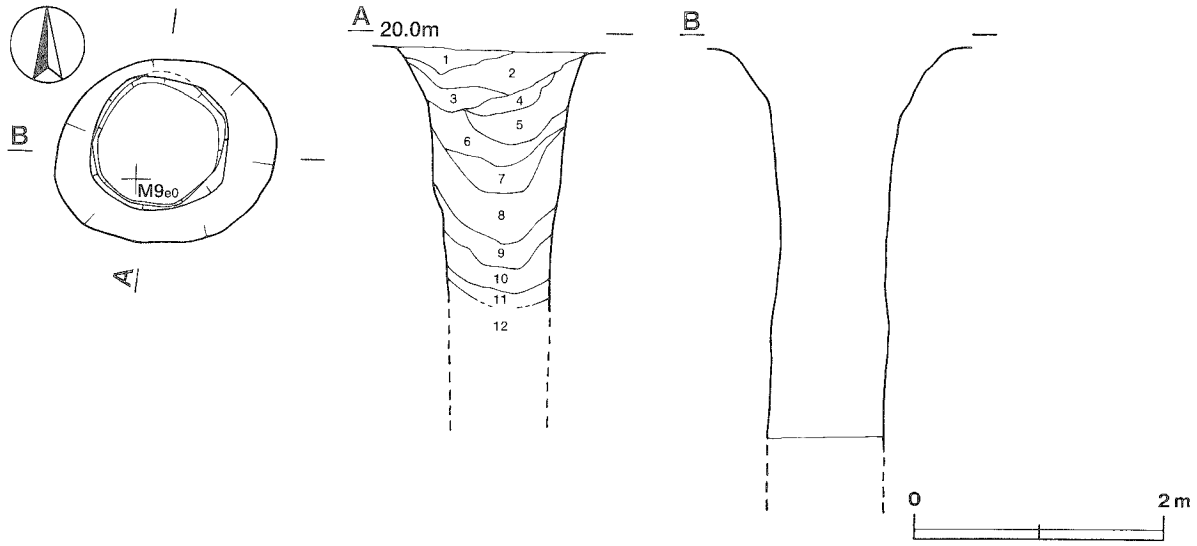
覆土　土層断面図中，第１～７層は，ブロック状に堆積しており，廃棄のため埋め戻した層と考えられる。第８～12層は，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
4	黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
5	黒色	ローム粒子・砂粒少量
6	黒褐色	ローム粒子・粘土小ブロック少量
7	黒褐色	ローム粒子少量。しまり弱い。
8	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量。しまり弱い。
9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
10	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量。しまり弱い。
11	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量。しまり弱い。
12	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量。しまり弱い。

遺物　土師器片14点，須恵器片３点，雲母片岩２点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため不明であり，図示できなかった。



第679図　第29号井戸跡実測図

第30号井戸跡（第680～688図）［ＳＸ－12，ＳＫ－1352］

位置　調査８区の北西部。M8e9区。

重複関係　第1426・1434号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　当初，大形土坑として調査を開始したが，確認面から約2.1m掘り込んだ時点で，白色粘土で構築された半円形の土手状の盛り土が検出され，この盛り土の内側は楕円筒形に掘り込まれた井戸跡であったことから，上部の大形土坑部を含んだ全体が１基の井戸跡であると理解した。全体として１基の井戸跡であるが，便宜上，上半を大形土坑部，下半を井戸部として記載する。確認できたのは，掘り方とわずかな人為堆積の土層である。掘り方は，南東部に突出してはいるが，ほぼ漏斗状を呈している。この南東部は，底面がほぼ平坦で，外傾して立ち上がる壁の中位に平場がある二段掘り状になっている。平面形は上部が長径9.55m，短径6.81mの楕円形で，確認面から約2.2mの深さまですぼまっていき，下部は長径1.60m，短径1.45mの楕円筒形に掘り込まれている。井戸開口部の北半に巡った土手状の盛り土部分は，底面からの高さ10～12cm，幅10～23cmで，長さ約3.1mであり，断面形は丸味のある台形状をしている。確認面から5.25mの深さまで掘り下げた時点で水が滲出してきたため，そこまでしか調査できなかったが，本跡はローム層と常総粘土層を掘り抜き，さらに下まで掘り込んでいる。

長径方向　N－19°－W

覆土　27層からなる。第１～17層はほぼレンズ状に堆積していることから，廃絶後，埋没する段階で自然堆積したものと考えられる。第18～26層は井戸部の土層であり，ブロック状に堆積していることから，廃絶のため，人為的に埋め戻された層と考えられる。第27層は井戸開口部の土手状に巡らされた盛り土の土層である。

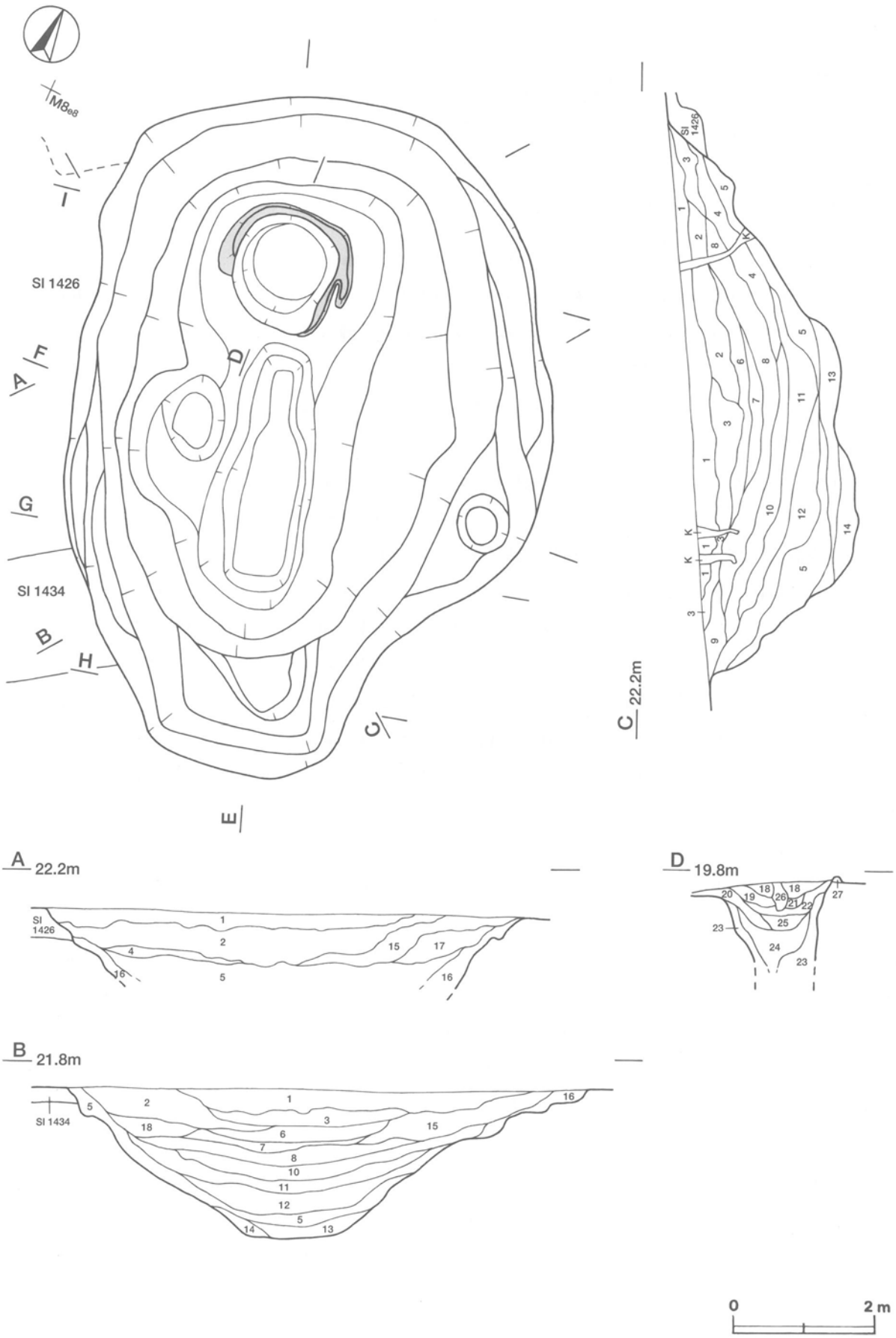
土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
12　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

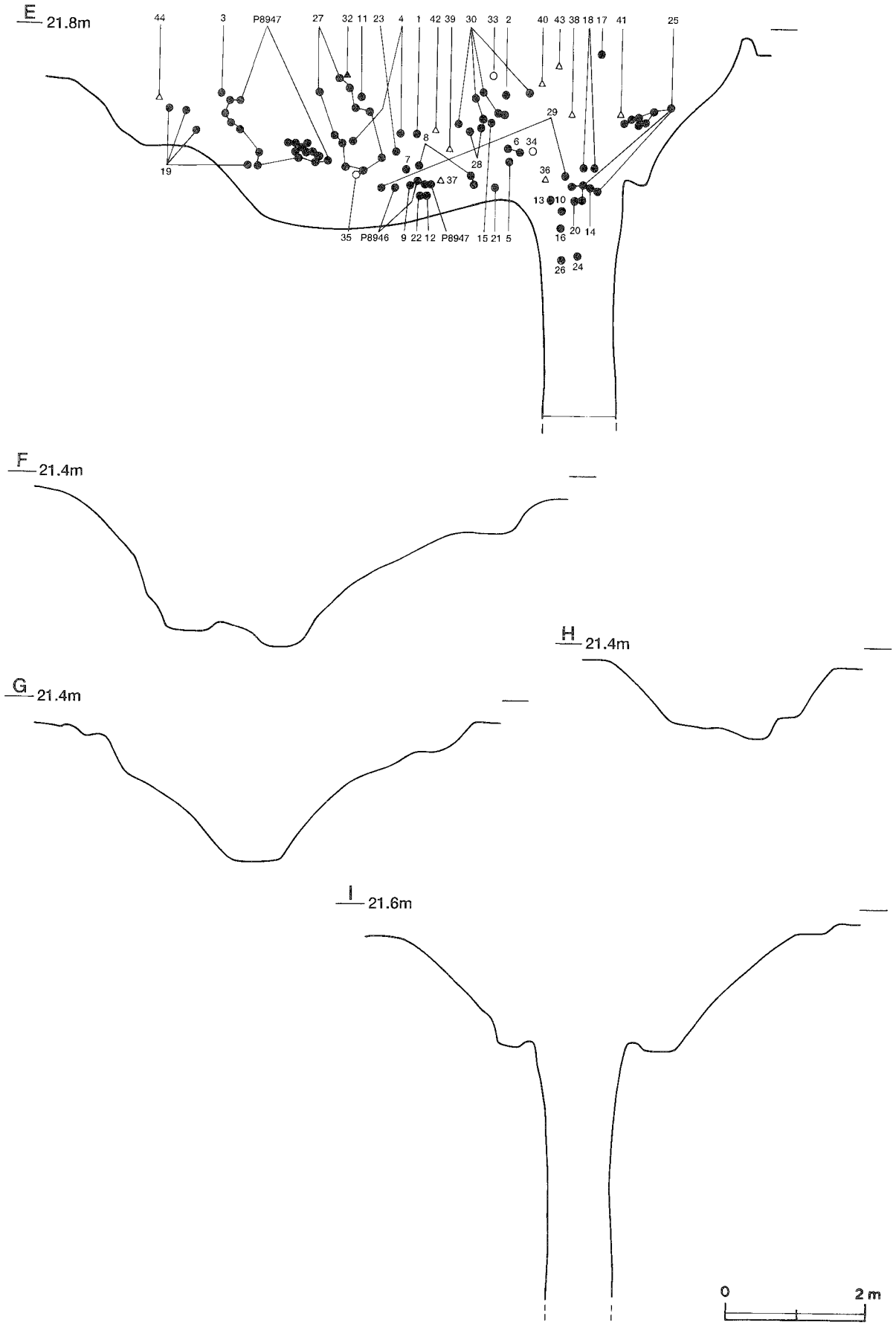
13　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
14　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子少量。湿り気があり，しまりがやや弱い。
15　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
16　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
17　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
18　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
19　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量。ややしまりあり。
20　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
21　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
22　黒　褐　色　ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
23　黒　褐　色　粘土粒子中量，ローム小ブロック少量
24　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
25　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
26　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
27　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量。粘性，しまり強い。

遺物　土師器片13,122点（坏類1,739，甕類11,383），須恵器片1,411点（坏類678，蓋34，盤２，甕類689，瓶類８），灰釉陶器１点（手付瓶），土製品３点（管状土錘１，球状土錘１，土玉１），鉄器（刀子２，鉄鏃７），馬骨３体が出土している。出土遺物の大半は上部の大形土坑部から出土しており，下部の井戸部内からの出土量は，全体からみてわずかである。また，大形土坑部から出土した土器は，そのほとんどが破片であるが，井戸部内及び大形土坑の底面から出土している土器は，甕，壺類が目立ち，それらは破損が少なくほぼ完形である。大形土坑部の各層ごとの出土状況は，土層断面図中，第13層から上層にかけての覆土から多量に出土しており，また，これらの各層からまんべんなく出土している。第680～688図32の須恵器甕の口縁部片は第１層から，17の須恵器蓋，33の管状土錘，34の球状土錘，40の鉄鏃が第２層から，それぞれ出土している。５の須恵器坏，19の土師器鉢，38の鉄鏃が第５層から，２の須恵器坏，11の須恵器高台付坏が第６層から，１の須恵器坏，15の須恵器皿，28の須恵器甕，30の灰釉陶器手付瓶，42の鉄鏃が第８層から，それぞれ出土している。３の須恵器坏，23の土師器甕，39の鉄鏃が第10層から，７・８の須恵器坏，37の刀子が第11層から，12の須恵器高台付坏，35の土玉，43の鉄鏃が第12層から，９の須恵器坏，21の須恵器鉢，22の須恵器壺，29の須恵器甕が第13層から，それぞれ出土している。４の須恵器坏は，第10層と第11層から出土した破片が接合したものである。６の須恵器坏は，第５層と第11層から出土した破片が接合したものである。27の須恵器甕は，第３層，第７層，第10層，第11層から出土した破片が接合したものである。31の土師器坏片は覆土中から出土しており，外面に墨書されているが，判読は不能である。44の鉄鏃は，覆土上層から出土している。井戸部内からは，10の須恵器坏，13・14の須恵器盤，16の須恵器蓋，18の須恵器長頸瓶，20の須恵器鉢，24・25・26の土師器甕，36の刀子，41の鉄鏃が，いずれも上層から出土している。馬骨３体は，第25層上部から第24層にかけて，解体された状態で出土している。第35Ｂ号溝から出土している須恵器甕（Ｐ8947）の体部片が，南西部の覆土中層，第５層と第14層から出土している。

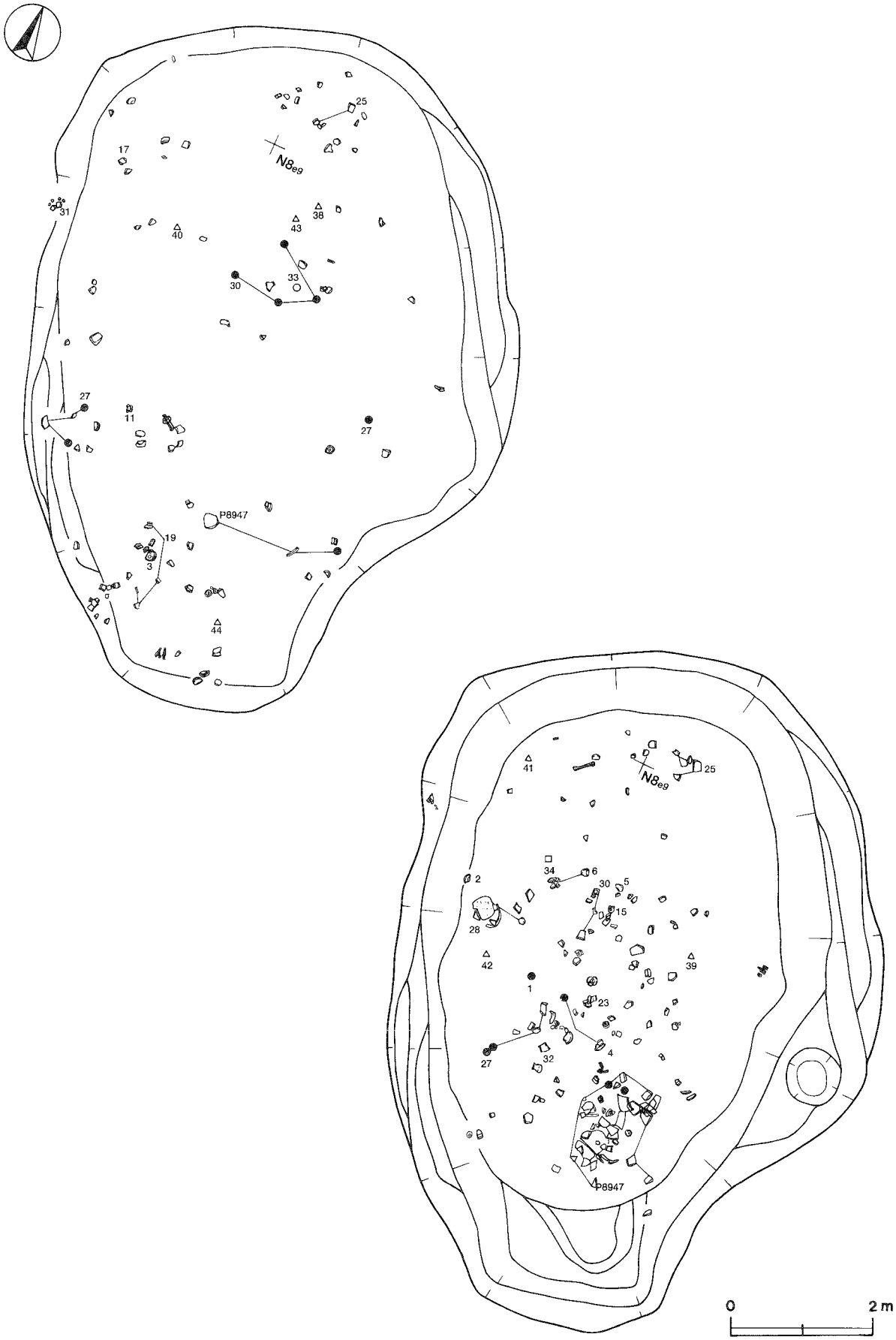
所見　本跡の性格は，上部の大形土坑の堆積状況で重複関係が認められないことから，大形土坑部を含む全体が大形の井戸跡であったと考えられる。突出した南東部底面の平場は，作業場的な施設と考えられる。また，井戸開口部に巡らされた土手状の盛り土が北半にあり，南半では確認されていないことからも，裏付けられる。井戸部は堆積状況から，廃絶のため，人為的に埋め戻されたと考えられ，井戸部の上面から大形土坑の底面にかけて，解体された馬骨が３体出土している。これらのことから，疫病の発生等，何らかの原因で廃絶され，井戸封じのような祭祀が行われた可能性がある。廃絶された時期は，井戸部内から出土している土器から，８世紀の後葉と考えられる。本跡は，遺物の出土状況からみて，井戸が廃絶された後，廃棄土坑として利用されたと考えられる。その時期は，出土土器から８世紀後葉から９世紀後葉までと考えられる。



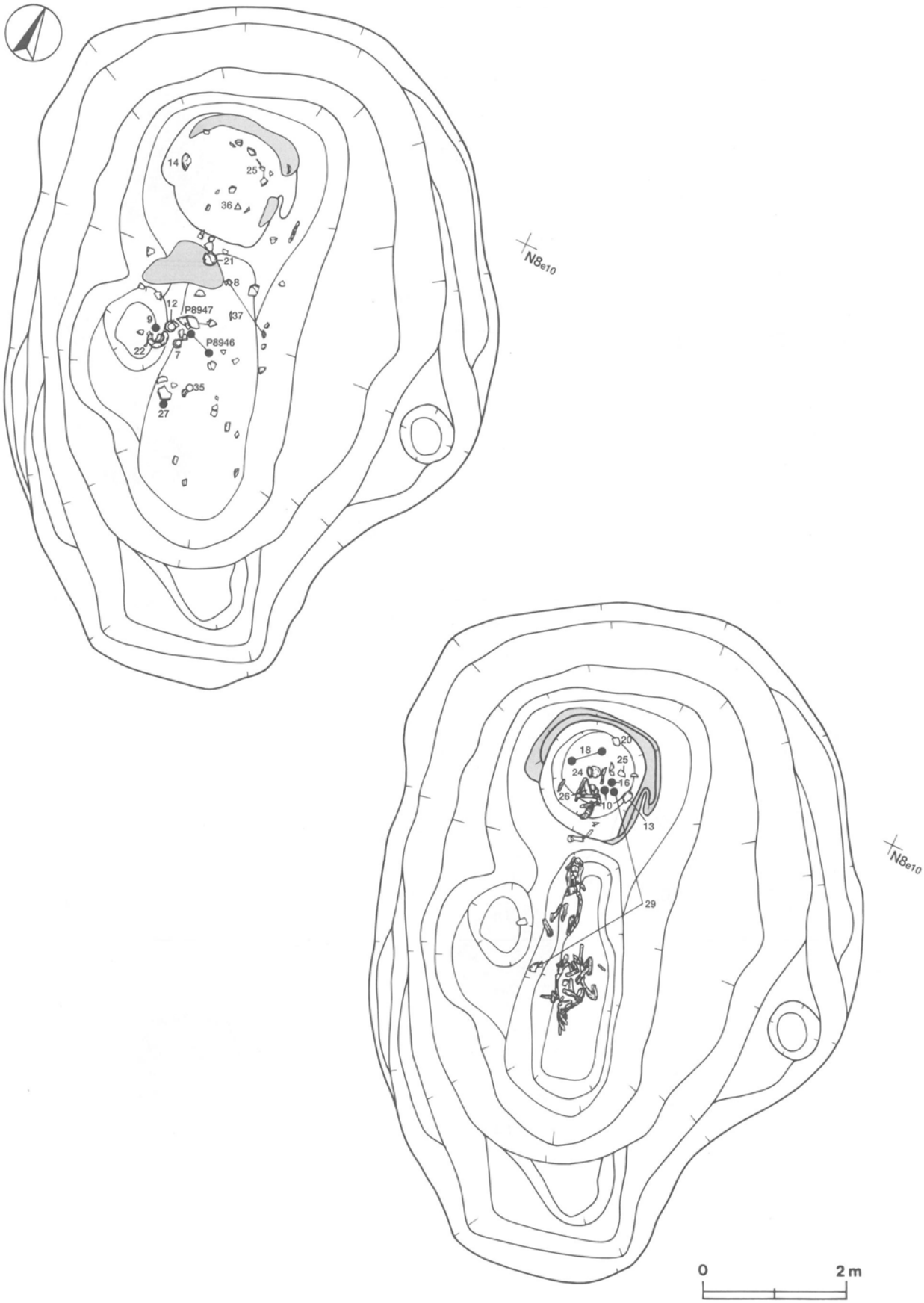
第680図　第30号井戸跡実測図（1）



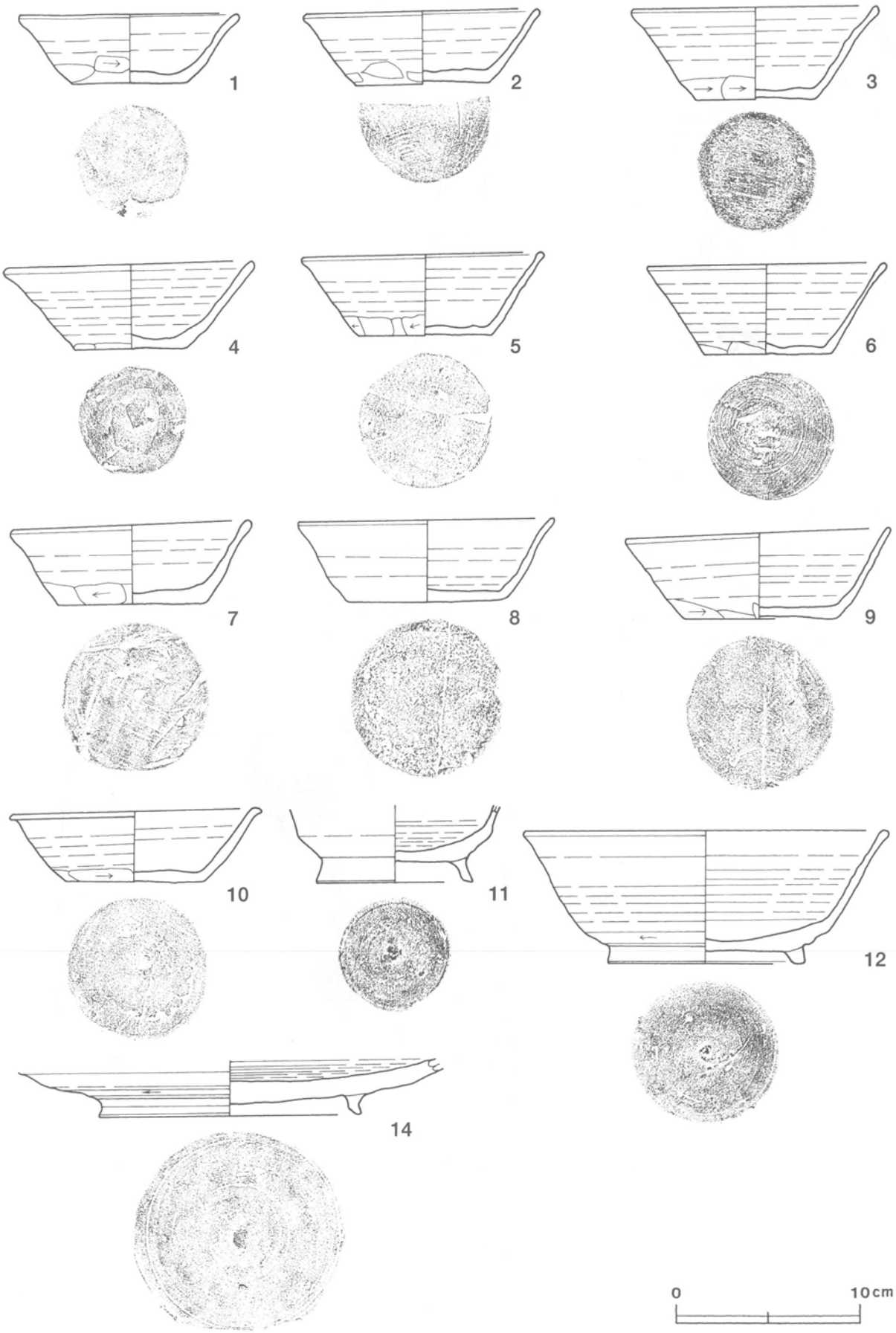
第681図　第30号井戸跡実測図（2）



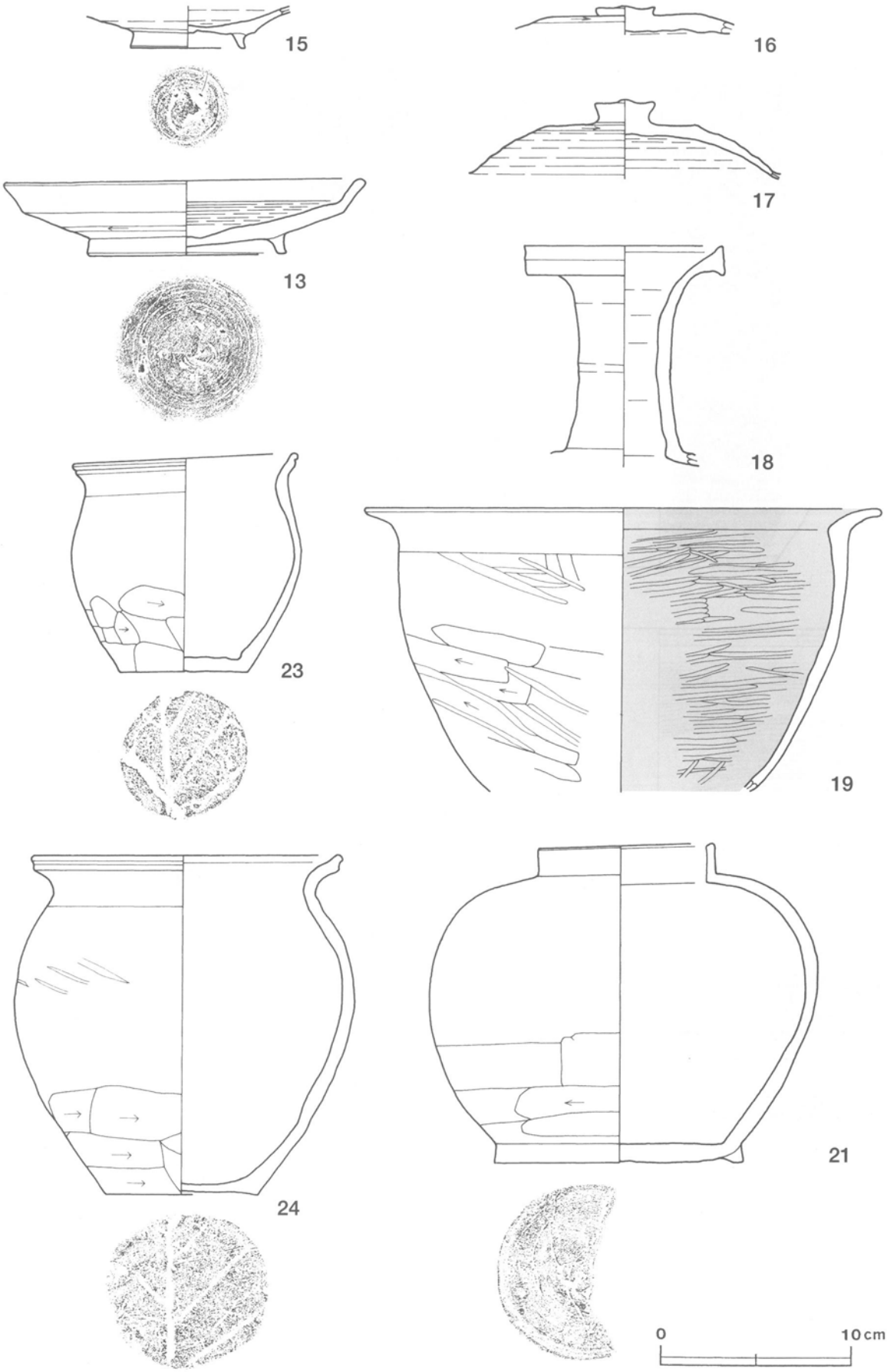
第682図　第30号井戸跡遺物出土状況図（1）



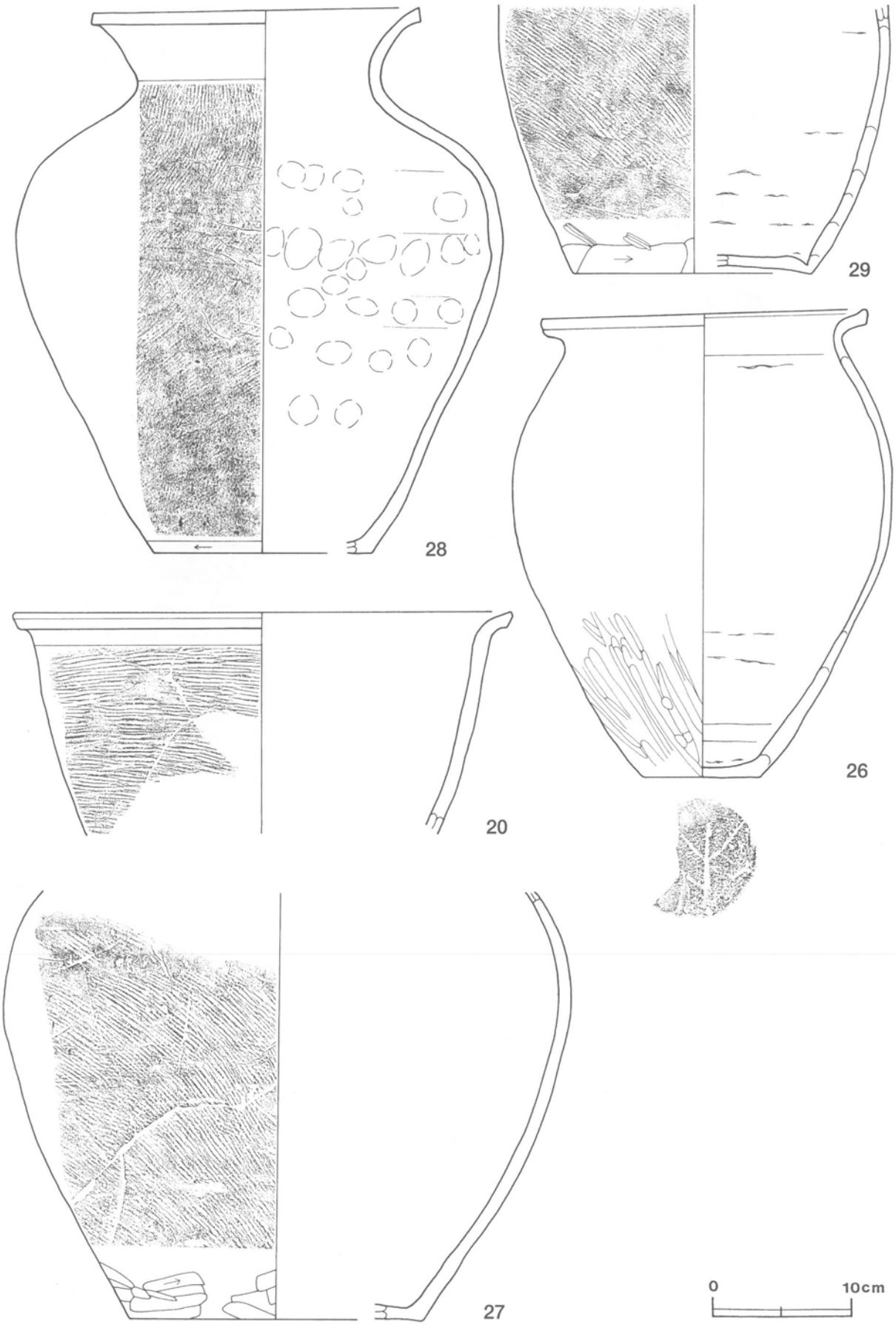
第683図　第30号井戸跡遺物出土状況図（2）



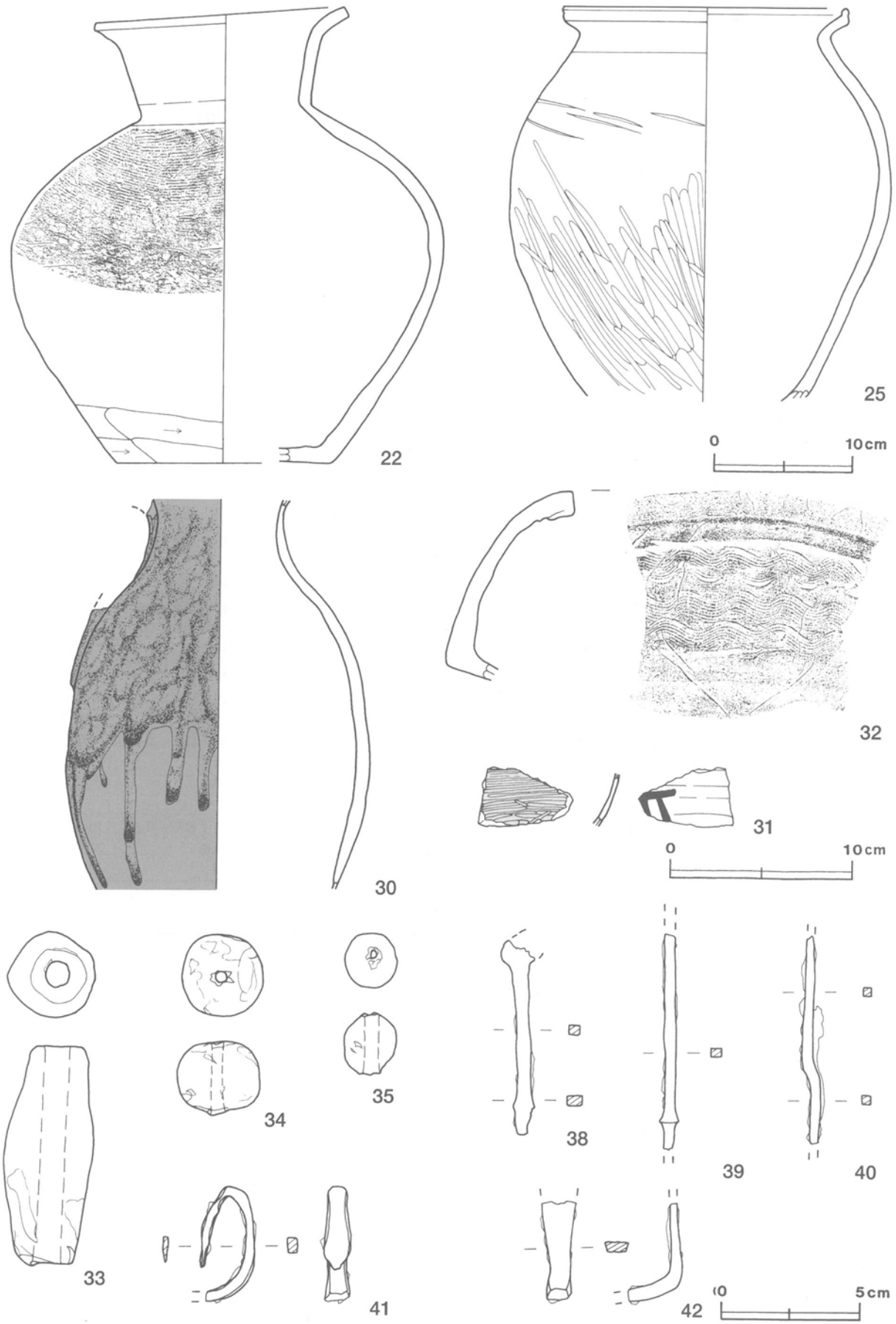
第684図　第30号井戸跡出土遺物実測図（1）



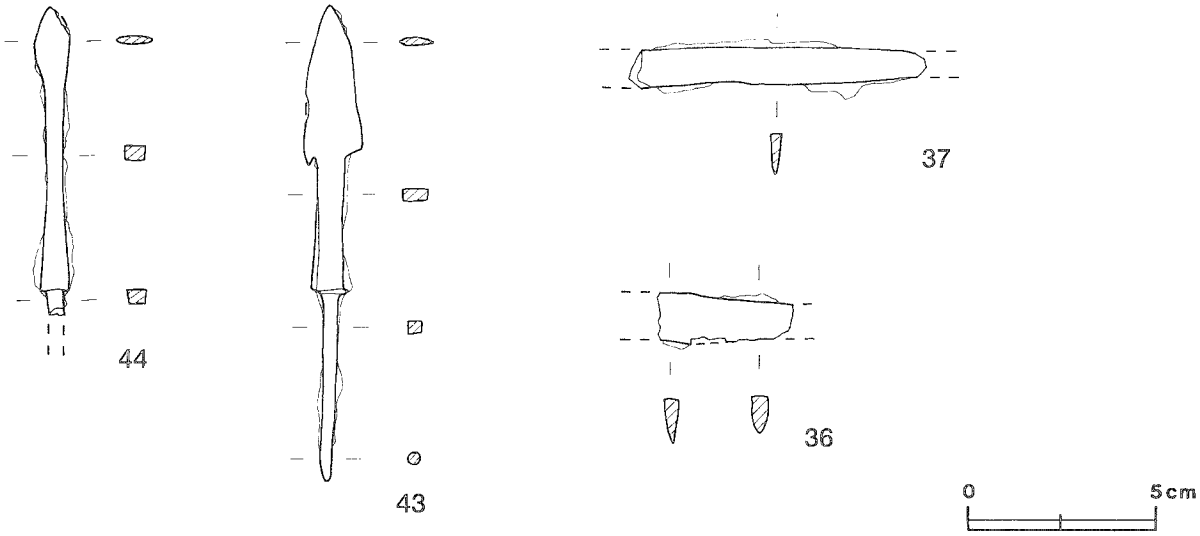
第685図　第30号井戸跡出土遺物実測図（2）



第686図　第30号井戸跡出土遺物実測図（3）



第687図　第30号井戸跡出土遺物実測図（4）



第688図　第30号井戸跡出土遺物実測図（5）

第30号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第684図 1	坏 須恵器	A [11.8] B 3.7 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P8951 50% PL276
2	坏 須恵器	A [12.4] B 3.9 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P8952 50% PL276
3	坏 須恵器	A [13.2] B 4.9 C 6.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色，普通	P8953 65% PL276
4	坏 須恵器	A 13.2 B 4.6 C 5.8	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目強い。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P8954 75% PL276
5	坏 須恵器	A 12.9 B 4.4 C 7.2	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P8955 90% PL276
6	坏 須恵器	A 12.8 B 4.9 C 6.8	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色，普通	P8956 95% PL276
7	坏 須恵器	A 12.8 B 4.4 C 7.8	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色，普通	P8957 95% PL276
8	坏 須恵器	A 13.8 B 4.5 C 8.4	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P8958 65% PL276
9	坏 須恵器	A 14.0 B 4.8 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P8959 70% PL276
10	坏 須恵器	A 13.3 B 4.0 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す，不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色 普通	P8960 95% PL276
11	高台付坏 須恵器	B (4.1) D 8.4 E 1.4	高台部から体部下端にかけての破片。体部は下位に稜を有し，やや外傾して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色 普通	P8961 30% PL276

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第684図 12	高台付坏 須恵器	A [19.6] B 7.1 D 10.8 E 0.9	体部，口縁部一部欠損。体部は底部から屈曲して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。高台は短く，「ハ」の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P8962 50% PL277
第685図 13	盤 須恵器	A 18.5 B 3.9 D 10.4 E 1.1	体部，口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。接地面平ら。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P8963 70% PL276
第684図 14	盤 須恵器	B (2.9) D 14.2 E 1.0	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に外方に大きく開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・石英 暗灰黄色 普通	P8964 65% PL276
第685図 15	皿 須恵器	B (2.2) D 6.1 E 0.7	高台部から体部にかけての破片。体部は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P8965 30% PL276
16	蓋 須恵器	B (1.5) F 3.0 G 0.4	天井部の破片。天井頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。つまみは扁平な擬宝珠状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	P8966 20% PL276
17	蓋 須恵器	B (4.0) F 3.2 G 1.2	口縁部一部欠損。天井頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。つまみは腰高の擬宝珠状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。ロクロ目強い。	砂粒・雲母・石英 黄白色 普通	P8967 65% PL276
18	長頸瓶 須恵器	A 10.4 B (11.4)	頸部の破片。頸部は円筒形状に立ち上がり，口縁部で大きく外反する。端部は上下に突出する。	口縁部，頸部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 灰オリーブ色 良好	P8969 30% PL277 自然釉
19	鉢 土師器	A [27.0] B (14.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，屈曲して口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ，内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P8970 10% PL278
第686図 20	鉢 須恵器	A [35.4] B (15.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，屈曲して口縁部に至る。端部は下方にわずかに突出している。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P8971 10% PL278
第685図 21	短頸壺 須恵器	A 9.0 B 16.5 D [13.0] E 1.0	体部，底部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部は直立する。高台は短く，ほぼ垂下する。	頸部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部回転ヘラ削り，高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P8972 90% PL277
第687図 22	壺 須恵器	A 17.7 B 32.3 C [15.4]	底部，口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は角張る。	口縁部，頸部，体部内面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，下端横位のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色 普通	P8973 90% PL276
第685図 23	甕 土師器	A 11.6 B 11.4 C 6.8	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のヘラ削り，下位横位のヘラ削り，内面横ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	P8974 70% PL277
24	甕 土師器	A 15.4 B 17.6 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部は「く」の字状にくびれ，口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部，体部内・外面横ナデ。体部外面下位横位のヘラ削り，内面輪積み痕を残す横ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P8975 99% PL277
第687図 25	甕 土師器	A 20.3 B (27.3)	底部，体部一部欠損。体部は倒卵形を呈し，頸部は「く」の字状にくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部，体部内・外面横ナデ。体部外面下位縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P8976 80% PL277
第686図 26	甕 土師器	A 23.2 B 32.9 C [8.4]	底部，体部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，頸部は「く」の字状にくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部，体部内・外面横ナデ。体部外面下位縦位のヘラ磨き，内面輪積み痕を残す横ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	P8977 70% PL277
27	甕 須恵器	B (30.2) C 20.8	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き，下端横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 暗灰色，普通	P8978 30% PL278

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第686図 28	甕 須恵器	A 23.3 B 38.4 C [15.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，中位で内彎し，頸部に至る。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。端部はわずかに下方に突出する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き，下端横位のヘラ削り，内面指頭による押さえ痕を残す横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P8979 50% PL276
29	甕 須恵器	B (19.0) C 16.8	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部下位は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き，下端横位のヘラ削り，内面輪積み痕を残す横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8980 30% PL277
第687図 30	手付瓶 灰釉陶器	B (20.9)	体部の破片。把手部一部欠損。体部は卵形を呈し，頸部は緩やかにくびれる。体部上半から頸部に把手が付く。	頸部，体部内・外面ロクロナデ。釉は流しかけカ。	緻密 胎土 灰黄色 釉 灰オリーブ色 良好	P8968 40% PL277 二川窯ヵ
31	坏 土師器	B (2.9)	体部の破片。	体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P8992 5% 外面に墨痕あり
32	甕 須恵器	A [34.0] B (9.7)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は角張る。	口縁部，頸部内・外面ロクロナデ。頸部外面に8条1単位の櫛描波条文が3段施されている。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 暗褐色，普通	TP8431 5% PL278

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第687図33	管状土錘	3.3	7.9	0.9	67.6	エンタシス形の筒状。ナデ。	雲母・長石，にぶい黄橙色	DP8437 PL280
34	球状土錘	3.0	2.7	0.5	22.8	扁平な球体。ナデ。	雲母・長石，黒褐色	DP8438 PL280
35	土玉	1.9	1.8	0.6～0.8	7.0	縦長の球体。ナデ。	雲母・長石，にぶい褐色	DP8439 PL280

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第689図36	刀子	(3.6)	(1.0)	(1.3)	0.5	(2.6)	(5.2)	鉄	刃部，茎部一部欠損。両区あり。	M8455 PL282
37	刀子	(8.1)	(5.8)	(1.0)	0.3	(2.3)	(9.3)	鉄	刃部，茎部一部欠損。	M8456 PL282

図版番号	器種	計測値									材質	特徴	備考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	鏃身幅(cm)	箆被部長(cm)	箆被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第687図38	鏃	(7.1)	(0.9)	(1.3)	5.2	0.5	(1.0)	0.5	0.4	(6.3)	鉄	切先，茎部一部欠損。柳葉鏃。	M8450 PL282
39	鏃	(7.9)	(6.9)	0.4	−	−	(1.0)	0.4	0.3	(5.2)	鉄	関部方形。長頸鏃ヵ。	M8451 PL282
40	鏃	(7.5)	(7.5)	0.4	−	−	−	−	0.3	(4.3)	鉄	切先，茎部欠損。長頸鏃ヵ。	M8452 PL282
41	鏃	(8.3)	2.3	0.9	(6.0)	0.6	−	−	0.4	(8.2)	鉄	箆被部折れ曲がる。柳葉鏃。	M8453 PL283
42	鏃	(4.9)	(2.2)	(1.2)	(2.7)	0.8	−	−	0.4	(5.8)	鉄	鏃身部は逆三角形。雁股鏃。	M8454 PL281
第689図43	鏃	12.6	4.0	1.5	3.5	0.7	5.1	0.4	0.3	15.9	鉄	鏃身断面両丸。関部棘状。	M8460 PL282
44	鏃	(8.2)	2.1	1.0	5.4	0.5	(0.7)	0.4	0.4	(9.2)	鉄	茎端部欠損。長頸柳葉鏃。	M8461 PL282

第31号井戸跡（第689～691図）

位置　調査8区の南部，O8f0区。

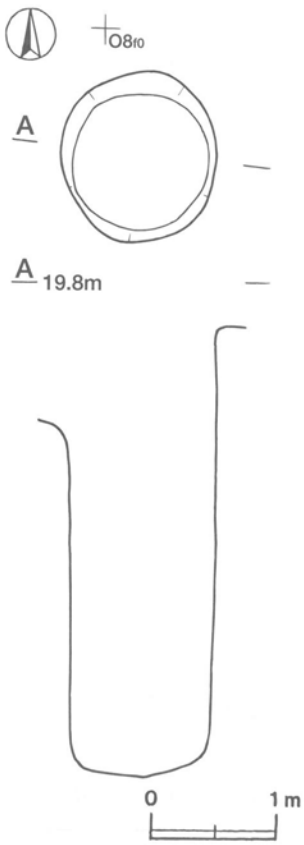
規模と形状　掘り方を確認しただけである。掘り方は漏斗状を呈している。確認面での平面形は長径1.47m，短径1.26mの楕円形で，上半は約1.15mの深さまで緩やかに狭まっていき，それ以下は径1.15mの円筒状に掘り込まれている。底面は，径1.03mの円形である。確認面からの掘り込みの深さは，確認しただけで3.56mである。本跡はローム層と粘土層を掘り抜きさらに下まで掘り込んでいる。

長径方向　N－13°－E

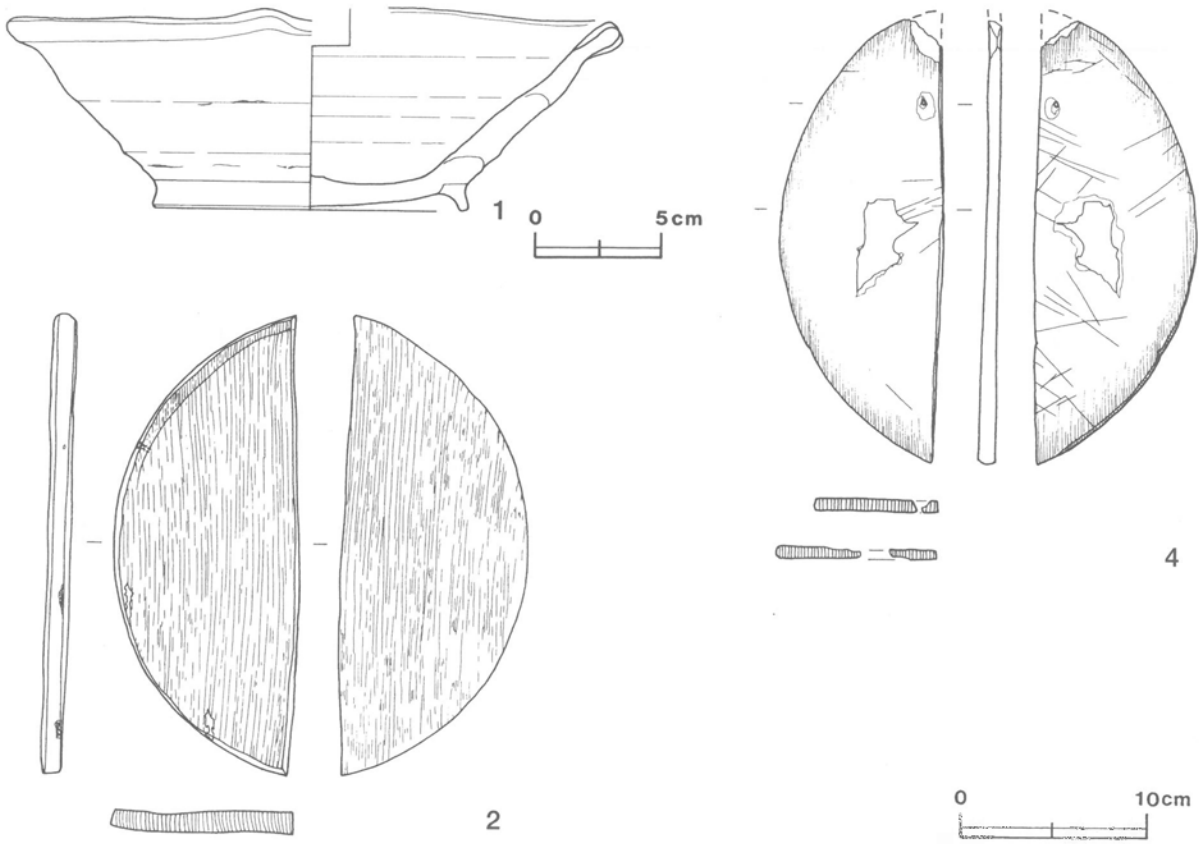
覆土　堆積土層を半截して調査する過程で崩落したため図化できなかったが，大半が黒褐色のロームブロックを含んだ粘質土である。一挙に埋め戻したものと考えられる。

遺物　土師器片３点，須恵器片12点，陶器片３点，木製品６点が出土している。第690・691図１の陶器片口鉢は，2.46mの深さから出土した３片が接合したものである。２～７は木製品類である。２の桶の底板は，3.45mの深さから出土している。３分の１の断片で，直径25.2cmの円形に復元される。３は3.14mの深さから出土している。台形の板状を呈しており，器種は不明である。４は3.45mの深さから出土している。円形の３分の１片で，中央部から縁辺部寄りに径４mmほどの円孔が穿たれている。器種は不明である。また，片面に多数の擦痕が見られる。５～７の有頭棒状木製品は，3.48mの深さから出土している。それぞれが一端を折損しており，残存する端部を粗い削りで調整し，一面に突起をつくっている。紐かけをもつ部材の一部の可能性が考えられる。出土木製品の樹種は同定分析の結果，２はスギ，３・４はケヤキ，５～７はウルシであることが明らかになった。詳細は「付章」を参照されたい。

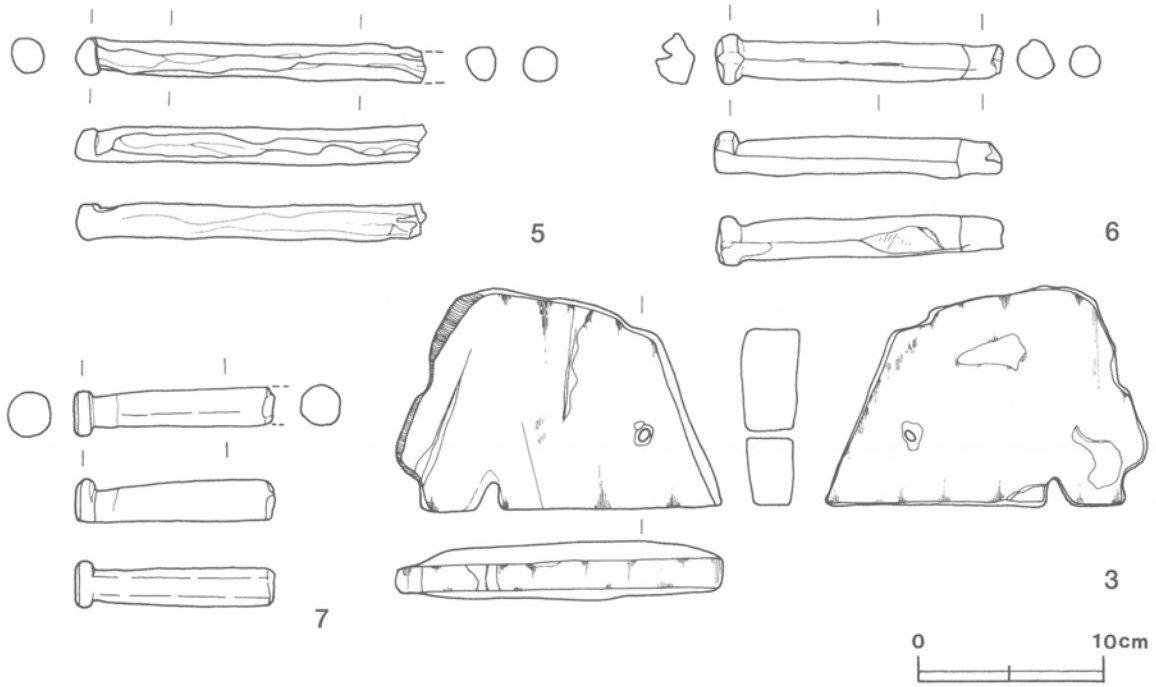
所見　本跡の時期は，出土遺物から13世紀後半と考えられる。



第689図　第31号井戸跡実測図



第690図　第31号井戸跡出土遺物実測図（１）



第691図　第31号井戸跡出土遺物実測図（2）

第31号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第690図 1	片口鉢 陶器	A［23.8］ B　7.9 D［12.0］ E　1.1	高台部から口縁部の破片。底部の外周にハの字状の高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。片口は口縁端部の一部を外方に折り曲げてつくられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面輪積み痕。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P80040 50% 常滑 PL279

図版番号	種　別	計測値			樹種	形態的特徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第690図 2	桶底板	(24.1)	(9.5)	1.2	スギ	円形の3分の1断片。側面に木釘痕3か所。周縁は斜めに削り落とす。	W8001　PL284
第691図3	台形板状木製品	17.0	11.5	3.0	ケヤキ	貫通する長径6㎜，短径4㎜の楕円孔1か所。	W8002　PL284
第690図 4	円形板状 木製品	(23.0)	(8.6)	(1.0)	ケヤキ	貫通する径4㎜の小孔1か所。周辺は丁寧に加工され，ほぼ直に削り落とす。片面に多数の擦痕あり。	W8003　PL284
第691図 5	有頭棒状 木製品	(18.5)	長径1.9 短径1.5	—	ウルシ	一端を折損。断面円形。端部の一面に突起を残す。	W8004　PL284
6	有頭棒状 木製品	(15.0)	長径2.6 短径1.6	—	ウルシ	一端を折損。断面円形。折損部付近を一段細くし，端部の一面に突起を残す。	W8005　PL284
7	有頭棒状 木製品	(10.5)	長径2.3 短径1.5	—	ウルシ	一端を折損。断面円形。端部の一面に突起を残す。	W8006　PL284

第32号井戸跡（第692図）

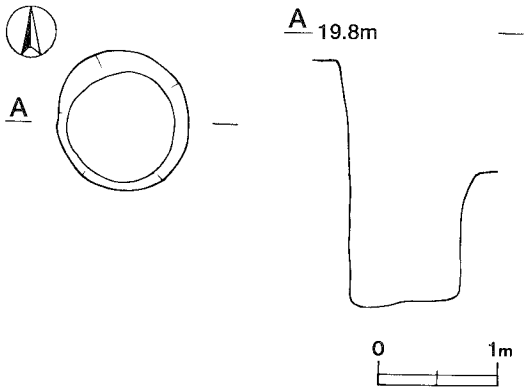
位置　調査8区の南部，O8e9区。

規模と形状　掘り方を確認しただけである。掘り方は漏斗状を呈している。確認面での平面形は径1.12mの円形で，上半は約0.45mの深さまで緩やかに狭まっていき，それ以下は径0.87mの円筒状に掘り込まれている。底面は，径0.83mの円形である。確認面からの掘り込みの深さは，確認しただけで1.96mである。本跡はローム層と粘土層を掘り抜きさらに下まで掘り込んでいる。

覆土　堆積土層を半截して調査する過程で崩落したため図化できなかったが，大半がロームブロックを含んだ暗褐色・黒褐色の粘質土である。一挙に埋め戻したものと考えられる。

遺物　須恵器片１点が覆土中から出土している。混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，判断する出土遺物がないため，不明である。



第692図　第32号井戸跡実測図

第33号井戸跡（第693図）

位置　調査８区の南東部，O9d9区。

規模と形状　掘り方を確認しただけである。掘り方は漏斗状を呈している。確認面での平面形は径1.32mの円形で，上半は約0.35mの深さまで緩やかに狭まっていき，それ以下は径1.09mの円筒状に掘り込まれている。深さ２mまで掘り込んだところで湧水が著しくなり，それ以下の調査を打ち切った。

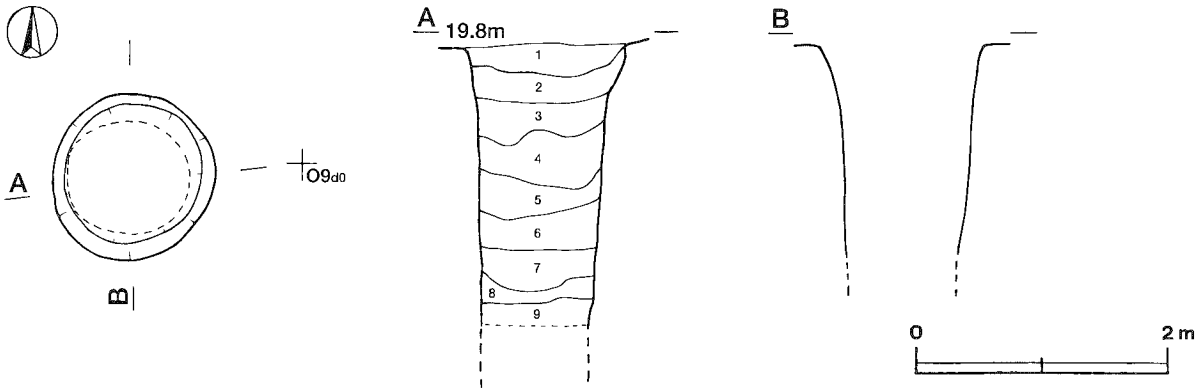
覆土　９層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，粘土小ブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，粘土中ブロック・粘土粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
6　極暗褐色　ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
7　黒褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・粘土小ブロック少量
8　極暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・粘土小ブロック少量
9　極暗褐色　ローム小ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片４点，礫１点が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，判断する出土遺物がないため，不明である。



第693図　第33号井戸跡実測図

表15　8区井戸跡一覧表

井戸番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係（古→新）
4	N9d2	N-12°-E	長方形	4.42×3.70	160	緩斜	—	自然	土師器片，須恵器片	
29	M9d0	N-82°-E	楕円形	1.80×1.45	(320)	急斜	—	人為・自然	土師器片，須恵器片，雲母片岩	
30	M8e9	N-19°-W	楕円形	9.55×6.81	(525)	急斜	—	人為	土師器（坏，甕），須恵器（坏，盤，甕，壺，瓶），灰釉陶器（手付瓶），鉄器（刀子・鏃），土製品，馬骨	S1 1426・1434→本跡
31	O8f0	N-13°-E	楕円形	1.47×1.26	356	急斜	平坦	人為	陶器（片口鉢），木製品	
32	O8e9	—	円形	1.12	196	急斜	平坦	人為	須恵器片	
33	O9d9	—	円形	1.32	(200)	急斜	—	自然	土師器片，礫	

(5)　道路状遺構

第5号道路状遺構（第694図，付図2・3）

位置　調査8区の北部。L9b9～L10c4区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も東部が平成9年度，西部が平成11年度と両年度にわたった。また，北半が現在生活道路として使用されているため調査区域外とされた部分に位置している。

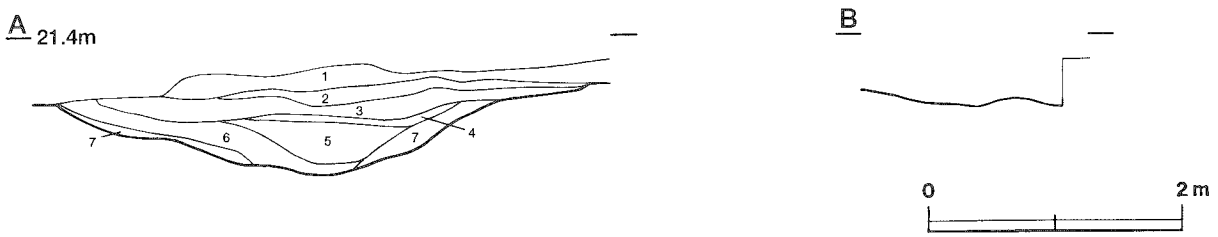
規模と形状　北西部が調査区域外に延びているため，全容は確認できなかった。確認できた規模は，長さは8mで，平成9年度調査分を含めて36mとなり，最大上幅は1.72mで，確認面からの深さは15cm程度である。形状は，北部に向かってゆるやかに下っている。北側の生活道路を状況確認のためトレンチ調査をしたところ，土層断面図中にみられる上幅7.0m，下幅1.5mで，生活道路面からの深さ1.7mの箱薬研状の溝状に堆積している土層が確認された。また，西部の先端はほぼ生活道路に沿って北西方向に延びていることが確認できた。

方向　L9b9区から西方向（N－85°－W）に，直線的に延びている。

覆土　7層に分層された。土層断面図中，第1～4層までは，硬くしまっている。第1層上面は現在の生活道路面である。第2・3層は，普請された土層と考えられる。第4～7層は，レンズ状に堆積しており，箱薬研状の溝が廃絶された後，埋没する段階で自然堆積した土層と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量。しまり強い。
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化物微量。しまり強い。
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・砂粒少量。しまり強い。
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。しまり強い。
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量。しまりやや強い。
6　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

所見　本跡は，土層断面図中，第5～7層の堆積状況から，箱薬研状の溝と考えられ，第4層が硬化していることから，その後，溝が埋没する段階で，道路として使用されたと思われる。時期は，本跡に直交している第35A・B号溝と形状は似ているが不明である。第3層上面は，南側の調査区内で確認された路面と一致しており，位置と形態から調査7区の第3号道路状遺構につながるものと考えられる。第3号道路状遺構の時期は，



第694図　第5号道路状遺構実測図

土師質土器内耳鍋が出土していることから，中世と考えられている。これらのことから，箱薬研状の溝は中世以前で，本跡は第３号道路状遺構とほぼ同時期と思われ，第１・２層は中世以降現代までの道路と考えられる。

９号道路状遺構（第695図，付図２・３）

位置　調査８区の東部。M10h4～N10b4区。東半が現在生活道路として使用されているとして調査区域外とされたため，全容は確認できなかったが，硬化面とその西側に側溝が検出された。南部のN10b4区以南は，平成８年度と平成10年度の調査区になるが，検出されておらず，南東部の調査区域外に延びていたものと推測される。

重複関係　第1422号住居跡，第16号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　確認できた規模は，長さが18.35m，幅が約90cmで，その内硬化面の幅が約75cmである。側溝は，幅16～55cmで，深さ30～50cmである。形状は硬化面がほぼ平坦で，側溝がU字形をしている。北端は東部の調査区域外に延びている。

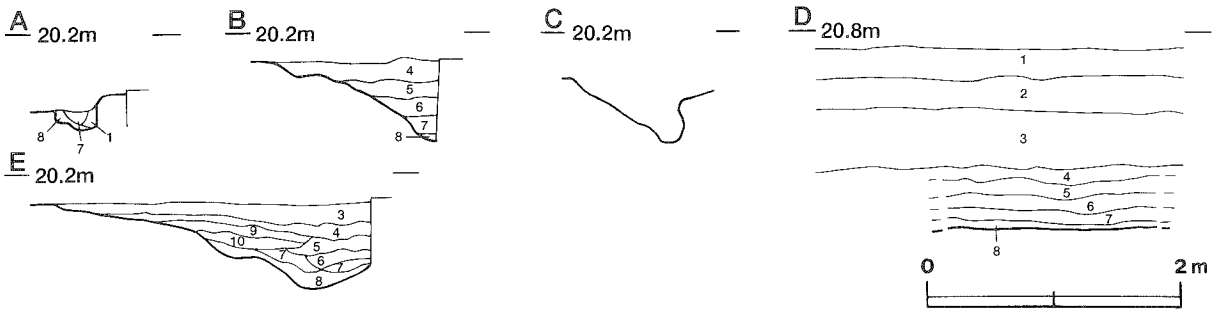
方向　N10c4区から北方向（N－７°－E）に，直線的に延びている。

覆土　10層に分層された。土層断面図中，第１～３層は自然堆積土層である。第４・５・９・10層は硬化していることから，路面の土層と考えられる。第６～８層は側溝の覆土で，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量。しまり強い。
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。しまり強い。
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量。しまり強い。
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量。しまり強い。
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物少量。しまり強い。
6　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
7　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック粒子少量。ややしまりあり。
10　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量。ややしまりあり。

遺物　陶器片２点，土師器片42点，須恵器片29点が出土している。陶器片は常滑系の甕の破片である。土師器片・須恵器片は混入したものと考えられる。いずれも細片であり，図示はできなかった。

所見　本跡の堆積状況からみて，土層断面図中の第６～８層が側溝に堆積した後，踏み固められた第５・10層が，次に第４・９層が堆積していることから，側溝が自然に埋没した後に，２期にわたって普請が行われたものと考えられる。このことから側溝が機能していた時期を含めて，３期にわたって使用されたと考えられる。側溝が機能していた時期の路面は，土層断面では確認されなかった。本跡は，位置と形態から調査７区の第２号道路状遺構につながる可能性がある。時期は，常滑系の陶器の甕片が側溝の覆土上層から出土しており，このことから第１期については中世と考えられる。



第695図　第９号道路状遺構実測図

表16　8区道路状遺構一覧表

道路状遺構番号	位置	方向	形状	規模（m）				硬化面	側溝	覆土	出土遺物	備考 重複関係
				確認長	上幅	側溝幅	側溝深さ					
5	L9b9～L10c4	東～西	直線状	(36.0)	(1.7)	－	－	平坦	－	自然		
9	M10h4～N10b4	北～南	直線状	(18.4)	(0.9)	0.16～0.55	0.30～0.50	平坦	U	自然	土師器片，須恵器片，陶器片	SI1442・SD16→本跡

(6)　方形竪穴状遺構

第20号方形竪穴状遺構［SK－874］（第696図）

位置　調査8区の南西部。O8e2区。

重複関係　周囲に第70号掘立柱建物跡の柱穴が存在している。切り合いはないが重複関係にある。

規模と平面形　長軸2.43m，短軸2.04mの隅丸長方形で，深さ66cmである。

長軸方向　N－0°

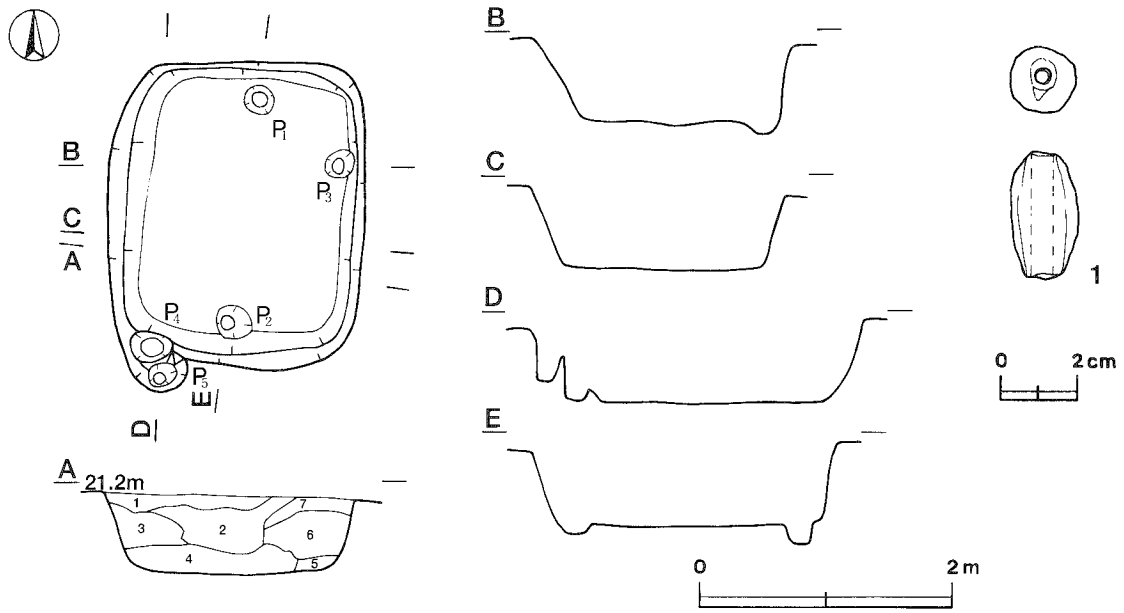
壁　外傾して立ち上がる。

底面　平坦であり，踏み固められた面は認められない。

ピット　5か所（P1～P5）。P1・P2はいずれも径25cmの円形で，深さ18cm・12cmであり，P1は北壁際の中央部，P2は南壁際の中央部にそれぞれ位置している。P3は径23cmの円形で，深さ8cmであり，東壁際の北部に位置している。P4・P5は径40cm・35cmの円形で，深さ60cm・40cmであり，南西コーナー部に位置している。それぞれのピットの性格は，P1・P2は位置的に柱穴の可能性があるが，その他は不明である。

覆土　7層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化物少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・炭化粒子少量
6　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
7　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量



第696図　第20号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図

遺物　土師器片２点，土製品１点（管状土錘）が出土している。第696図１の管状土錘が覆土中から出土している。土師器片・管状土錘はいずれも混入したものと思われる。土師器片は細片のため，図示はできなかった。

所見　本跡の時期及び性格については不明である。

第20号方形竪穴状遺構出土遺物観察表［ＳＫ874］

図版番号	器　種	計　測　値				特　徴	胎土・色調	備　考
		径（cm）	長さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）			
第696図１	管状土錘	1.8	3.4	0.5～0.7	8.9	円柱状，ナデ。	雲母・長石，明赤褐色	ＤＰ8440　ＰＬ280

第21号方形竪穴状遺構（第697図）

位置　調査８区の南東部，N9h0区。

規模と平面形　長軸3.96m，短軸2.54mの長方形である。

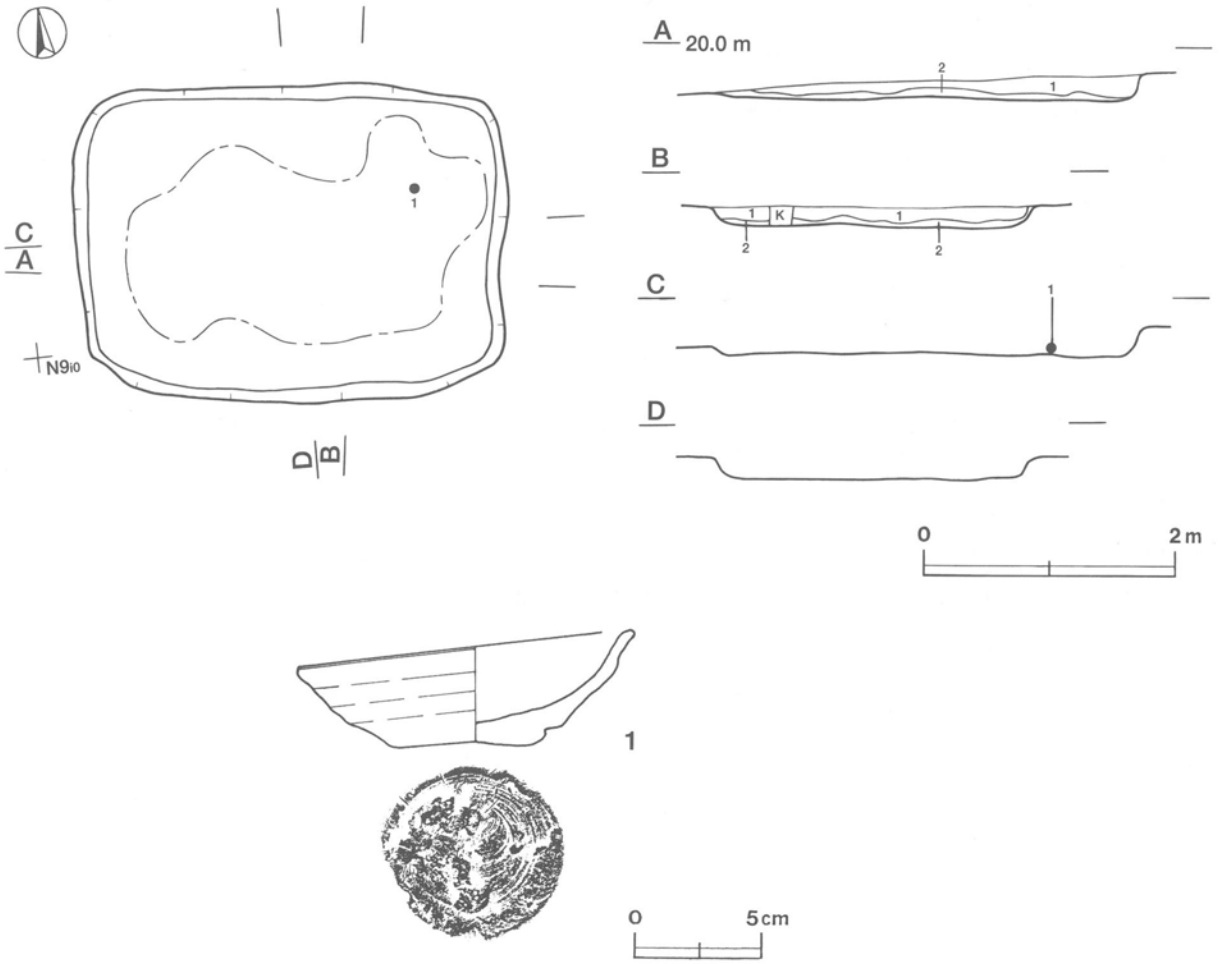
長軸方向　Ｎ－86°－Ｗ

壁　壁高は13～15cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

覆土　２層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量



第697図　第21号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図

遺物　土師器片47点，混入と思われる須恵器片6点が出土している。第697図1の土師器坏は北東部の覆土下層から逆位で出土している。

所見　本跡の時期は，判断する出土遺物が少なく限定することは難しいが，出土した土師器の形状から11世紀以降と考えられる。

第21号方形竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第697図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.5 C 6.8	体部・口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P8275 90% PL279

表17　8区方形竪穴状遺構一覧表

方形竪穴状遺構番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
20	O8e2	N-0°	隅丸長方形	2.43×2.04	66	直立	平坦	人為	土師器片，土製品(管状土錘)	SB70→本跡
21	N9h0	N-86°-W	長方形	3.96×2.54	5～18	外傾	平坦	自然	土師器(坏)	

(7)　土坑

ここでは，性格や形状に特徴のあるものを次のように分類した。

①火葬施設　②墓壙　③その他の土坑

以下，この分類に従って記載する。記載されなかった土坑については，一覧表に記載する。また，出土遺物については実測図と観察表でその一部を掲載する。

①　火葬施設

第847号土坑（第698図）

位置　調査8区の南東部，O9e0区。

規模と形状　楕円形を2つつないだような不整形で，全長は1.58mである。燃焼部は，長軸が主軸と直交する，長軸95cm，短軸49cmの楕円形で，深さ15cmである。壁面は外傾して立ち上がる。開口部は長軸が主軸と平行する，長軸102cm，短軸86cmの楕円形で，深さ22cmである。壁面は外傾して立ち上がる。通気溝は燃焼部と直交し，長さ75cm，上幅22～28cm，下幅17～20cmで，深さ24cmである。壁面は，燃焼部側は外傾して立ち上がり，開口部側は緩やかに外傾して立ち上がる。

主軸方向　N－85°－E

底面　開口部から燃焼部へ緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は，一部火熱を受け赤変している。燃焼部の両側に通気溝をはさんで雲母片岩が敷かれていた。

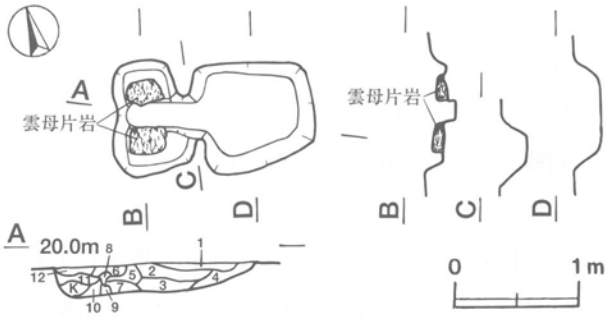
覆土　12層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。土層断面図中，第5・7・10・11層から火葬骨片が出土している。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
4　褐色　ローム粒子多量
5　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・火葬骨粉少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物中量，ローム粒子・炭化粒子・火葬骨粉少量
8　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量

9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
10　黒　褐　色　炭化粒子多量，炭化物中量，ローム粒子・焼土粒子・火葬骨粉少量
11　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・火葬骨粉少量
12　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　燃焼部から火葬骨片が出土している。

所見　本跡は，燃焼部及び通気溝の底面が一部火熱を受けて赤変しており，火葬骨片・炭化物等が出土していることから，火葬施設と考えられる。本跡の時期は，形状から中世と考えられる。



第698図　第847号土坑実測図

② 墓壙

第863号土坑（第699図）

位置　調査8区の南西部。O7c9区。

規模と平面形　径0.90ほどの円形で，深さ42cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

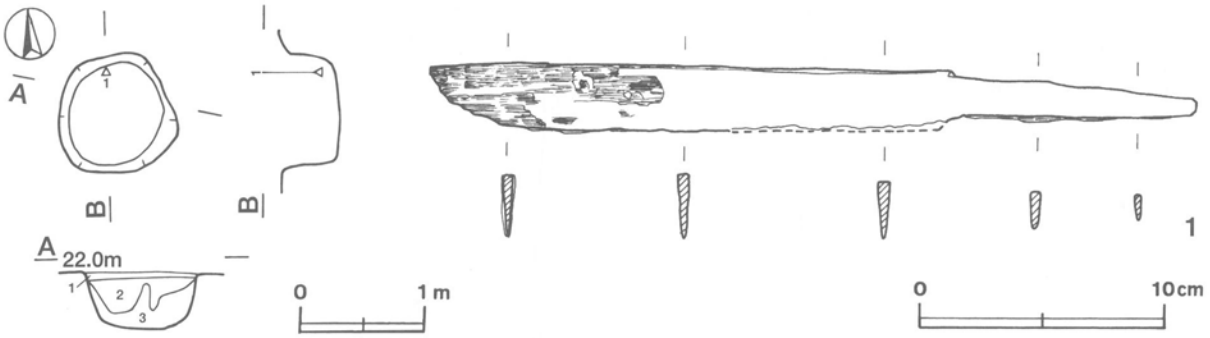
底面　ほぼ平坦であり，踏み固められた面は認められない。

覆土　3層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量

遺物　土師器片2点，鉄製品1点（小刀），人骨片（大腿骨の一部，骨片，骨粉）が出土している。第699図1の小刀，人骨片（大腿骨の一部）は，覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は不明であるが，性格は遺構の形状及び人骨片が出土していることから墓壙と考えられる。



第699図　第863号土坑・出土遺物実測図

第863号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値						材質	特　徴	備　考
		全長（cm）	刀身長（cm）	身幅（cm）	重ね（cm）	茎長（cm）	重量（g）			
第699図1	小　刀	30.6	20.7	(2.3)～2.8	0.5	9.9	(95.9)	鉄	両区あり，切先部に木質付着。	M8457　PL281

③　その他の土坑

第881号土坑（第700～702図）

位置　調査８区の南部，N9j5区。

重複関係　北部で第886号土坑を掘り込み，南東部が第887号土坑に掘り込まれている。

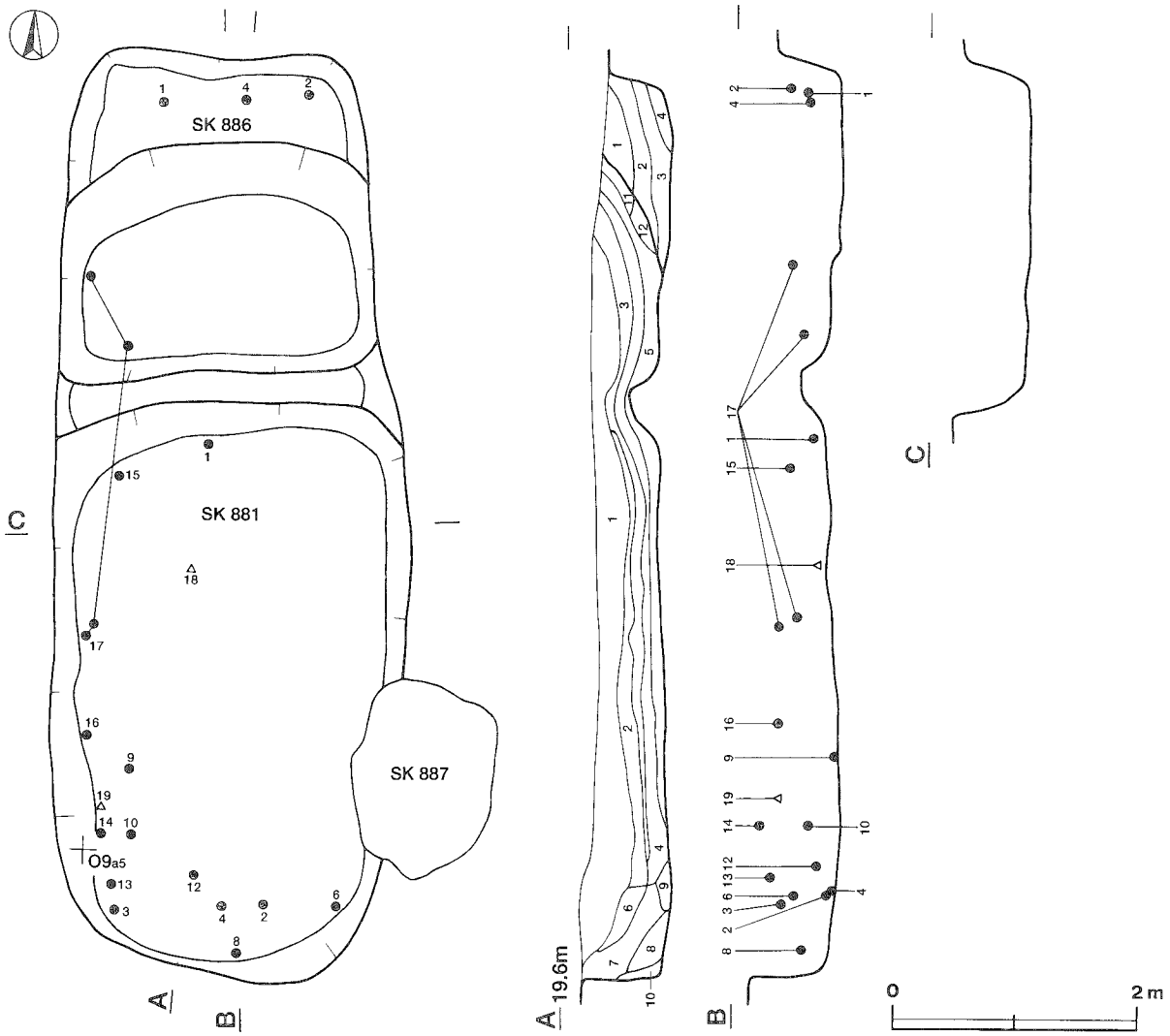
長軸方向　N－１°－E

規模と形状　長軸6.85m，短軸2.90mの隅丸長方形で，深さ50cmである。壁は外傾して立ち上がり，底面は凸凹である。中央部からやや北寄りの東壁から西壁にかけて，長軸と直交する上幅23～35cm，下幅60～88cm，高さ23cmの断面台形状の高まりを検出した。

覆土　12層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第２～５層からは灰が多量に出土している。覆土の堆積状況を見ると，北側から南側に向かって埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

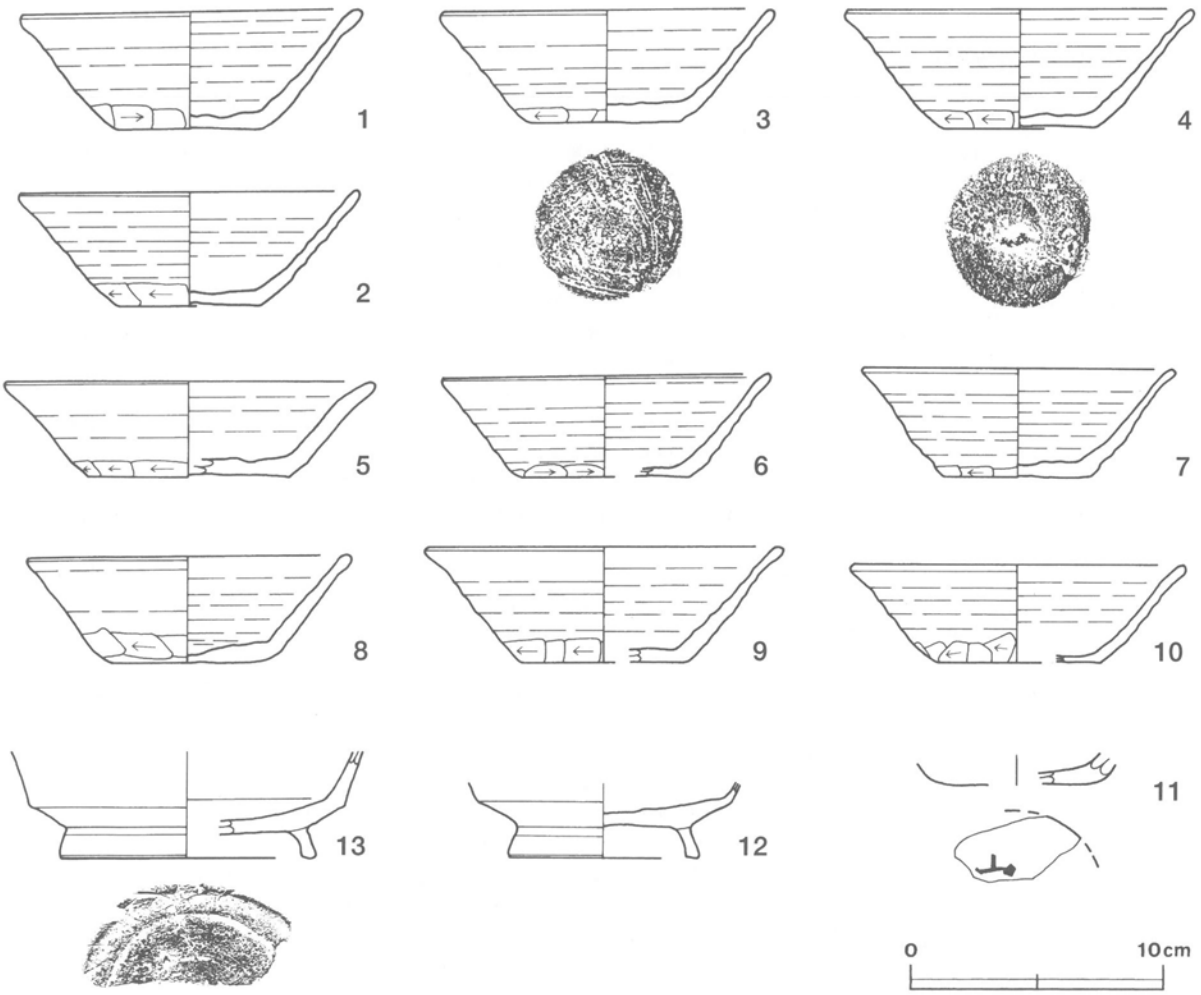
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰少量
2　灰褐色　灰中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
3　灰褐色　灰多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
4　灰褐色　灰多量，炭化物少量
5　褐灰色　灰多量，炭化物・粘土大ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量
6　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
8　黒褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
9　黒褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子少量
11　黒褐色　灰中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
12　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・灰少量



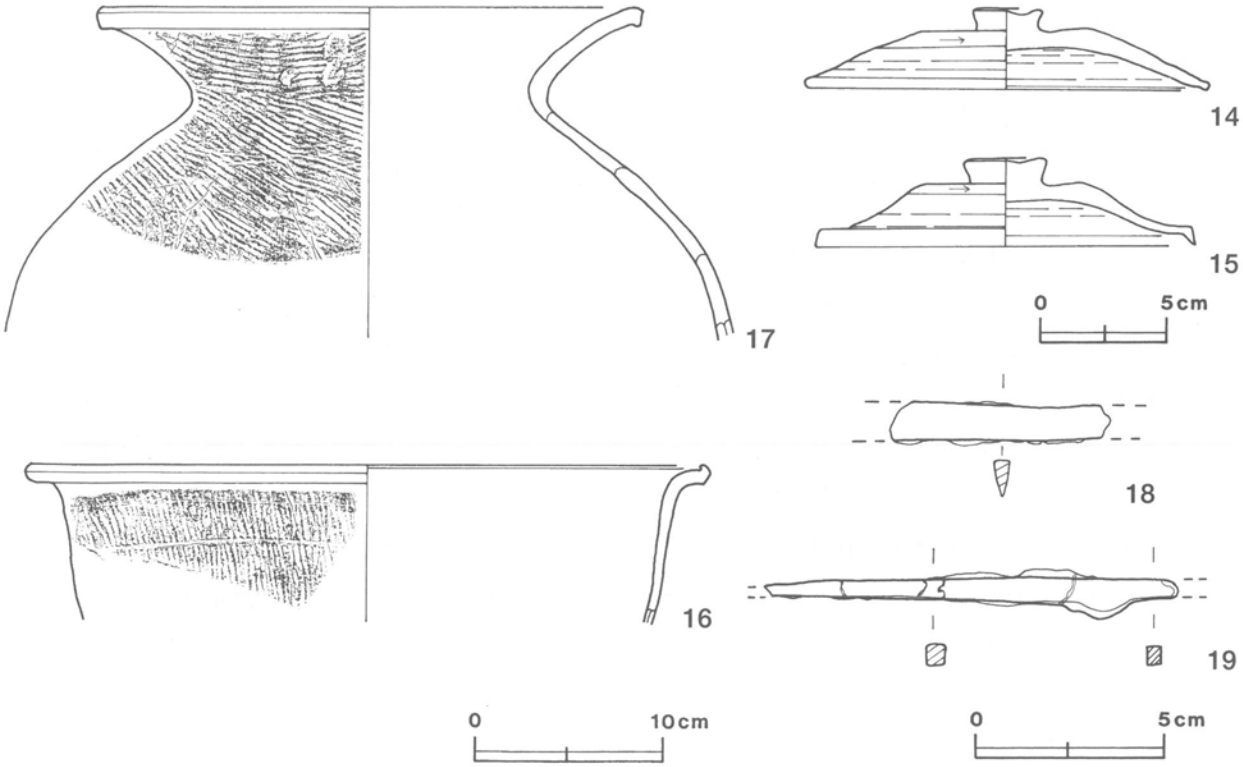
第700図　第881・886号土坑実測図

遺物　土師器片668点，須恵器片904点，鉄器・鉄製品２点（刀子・不明），鉄滓１点が出土している。第701・702図に示した土器はいずれも須恵器である。１～11は坏で，１は中央部の覆土下層から逆位で出土している。２は南部の覆土下層と覆土中から出土した破片が，３は南部の覆土中層から出土した破片数点が接合したものである。４は南部の底面と覆土中から出土した破片が，６は南東部の覆土中層と覆土中から出土した破片が接合したものである。８は南部の覆土中層から，10は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。９は，中央部から南西部寄りの底面から出土した破片である。５・７は，覆土中から出土している。11の底部片は，覆土中から出土している。外面に墨書されているが，判読不能である。12の高台付坏は南部の覆土下層から正位で，13の高台付坏は南西部の覆土上層から逆位で出土している。14の蓋は南西部の覆土上層から正位で，15の蓋は西部の覆土中層から逆位で出土している。16の鉢は南西部の覆土中層から正位で出土している。17の甕は北西部と西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。18の刀子は中央部の覆土下層から，19の不明鉄製品は南西部の覆土上層から出土している。

所見　遺物は，多量の土師器の甕体部片に混じって，須恵器の甕体部片や坏細片が出土している。そのほとんどが覆土下層から中層にかけて出土している。土器の出土状況や多量に検出された灰の堆積状況から，灰と土器は投棄された可能性が考えられる。性格は不明である。本跡の時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。灰は自然科学分析の結果，稲藁の灰であることが明らかになった。詳細は「付章」を参照されたい。



第701図　第881号土坑出土遺物実測図（１）



第702図　第881号土坑出土遺物実測図（2）

第881号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第701図 1	坏 須恵器	A 13.4 B 4.7 C 5.8	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英，暗灰色 普通	P80047 100% PL278
2	坏 須恵器	A 13.4 B 4.5 C 5.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P80048 50% PL277
3	坏 須恵器	A [13.0] B 4.4 C 5.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英，黄灰色 普通	P80049 50% PL278
4	坏 須恵器	A [13.8] B 4.7 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英，黄灰色 普通	P80050 50% PL278
5	坏 須恵器	A [14.6] B 3.8 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P80051 50% PL278
6	坏 須恵器	A [12.9] B 4.0 C [6.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P80052 40% PL278
7	坏 須恵器	A [12.2] B 4.4 C 5.9	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P80053 40% PL278
8	坏 須恵器	A [12.8] B 4.2 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P80054 35% PL278
9	坏 須恵器	A 14.0 B 4.6 C [6.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P80055 25% PL278

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第701図 10	坏 須恵器	A [13.1] B 3.9 C [6.5]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P80056 25%
11	坏 土師器	B (1.2) C [7.0]	底部片。	底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色，普通	P80057 5% 底部外面に墨書判読不能
12	高台付坏 須恵器	B (2.5) D 7.4 E 1.2	高台部から体部下端の破片。高台はハの字状に開く。体部下位に稜を有する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P80058 30% PL278
13	高台付坏 須恵器	B (4.3) D [10.0] E 1.3	高台部から体部下端の破片。高台は短くハの字状に開く。体部下位に稜を有する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P80059 15%
第702図 14	蓋 須恵器	A 15.8 B 3.2 F 2.3 G 0.7	完形。天井部は笠形で，腰高のボタン状のつまみが付く。口縁端部は屈曲し，短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P80060 100% PL277
15	蓋 須恵器	A [15.0] B 3.5 D 3.2 E 1.1	天井部から口縁部の破片。天井部は笠形で，腰高のボタン状のつまみが付く。口縁部に平坦面をもち，端部は屈曲し，短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P80061 75% PL277
16	鉢 須恵器	A [35.0] B (8.3)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で屈曲する。端部は上方へ突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き，横位のナデ痕有り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・灰色 普通	P80063 10% PL278
17	甕 須恵器	A [27.7] B (17.3)	体部から口縁部の破片。体部は大きく内傾・内彎し，頸部は強く屈曲して口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・灰色 普通	P80062 20% PL279

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	重量(g)			
第702図18	刀子	(5.8)	(5.8)	1.0	0.4	(5.8)	鉄	刀身部の破片。	M8227 PL282

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第702図19	不明	(11.0)	1.0	0.5	(14.2)	鉄	棒状。断面長方形。先端部欠損。	M8226

第886号土坑（第700・703図）

位置　調査8区の南部，N9j5区。

重複関係　南部を第881号土坑に掘り込まれている。

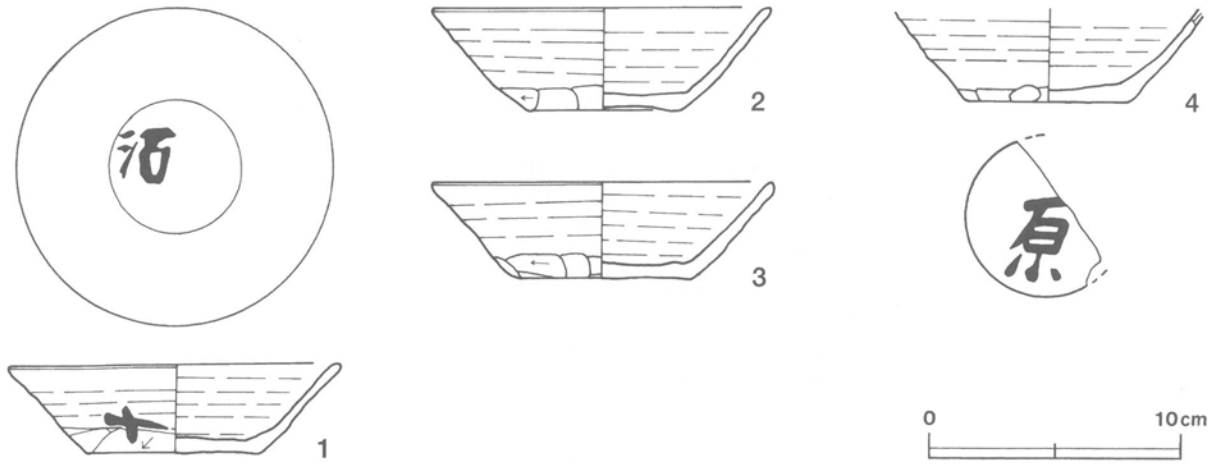
規模と形状　南部を第881号土坑に掘り込まれているため，全容は不明である。東西軸は2.43mで，南北軸は0.88mだけが確認できた。深さは54cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　4層からなる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
2　黒褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土小ブロック少量
3　黒褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土小ブロック少量，粘土大ブロック微量
4　黒褐色　粘土小ブロック多量，粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片52点，須恵器片77点が出土している。第703図に示した土器は，いずれも須恵器坏である。1は北部の覆土中層から逆位で出土している。体部外面に「ナヵ」，底部内面に「酒」と墨書されている。2は北東部の覆土中層から斜位で出土している。3は覆土中から出土している。4は北部の覆土中層から出土している。底部外面に「原」と墨書されている。

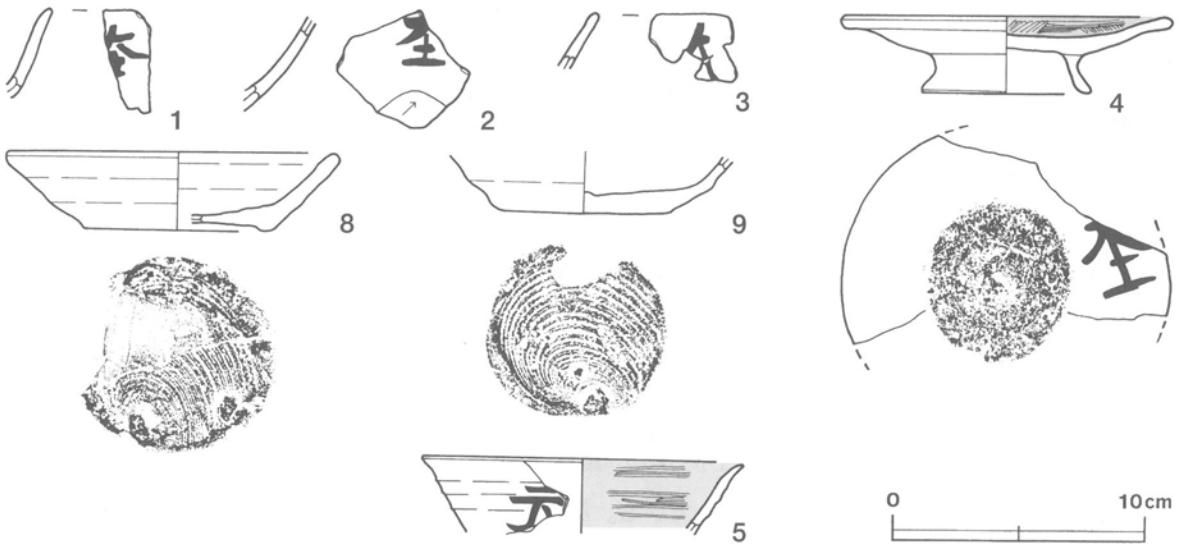
所見　本跡の時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



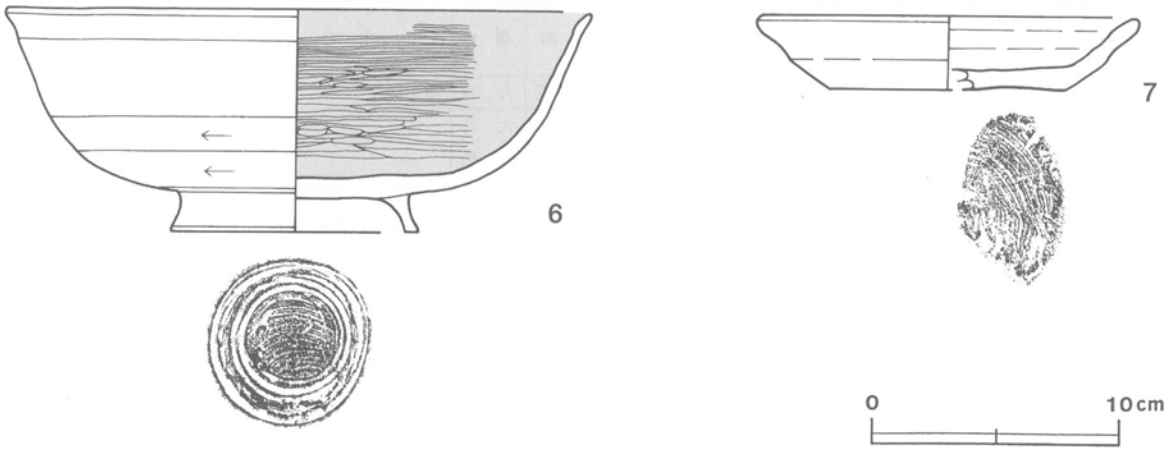
第703図　第886号土坑出土遺物実測図

第886号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第703図 1	坏 須恵器	A 13.0 B 3.7 C 6.7	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P80064　80% PL279 体部外面墨書「ナカ」 底部内面墨書「酒」
2	坏 須恵器	A 13.2 B 4.1 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P80065 80% PL278
3	坏 須恵器	A 13.4 B 3.9 C 6.9	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P80066 70% PL278
4	坏 須恵器	B（3.8） C［6.4］	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P80067 35% 底部外面墨書「原」



第704図　第857・860B・1026・1344号土坑出土遺物実測図



第705図　第856・1355号土坑出土遺物実測図

第856・857・860B・1026・1344・1355号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第704図 1	坏 土師器	B（2.9）	体部から口縁部の破片。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P80044 5% 体部外面墨書「空ヵ」 SK－860B
2	坏 土師器	B（4.7）	体部の破片。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	P80045 5% 体部外面墨書「空ヵ」 SK－860B
3	坏 土師器	B（2.8）	体部から口縁部の破片。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P80046 5% 体部外面墨書「空ヵ」 SK－860B
4	皿 土師器	A 12.8 B 3.0 D［6.6］ E 1.5	高台部から口縁部の破片。高台は底部外周にあり，「ハ」の字状に開く。体部は緩やかに外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P80069 40% PL279 体部外面墨書「空ヵ」 SK－1026
5	坏 土師器	A［12.8］ B（2.9）	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P8982 5% PL279，体部外面墨書「元カ」 SK－1344
第705図 6	高台付坏 土師器	A［23.2］ B 8.7 D 9.8 E 1.5	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。高台は内側にあり，「ハ」の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下半横位のヘラ削り，内面横位のヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P8983 40% PL279 SK－1355
第705図 7	坏 土師器	A［15.0］ B 2.9 C［9.4］	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 浅黄橙色 普通	P80041 40% PL277 SK－856
第704図 8	坏 土師器	A 12.9 B 3.1 C 7.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 浅黄橙色 普通	P80042 60% PL277 SK－857
9	坏 土師器	B（2.4） C 6.3	底部から体部下端の破片。平底。	体部外面下端ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 浅黄橙色，普通	P80043 40% SK－857

表18　8区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係（古→新）
690	M10e1	—	円形	0.74 × 0.71	77	直立	平坦	－	土師器片	
834	O10f1	N-55°-E	楕円形	0.98 × 0.80	24	外傾	平坦	人為		
835	O10f1	—	円形	0.90	40	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
836	O10f1	—	円形	1.25	44	外傾	平坦	人為		
837	O10e1	—	円形	1.15	30	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
838	O10e1	—	円形	1.15	38	外傾	傾斜	自然	土師器片，須恵器片	
839	O9e0	—	円形	1.50	16	緩斜	凹凸	人為	土師器片，須恵器片	

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径（軸）×短径（軸）（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係（古→新）
840	O9g0	—	円形	1.25	10	緩斜	平坦	人為	須恵器片	
841	O9f0	N-58°-E	楕円形	0.96 × 0.76	24	外傾	平坦	人為		
842	O9f0	—	円形	0.70	12	緩斜	皿状	自然		
844	O9f0	N-47°-E	[楕円形]	[1.62]× 1.34	50	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	SK845→本跡
845	O9f0	N-50°-E	楕円形	1.26 × 1.04	26	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	本跡→SK844
846	O9e0	N-57°-E	楕円形	1.20 × 1.02	24	緩斜	皿状	自然	土師器片	
847	O9e0	N-85°-E	不整形	1.58 × 0.49	24	緩斜	凹凸	人為	土師器片，須恵器片，骨片	火葬施設
848	O9c8	—	円形	0.70	24	外傾	皿状	人為	土師器片，須恵器片	
850	N10i2	N-80°-E	楕円形	2.00 × 1.68	45	外傾	平坦	自然	土師器片，須恵器片	SI1201→本跡
851	O9b8	N-88°-W	楕円形	0.78 × 0.66	48	外傾	平坦	人為		SI1209→本跡→SK851
852	N10j2	N-4°-W	[楕円形]	1.55 ×[1.25]	50	外傾	平坦	自然		SI1202→本跡
853	N9g9	N-70°-E	楕円形	1.90 × 1.52	10～56	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
854	N9g9	N-10°-E	隅丸方形	1.24 × 1.12	30	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
855	N10j2	N-20°-W	[楕円形]	[1.50]×[1.20]	33	外傾	平坦	自然		SI1201→本跡
856	O10b1	N-13°-E	楕円形	2.60 × 2.30	44～64	外傾	平坦	－	土師器（坏）	SI1205→本跡
857	O10b2	—	円形	1.60	57	外傾	平坦	自然	土師器（坏），須恵器片	SI1204・1205→本跡
858	N10i3	N-80°-E	楕円形	0.97 × 0.74	13	外傾	平坦	人為		SI1201→本跡
859	N10j3	N-17°-W	楕円形	0.73 × 0.61	30・38	外傾	凹凸	人為		SI1202→本跡
860A	O7a0	—	円形	0.70	36	直立	皿状	人為		
860B	O7a0	—	円形	1.06 × 0.98	46～66	外傾	傾斜	人為	土師器（坏），須恵器片	
861	O7a0	N-39°-W	楕円形	1.22 × 0.80	44～54	外傾	凹凸	人為	土師器片，須恵器片	
862	O7b9	—	円形	0.80	20	緩斜	平坦	人為		
863	O7c9	—	円形	0.90	42	外傾	平坦	人為	土師器片，鉄製品，人骨片	墓坑
864	O7c9	—	円形	1.05	27	緩斜	皿状	自然	土師器片	
865	O7b9	N-26°-E	楕円形	1.08 × 0.90	30	緩斜	皿状	人為	土師器片	
866	O7c9	N-39°-E	楕円形	1.30 × 0.88	42	緩斜	凹凸	人為		
867	O7c8	N-15°-E	[方形]	[0.88]× 0.84	20	緩斜	皿状	人為	須恵器片	本跡→SK868
868	O7c8	N-10°-W	楕円形	1.14 × 1.00	24	緩斜	皿状	人為	土師器片，須恵器片	SK867→本跡
869	O7d8	—	円形	0.85	18	緩斜	皿状	人為		
870	O7d8	N-48°-W	円形	1.00	16～28	緩斜	傾斜	人為	土師器片，須恵器片	
871	O7e8	—	円形	0.75	12～24	緩斜	皿状	人為	土師器片	
872	O8g3	N-13°-E	不整楕円形	2.08 × 1.32	46～52	緩斜	凹凸	人為		
881	N9j5	N-1°-E	隅丸長方形	6.85 × 2.90	50	外傾	平坦	人為	土師器（坏・高台付坏・甕），須恵器（坏・高台付坏・蓋・鉢・甕）	SK886→本跡→SK887
882	O8c5	N-7°-W	楕円形	1.90 × 1.48	16	緩斜	平坦	自然	土師器片，須恵器片	SI1227・SI1234→本跡
884	N9j4	N-4°-W	隅丸長方形	3.62 × 1.98	45	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	本跡→SI1210
885	N9i4	—	円形	1.25	40～55	外傾	傾斜	人為		本跡→SI1210
886	N9i5	N-1°-E	（隅丸方形）	2.43 ×(0.88)	54	外傾	人為	自然	土師器片，須恵器（坏・蓋・甕）	本跡→SK881
887	N9j5	N-6°-E	不定形	1.60 × 1.20	65～90	直立	凹凸	人為		SK881→本跡
888	N9g4	N-82°-W	円形	0.90	59	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
889	N9g2	N-65°-W	隅丸方形	0.82 × 0.80	22	外傾	平坦	人為		
890	N9g2	—	円形	0.65	14～24	外傾	傾斜	人為		
891	N9g2	—	円形	0.75	20	外傾	平坦	人為		
892	N9g2	—	円形	0.75	20	外傾	平坦	人為		
893	N9f2	—	円形	0.65	24	外傾	平坦	人為		
894	N9f3	N-12°-W	方形	0.65	27	外傾	平坦	人為		
895	N9f3	—	円形	0.70	20	外傾	平坦	人為		
896	N9f3	—	円形	0.65	23～33	外傾	傾斜	人為		
897	N9f3	N-47°-W	方形	0.80	18・40	外傾	平坦	人為		
898	N9g3	—	円形	0.73	18～25	外傾	傾斜	人為		
899	N9g3	—	円形	0.70	14～28	外傾	傾斜	人為		
980	O9c8	—	円形	1.10	38	外傾	平坦	人為	須恵器片	
981	O9b8	N-18°-W	楕円形	0.79 × 0.62	12～19	外傾	傾斜	人為		
982	O9c9	N-70°-E	楕円形	0.80 × 0.66	10・20	外傾	凹凸	自然		

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径（軸）×短径（軸）（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係（古→新）
983	O9c0	N-5°-E	楕円形	0.80 × 0.70	28	外傾	平坦	自然		
984	O10b1	N-45°-W	楕円形	1.90 × 1.58	40	外傾	平坦	人為	土師器片	SI1203→本跡
985	O9e7	—	円形	0.95	20	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
986	O9b9	N-77°-E	楕円形	1.25 × 0.65	46	緩斜	凹凸	人為		
987	O9a9	—	円形	0.90	23～33	外傾	傾斜	人為		
988	O9a9	N-22°-W	楕円形	1.02 × 0.65	30	外傾	凹凸	人為		
989	O9a9	N-67°-W	楕円形	1.00	40	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
990	O9a9	—	円形	0.75	30	外傾	平坦	人為		
991	O9b0	N-75°-E	楕円形	0.78 × 0.66	27	外傾	平坦	自然		
992	O9a0	—	円形	0.40	58	外傾	平坦	人為		
993	O9a0	N-78°-W	楕円形	0.56 × 0.43	33	外傾	凹凸	人為		
994	N9j0	N-6°-W	楕円形	1.10 × 0.93	27	外傾	平坦	自然	土師器片	
995	N9j0	N-43°-E	楕円形	1.30 × 1.18	18	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
996	N9j9	N-62°-W	楕円形	1.02 × 0.66	32	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
997	N9j9	N-53°-E	楕円形	1.48 × 1.32	22	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
998	N9j8	—	円形	1.45	50	外傾	平坦	人為	土師器片	
999	N9h7	N-67°-E	楕円形	1.00	18	外傾	平坦	人為	土師器片	
1000	N9g7	N-0°	楕円形	1.64 × 1.45	12	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
1001	N9g7	N-76°-W	不整楕円形	0.85 × 0.78	20	外傾	凹凸	人為		
1002	N9g7	N-88°-W	楕円形	1.18 × 0.60	30	外傾	平坦	人為		
1003	N9f7	N-70°-W	不定形	1.08 × 1.03	35	外傾	凹凸	人為	土師器片	
1004	N9f8	N-0°-W	隅丸長方形	1.56 × 1.48	15	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
1005	N9g9	N-7°-W	楕円形	0.90 × 0.75	13	外傾	平坦	人為		
1006	N9g0	N-0°	楕円形	0.98 × 0.85	38	外傾	平坦	人為		
1007	N10g1	N-7°-E	楕円形	0.69 × 0.60	21	外傾	平坦	自然		
1008	N9f5	—	円形	1.10	14	外傾	平坦	人為	土師器片	
1009	N9g2	N-44°-W	楕円形	1.33 × 0.90	23・45	外傾	平坦	人為		
1010	N9g2	N-12°-E	楕円形	1.25 × 0.97	23・50	外傾	平坦	人為		
1011	N9f1	N-30°-W	楕円形	1.35 × 0.90	25・38	外傾	平坦	人為		
1012	N9e2	N-35°-E	楕円形	1.20 × 0.95	23・54	外傾	平坦	人為		
1013	N9f2	—	円形	0.65	23	外傾	平坦	人為		
1014	N9f4	N-15°-E	隅丸方形	0.75	26	外傾	平坦	人為		
1015	N9f4	N-44°-E	隅丸方形	0.75	15	外傾	平坦	人為		
1016	N9f4	N-8°-E	隅丸方形	0.55	23	外傾	皿状	人為		
1017	N9g4	N-88°-W	隅丸長方形	0.80 × 0.72	23	外傾	平坦	人為		
1018	N9g5	N-5°-E	隅丸長方形	0.83 × 0.70	17	外傾	平坦	人為	須恵器片	
1019	N9f5	N-85°-E	隅丸方形	0.60	18	外傾	平坦	人為		
1020	N9f1	N-2°-E	楕円形	1.33 × 1.12	53	外傾	平坦	人為		
1021	N9g1	N-58°-W	楕円形	1.54 × 1.36	58	外傾	凹凸	人為	土師器片	
1022	N9g1	—	円形	1.45 × 1.33	56	外傾	凹凸	人為	土師器片	
1023	N9h1	N-13°-E	楕円形	1.10 × 0.93	27	外傾	平坦	人為	土師器片	
1024	N7j9	N-15°-E	不定形	1.04 × 0.40	15～70	直立	凹凸	人為	土師器片，須恵器片	
1025	N7j0	N-57°-W	不定形	1.30 × 0.65	29	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
1026	N7j0	N-3°-E	楕円形	1.21 × 0.90	42	外傾	平坦	人為	土師器（坏），須恵器片	
1027	N7i0	N-74°-E	楕円形	1.13 × 0.93	37	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
1028	N7i0	N-25°-E	不定形	1.50 × 0.73	30	外傾	平坦	人為	土師器片	
1029	N7i0	N-85°-W	不定形	1.80 × 1.37	45	外傾	平坦	人為	土師器片	
1030	N7i0	—	円形	0.75	32	外傾	平坦	人為		
1031	N7h0	N-35°-E	不整楕円形	1.15 × 0.83	43	外傾	凹凸	人為	土師器片，須恵器片	
1032	N7h0	—	円形	1.10	30	外傾	凹凸	人為	土師器片，須恵器片	
1033	N7g0	N-70°-E	楕円形	0.93 × 0.60	62	外傾	平坦	人為	土師器片	
1034	N8g1	N-61°-E	不定形	0.96 × 0.41	45	外傾	皿状	自然	土師器片	
1035	N8g1	—	円形	0.80	82	外傾	皿状	自然	土師器片	

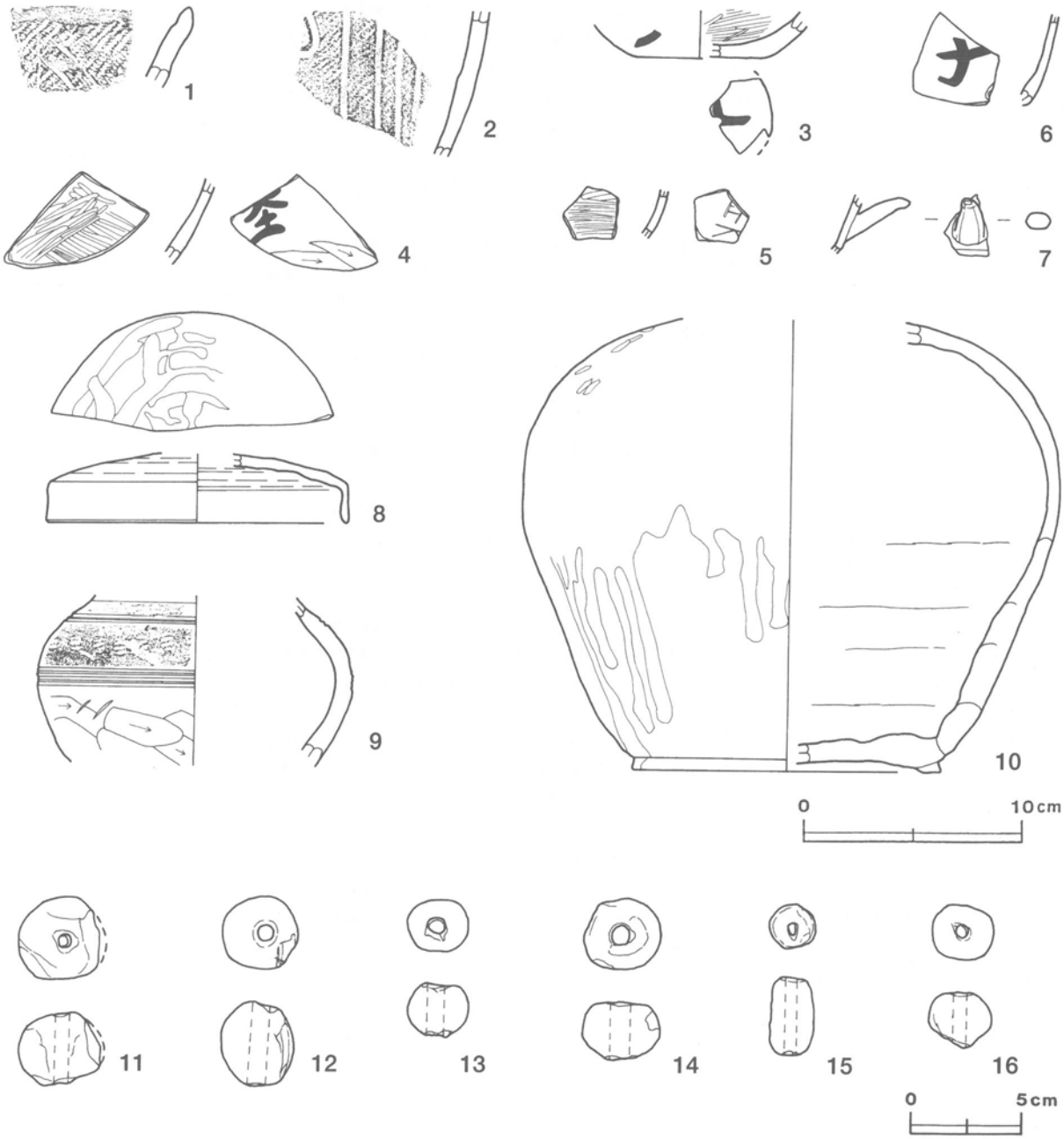
土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係（古→新）
1036	N8g2	—	円形	0.50	54	外傾	皿状	自然	土師器片	
1039	N8f0	N-15°-E	楕円形	0.84 × 0.70	45	外傾	皿状	人為		
1040	N8e0	—	円形	0.65	35	外傾	皿状	人為		
1041	N8g0	—	(円形)	0.98 ×(0.72)	30	外傾	皿状	人為	須恵器片	本跡→SK1042
1042	N8g0	N-35°-E	楕円形	1.24 × 1.10	52	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	SK1041→本跡
1043	O8b2	—	円形	0.65	18～55	外傾	凹凸	人為		SI1225→本跡
1044	O8c1	—	円形	0.50	43～58	外傾	凹凸	人為		
1045	O8b1	N-2°-E	楕円形	0.76 × 0.64	12～18	外傾	皿状	人為	土師器片	
1046A	O8c1	—	楕円形	1.10 × 0.95	16～42	緩斜	凹凸	人為	土師器片，須恵器片	SK1046B→本跡
1046B	O8c1	—	(円形)	(1.03)× 0.95	15～40	緩斜	凹凸	人為	土師器片，須恵器片	本跡→SK1046A
1047	O8b1	—	円形	0.65	17～56	外傾	凹凸	人為	土師器片	
1048	O8b1	N-81°-W	楕円形	0.52 × 0.45	66	外傾	平坦	人為		SI1233→本跡
1049	O7d8	N-7°-E	楕円形	0.85 × 0.70	17	緩斜	皿状	人為		
1050	O7d8	—	円形	1.10	31	緩斜	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
1051	O7d0	N-13°-E	楕円形	1.05 × 0.95	47	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
1052	O7c0	N-10°-E	楕円形	1.04 × 0.83	45	直立	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
1053	O7b0	—	円形	0.35	37	直立	平坦	人為		
1054	O7b0	—	円形	1.05	37～47	外傾	傾斜	人為	土師器片，須恵器片	SI1223→本跡
1055	O7b0	N-63°-W	楕円形	0.68 × 0.54	30	緩斜	平坦	人為		
1056	O7b9	—	円形	0.55	33	緩斜	平坦	人為		
1057	O8e5	N-35°-W	楕円形	1.03 × 0.88	24	緩斜	平坦	人為		SI1237→本跡
1058	O8c4	—	円形	0.65	113	直立	平坦	人為		
1059	O8e5	N-10°-W	楕円形	0.57 × 0.45	54	外傾	平坦	人為		
1060	O8d5	—	円形	0.65	48	外傾	平坦	人為		
1061	O8d4	—	円形	0.27	42	外傾	平坦	人為		
1062	O8d4	—	円形	0.43	48	外傾	平坦	人為		
1063	O8d4	N-26°-E	楕円形	0.62 × 0.52	15～42	外傾	平坦	人為		
1064	O8d4	N-6°-E	不整楕円形	0.82 × 0.56	16～70	外傾	平坦	人為		
1065	O8c4	—	円形	0.55	100	外傾	平坦	人為		
1066	O8c4	—	円形	0.50	37	外傾	平坦	人為		
1067	O8c4	—	円形	0.50	33～35	外傾	凹凸	人為	土師器片	
1068	O8d4	—	円形	0.45	27～35	外傾	凹凸	人為		
1069	O8b6	N-13°-E	楕円形	0.85 × 0.70	20～38	緩斜	凹凸	人為		
1070	O8a5	N-10°-W	楕円形	0.65 × 0.58	34	緩斜	平坦	自然	土師器片	SI1243→SB102→本跡
1071	N8j5	—	円形	0.80	19～29	外傾	凹凸	人為		SI1235→本跡
1072	N8j6	—	円形	0.68	36～45	外傾	凹凸	人為		
1073	N8i6	N-18°-E	楕円形	1.16 × 0.85	36～56	外傾	平坦	人為		
1074	N8i6	N-69°-W	楕円形	0.83 × 0.62	12～42	外傾	皿状	人為		
1075	N8h6	—	円形	0.90	48	外傾	皿状	人為		
1076	N8h6	—	円形	0.90	58	外傾	凹凸	人為		
1077	N8h7	N-41°-E	楕円形	0.57 × 0.45	25	外傾	皿状	人為		
1078	N8i7	N-13°-W	楕円形	0.69 × 0.56	24	外傾	皿状	人為		
1079	N8i7	—	円形	0.50	30	垂直	平坦	人為		
1080	N8j8	—	円形	0.95	30	外傾	平坦	人為		
1081	N8i7	—	円形	0.77	25	外傾	平坦	人為		
1082	N8h8	—	円形	0.73	32	外傾	平坦	人為		
1083	N8j5	N-1°-W	不定形	1.64 × 1.20	30	外傾	平坦	—	土師器片	SI1235→本跡
1084	N8j5	N-83°-W	楕円形	0.84 × 0.73	41	外傾	平坦	—	土師器片	
1085	N8f9	N-47°-W	不整楕円形	1.42 × 1.30	34～47	外傾	皿状	人為		
1086	N8f9	N-37°-E	楕円形	1.15 × 0.95	27～53	外傾	平坦	人為		
1087	N8e8	N-18°-E	楕円形	0.85 × 0.65	20	外傾	凹凸	人為		
1088	N8e9	N-9°-W	楕円形	1.10 × 0.75	35～40	外傾	平坦	人為		
1089A	N8e7	N-75°-E	[楕円形]	[0.95]× 0.70	33	垂直緩斜	皿状	自然	土師器片，須恵器片	

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径（軸）×短径（軸）(m)	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係（古→新）
1089B	N8e7	N-3°-E	[楕円形]	0.88×[0.55]	29～46	緩斜	凹凸	人為	土師器片，須恵器片	
1090	N8e7	—	円形	0.80	43	緩斜	皿状	人為		
1091	N8e6	N-34°-W	楕円形	0.80×0.70	22	緩斜	皿状	自然		
1092	N8e6	N-60°-W	楕円形	0.65×0.45	28	緩斜	皿状	自然		
1093	N8e5	—	円形	0.40	16	緩斜	皿状	自然	土師器片	
1094	N8f6	N-90°-W	楕円形	0.57×0.42	18	垂直	平坦	人為		
1095	N8f6	N-90°-W	楕円形	0.74×0.58	20～28	外傾	皿状	人為		
1096	N8g6	N-8°-E	楕円形	0.65×0.44	22	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
1097	N8g6	—	円形	0.55	17	緩斜	皿状	自然		
1098	N8h6	N-35°-E	楕円形	0.85×0.65	25	緩斜	皿状	自然		
1099	N8h5	N-54°-W	隅丸長方形	0.74×0.64	20	外傾	皿状	自然		
1256	N8g5	—	円形	0.45	30	外傾	皿状	自然		
1257	N8h5	N-50°-W	楕円形	0.65×0.47	15	外傾	平坦	自然		
1258	N8g4	—	円形	0.38	28	外傾	皿状	自然		
1259	N8f3	N-18°-W	楕円形	1.07×0.87	18・23	外傾	平坦	自然	土師器片，須恵器片	
1260	O9b2	N-90°-W	楕円形	0.93×0.82	28	外傾	皿状	人為	土師器片，須恵器片	
1261	O9b2	—	円形	0.75	15	外傾	皿状	自然	土師器片，須恵器片	
1262	O9b2	N-0°	楕円形	0.80×0.58	15	外傾	皿状	人為	土師器片，須恵器片	
1263	O9c2	—	円形	0.70	38	外傾	皿状	人為		
1264	O9e1	N-3°-W	方形	0.60	30	外傾	凹凸	人為		本跡→SI1239
1265	O9d1	N-82°-W	楕円形	0.76×0.65	35・45	外傾	平坦	人為		
1266	O8d0	—	円形	0.74	30	外傾	平坦	自然		
1267	O8b0	N-90°-W	隅丸長方形	0.92×0.70	45	外傾	平坦	人為	土師器片	
1268	O8b0	—	円形	0.75	19	外傾	皿状	自然	土師器片，須恵器片	
1269	O9a1	N-71°-W	楕円形	1.18×0.84	50	外傾	平坦	自然	土師器片，須恵器片	
1270	O9a1	N-74°-W	楕円形	0.57×0.49	19	外傾	皿状	自然		
1271	O8b8	—	円形	0.82	73	垂直	平坦	人為	土師器片	
1272	O8b8	—	円形	0.75	58	垂直	平坦	人為		
1273	O8b8	—	円形	0.58	45	垂直	平坦	人為	土師器片	
1282	O9f4	N-87°-E	[楕円形]	3.53×(2.75)	175	外傾	平坦	自然	土師器片，須恵器片	
1331	L9i3	N-6°-E	楕円形	1.53×1.34	38	緩斜	皿状	人為	土師器片，須恵器片	
1332	L8i9	N-80°-W	楕円形	0.74×0.60	15	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1333	L8i9	N-82°-W	楕円形	0.66×0.55	15～20	外傾	皿状	人為		
1334	L8i8	N-82°-W	楕円形	0.75×0.65	15	外傾	平坦	人為	土師器片	
1336A	L9i6	—	円形	1.30	14～22	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1336B	L9i6	N-0°	楕円形	[0.65]×[0.55]	9～15	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1337	M9f8	N-79°-W	楕円形	0.72×0.61	35	外傾	凹凸	人為	土師器片，須恵器片	
1338	M9f8	N-74°-W	楕円形	1.24×0.70	28～70	外傾	傾斜	人為	土師器片，須恵器片	
1339	M9f8	N-85°-W	楕円形	0.80×0.68	17	緩斜	平坦	人為		
1340	M8c9	N-38°-W	隅丸長方形	1.53×0.83	28～58	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	SI926→本跡
1341	M8i3	—	不明	1.53×(0.94)	20～30	緩斜	凹凸	自然	土師器片，須恵器片	
1343	N9a5	N-45°-W	楕円形	1.43×1.15	23～30	外傾	凹凸	人為	須恵器片	
1344	M8j0	—	円形	1.26×1.13	23	外傾	平坦	人為	土師器（坏），須恵器片	
1345	N10a1	N-7°-E	楕円形	1.95×1.62	48～73	外傾	凹凸	人為	土師器片	
1346	M10h1	N-39°-E	楕円形	1.20×1.07	26～32	外傾	平坦	自然	土師器片，須恵器片	
1347	M8c0	N-30°-W	楕円形	1.42×0.92	30	外傾	凹凸	－	土師器片，須恵器片	SI1405→本跡
1348	M9h3	N-20°-E	楕円形	1.26×0.90	20～42	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
1349	M9h2	N-12°-E	楕円形	1.13×1.00	27	外傾	緩斜	人為	土師器片	
1350	M9h2	—	円形	1.13×1.06	23～68	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
1351	M10i2	—	円形	1.35	43	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片，陶器片	SI1442→本跡
1354	M9g1	—	円形	0.75×0.70	(23)	外傾	平坦	人為		SK1355→SD84A→本跡
1355	M9h1	N-37°-W	長方形	3.00×2.30	17	外傾	平坦	－	土師器（高台付坏）	本跡→SD84A→SK1354
1357	M9e3	N-25°-W	楕円形	1.51×1.16	25	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI1430→本跡

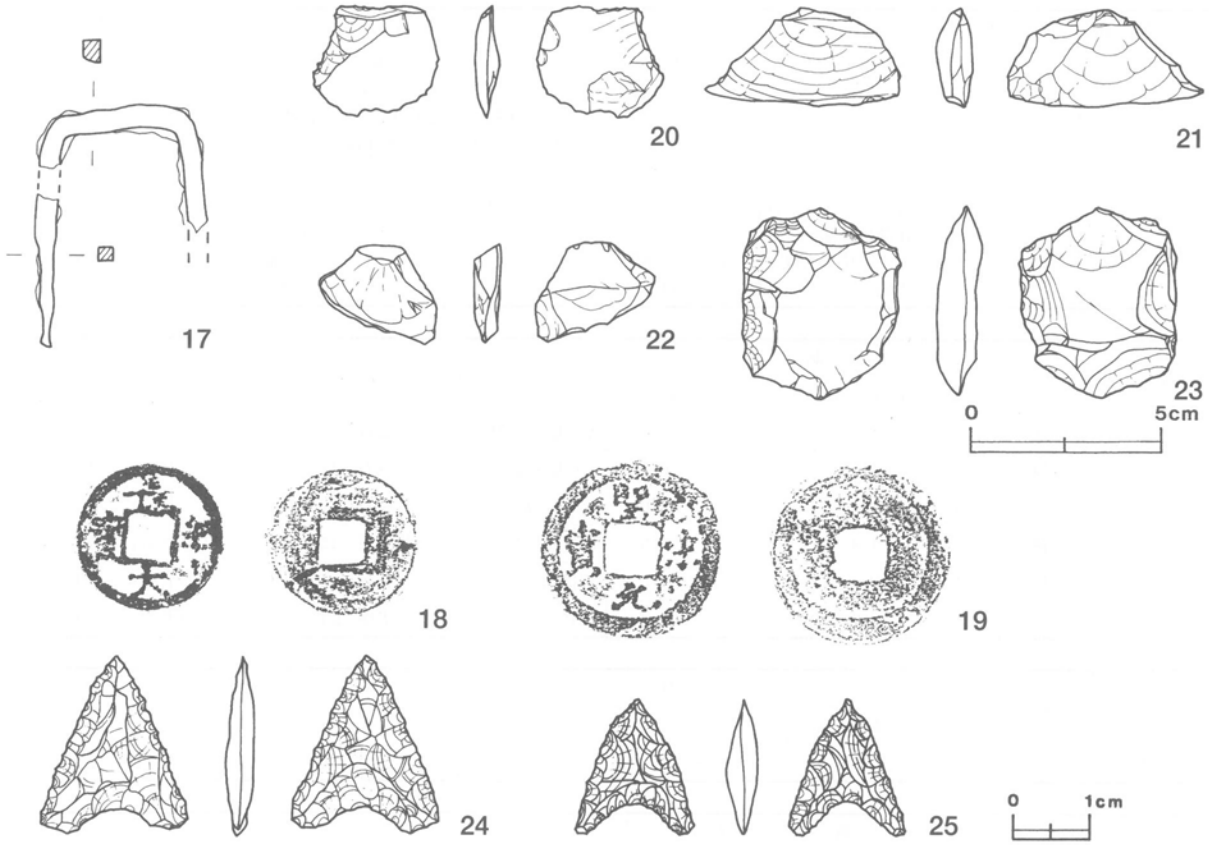
土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径（軸）×短径（軸）（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係（古→新）
1358	M9f3	N-38°-E	楕円形	1.66 × 1.25	28～32	緩斜	平坦	人為		SI1430→本跡
1359	M8d6	N-11°-E	隅丸長方形	1.14 × 0.75	7～10	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1360	M8d7	N-16°-E	隅丸長方形	1.05 × 0.71	14	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1361	M10a2	N-90°	隅丸長方形	1.13 × 0.88	80	外傾	平坦	人為		
1363	M8f0	N-68°-W	不整楕円形	1.32 × 0.93	27	緩斜	平坦	人為	土師器片，須恵器片	SI1428→本跡
1365	M9j0	—	円形	1.32	23	緩斜	平坦	人為	土師器片，須恵器片	

(8) 遺構外出土遺物（第706・707図）

今回の調査で，遺構に伴わない旧石器時代から中世にかけての遺物が出土している。ここでは，これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。



第706図　8区遺構外出土遺物実測図（1）



第707図　8区遺構外出土遺物実測図（2）

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第706図 1	深鉢形土器 縄文土器	B（3.8）	口縁部の破片。LRの単節縄文を地文に，沈線が施されている。	小礫・長石・赤色粒子 にぶい黄褐色，普通	TP8433　PL279 縄文時代後期前葉　堀ノ内Ⅰ式
2	深鉢形土器 縄文土器	B（6.4）	胴部の破片。LRの単節縄文を地文とし，沈線文が垂下する。	小礫・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	TP8434　PL279 縄文時代後期前葉　堀ノ内Ⅰ式

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第706図 3	坏 土師器	B（2.2） C［6.6］	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色，普通	P8987 5% 体部，底部に墨書判読不能
4	坏 土師器	B（3.8）	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P8991 5% 体部外面に墨書「全ヵ」
5	坏 土師器	B（2.4）	体部の破片。	体部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P8990 5% 体部外面に刻書判読不能
6	坏 須恵器	B（4.1）	体部の破片。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	P8988　5% PL279 体部外面に墨書「ナヵ」
7	双耳坏 須恵器	B（2.7）	体部下端の破片。体部下端に稜を有し，下位に断面楕円形の耳部がつく。耳部は外上方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。耳部ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P8985 5% 三和浜ノ台窯ヵ
8	蓋 須恵器	A［13.6］ B（3.1）	天井部から口縁部にかけての破片。天井頂部は丸味を帯び，外周部はなだらかに下降し，屈曲して口縁部に至る。口縁部は垂下する。	口縁部，外周部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 暗灰黄色 普通	P8986　30% PL279 外面に自然釉 O8a0区。

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第706図9	壺 須恵器	B (7.6)	体部上半の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。外面に櫛歯状工具による沈線と刺突文が巡る。沈線は中位には4条1単位が1段，上位には2条1単位が1段巡る。	砂粒・赤色粒子 灰褐色 普通	P8984 15% PL279 SD67東側
10	壺 陶器	B (20.2) D [14.0] E 0.5	底部から体部上位にかけての破片。体部は底部から外傾して立ち上がり，上位で内彎する。高台は底部外周にあり，短く外方にふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 暗赤褐色 普通	P8989 50% PL279 常滑系

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第706図11	球状土錘	(2.5)	2.2	0.4	(12.1)	やや扁平な球体。ナデ。	雲母，にぶい褐色	DP8442 PL280
12	球状土錘	2.2	2.5	0.5	10.5	やや扁平な球体。ナデ。	長石，にぶい赤褐色	DP8443 PL280
13	球状土錘	1.8	1.6	0.5	4.0	扁平な球体。ナデ。	長石，明褐色	DP8445 PL280
14	球状土錘	2.3	1.8	0.6	7.3	扁平な球体。ナデ。	長石，にぶい橙色	DP8447
15	管状土錘	1.4	2.3	0.3	4.4	円筒状。ナデ。	砂粒，にぶい褐色	DP8446 PL280
16	土玉	1.8	1.7	0.4	4.4	球体。	雲母・長石，にぶい褐色	DP8444 PL280

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第707図17	門金具	(6.4)	4.5	0.4～0.6	19.1	鉄	断面長方形で「コ」の字状。先端部一部欠損。	M8463 PL281

図版番号	銭名	計測値			初鋳年	特徴	出土地点	備考
		径(cm)	孔(cm)	重量(g)				
第707図18	長年大寶	1.9	0.6 × 0.6	1.7	848年	円体方形。皇朝十二銭。	M9d0区	M8462 PL282
19	聖栄元寶	2.4	0.6 × 0.6	2.9	1101年	円体方形。北宋銭。	M8g7区	M8423 PL282

図版番号	器種	計測値				石材	剥離と調整の特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第707図20	剥片	3.0	3.3	0.6	4.6	頁岩	薄手の寸詰まりの剥片。	Q8417 PL284
21	剥片	(2.6)	5.2	0.9	11.2	頁岩	三角形を呈す，横長剥片。	Q8418 PL284
22	剥片	2.6	3.1	0.7	(4.8)	頁岩	表面に自然面を残す，縦長剥片の上半部。	Q8419 PL284
23	削器	5.1	4.2	1.3	23.9	頁岩	厚手の縦長剥片を素材にし，末端部の裏面を中心に剥離を加え，刃部を作り出している。	Q8416 PL284
24	鏃	2.3	2.0	0.4	1.0	瑪瑙	両面押圧剥離。左右対称形。無茎。	Q8420 PL284
25	鏃	1.8	1.5	0.4	0.6	瑪瑙	両面押圧剥離。左右対称形。無茎。	Q8421 PL284

第4節　ま　と　め

1　はじめに

当遺跡の調査は，平成7年4月から平成12年3月までの5年間にわたって実施され，調査した遺構数は，竪穴住居跡1,331軒，土坑1,260基，掘立柱建物跡120棟など，膨大な数に上る。これまでの調査から，当遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代を中心とする複合遺跡であることが判明している。当遺跡は，律令期の行政組織において常陸国河内郡嶋名郷に属しており，遺跡の規模や出土遺物，整然と配置された掘立柱建物跡群などから，郷の中心的な集落跡になると考えられる。

本報告書は，平成10・11年度に調査したつくば市熊の山遺跡のうち，平成10年度に調査した調査10区を除く遺構と遺物を扱っている。概要は次のとおりである。

確認された遺構は，竪穴住居跡309軒（古墳時代134軒，奈良・平安時代171軒，時期不明4軒），掘立柱建物跡60棟（古墳時代7棟，奈良・平安時代53棟），溝29条（奈良・平安時代3条，時期不明26条），井戸跡7基（奈良・平安時代1基，中世1基，時期不明5基），道路状遺構2条（中世），方形竪穴状遺構13基（中世1基，時期不明12基），地下式壙6基（中世），土坑391基（その内性格が明らかなものは，火葬施設4基，墓壙1基）である。旧石器時代及び縄文時代の遺物は出土しているが，遺構は確認されていない。弥生時代に関しては，遺構・遺物ともに確認されていない。なお，竪穴住居跡で遺構の規模と時期が不明であるのもは，住居跡一覧表だけで記載している。

出土した遺物は，旧石器時代の石器，縄文時代の土器片・石器，古墳時代の土師器・須恵器・金属製品・石製品・土製品，奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・腰帯具・金属製品・石製品・土製品・古銭，中・近世の陶器片・煙管・古銭・土製品・木製品などである。旧石器時代と縄文時代の遺物は，表面採集された，あるいは他の時代の遺構に混入していたものである。

今回報告した調査4・8区で主な遺構としては，古墳時代後期では，調査4区にみられる一辺が8～9mを超える大形の竪穴住居跡や，第53・55～57号掘立柱建物跡がある。奈良・平安時代では，調査8区の北部で検出された「L」字状に配置された掘立柱建物跡群と，同じ調査8区の南部で検出された竪穴住居跡をほぼ「コ」の字状に囲むように配置された掘立柱建物跡群がある。さらに，当遺跡を取り囲むように箱薬研堀状に掘り込まれた第16・35A・35B号溝と大形の第30号井戸跡などがあげられる。出土遺物では，第16号溝，第35B号溝と第30号井戸跡からそれぞれ出土した須恵器の大甕，その他これらの遺構及びその他の遺構から出土した多量の遺物がある。これらは奈良・平安時代，特に律令期の集落の様相を考察する上で，貴重な資料になるものと考えられる。中世では，調査4区の北部で検出された第12・60号溝によって「コ」の字状に囲まれた区域に，墓壙や墓壙の可能性がある土坑群，火葬施設，地下式壙，井戸跡，方形竪穴状遺構，柵列がある。このように各遺構がセットで検出された例は少なく，中世の葬送儀礼を考察する上で，重要な資料と考えられる。

ここでは，今回報告分の調査4・8区を中心として，これまで報告されている調査区の遺構・遺物を含め，当遺跡の主体となる古墳時代後期及び奈良・平安時代の集落の様相について，竪穴住居跡，掘立柱建物跡及び溝，大形井戸跡等の特徴的な遺構や須恵器の大甕，その他の遺物から若干の考察を加え，まとめとしたい。

2　古墳時代後期の集落の様相

(1)　集落の変遷について

この項では，下掲の表[1)]をもとに古墳時代後期の集落の変遷について概観しておく。

・6世紀代

確認された当該期の竪穴住居跡の数は，今回報告する範囲では調査4区で37軒，5区で1軒，8区で12軒である。これまでの調査報告では，今回報告分を含めて181軒が確認されている。6世紀前半または前葉から中葉の時期に比定された住居跡は16軒だけである。5世紀代に比べわずかに住居跡数が増え，7区で8軒，11区で7軒が比較的まとまって検出されているほか，5区で2軒，6区で1軒，8区で1軒が検出されている。住居跡が急激に増加するのは，6世紀後半以降からである。6世紀後半の住居跡の分布は，調査区域の北部にあたる11区から中央部から西部にあたる4・8区にかけて密であり，東側から台地上に入り込む谷部（1区と5区の間に広がる，標高16～19mの部分）を囲むように標高20～22mの地点にかけての台地上全体に広がりをみせている。大形住居跡[2]の分布を見ても，調査4・11区に集中しており，遺構の配置から，さらにこの時期の集落の範囲が，調査4・8区の西側の未調査区域に広がっていることを想定させる。なお，6世紀後半から7世紀にかけての集落の穀倉と考えられる2×2間の総柱式の掘立柱建物跡（第15・54・120号）が，それぞれ4・5・8区で確認されている。

・7世紀代

当該期の竪穴住居跡は，今回報告する範囲では調査4区で50軒，5区で4軒，8区で29軒が確認されている。これまでの調査報告では，今回報告分を含めて182軒が確認されている。7世紀は，前半と後半とでは，竪穴住居跡の分布状況に変容が見られる。竪穴住居跡の最も密な分布地域が，7世紀前半はやや南部へ移動するものの6世紀後半に引き続くものと考えられ，大形住居跡の分布も，5区で増加し11区で減少するものの6世紀後半と同様の傾向を見せている。

様相に変化が見えるのが，7世紀中葉を含めた7世紀後半である。これまでに確認された7世紀後半または中葉から後葉の時期に比定された住居跡は28軒であり，4区で10軒，6区で9軒，2区で1軒，5区で2軒，7区で2軒，8区で3軒，11区で1軒が検出されている。大形住居跡も4・6・7区からの各1軒ずつ計3軒にとどまり，住居跡数の減少とともに大形住居跡数も減少している。また，集落の範囲も縮小し，調査4区の中央部から北西部にかけての範囲と6区に住居跡の分布が目立つ程度である。7世紀後半の時期で注目すべき遺構としては，4区の西部で確認されている第55～57号掘立柱建物跡があげられる。3棟ともにほぼ同じ桁方向であり，とりわけ，第55号掘立柱建物跡（5×3間）・第57号掘立柱建物跡（6×3間）は，この時期の掘立柱建物跡としては，柏木古墳群遺跡で確認されている第1～3号掘立柱建物跡に比肩する規模のものである[3]。また，3か所の柱穴だけ確認され，さらに未調査区に延びていると考えられる第53号掘立柱建物跡も7世紀代の遺構である。これらの掘立柱建物跡からも，この時期，相当の有力者が存在したことを想像させるものである[4]。

表19　各期・各区住居跡数　[表中の（　）内の数字は，一辺が6mを超す大形の住居跡である]

調査区＼世紀	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	計（軒）
調査1区	3	1	13(1)	4	13	12	3	49(1)
2	1	1	3(1)	1	1	3	25	351(1)
3			11	7	5	4	9	36
4		1	44(14)	56(13)	62(2)	27	38	228(29)
5	7(1)	3	17(8)	30(14)	15	14	10	96(23)
6	16(5)	6(2)	16(5)	22(2)	43	27	72	202(14)
7	2		12(1)	10(5)	37(1)	63(1)	54	178(8)
8			21(2)	41(9)	27(1)	39(6)	17	142(18)
9					1	2		3
11	18	1	47(26)	11(6)	32	29	20	158(32)
計（軒）	47(6)	13(2)	181(58)	182(49)	236(4)	220(7)	248	1126(126)

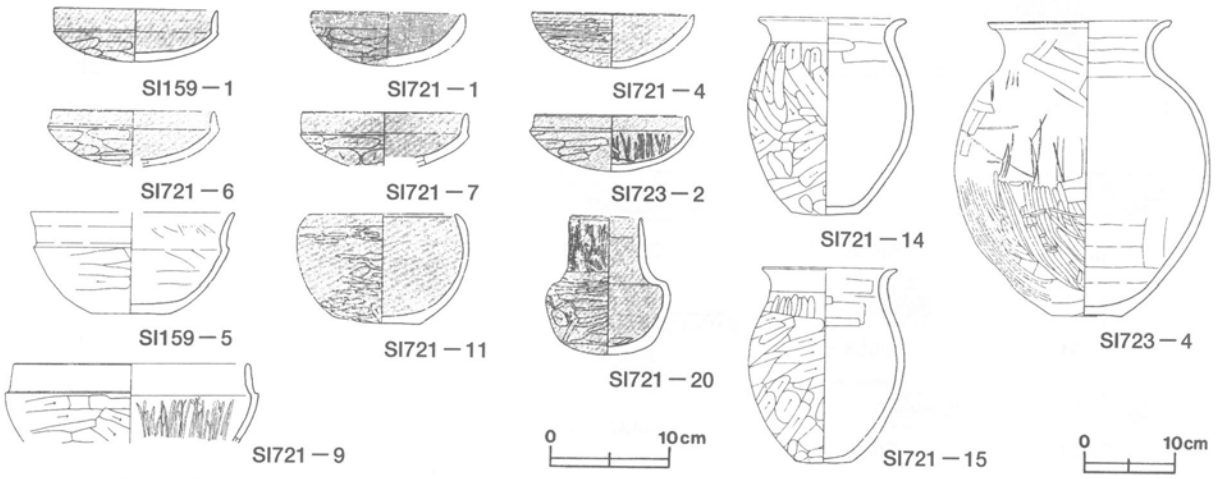
(2) 出土遺物について

① 土器の様相について

ここでは，熊の山遺跡から出土した土師器の変遷について，古墳時代後期に焦点を絞り，述べることとする。土器編年を試みるにあたり，形態変化が明瞭な坏に伴う甕・甑・高坏等の土器組成を捉え，各器種の形態変化や遺構の重複関係，須恵器との共伴関係を検討し，組み立てた。

Ⅰ期（第708図）

坏は，椀形坏と須恵器坏身の模倣坏，須恵器坏蓋の模倣坏が混在する。組成率は，椀形坏37％，坏身模倣坏19％，坏蓋模倣坏44％である。計測値は，口径12.0～14.4cm，器高3.7～4.9cmであり，特に，口径12.0～14.0cm，器高4.5～4.9cmに集中する。黒色処理率は87％と高く，赤彩されたものは出土していない。技法は，底部外面にヘラ削りやヘラナデ，内面にナデや横ナデが施されたものを主体とし，放射状のヘラ磨きが施されたものも少数ながら存在する。甕は，やや縦長の球形を呈し，体部下半にヘラ磨きが施されているものと，倒卵形を呈し，体部外面にヘラ削りが施されているものがある。椀・鉢類は，須恵器模倣坏を大形にしたような，口縁部と体部の境に稜や段をもつものが多数を占める。技法は，坏とほぼ同様に，体部外面にヘラ削り，内面にナデあるいは放射状のヘラ磨きが施されている。



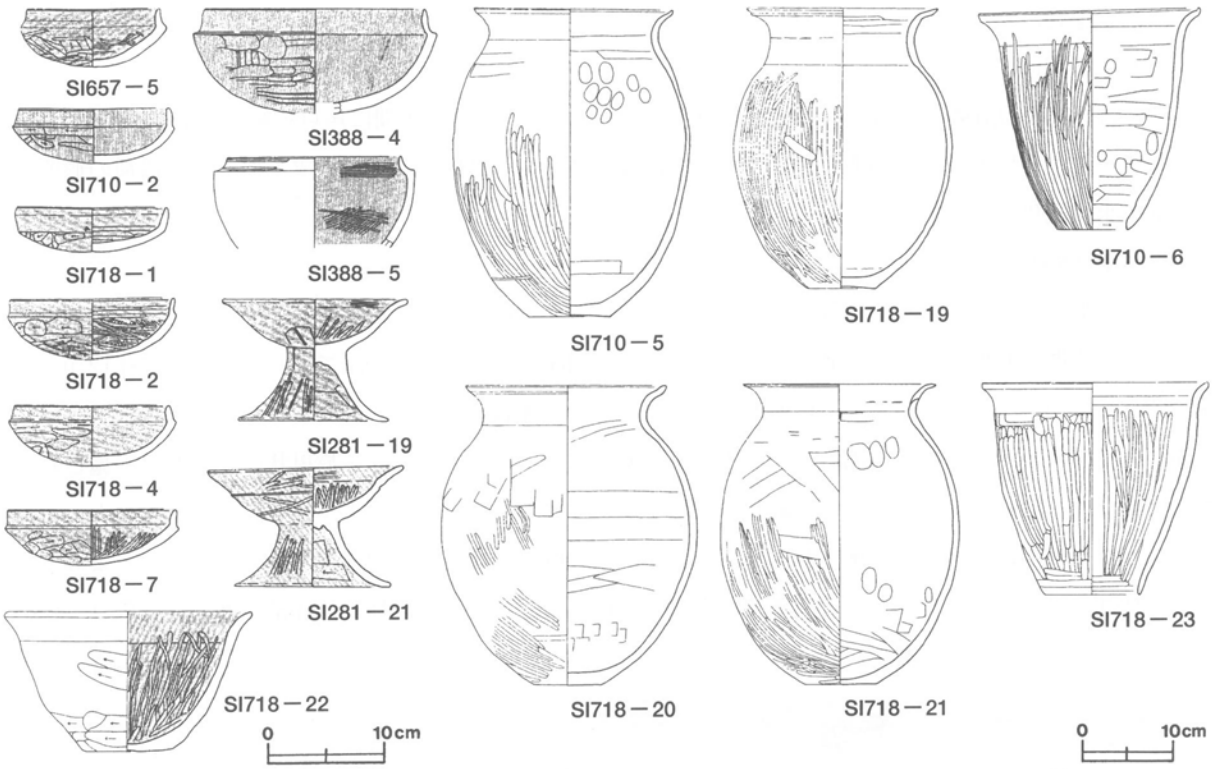
第708図　第Ⅰ期出土土器

Ⅱ期（第709図）

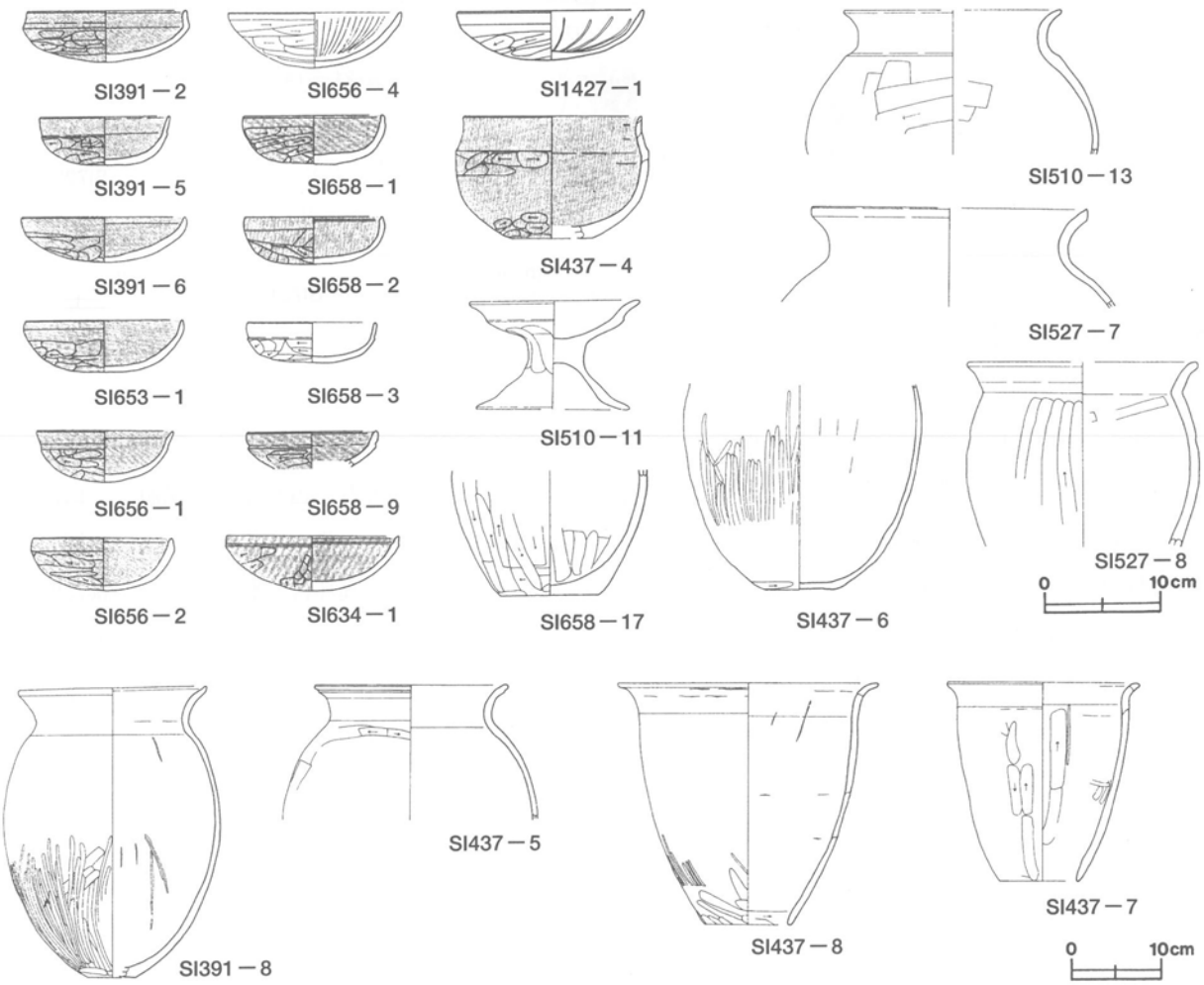
本期は，須恵器模倣形態の主体が蓋模倣から身模倣へと転換する段階である。組成率は，椀形坏31％，坏身の模倣坏46％，坏蓋の模倣坏23％である。黒色処理率はさらに高くなり，97％を占める。計測値は，口径11.4～14.8cm，器高3.7～5.5cmであり，特に口径12.7～14.4cm，器高4.4～5.2cmに集中する。技法は，前期同様，底部外面にヘラ削り，内面にナデやヘラ磨きが施されたものが主流である。高坏は，脚部がラッパ状に開き，坏部と脚部の器高がほぼ等しいものが多い。甕は，長胴化の傾向にあり，口縁端部が外方につまみ出されるようになる。体部に施されたヘラ磨きが上位にまで及ぶものも見られる。甑は，体部外面にヘラ削りが施されたものとヘラ磨きが施されたものがあり，調整はいずれも体部上位にまで及ぶ。

Ⅲ期（第710図）

本期は，大形化の傾向にあった坏が，小形化，あるいは扁平化する時期である。計測値は，口径10.9～14.8cm，器高3.4～5.4cmで，特に，須恵器模倣坏は口径10.9～13.0cm，器高3.9～4.5cmに集中し，小形化の傾向を示し，椀形坏は口径13.7～14.8cm，器高3.4～4.4cmに集中し，扁平化の傾向を示す。黒色処理率は，前期より減少し，73％である。技法は，体部外面にヘラ削り，内面にナデ調整が施されているものが主流である。本期



第709図　第Ⅱ期出土土器

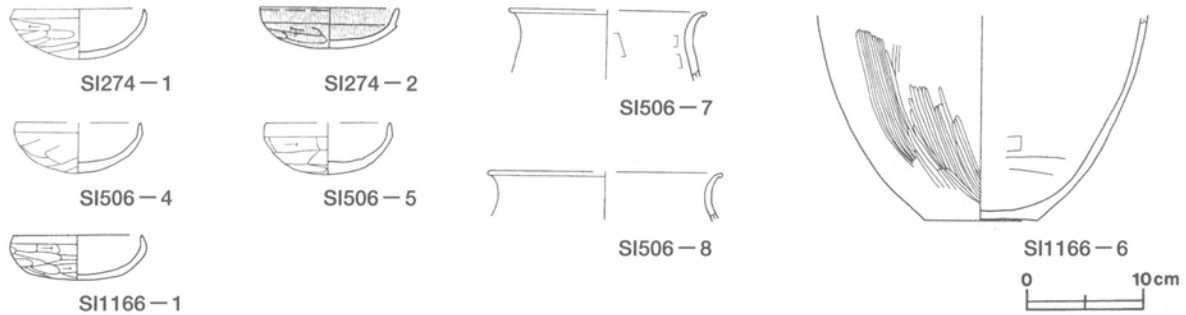


第710図　第Ⅲ期出土土器

には，密な放射状のヘラ磨きが施されたものはほとんど見られなくなり，代わって暗文風のヘラ磨きが放射状に施されたものが組成に加わる。また，椀形坏の中には，口縁端部の内面に段を有するものが出現する。高坏は，脚部がさらに外方に開き，坏部の口径と脚部の底径がほぼ等しくなってくる。出土量は減少し，本期をもって消滅する。甕は，長胴化への移行が顕著である。体部上位にまで及んでいたヘラ磨きは，中位以下に限定されるようになる。また，体部外面にヘラ削りが施されているものも認められる。甑は，体部外面にヘラ削りを施したものの出土数が増加する。椀・鉢類は，内面に放射状のヘラ磨きが施されたものがなくなり，ナデあるいは横位のヘラ磨きが施されたものが主体となる。また，本期から，須恵器が供伴するようになる。

Ⅳ期（第711図）

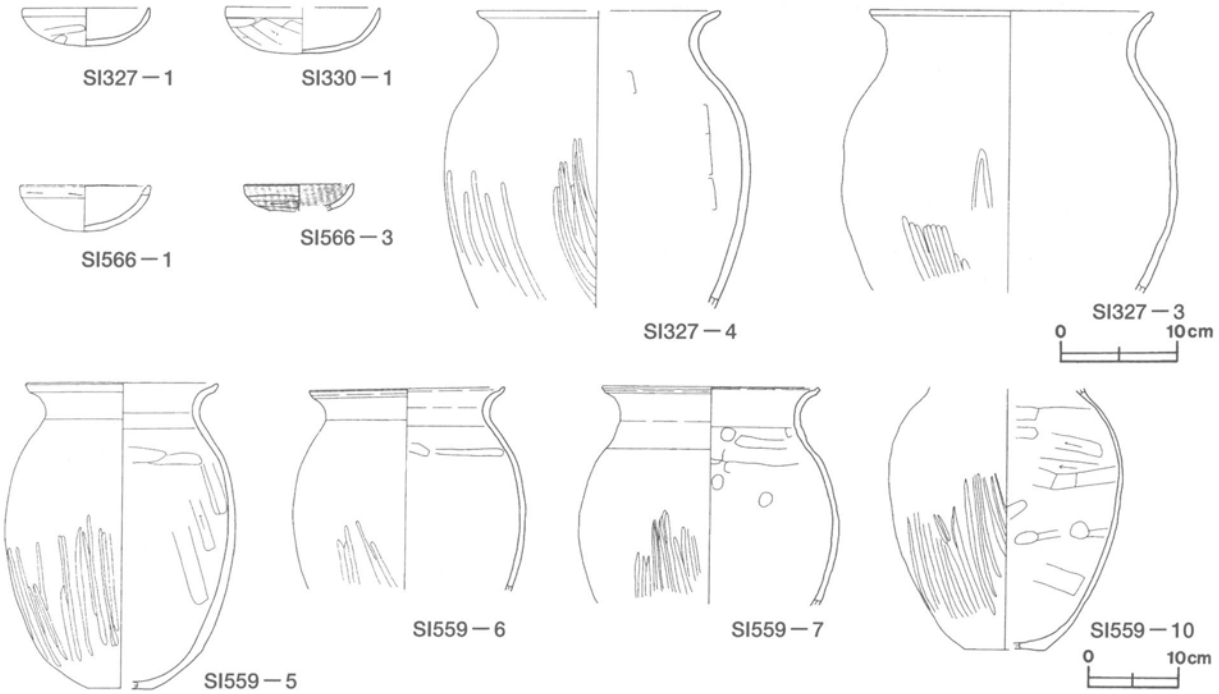
坏は，さらに小形化の傾向にあり，深みのある椀形坏の出土数が増加する。計測値は，口径10.6～12.3cm，器高2.8～4.5cmである。本期になると，黒色処理率は20％に減少する。技法は，前期と同様である。甕は，前期とほぼ同様に長胴化の傾向を示し，その他に頸部のくびれの少ないものも出土している。



第711図　第Ⅳ期出土土器

Ⅴ期（第712図）

坏は，前期と同様，小形化の傾向にある。計測値は，口径9.8～11.8cm，器高2.6～4.1cmである。黒色処理率は，前期とほぼ同様の25％である。甕は，長胴化が進み，口縁端部のつまみ上げの明瞭なものの出土量が増加する。体部下半の膨らみが大きく，安定感のあるものや，肩がわずかに張るものもこの時期に見られるよう



第712図　第Ⅴ期出土土器

になる。

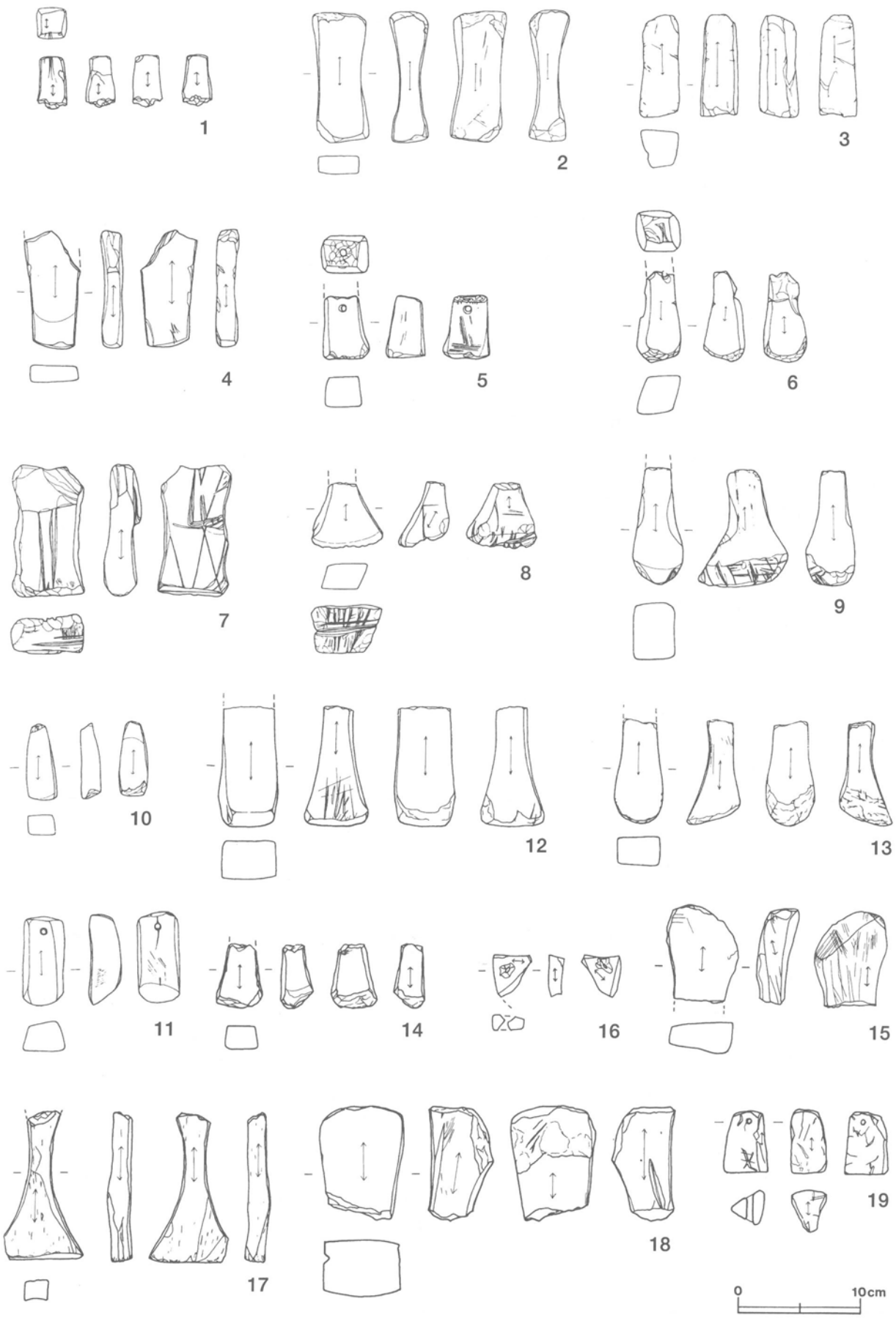
以上，熊の山遺跡の古墳時代の土器様相について概観した。実年代は，Ⅲ・Ⅳ期に属する住居跡から出土したＴＫ209型式からＴＫ217型式併行と考えられる須恵器坏を基準として，樫村宣行氏[5]，浅井哲也氏[6]の編年を参考にすると，Ⅰ期を６世紀中葉に，Ⅴ期を７世紀後葉にするのが妥当と思われる。

② 石器・石製品について（第713・714図）

熊の山遺跡では，33点の臼玉が出土している。石材は，滑石25点，緑泥片岩２点，蛇紋岩２点，珪岩１点，蝋石１点，不明２点である。時期別にみると，７世紀前半の住居跡から最も多く出土し，次いで６世紀後半の住居跡からが多く，７世紀後半の住居跡からは１点が出土しただけである。形態は，厚さが穿孔面の直径未満で，円筒を細かく輪切りにしたような，いわゆる平玉状のものがほとんどである。調整は粗雑で，穿孔後の仕上げの研磨がなされていないものが多く，中には，上下の穿孔面が平行でないものや側面が未調整のものも見受けられる。これらのことから，当遺跡から出土した臼玉は未製品のような印象を受けるが，遺跡内の広い範囲から30点を超える点数が出土していることから，製品として流通したと考えるのが妥当と思われる。とするならば，これらの臼玉は，篠原祐一氏の編年案のように，「稀少性から普及という現象」[7]に応じて，製品の量産化とそれに伴う製作の簡略化が進み，やがて消滅していくという，まさに終末期の様相を呈していることになる。さらに，個々の大きさをみると，径がほぼ１㎝前後のものが大部分を占めるものの，中には径1.5㎝を超える，臼玉としては大形のものも見受けられる。先の編年案に従えば，「小さなものの加工は難しいため，大形化することにより少しでも簡易に製作できるように試みた結果」[8]と言え，このことは，既定の大きさの概念が崩壊したことを意味するものと考えられる。次に，出土数を住居跡ごとにみていくと，４点出土した住居跡が１軒，２点出土した住居跡が６軒で，その他は住居跡１軒につき１点の出土であることから，個々の臼玉を環状にして使用する本来の臼玉の使用方法ではなく，二次的な使用の可能性が考えられる。篠原氏は，住居跡から出土する臼玉の性格について，二つの可能性を指摘している。一つは，「御札・お守りのように，場所を異にして行われた祭祀行為の終了とともに，祭祀具に護符的性格が与えられ，それらが各住居に配与される」ものであり，もう一つは，「臼玉の入手が困難な場合に，１点の石製臼玉以外を有機物で代用する」[9]ものである。そのいずれかを裏付けるような出土状況は確認されていないが，臼玉の多くは床面や覆土下層から出土しており，混入ではなく，住居に伴うものと考えられることから，篠原氏の指摘した可能性も十分に想定される。

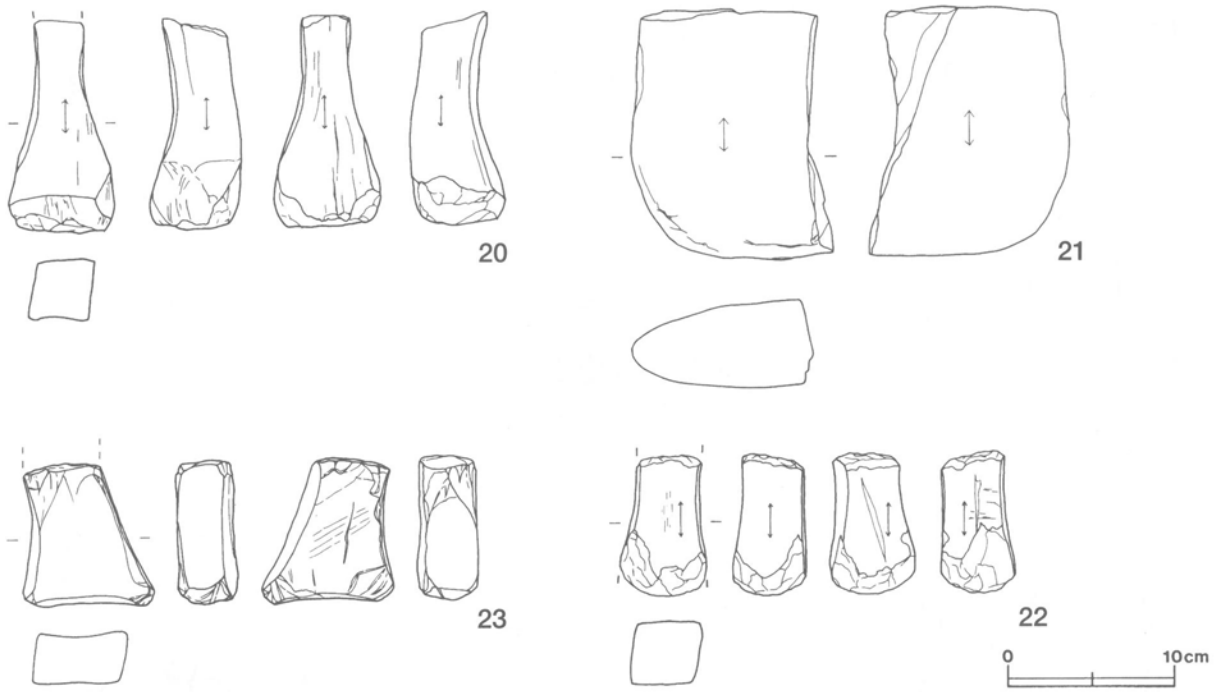
また，当遺跡からは，臼玉以外に，勾玉４点（緑泥片岩２・瑪瑙１・滑石１），丸玉２点（頁岩・蛇紋岩），管玉１点（碧玉），有孔円板１点（滑石），双孔円板１点（凝灰岩）が出土している。いずれも住居跡からの出土であり，出土地点から判断して，住居に伴う可能性の高いものが多い。管玉や勾玉を模造した土製品も出土していることから，祭祀具としての稀少性をうかがうことはできるが，出土数が少ないために，その性格付けについては保留する。

砥石は，23点出土している。石材の内訳は，凝灰岩製20点，砂岩製２点，安山岩製１点である。形態は方柱状のものが主体で，よく使い込まれて中央部が薄くなり，その薄くなった部分から折損してしまったものが多い。側面４面を砥面としているものがほとんどで，中には，面によって彎曲度の違うものも見受けられる。第713図９や17は，幅の狭い面が大きく彎曲していることから，その面が主に使用されていたものと考えられる。その理由として，佐々木義則氏は，「幅の広い方を主面として使用すると，少しの彎曲で折れてしまい，使用期間が短くなってしまうからではないか」[10]と推測している。また，一方の端部が穿孔され，提げ砥として使



第713図　砥石集成図（1）

用されたと考えられるものが4点出土している。中でも，5は破損面側が穿孔されていることから，長期の使用により折損してしまった据え砥を，提げ砥としてさらに使用し続けたものと考えられる。



第714図　砥石集成図（2）

石製紡錘車は，8点出土している。材質は，滑石3点，蛇紋岩3点，ホルンフェルス1点，粘板岩1点である。重量は70gを超えるものが1点，20g未満のものが1点で，その他は30～50gである。いずれも無文で，断面が逆台形を呈しており，形態的な差異は見られない。

表20　石器・石製品一覧表

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
		径（cm）	厚さまたは長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)						
1	白玉	1.2	0.7	0.3	(1.0)	珪岩	平玉状，作り雑。	SI-3	覆土下層	7世紀後半	Q2
2	白玉	1.3	(0.9)	0.3	(2.0)	緑泥片岩	平玉状，作り雑。	SI-64	覆土中層	7世紀前半	Q14
3	白玉	1.2	(0.8)	0.3	(2.0)	緑泥片岩	円筒状，作り雑。	SI-78	ピット4覆土中	6世紀後半	Q38
4	白玉	1.7	1.0	0.3	3.56	不明	平玉状，作り雑。	SI-141	ピット2底面	6世紀後葉	Q4(6区)
5	白玉	1.5	0.9	0.4	2.16	不明	平玉状，作り雑。	SI-141	ピット2底面	6世紀後葉	Q5
6	白玉	1.2	(0.9)	0.35	(1.58)	滑石	円筒状，作り雑。	SI-423	竈西側床面	6世紀後葉	Q5003
7	白玉	1.2	0.3	0.25	0.44	蛭石	平玉状	SI-435	竈東側覆土下層	7世紀前半	Q5004
8	白玉	0.8	0.9	0.3	2.16	滑石	平玉状，作り雑。	SI-510	中央部覆土上層	7世紀前葉	Q2006
9	白玉	1.6	0.6	0.3	1.66	滑石	平玉状，作り雑。	SI-515	覆土中	7世紀前葉以前	Q2007
10	白玉	0.9	0.7	0.2	0.88	滑石	円筒状，作り雑。	SI-780	北西部覆土下層	7世紀前半	Q11008
11	白玉	1.4	0.8	0.3	2.48	滑石	平玉状，作り雑。	SI-780	竈東側覆土中層	7世紀前半	Q11007
12	白玉	0.9	0.8	0.3	1.28	滑石	円筒状	SI-806	覆土中	7世紀前葉	Q11015
13	白玉	0.9	0.6	0.3	0.81	滑石	平玉状，作り雑。	SI-811	ピット1付近床面	7世紀前葉	Q11018
14	白玉	1.4	0.7	0.4	1.32	滑石	平玉状，作り雑。	SI-811	南西コーナー床面	7世紀前葉	Q11019
15	白玉	1.0	1.0	0.4	0.47	滑石	平玉状，作り雑。	SI-831	南西壁際床面	6世紀中葉	Q11023
16	白玉	1.5	0.5	0.3	1.18	滑石	平玉状	SI-836	覆土中	6世紀後葉～7世紀前葉	Q11029
17	白玉	2.0	0.96	0.35	5.91	滑石	平玉状，作り雑。	SI-891	覆土中	6世紀後半	Q112010
18	白玉	0.72	0.5	0.15	0.27	滑石	平玉状	SI-897A	覆土中	6世紀後半	Q112013
19	白玉	0.6	0.6	0.16	0.28	滑石	棗玉状	SI-900	竈東側床面	7世紀前半	Q112014
20	白玉	0.65	0.49	0.15	0.24	滑石	棗玉状	SI-900	竈東側床面	7世紀前半	Q112015
21	白玉	1.3	1.15	0.3	2.67	滑石	円筒状	SI-932	東部床面	7世紀前葉	Q8002
22	白玉	1.1	0.1	0.3	0.47	滑石	平玉状，作り雑。	SI-932	東部床面	7世紀前葉	Q8003
23	白玉	1.3	0.4	0.3	(0.4)	滑石	平玉状	SI-935	中央部床面	6世紀後葉	Q8006

番号	器種	計測値 径(cm)	厚さまたは長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
24	臼玉	1.1	1.0	0.3	1.58	蛇紋岩	嚢玉状	SI-972	南西部覆土中	6世紀後葉～7世紀前葉	Q41005
25	臼玉	1.0	0.7	0.3	1.20	蛇紋岩	嚢玉状	SI-972	北西部床面	6世紀後葉～7世紀前葉	Q41006
26	臼玉	1.1	0.7	0.3	1.24	滑石	平玉状	SI-972	北西部覆土中	6世紀後葉～7世紀前葉	Q41007
27	臼玉	1.4	0.4	0.3	1.2	滑石	平玉状	SI-973	北東部覆土下層	7世紀前半	Q41008
28	臼玉	1.1～1.2	0.4	0.3	0.75	滑石	平玉状	SI-1010	北東部覆土下層	6世紀後葉～7世紀前葉	Q41019
29	臼玉	1.5～1.6	0.6	0.4	1.7	滑石	平玉状	SI-1040	北東壁際床面	7世紀前半	Q41024
30	臼玉	1.8	0.7	0.3	3.2	滑石	平玉状，作り雑。	SI-1102	東壁際覆土中層	7世紀前半	Q40004
31	臼玉	1.5	0.8	0.5	2.0	滑石	平玉状，作り雑。	SI-1110	竈東袖脇床面	7世紀前半	Q40005
32	臼玉	1.1	0.4	0.3	0.75	滑石	平玉状	SI-1159	北西部覆土下層	6世紀後半	Q40504
33	臼玉	1.1	0.5	0.3	0.66	滑石	平玉状，作り雑。	SI-1159	北西部覆土下層	6世紀後半	Q40505
34	丸玉	0.8	1.0	0.2	0.86	頁岩	やや扁平な球体	SI-510	覆土中	7世紀前葉	Q2013
35	丸玉	1.1	1.0	0.3	1.88	蛇紋岩	やや扁平な球体	SI-1166	竈手前覆土下層	7世紀中葉	Q40571
36	管玉	1.1	3.0	0.3	7.91	碧玉	円筒状，中央部を穿孔。	SI-888	北西部覆土下層	7世紀前半	Q112009
37	有孔円板	3.1	0.4	0.2	6.75	滑石	円板状，中央部を穿孔。	SI-761	中央部覆土中層	6世紀後半	Q11005
38	双孔円板	2.0	0.3	0.3	2.5	凝灰岩	円板状，穿孔2か所有り。	SI-9A	覆土中	7世紀前半	Q3

番号	器種	計測値 径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
39	勾玉	2.6	1.6	0.7	0.2	5.0	緑泥片岩	完形，頭部を穿孔。	SI-19	覆土下層	7世紀後半	Q5(3区)
40	勾玉	(2.0)	1.1	0.6	－	(2.0)	緑泥片岩	頭部欠損，穿孔不明。	SI-26	覆土上層	7世紀前半	Q6
41	勾玉	2.8	1.7	－	0.2	4.9	瑪瑙	完形，頭部を穿孔。	SI-744	竈手前覆土下層	7世紀前葉	Q5014
42	勾玉	3.3	2.1	－	0.2	8.6	滑石	完形，頭部を穿孔。	SI-779	竈内覆土中	7世紀前葉	Q11006
43	勾玉	3.1	2.0	0.99	0.4	8.11	滑石	完形，頭部を穿孔。	SI-892	西壁際床面	6世紀後葉～7世紀前葉	Q112011

番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
1	砥石	(4.2)	(2.4)	2.5	(32.0)	安山岩	砥面5面	SI-31	床面	6世紀	Q7
2	砥石	10.6	4.5	3.2	(176.0)	凝灰岩	完形，砥面4面	SI-162	西壁寄り覆土下層	6世紀後葉～7世紀前葉	Q16
3	砥石	8.4	3.3	3.1	(124.0)	凝灰岩	砥面4面	SI-175	覆土中	7世紀前半	Q18
4	砥石	(9.5)	(4.2)	1.4	(107.3)	凝灰岩	砥面4面	SI-752	ピット2付近覆土下層	6世紀後半	Q11002
5	砥石	(4.9)	3.9	2.5	(84.0)	凝灰岩	端部を穿孔，砥面4面カ	SI-800	覆土中	6世紀後葉～7世紀前葉	Q11011
6	砥石	(7.3)	3.1	3.1	(93.0)	凝灰岩	砥面4面カ	SI-800	南壁際床面	6世紀後葉～7世紀前葉	Q11012
7	砥石	10.4	5.9	3.1	244.0	凝灰岩	砥面4面カ	SI-800	南壁際床面	6世紀後葉～7世紀前葉	Q11013
8	砥石	(5.4)	4.1	2.1	(98.9)	砂岩	砥面4面カ	SI-829	中央部床面	6世紀後半	Q11021
9	砥石	9.3	4.2	4.5	235.0	凝灰岩	砥面4面カ	SI-831	中央部床面	6世紀後半	Q11024
10	砥石	7.2	3.4	2.4	89.0	凝灰岩	砥面4面カ	SI-835B	南東壁際覆土下層	6世紀後半	Q11028
11	砥石	6.1	2.5	1.7	42.0	凝灰岩	完形，端部を穿孔，砥面4面カ	SI-835B	南東壁際床面	6世紀後半	Q11027
12	砥石	(9.6)	5.0	5.1	(298.3)	凝灰岩	砥面4面	SI-849	南壁際床面	7世紀中葉	Q112003
13	砥石	(8.5)	4.0	4.3	(154.4)	凝灰岩	砥面4面	SI-877	中央部覆土中層	6世紀後葉～7世紀前葉	Q112005
14	砥石	(5.3)	3.8	1.85	(54.5)	凝灰岩	砥面4面	SI-943	南西壁際覆土下層	6世紀後半	Q8401
15	砥石	(7.8)	5.9	3.2	(144.9)	凝灰岩	砥面4面	SI-987	南壁際壁溝内	6世紀後半	Q41009
16	砥石	(2.3)	(2.1)	0.8	(3.9)	粘板岩	端部を穿孔，砥面3面	SI-987	中央部覆土中	6世紀後半	Q41010
17	砥石	(12.0)	5.9	2.1	(132.5)	凝灰岩	砥面4面	SI-1002	南部床面	6世紀後葉～7世紀前葉	Q41016
18	砥石	3.4	1.9	2.2	16.3	凝灰岩	砥面4面	SI-1010	南西部覆土下層	6世紀後葉～7世紀前葉	Q41020
19	砥石	(9.1)	6.8	4.9	(447.0)	凝灰岩	端部を穿孔，砥面4面	SI-1010	北東部覆土下層	7世紀後半	Q41021
20	砥石	(12.5)	6.4	5.4	(440.5)	凝灰岩	砥面4面	SI-1055	南壁際床面	7世紀後半	Q40003
21	砥石	(14.4)	(11.4)	5.1	(1260.0)	砂岩	砥面2面	SI-1079	ピット14付近覆土中層	7世紀前半	Q41035
22	砥石	(8.4)	(5.2)	(4.4)	(269.2)	凝灰岩	砥面4面	SI-1110	北東部覆土中層	7世紀前半	Q40006
23	砥石	8.0	7.9	3.0	325.0	粘板岩	砥面4面	SI-1429	南東コーナー部床面	6世紀後葉	Q8406

番号	器種	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
1	紡錘車	3.7	1.8	0.8	(38.2)	滑石	無文，断面逆台形	SI-934	西壁際床面	7世紀前葉	Q8005
2	紡錘車	3.8	1.4	0.9	30.0	滑石	無文，断面逆台形	SI-786	中央部覆土下層	7世紀前葉	Q11010
3	紡錘車	3.9	1.5	0.7	34.6	滑石	無文，断面逆台形	SI-849	北壁際床面	7世紀前葉	Q112003
4	紡錘車	4.1	1.8	0.9	46.5	蛇紋岩	無文，断面逆台形	SI-957	竈東側床面	7世紀前半	Q41003
5	紡錘車	3.9～4.1	1.6	0.6～0.7	35.8	蛇紋岩	無文，断面逆台形	SI-1010	西壁際覆土下層	6世紀後葉～7世紀前葉	Q410018

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
		径 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)						
6	紡錘車	3.7～3.8	1.0	0.6	19.7	蛇紋岩	無文，断面逆台形	SI-1012	西壁際床面	6世紀後半	Q41022
7	紡錘車	3.8	2.0	0.8	36.9	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	無文，断面逆台形	SI-1123	中央部床面	7世紀前葉	Q40007
8	紡錘車	5.5	1.7	0.9	71.0	粘板岩	無文，断面逆台形	SI-1430	南部覆土中層	7世紀前半	Q8422

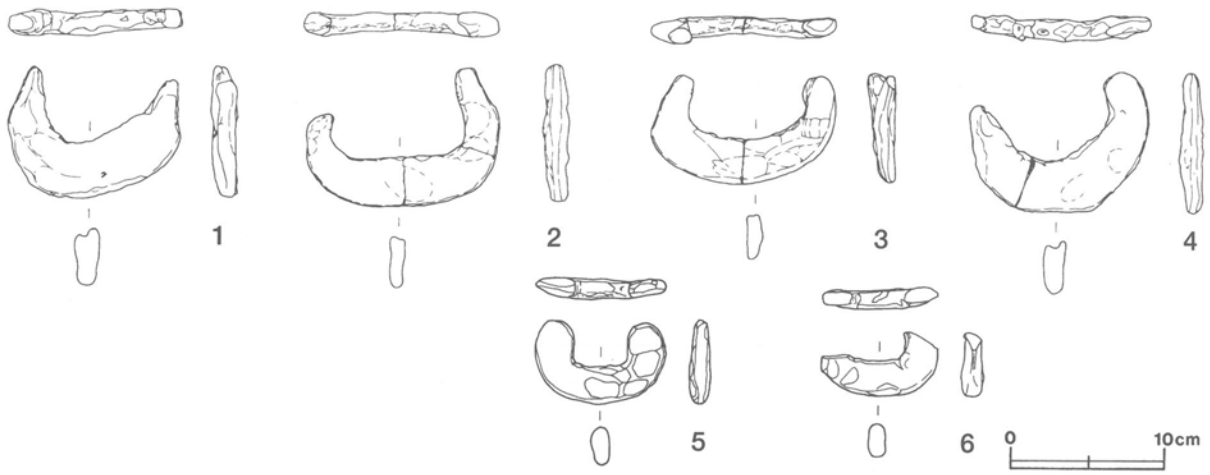
③　土製品について（第715図）

土製玉類については，小玉23点，丸玉16点，勾玉13点，管玉４点，臼玉１点，切子玉１点，棗玉１点が出土している。住居跡ごとの出土数を見てみると，複数点出土している住居跡はわずかに６軒で，第64号住居跡から丸玉３点，勾玉１点，切子玉１点，第388号住居跡から勾玉１点，管玉１点，第510号住居跡から小玉10点，第876号住居跡から勾玉２点，第1445Ａ号住居跡から丸玉２点，第1445Ｂ号住居跡から勾玉２点が出土している。それ以外は，いずれも住居跡１軒につき１点だけの出土である。

第510号住居跡は，出土した小玉10点のうち９点が床下から検出されたという点で注目される。それらは掘り方調査時に南西部の床下から検出されたものであり，住居を構築する際に地鎮に関わる祭祀行為が行われた可能性が考えられる。また，第1445Ａ号住居跡の竈袖部構築材からは，丸玉２点が出土している。同様の出土例として，埼玉県本庄市の南大通り線内遺跡では，中期から後期にかけての竪穴住居跡12軒の竈袖部構築材から滑石製臼玉10点や土製丸玉５点の出土が確認されている[11]。これらは，竈構築の際の「鎮め物」[12]と考えられており，第1445Ａ号住居跡の出土例も同様の可能性が考えられる。

鋤（鍬）先形土製品については，第510号住居跡から４点，第1426号住居跡から２点の出土が確認されている。住居の規模は，第510号住居跡が８ｍを超える大形のもので，第1426号住居跡が５ｍ程度の中形のものであることから，住居の規模と鋤（鍬）先形土製品との相関関係は認められない。県内での出土例はほとんどなく，桜川村尾島遺跡の祭祀跡から３点出土している程度である。尾島遺跡の鋤（鍬）先形土製品について報告者は，出土品が農耕具の模造品と考えられることから，「農耕祭祀に関わる五穀豊穣を祈る土製模造品」[13]と推測している。住居跡からの出土例としては，千葉県我孫子市の日秀西遺跡の竪穴住居跡から，鋤（鍬）先形土製品10点が確認されている[14]。特に，041Ｂ号住居跡から出土した鋤（鍬）先形土製品８点はすべて竈周辺からの出土であり，その性格について報告者は，「これらのものが祭祀又は儀礼用の器具として使用されたものならば，屋内祭祀を考えなくてはならない」[15]としている。当遺跡の場合，第510号住居跡出土の鋤（鍬）先形土製品は，竈内や竈付近の覆土中から出土したものであり，日秀西遺跡での出土状況と一致する。ところが，第1426号住居跡出土の鋤（鍬）先形土製品は竈手前の床下からのものであり，住居，あるいは竈の構築の際にこの土製品を使用して祭祀が行われたとすれば，その目的は農耕祭祀に関わるものというよりも，地鎮祭祀に関わるものとするほうが妥当と思われる。第510号住居跡と第1426号住居跡は，床下から土製品が出土したという点において一致するものの，第510号住居跡の床下から出土したものは小玉であり，両跡の鋤（鍬）先形土製品の出土状況は同一ではない。つまり，床下に土製品を埋めて祭祀行為を行った可能性を示す点では一致を見るが，鋤（鍬）先形土製品については，一方は竈周辺の覆土中から，もう一方は竈手前の床下から出土していることから，鋤（鍬）先形土製品の使用方法や目的が同一であったとは断定できない。いずれにしても，この２軒の住居跡からの土製品の出土例は当遺跡において稀少な存在であることから，明確な性格付けについては今後の資料の集積を待って考察を加えたい。

土製紡錘車は，５点出土している。円柱状を呈する１点を除くと，石製紡錘車との形態的な差異はほとんど認められないが，径・厚さともに土製紡錘車の平均値が石製紡錘車のそれを上回っている。材質の違いからくる重量の不足を，寸法を大きくすることで補ったものと推測される。



第715図　鍬（鋤）先形土製品集成図

表21　土製品一覧表

番号	器種	計測値 径（cm）	厚さまたは長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
1	臼玉	1.8	0.6	0.2	1.5	円板状	SI-342	竈付近覆土下層	6世紀後半	DP2001
2	小玉	0.7	0.5	0.2	1.0	扁平な球体	SI-88	覆土下層	6世紀後半	DP30
3	小玉	0.8	1.0	0.2	0.71	臼玉状	SI-162	竈火床面	6世紀後葉	DP6(6区)
4	小玉	0.5	0.9	0.2～0.4	0.41	臼玉状	SI-198	南東部覆土中	6世紀後葉	DP11
5	小玉	0.7	0.9	0.4	0.68	臼玉状	SI-510	覆土中	7世紀前葉	DP2020
6	小玉	0.4	0.6	0.15	0.12	臼玉状	SI-510	南西部床下	7世紀前葉	DP2023
7	小玉	0.5	0.7	0.2	0.19	臼玉状	SI-510	南西部床下	7世紀前葉	DP2024
8	小玉	0.45	0.6	0.1	0.15	臼玉状	SI-510	南西部床下	7世紀前葉	DP2025
9	小玉	0.4	0.55	0.1	0.15	臼玉状	SI-510	南西部床下	7世紀前葉	DP2026
10	小玉	0.5	0.7	0.25	0.23	臼玉状	SI-510	南西部床下	7世紀前葉	DP2027
11	小玉	0.4	0.55	0.15	0.12	臼玉状	SI-510	南西部床下	7世紀前葉	DP2028
12	小玉	0.5	(0.6)	[0.2]	(0.1)	臼玉状	SI-510	南西部床下	7世紀前葉	DP2029
13	小玉	0.5	(0.5)	[0.15]	(0.08)	球体	SI-510	南西部床下	7世紀前葉	DP2030
14	小玉	0.35	(0.3)	－	(0.03)	臼玉状，貫通孔不明。	SI-510	南西部床下	7世紀前葉	DP2031
15	小玉	0.6	0.4	0.2	0.17	臼玉状	SI-888	北西部覆土中層	7世紀前半	DP112012
16	小玉	0.9～1.0	1.1	0.3	1.0	球体	SI-959	中央部覆土中層	6世紀後半	DP41003
17	小玉	0.9	0.9	0.3	0.7	臼玉状	SI-1002	東部床面	6世紀後半	DP41008
18	小玉	0.9	0.4	0.1	0.1	臼玉状	SI-1002	西部床面	6世紀後半	DP41009
19	小玉	0.9	0.7	0.2	0.6	球体	SI-1045	東壁際壁溝内	6世紀後葉～7世紀前葉	DP41027
20	小玉	0.7	0.6	0.1	0.26	臼玉状	SI-1045	南西部覆土下層	6世紀後葉～7世紀前葉	DP41028
21	小玉	0.8	0.5	0.2	0.33	臼玉状	SI-1045	南西部覆土下層	6世紀後葉～7世紀前葉	DP41029
22	小玉	0.8	0.7	0.2	0.55	臼玉状	SI-1045	南西部覆土下層	6世紀後葉～7世紀前葉	DP41030
23	小玉	0.6～0.7	0.4	0.1	0.2	臼玉状	SI-1008	竈手前覆土下層	7世紀前半	DP41010
24	小玉	0.7	0.5	0.1	0.2	臼玉状	SI-1078	竈手前床面	7世紀前半	DP41021
25	丸玉	1.0	0.8	0.3	1.0	球体	SI-64	覆土下層	7世紀前半	DP19
26	丸玉	1.0	0.9	0.2	1.0	球体	SI-64	覆土下層	7世紀前半	DP20
27	丸玉	1.0	0.8	0.3	1.0	球体	SI-64	覆土下層	7世紀前半	DP21
28	丸玉	1.0	0.9	0.3	1.0	球体	SI-86	覆土中	6世紀後半	DP29
29	丸玉	1.4	1.3	0.4	3.18	球体	SI-658	北西部床面	7世紀前葉	DP7039
30	丸玉	1.0	0.9	0.3	0.68	球体	SI-721	ピット4内覆土中	6世紀中葉	DP7032
31	丸玉	1.0	0.9	0.1	(0.83)	球体	SI-730	南東コーナー床面	6世紀後半	DP5010
32	丸玉	1.4	1.3	0.2	2.02	球体	SI-773	北西部床面	6世紀後半	DP11014
33	丸玉	1.1	1.1	0.3	1.44	球体	SI-807	北西コーナー床面	6世紀後半	DP11025
34	丸玉	1.1	1.1	0.15	1.12	球体	SI-865	竈手前床面	6世紀後半	DP112007
35	丸玉	1.4	1.5	0.2	2.84	球体	SI-865	竈手前床面	6世紀後半	DP112006
36	丸玉	1.1	0.8	0.4	1.0	球体	SI-1045	西壁際床面	6世紀後葉～7世紀前葉	DP41026
37	丸玉	1.7～1.8	1.8	0.5	4.1	球体	SI-1080	北壁際覆土下層	6世紀後葉～7世紀前葉	DP41022

番号	器種	計測値				特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)					
38	丸玉	1.0	1.2	0.2	1.2	球体	SI-1122	西壁際壁溝内	6世紀後半	DP40006
39	丸玉	1.05	1.05	0.2	0.75	球体	SI-1445	竈西袖部内	6世紀後半	DP8426
40	丸玉	1.05	1.05	0.2	0.88	球体	SI-1445	竈西袖部内	6世紀後半	DP8427
41	管玉	1.0	1.7	0.2	(1.1)	断面長楕円形	SI-388	貯蔵穴覆土中	6世紀後葉	DP5004
42	管玉	0.8	1.7	−	(1.34)	円筒状	SI-559	竈南東側覆土下層	7世紀中葉〜7世紀後葉	DP7002
43	管玉	0.9	1.5	0.2	0.17	断面長楕円形	SI-888	北西部床面出土土師器甕内	7世紀前半	DP112011
44	管玉	1.0	2.0	0.2	1.6	円筒状	SI-1103	ピット4内覆土上層	6世紀後半	DP40002
45	切子玉	1.4	2.7	0.2	5.0	完形	SI-64	覆土中層	7世紀前半	DP18
46	棗玉	1.2	2.3	0.2	3.66	完形	SI-807	覆土中	6世紀後半	DP11027

番号	器種	計測値					特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
		径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)					
47	勾玉	2.7	1.7	1.0	0.2	3.36	完形，頭部に穿孔有り。	SI-1	覆土中	6世紀後半	DP6(2区)
48	勾玉	2.5	1.5	0.8	0.2	2.0	完形，頭部に穿孔有り。	SI-64	覆土中層	7世紀前半	DP17
49	勾玉	(1.9)	(1.4)	−	0.2	(2.1)	尾部欠損，頭部穿孔。	SI-388	竈西側覆土下層	6世紀後葉	DP5003
50	勾玉	3.3	2.2	0.9	−	5.0	完形，頭部に穿孔有り。	SI-527	ピット2付近覆土中層	7世紀前半	DP2033
51	勾玉	(2.2)	2.0	−	0.2	(3.62)	尾部欠損，穿孔有り。	SI-407	中央部覆土下層	6世紀後葉〜7世紀前葉	DP4001
52	勾玉	4.3	2.0	1.1	0.7	7.0	完形，頭部に穿孔有り。	SI-658	竈手前覆土中層	7世紀前半	DP7013
53	勾玉	2.3	1.5	−	0.2	2.06	完形，頭部に穿孔有り。	SI-794	中央部覆土下層	6世紀後半	DP11021
54	勾玉	2.0	1.3	−	0.2	1.42	完形，頭部に穿孔有り。	SI-801	覆土中	6世紀後葉〜7世紀前葉	DP11024
55	勾玉	(2.7)	(1.3)	0.8	−	(2.32)	頭部欠損，穿孔不明。	SI-845	竈覆土中	6世紀後半	DP112003
56	勾玉	3.1	2.0	−	0.2	2.89	完形，頭部に穿孔有り。	SI-876	中央部床面	6世紀後葉〜7世紀前葉	DP112008
57	勾玉	3.1	1.9	−	0.3	2.08	完形，頭部に穿孔有り。	SI-876	ピット8覆土中	6世紀後葉〜7世紀前葉	DP112009
58	勾玉	2.8	2.3	1.1	0.3	4.54	完形，頭部に穿孔有り。	SI-1445B	南コーナー壁溝内	6世紀後半	DPP8428
59	勾玉	1.9	0.6	0.6	0.2	0.83	完形，頭部に穿孔有り。	SI-1445B	南コーナー壁溝内	6世紀後半	DP8429

番号	器種	計測値				特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
1	鍬(鋤)先形土製品	7.8	10.5	1.6	84	完形，凹字状を呈する。	SI-510	北西壁際覆土上層	7世紀前半	DP2011
2	鍬(鋤)先形土製品	8.1	11.9	1.8	58	完形，凹状を呈する。	SI-510	竈内	7世紀前半	DP2012
3	鍬(鋤)先形土製品	6.5	11.2	1.6	49	完形，凹字状を呈する。	SI-510	竈西袖際覆土中層	7世紀前半	DP2013
4	鍬(鋤)先形土製品	8.4	10.9	1.5	66	完形，凹字状，着柄部の表現有り。	SI-510	竈西袖際覆土中層	7世紀前半	DP2014
5	鍬(鋤)先形土製品	5.5	8.5	1.3	43.3	完形，凹字状を呈する。	SI-1426	竈手前床下	7世紀後半	DP8421
6	鍬(鋤)先形土製品	(4.2)	7.6	1.5	(31.4)	一部欠損，凹字状を呈する。	SI-1426	竈手前床下	7世紀後半	DP8422

番号	器種	計測値				特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)					
1	紡錘車	3.9	2.8	0.6	43.0	断面逆台形，ナデ	SI-354	北西コーナー部覆土下層	7世紀前葉	DP5001
2	紡錘車	4.4	2.9	0.5	61.0	断面逆台形，ヘラ磨き	SI-533	西壁際覆土下層	6世紀中葉〜後葉	DP7001
3	紡錘車	4.7	2.1	0.9	(29.3)	断面逆台形，ナデ	SI-1159	南壁際覆土下層	6世紀後半	DP40506
4	紡錘車	[6.6]	3.1	[0.8]	(73.5)	断面逆台形，ナデ	SI-1133	西壁際覆土上層	6世紀後半	DP40007
5	紡錘車	4.3	2.5	0.9	56.8	側面が膨らむ円柱状，ナデ	SI-1134	中央部床面	7世紀前半	DP40008

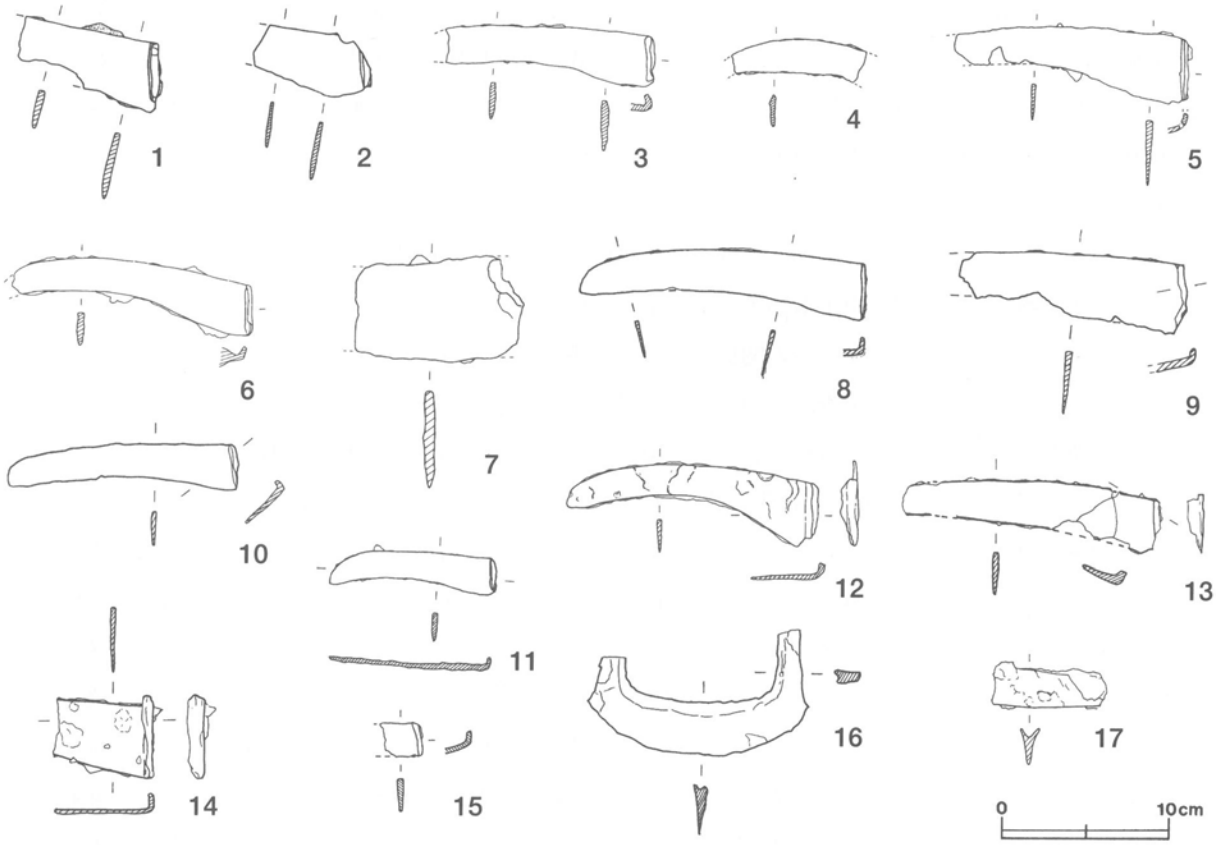
④　鉄製農具について（第716図）

当遺跡からは，鎌15点，鍬（鋤）先２点が出土している。鎌は，いずれも着柄部側に最大幅をもち，刃部先端が狭くなる曲刃鎌である。着柄部の折り返しは全体に及び，刃部に対してほぼ直角である。大きさについては，７が刃幅６cmほどの大形のもので，４・11・15が刃幅２cmほどの小形のものであることから，大形鎌・中形鎌・小形鎌の３つに分類することが可能である。寺沢薫氏の分類案[16]に従えば，小形鎌である４・11・15は「穂切り鎌」，大形鎌である７は「雑草木除伐鎌」，その他の鎌は「根刈り鎌」といえよう。一方，柄に対する刃部の角度は，100〜105°が主流であるが，７世紀になると第716図１・６・12のようにその角度が115°前後のものも見受けられるようになる。時代が下がるにつれて，柄に対する刃部の角度が大きくなる傾向をうかがうことができ，この傾向は８世紀以降も続く。この刃部の柄に対する角度の変化は，刃部の彎曲度にも反映し，

角度の大きいものほど彎曲する傾向にある。ただし，角度の大きい大形のものを農業用鎌と分離させる論考[17]もあることから，角度の違いについては機能面からの考察も必要であり，今後の資料の集積を待ちたい。

鍬（鋤）先は，刃先部の長さに対して刃部幅の広い凹字形を呈するものである。風呂部が検出されていないため，鍬と鋤の区別は断定できない[18]。16は遺存状態が良好で，全体の形状をうかがい知ることのできる好資料といえる。17は，着柄部の溝が大きく開いており，繰り返し使用されたことにより，めくれ上がってしまったものと推測される。

これらの鉄製農具は，砥石と共伴していない。しかし，砥石は鉄製品の存在を間接的に証明しうる資料であることから，当遺跡にはこれまでの調査で検出された以上の鉄製品が普及していたことが推測される。



第716図　鉄製農具集成図

表22　鉄製農具一覧表

番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
1	鎌	(8.8)	4.1	0.4	(46)	刃部から着柄部片	SI-49	床面	7世紀後半	M9
2	鎌	(7.5)	3.7	0.4	(32)	刃部から着柄部片	SI-119	南壁際覆土下層	7世紀	M37
3	鎌	(12.4)	3.4	0.4	(39)	刃先欠損	SI-253	竈西袖脇覆土下層	7世紀後半	M1007
4	鎌	(7.8)	2.5	0.4	(11)	刃部片	SI-253	中央部覆土下層	7世紀後半	M1008
5	鎌	(14.0)	4.5	0.4	(46)	刃先欠損	SI-274	西壁際覆土下層	7世紀中葉	M1013
6	鎌	(14.4)	3.9	0.4	(53)	刃先欠損	SI-330	北壁際覆土下層	7世紀後半	M1031
7	鎌	(9.8)	5.8	0.4	(38)	刃部片	SI-336	南壁際覆土中層	6世紀後半	M1034
8	鎌	16.8	3.4	0.25	49.4	完形，刃部は若干彎曲。	SI-508	中央部床面	7世紀前半	M8421
9	鎌	(13.4)	4.3	0.4	(61.9)	刃部から着柄部片	SI-771	北西部覆土下層	7世紀前半	M11008
10	鎌	13.8	2.7	0.2	27.7	ほぼ完形	SI-827	南壁際床面	7世紀前葉	M11031
11	鎌	10.1	2.2	0.3	21.0	完形，刃部は若干彎曲。	SI-846	中央部覆土中層	6世紀後葉	M112001
12	鎌	(14.8)	2.0	0.2	(35.8)	完形，刃部は彎曲する。	SI-961	北東部覆土下層	7世紀前半	M41003
13	鎌	(15.4)	2.5	0.4	(44.8)	刃先・着柄部一部欠損	SI-1032	北西部床面	7世紀中葉	M41022

番号	器種	計測値				特徴	出土遺構	出土位置	時期	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
14	鎌	(4.1)	4.5	2.3	(56.4)	刃部から着柄部片	SI-1045	南東部覆土中	6世紀後葉~7世紀前葉	M41026
15	鎌	(2.5)	2.0	0.4	(5.4)	刃部から着柄部片	SI-1405	南西部覆土中	7世紀前半	M8419
16	鍬(鋤)先	13.0	3.0	0.8	59.3	耳部一部欠損	SI-972	北西部覆土下層	6世紀後葉~7世紀前葉	M41004
17	鍬(鋤)先	(6.8)	2.2	1.2	(22.9)	刃部片	SI-1048	西部覆土下層	6世紀後半	M41040

3　奈良・平安時代の集落の様相

これまでの調査で検出されている竪穴住居跡の時期や分布状況から，当遺跡は古墳時代後期に引き続き，奈良時代以降平安時代の10世紀まで，集落が継続的に形成されていたことが判明している。竪穴住居の数は，8世紀には前代より増加し，10世紀に至っている。奈良・平安時代の竪穴住居跡は，時期とともにその最も密な分布地域が移り変わっていることがうかがえる。その地域は，8世紀には調査4区，9世紀には調査7区，10世紀には調査6区となり，遺跡北部から南部，そして，遺跡の南東部へと移動している。当遺跡は標高約20mの台地状に存在し，東側には，東谷田川が流れ，その低段丘には水田が広がっている。当時も現在とほぼ同様の景観であったと推測される。

ここでは，これまでに報告されている各調査区の遺構を加味し，今回報告する調査8区を中心に主な竪穴住居跡・掘立柱建物跡等の変遷，出土遺物等から，集落の様相について若干の考察を加えたい。

(1)　竪穴住居跡，掘立柱建物跡，溝の関係及びその変遷（第717～719図）

調査8区の特徴のひとつは，調査区の中央に箱薬研堀状の第16・35B号溝が，南北にほぼ一直線状に延び，第16号溝は調査区の中央部でほぼ直角に屈曲し，東方向に延びていることである。調査8区の東側は調査7区であり，『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集で報告されている第20号溝に接続するものと考えられる。この第16号溝と第20号溝とで，調査7・8区にまたがる区域をほぼ方形に区画している。また，調査8区の北東部には，19棟の掘立柱建物跡群が「L」字状に配置されており，平成9年度の調査7区の北部で検出された掘立柱建物跡と連続している。『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集で報告されている調査7区の掘立柱建物跡群は，16棟の掘立柱建物跡が2列平行に規則的に配置されている。これらはすべて第35B号溝の東側，第16・20号溝の北側に位置している。第16・20・35B号溝は，調査7・8区の北部で検出された35棟の掘立柱建物跡群を併せて区画しているものと考えられる。同様に調査8区の南西部からは，33棟の掘立柱建物跡群が検出されている。これらの一部は，9世紀中葉から後葉にかけては竪穴住居跡を囲むように配置されていたと考えられる。このように調査7・8区には，律令期において溝で区画された区域があり，調査7区の北西部から調査8区の北東部にかけての区域と調査8区の南西部の区域との2区域に掘立柱建物跡が集中していることがうかがえる。以上のことから，調査7・8区は，当遺跡の律令期の様相を知る上で重要な区域と考えられる。

以下，調査8区を中心に，奈良・平安時代を8世紀から10世紀の3期に分けて検討する。また，調査8区の北東部から調査7区の北西部にかけての掘立柱建物跡群を第1集中区，調査8区南西部の掘立柱建物跡群を第2集中区と呼ぶことにする。

なお，第501～503・507・512・513・525号竪穴住居跡，第4号掘立柱建物跡は『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集に，第715・720号竪穴住居跡は『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集に，第35・38・40・43号掘立柱建物跡は『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集に，それぞれ掲載されている。

まずはじめに，第1集中区について検討する。

・8世紀

第１集中区の掘立柱建物は，前葉から中葉に掘立柱建物が出現している。この時期には，３×３間の総柱式の第35号掘立柱建物と，桁行２間，梁行２間（以下，２×２間）で北側と南側に庇が付く第121号掘立柱建物及び第35号掘立柱建物と桁行方向が一致すると思われる第40号掘立柱建物が配置されていたと考えられる。その周囲には，同時期の竪穴住居跡は検出されていない。各掘立柱建物の性格を判断することは難しいが，第35号掘立柱建物はやや大形の高床倉庫であると思われる。中葉には，調査８区を南北に走る第35Ｂ号溝が機能しており，その東側に第121号掘立柱建物を建て替えた第124号掘立柱建物と第47号掘立柱建物が配置されていたと考えられ，掘立柱建物が徐々に増加する傾向がうかがえる。中葉から後葉にかけては，さらに，掘立柱建物の棟数が増して，第35Ｂ号溝の東側ですでに配置されている第47・124号掘立柱建物を含めて，第37・38・125号掘立柱建物が「Ｌ」字状に配置されたと考えられる。第47・124・125号掘立柱建物は，第35Ｂ号溝に平行で南北方向に直列配置されており，第37・38号掘立柱建物は，第35Ｂ号溝に直交し，東西方向に直列配置されている。これらの掘立柱建物は，第44号掘立柱建物が３×２間の総柱式建物，第125号掘立柱建物が２×２間の側柱式建物であるが，その他は，３×２間の側柱式建物である。このように第１集中区では，８世紀中葉から後葉にかけて，掘立柱建物及び溝が計画的に造営・整備されたことがうかがえる。

その後，後葉には調査７区の西部に位置する，長軸7.7m，短軸6.8mで，当遺跡のこの時期の住居としては，やや大形の第720号竪穴住居が出現し，その西側には，桁行方向を同じにする第46・118号掘立柱建物とこれらに桁行方向が直交する第119号掘立柱建物が，ほぼ同時期に配置されたと考えられる。第720号竪穴住居と第46・118・119号掘立柱建物は，時期的に併存していたと考えられ，また，それらの主軸方向及び桁行方向がほぼ同じことから，一つの施設群として機能した可能性が考えられる。第720号竪穴住居跡からは，多くの土器が出土しており，供膳具の割合が高いことから，豪族・富豪層の居宅の可能性がある。８世紀の末葉には，第44・127号掘立柱建物が造営されたと思われる。また，「Ｌ」字状の掘立柱建物群中の南北に直列配置された第125号掘立柱建物が，第126号掘立柱建物，第123号掘立柱建物の順に，ほぼ同じ位置で２度建て替えられている。

ここにあげた掘立柱建物の桁行方向は，第121号掘立柱建物跡がＮ－86°－Ｗで，第47・123～126号掘立柱建物跡がＮ－３°－Ｗ～Ｎ－10°－Ｅで，軸線がいずれもほぼ真北方向に向くのに対して，第46・118号掘立柱建物跡がＮ－10°－Ｅ，第119号掘立柱建物跡がＮ－77°－Ｗであり，わずかに東に振れてきている。第44号掘立柱建物跡はＮ－１°－Ｗ，第127号掘立柱建物跡はＮ－３°－Ｅであり，再度，ほぼ真北方向に向いてくる。

このように第１集中区では，８世紀前葉から中葉にかけて，第35号掘立柱建物のようなやや大形の高床倉庫が配置され，その後は，中葉から後葉にかけて，低い床か，あるいは土間を持つ側柱建物へと変化している。前葉から中葉で，第35・40・47・121・124号掘立柱建物が立ち並んでいた時期までは，調査７区の北部には同時期の第714・717号竪穴住居は存在しても，掘立柱建物の東側に竪穴住居は存在しておらず，空間があったように思われる。また，掘立柱建物の建て替えは，ほぼ同位置で行われ，時期が下がると桁行方向がやや東に振れる傾向がうかがえる。第35Ｂ号溝は，中葉には機能していたとされていることから，第１集中区の掘立柱建物群及び竪穴住居を区画したものと考えられる。

・９世紀

前代に引き続き，第44・126・127号掘立柱建物は前葉まで残るものの，これまで「Ｌ」字状を呈していた掘立柱建物群は姿を消し，整然とした配置は崩れてくる。また，第35Ｂ号溝の機能は失われていたと考えられる。第720号竪穴住居の南西側に３×２間で側柱式の第41・45号掘立柱建物が配置されていたと考えられる。その後は，第720号竪穴住居が廃絶され，９世紀中葉には第918号竪穴住居がその西側に出現する。第918号掘立柱

建物の南側に，４×２間で側柱式の第42号掘立柱建物と３×２間で側柱式の第43号掘立柱建物の２棟が配置されるだけになる。第918号竪穴住居と第42・43号掘立柱建物は，時期的にみて一つの施設群として機能した可能性が考えられる。それ以降の掘立柱建物跡は検出されていないことから，消滅したものと考えられる。９世紀代の掘立柱建物は，調査７区を含めてすべてが側柱建物であり，穀物倉庫と考えられるが，一般的には籾を入れたものではなくて，稲穂を入れるために使われた倉または屋へと変化した可能性がある。

・10世紀

この時期の竪穴住居跡及び掘立柱建物は検出されていない。

次に，第２集中区について検討する。第２集中区からも，多数の竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が検出されている。重複が激しく，特に掘立柱建物跡は出土遺物が少ないため時期を断定することは難しいが，わずかに出土している土器と重複関係から判断すると次のようになる。

・８世紀

第２集中区の掘立柱建物は，中葉から後葉にかけて出現している。竪穴住居は８世紀前半には前代よりも減少し，掘立柱建物跡も検出されていない。中葉には，３×２間の側柱式建物で南北棟の第86・103・105・107号掘立柱建物が東西方向に並列配置され，その北側には第1214号竪穴住居，南側には第1226・1227号竪穴住居が，それぞれ位置していたと考えられる。後葉には，２×２間で総柱式の第100・104・106号掘立柱建物が互いに隣接して配置され，その周囲には長軸３～５ｍ程度のやや小形といえる第501・502・1215・1220・1223・1231号竪穴住居が，これらの掘立柱建物を取り囲むように位置している。なかでも，第1215・1220・1223号竪穴住居は，お互いの間隔が12ｍ程度のほぼ等間隔に位置している。総柱式の掘立柱建物は，多くの場合，籾倉または穂首の稲を納めた倉であり，高床倉庫と考えられている。第100・104・106号掘立柱建物もこれと同様と考えられる。これらの配置から，高床倉庫を中心とする「戸」単位の建物群が存在していたと考えられる。その後，第100号掘立柱建物は，ほぼ同位置で第101号掘立柱建物に建て替えられている。また，それらの東側に３×２間で総柱式の第89号掘立柱建物，３×２間で側柱式の第108・109号掘立柱建物が配置されている。さらにその東側には，一辺３～４ｍ程度の第525・1203・1412号竪穴住居が，25ｍ程度の間隔に位置している。

ここにあげた第２集中区の掘立柱建物は，第１集中区より遅れて中葉から後葉にかかる時期に，竪穴住居とともに出現している。しかし，第１集中区のような掘立柱建物と溝との関係に当てはめてみると，第16号溝は出土土器から８世紀の中葉にはすでに廃絶されていたと考えられることから，第２集中区は溝による区画はなく，第100・101・104・106号掘立柱建物及び第89・108・109号掘立柱建物を中心とする建物群で，集落が営まれていたものと考えられる。

・９世紀

９世紀の竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が多数検出されており，特に掘立柱建物は建て替えなどで重複が激しいため，時期を断定することは難しかった。しかし，あえて前・中・後葉の３期に分類すると次のようになる。前葉と考えられている掘立柱建物は，３×２間で側柱式の第75・78号掘立柱建物，３×３間で側柱式の第84・85号掘立柱建物及び梁行２間だけが検出された第87Ｂ号掘立柱建物の５棟だけであり，周囲から竪穴住居跡は検出されていない。中葉のものとしては，第２集中区の北西部において，３×２間で側柱式の第72・74・81号掘立柱建物が考えられる。いずれも桁行方向が一致する東西棟で，なかでも第74・81号は，直列配置されている。また，第74・81号掘立柱建物の南側には，４×３間で側柱式の南北棟である第102号掘立柱建物が位置している。中央部では長軸7.9ｍ，短軸7.6ｍでやや大形の第1241号竪穴住居跡と第1232・1234・1239号竪穴住居

跡が検出されており，その東側には４×３間の第80Ａ・80Ｂ号掘立柱建物と第88号掘立柱建物，第881・886号土坑が検出されている。いずれもこの時期のものと考えられる。そのほかに，南西部に第1228・1236号竪穴住居跡が，第82・83・87Ａ号掘立柱建物跡と重複して検出されており，いずれも中葉と考えられる。この時期の特徴は，第1241号竪穴住居，第80Ａ・80Ｂ・88号掘立柱建物及び第881・886号土坑が，互いに隣接していることである。また，８世紀に比べ，竪穴住居の大形化の傾向がうかがえる。第1241号竪穴住居跡からは，供膳具を主体とする多量の土器片が出土しており，第80Ａ・80Ｂ号掘立柱建物跡の付近からも多くの土器片が検出されている。第1241号竪穴住居跡の規模や出土土器から，一般民衆の住居とは考えにくく，豪族・富豪層の居宅の可能性がある。また，第80Ａ・80Ｂ号掘立柱建物跡には，東側と南側の２面に目隠し塀のような付属施設跡が検出されている。いずれも性格が不明であるが，竪穴住居１～２軒，掘立柱建物２棟，土坑１基が，一つの施設群として機能していた可能性がある。また，第1241号竪穴住居跡からみて，北西部に位置する第72・74・81・102号掘立柱建物跡も，この施設群と何らかの関係がある可能性もある。

中葉から後葉にかけては，長軸7.2m，短軸7.1mでやや大形の第1233号竪穴住居跡を中心に，その西側には３×２間で南北棟の第70・71・73号掘立柱建物跡が直列配置され，北側には第1221号竪穴住居跡と３×２間で東西棟の第79号掘立柱建物跡が検出されている。これらの配置から，第1233号竪穴住居と掘立柱建物との間には空間があったと考えられる。第1233号竪穴住居跡からは，円面硯が出土しており，出土土器は須恵器が８割を占め，主に供膳具である。これらは竪穴住居２軒と掘立柱建物４棟から構成された一つの施設群と考えられ，先に述べた第1241号竪穴住居と掘立柱建物との関係に類似しているように思われる。

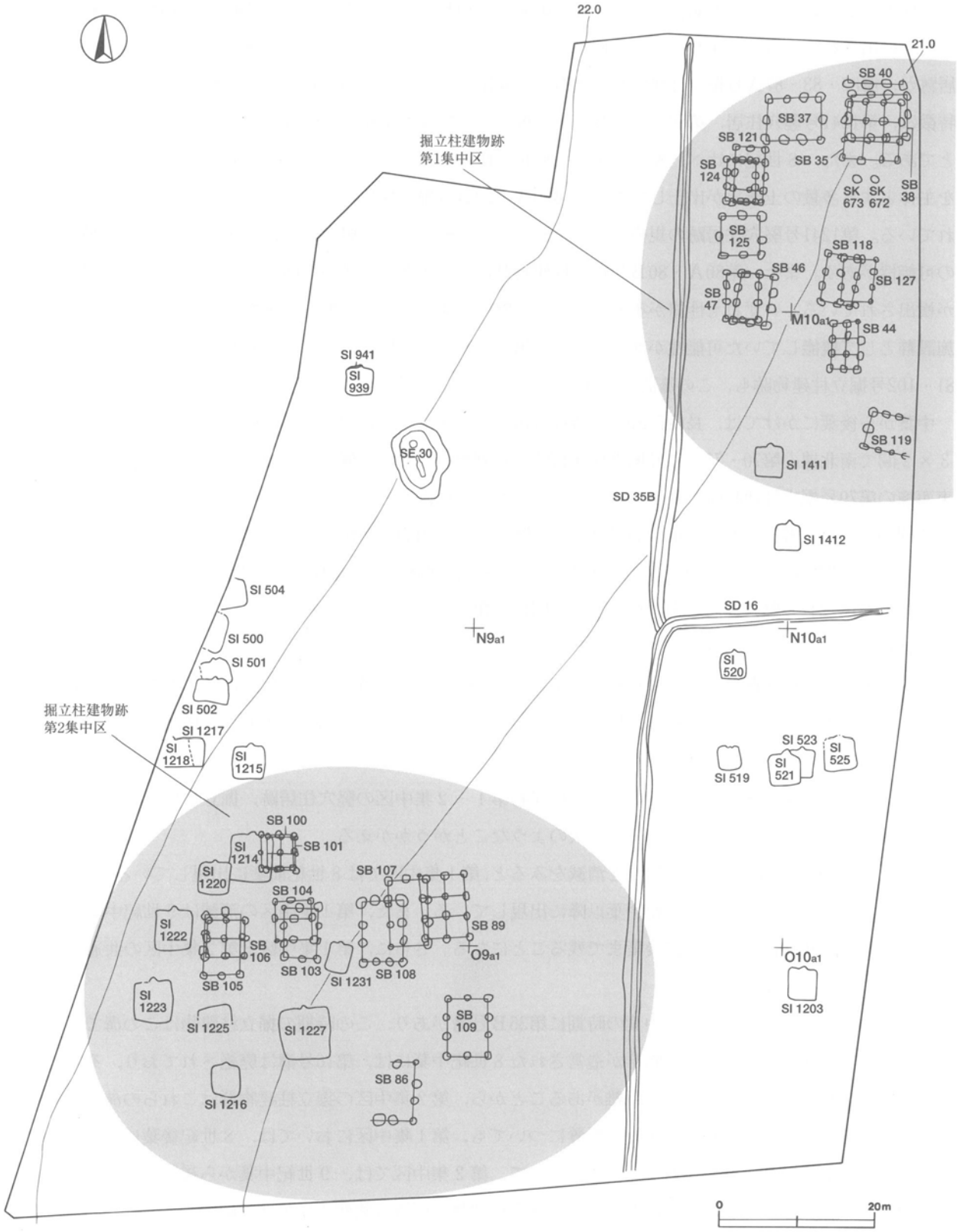
・10世紀

この時期の竪穴住居跡及び掘立柱建物は検出されていない。この時期の竪穴住居跡は，調査８区の東部で検出されるだけあり，しかも，規模が長軸3.2～4.1m，短軸2.7～3.7mであり，小形化の様相を呈する。

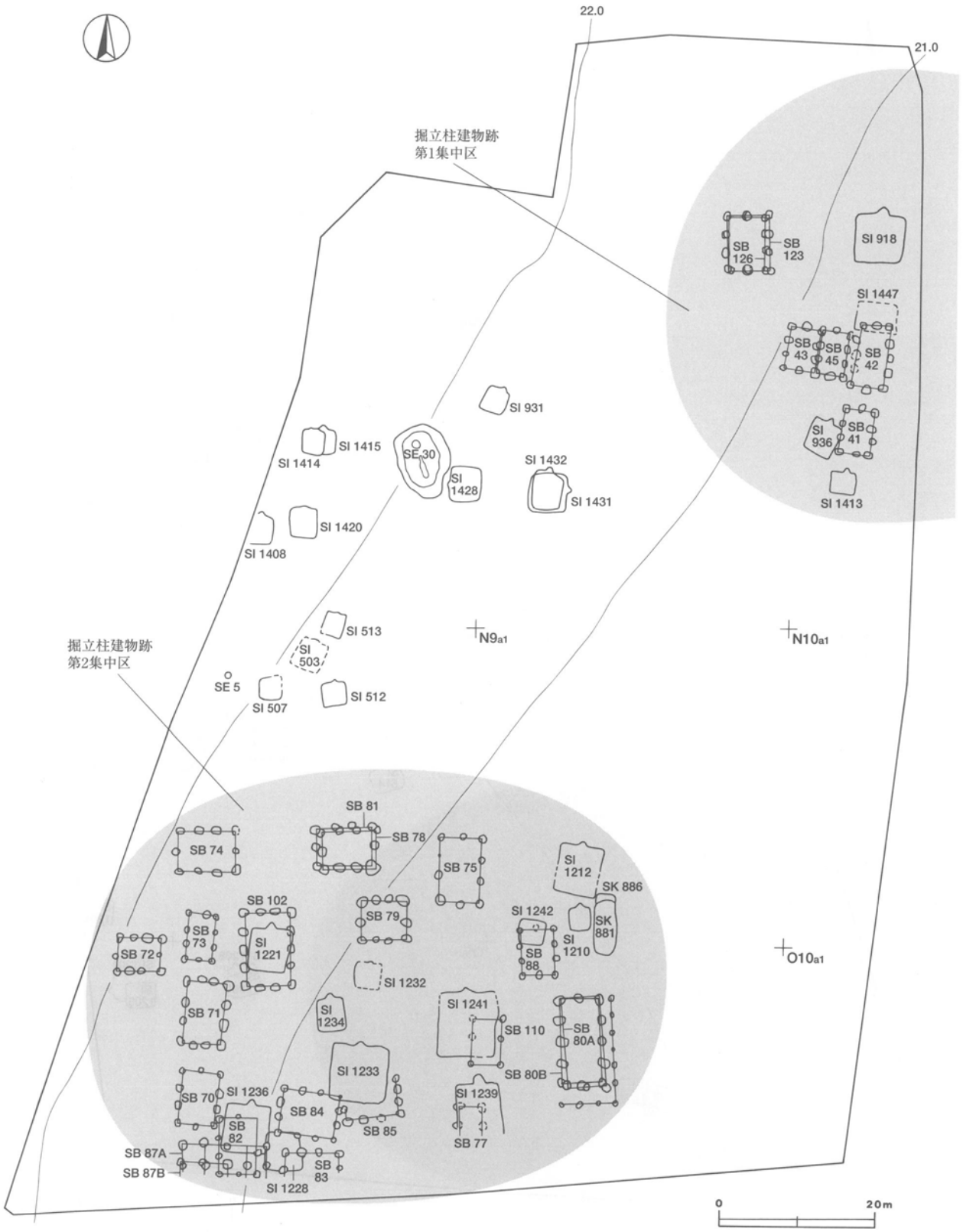
以上のような，調査８区を中心とする掘立柱建物第１・２集中区の竪穴住居跡，掘立柱建物跡，溝の関係及びその変遷から集落の構造をみてみると，次のようなことがうかがえる。

第１・２集中区の掘立柱建物の出現と消滅をみると，第１集中区では８世紀前葉に出現しているのに対して，第２集中区はそれより遅れて８世紀中葉以降に出現している。また，第１集中区の消滅は９世紀中葉であるのに対して，第２集中区では９世紀後葉まで残ることになる。さらに，第１集中区と第２集中区の共通点及び相違点をみると，次のようになる。

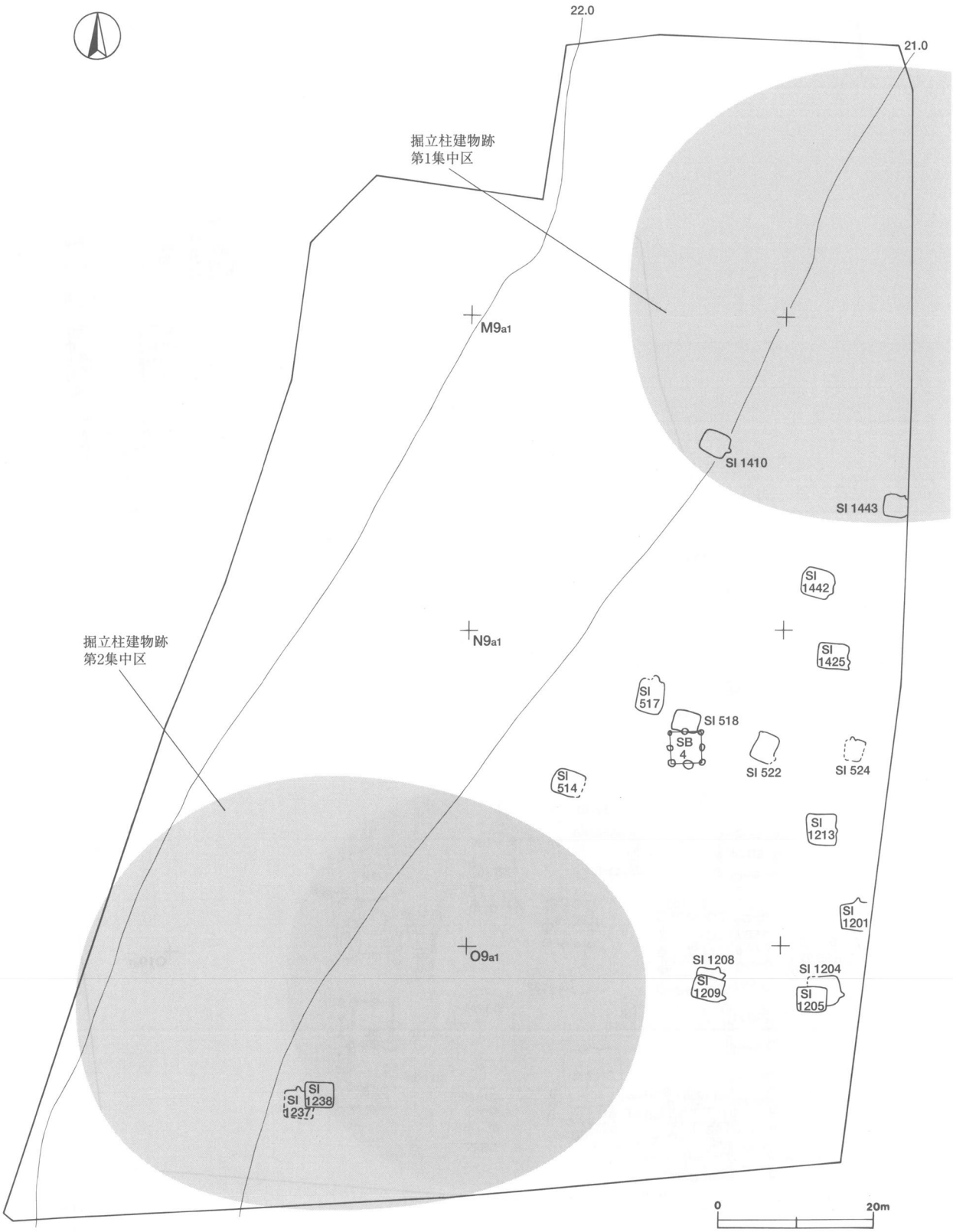
第１集中区は，８世紀前葉から中葉の時期に第35Ｂ号溝があり，この時期の掘立柱建物はこの溝で区画されているが，第２集中区で掘立柱建物群が造営された８世紀中葉には，第16号溝は廃絶されており，その北側の第35Ｂ号溝は機能していたにしても距離があることから，第２集中区の掘立柱建物群はこれらの溝とは関係が薄いと考えられる。また，掘立柱建物の配置についても，第１集中区においては，８世紀後葉になるまでは，ほぼ「Ｌ」字状に整然と配置されているのに対して，第２集中区では，９世紀中葉から後葉にかけてで，「コ」の字状に近い配置となるが，この時期を含めて掘立柱建物の配置は整然さに欠ける傾向がある。さらに，第１集中区で，掘立柱建物及び溝が造営された８世紀の前葉から中葉においての竪穴住居跡は，その付近からは検出されておらず，やや大形の竪穴住居と掘立柱建物とが一つの施設群を構成する時期は，８世紀後葉になってからである。これに対して，第２集中区では，掘立柱建物が存在したどの時期も，竪穴住居と掘立柱建物がいくつかのまとまりで一つの施設群を構成しているように思える。つまり，第１集中区の８世紀前葉から中葉の時期を除いて，第１・２集中区の掘立柱建物は竪穴住居との関係において存在したと考えられる。



第717図　調査８区（８世紀）遺構配置図（１）



第718図　調査８区（９世紀）遺構配置図（２）



第719図　調査８区（10世紀）遺構配置図（３）

(2) 第30号井戸跡について

調査8区の西部で，大形の井戸跡が検出されている。当初は，大形土坑として調査を開始したが，2.1m掘り込んだ時点で平坦面が確認され，その平坦面の北西部に粘土の土手が巡らされた井戸跡の開口部が検出された。この遺構は，上部の大形土坑部及び下部の井戸部から構成されているかのように思えるが，覆土の堆積状況から重複等は認められず，一連の施設と判断できたことから，全体を大形の井戸跡とした。規模は，上部が長径9.55m，短径6.81mで，確認面から2.2mの深さまですぼまっていき，下部は長径1.60m，短径1.45mの楕円筒形に掘り込まれている。確認面から5.25mの深さまで掘り下げたが底面が確認できず，さらに下まで掘り込んでいると考えられる。

ここでは，上部を大形土坑部，下部を井戸部と分けて考えることにする。まず，それぞれの時期であるが，井戸部が廃絶された時期は，井戸内部から出土した土器から，8世紀後葉と考えられる。また，大形土坑部であるが，14,000点に及ぶ多量の土器片が出土していることから，井戸としての機能が失われた8世紀後葉以降9世紀後葉まで，廃棄土坑として使用されていたものと考えられる。この井戸跡の特徴としては，規模が大きいことであるが，そのほか出土遺物も注目されるところである。ここでは出土遺物について，特に，井戸内部から出土した土器及び大形土坑部から出土した大甕，その他馬骨等について若干の考察を加えたい。

井戸内部及び土坑底面から出土した土器は甕，壺類が目立ち，それらは破損が少なくほぼ完形である。また，井戸内部の覆土の堆積状況は，人為的に埋め戻された状況である。さらに，井戸部上面から大形土坑の底面にかけて，馬骨3頭分が出土している。金子裕之氏の説[19]によれば，甕・壺には，疫病のもとになる疫「鬼」（死者霊）を気息とともに吹き込むなどの封鬼壺・瓶と同じように用いられる場合があり，馬は水神奉献説が有力で，貴人の乗り物から転じて疫神への供物を意味する説があるとしている。これらのことから，本跡においても疫病退散，井戸封じなどに関連した祭祀を行った可能性がうかがわれる。大形土坑部からは多数の土器片が出土しているが，なかでも須恵器の大甕（1点）の胴部が，破砕された状態で出土している。この大甕の口縁部は，第35B号溝の覆土上層から出土しており，大甕の時期は8世紀中葉と考えられる。調査8区南部の第16号溝の底面からも，7世紀末から8世紀初頭と考えられる須恵器の大甕（1点）が，やはり破砕された状態で出土している。第16・35B号溝からは，大甕の他にも多くの土器が，特に須恵器の坏，盤，高盤などを中心に出土している。これらの大甕は，酒などを入れたと考えられており，饗宴の際の酒を準備し，供応するための重要な器物であったと考えられる。須恵器の大甕及び大形竪穴住居の供膳具の保有者は，饗宴の主催者たる，郷における中心的な存在としての豪族・富豪層であったものと考えられる。また，「郷飲酒礼」など郷における儀礼[20]を裏付けるものと考えられる。

以上，遺構の配置及び主な出土遺物，また，これまで報告された調査成果から，律令期における当遺跡の集落の様相を検討すると，国府や郡衙には当てはまらないが，一般の集落とも言いがたい古代地方行政の末端支配機構に関係する集落と考えられる。それらには，「郡衙出先施設」説，「首長私宅官衙」説，「豪族居宅」説，「郷衙」説[21]など論じられているところであるが，出土遺構及び遺物などからは，判断がつけられないのが現状である。しかし，これまで述べた調査成果をまとめると，次のようなことがあげられる。①区画溝等の区画施設がある。②大形住居を中心に掘立柱建物跡が，「L」字状，または，「コ」の字状に配置されている。③須恵器の大甕と大量の供膳具が出土している。④出土数は少ないが，緑釉陶器，灰釉陶器，金泥付着の灰釉陶器が出土している。⑤円面硯，転用硯，腰帯具，刀子などの，官人や文書にかかわる人物の存在を推定させる遺物が出土している。⑥馬骨，馬歯，馬具，銭が出土している。⑦不定形土坑（廃棄土坑）が検出されている。

⑧鍛冶工房が検出されている。⑨倉庫群の規模が小さい。⑩建物群の構成，特に掘立柱建物の構成がやや不安定で，随時，掘立柱建物が増加した傾向がみられる。⑪井戸跡が区画内と区画外にある，などである。これは，田中広明氏が指摘している豪族の家の構成要素[22]と類似している。⑫そのほかに，調査11区からは，氷室と推定される特殊土坑が検出されている。奈良国立文化財研究所の山中敏史氏の御教示によると，官衙関連施設の諸類型を次の６タイプに分類[23]している。Ⅰ類「第三権力機関としての役割の一翼を担う施設として設けられた厳密な意味での官衙と推定できる一群」でＡタイプの官舎独立型，Ｂタイプの正倉別院・併設型，Ⅱ類「他の私的な民間の施設に併設され官衙的機能を果たした施設を含む一群」でＣタイプの集落併存型，Ｄタイプの豪族居宅併存型，Ⅲ類「家政機関など民間施設と官衙施設とが未分化で官衙の範疇から除外すべき一群」でＥタイプの集落内包型，Ｆタイプの豪族居宅型などである。当遺跡をこの６タイプに当てはめるとするならば，第１集中区に掘立柱建物が造営され始めた８世紀前葉から中葉の，竪穴住居が伴わない時期は，Ⅱ類Ｄタイプの豪族居宅併存型（豪族の居宅に隣接して居住施設とは異なる施設が付置されたもので，館の別院，村里に別置された正倉，借倉・借屋があり，集落ないし居宅に併置された郡衙の補完的官衙施設）に当てはまる可能性がある。これは，律令国家成立当初から永続的な施設として造営・維持されたものではなく，郡衙機能を分掌するその職務内容や在地の政治経済的状況・地形条件に応じ，適宜，設置・移転・廃止された補完的な性格の強い官衙施設で，必要に応じて郡衙の諸機能の一部を補う役割を担うべく設置された施設と考えられている。８世紀中葉以降は，第１・２集中区において，掘立柱建物と竪穴住居が一つの施設群として併存していたことから，Ⅲ類Ｅタイプの集落内包型（民衆の居住施設とは区別しがたいが，遺物などにより官衙的な機能が推定される。）に当てはまるものと考えられる。

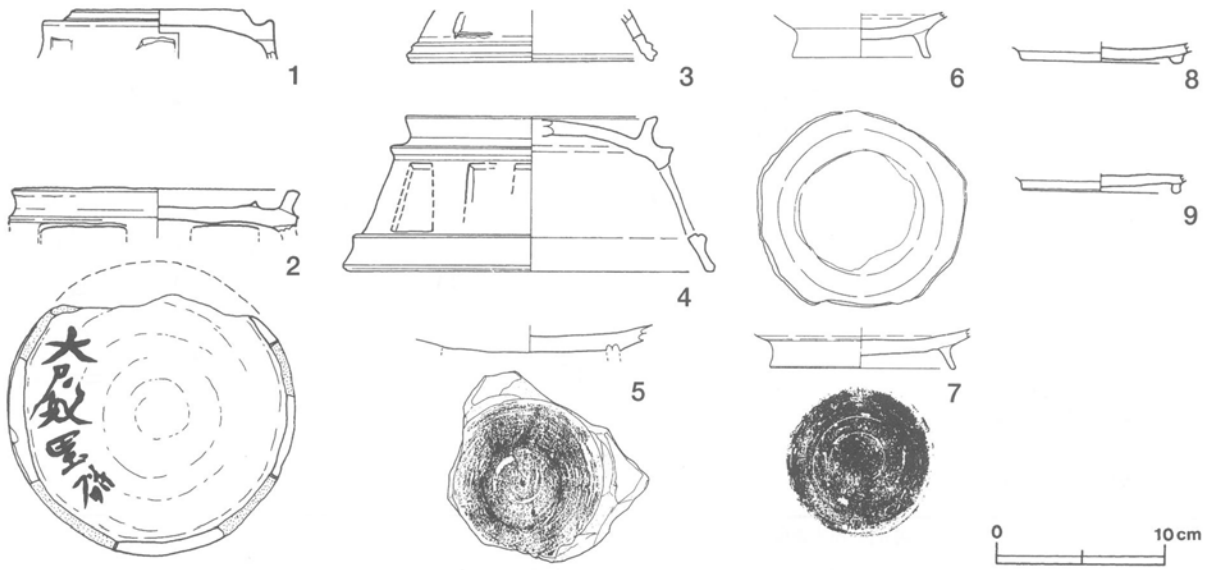
当遺跡は古墳時代から継続的に集落が営まれ，古墳時代後期には，特に調査４区で大形の住居が目立つようになり，集落の北側には古墳群が確認されていることなどから，古墳時代後期には首長クラスの在地有力者がいたと考えられる。奈良時代になると，このように在地勢力がある程度認められる地域に，国や郡の勢力は，官的・公的な権力の表れである区画溝や掘立柱建物を造営し，在地勢力との融合を図りながら地域支配を進めたのではないかと想像される。第１集中区の８世紀前葉から中葉にみられる溝及び掘立柱建物跡群は，こうした施設に相当すると考えられる。８世紀中葉以降の第１・２集中区周辺は，豪族・富豪層が台頭してきて集落を形成した区域と考えられる。第１集中区では，第918号竪穴住居，第42・43号掘立柱建物が，９世紀中葉以降に廃絶された後は，竪穴住居と掘立柱建物からなる施設群は消滅してしまう。これに対して，第２集中区では，９世紀中葉から後葉にかけて，第1233・1241号竪穴住居を中心とし掘立柱建物を含む施設群が出現している。ここにあげた竪穴住居及び掘立柱建物は，豪族・富豪層の居宅及び倉庫群と考えられ，これらが検出された区域は，郷または集落における中心区域として機能していたものと考えられる。その中心区域は，８世紀中葉から９世紀中葉では第１集中区であり，９世紀中葉から後葉では第２集中区に移動したことがうかがえる。

ここでの分析は，遺構の配置を中心とし，その他に主な出土遺物からだけであり，関連分野と接点を持った総合的な分析には至っていないのが現状である。また，これまでに報告されている各調査区及び遺跡全体の遺構の変遷，土器の組成や構成について再検討するには及ばなかった。調査８区を中心とした調査成果として報告したい。

(3) 硯，腰帯具，文字資料について（第720～725図）

① 硯

本跡からは，４点の円面硯と５点の転用硯が出土している。材質はすべて須恵器である。いずれも本跡の北部（調査４区北部・11区）及び中央部から南部（調査７・８区）にかけての住居跡から出土している。表中の５と６・７は７区東部の近接し合う住居跡から，そのほかは第16号溝及び第35Ａ・Ｂ号溝に近接する掘立柱建物跡集中区付近の住居跡から出土している。時期的には，表中の２・３・８・９の硯が８世紀代の住居跡から，ほかはいずれも９世紀代の住居跡からの出土である。特に２・８・９の硯を出土している第871号住居跡は，第28・29号掘立柱建物跡と第32・33・34号掘立柱建物跡の間に位置しており注目すべき遺構である。



第720図　硯集成図

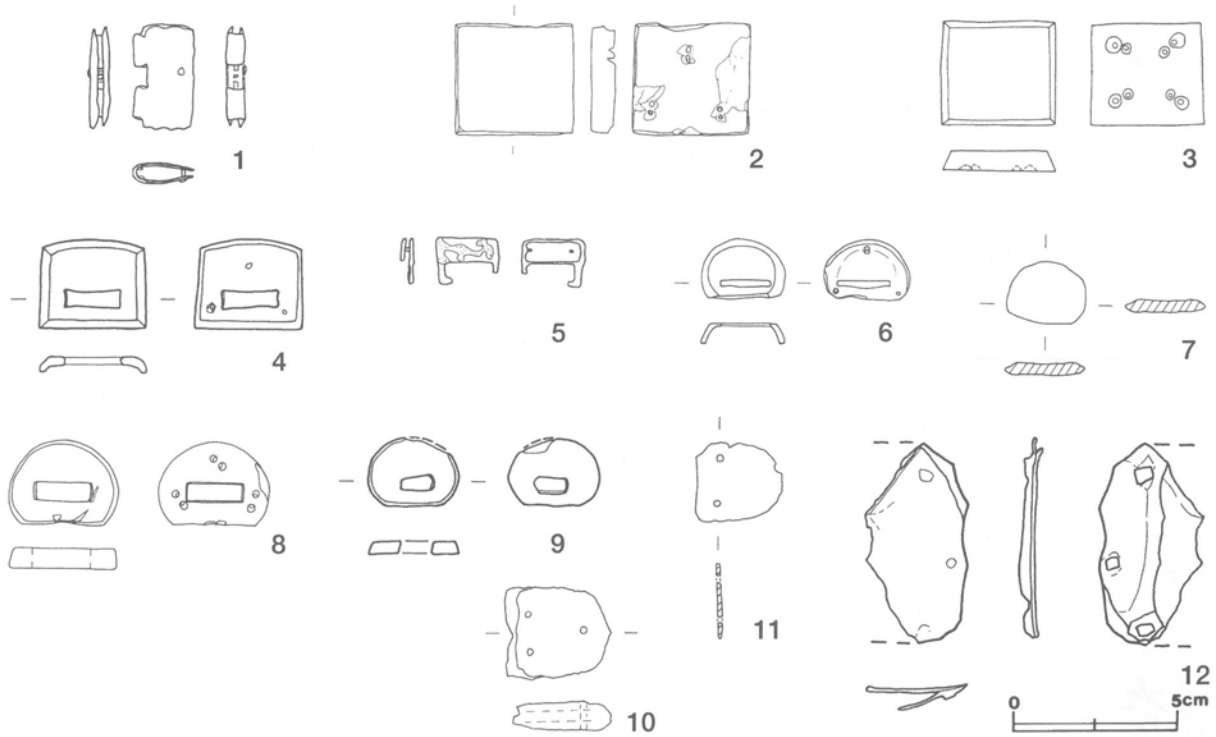
表23　硯一覧表

図版番号	器種	出土調査区	出土遺構	時期	主な共伴遺物	備考
第720図１	円面硯	11区	SI834A	９世紀	須恵器(坏)，土師器(甕)など	
2	円面硯	〃	SI871	８世紀中葉～後葉	須恵器(高台付坏)，土師器(鉢)など	硯背面墨書「大殿墨カ研」
3	円面硯	４区北部	SI1144	７世紀末葉～８世期初頭	須恵器(坏)，土師器(坏・甕) など	
4	円面硯	８区	SI1233	９世紀後葉	須恵器(坏・高台付坏・蓋・鉢・高盤)・灰釉陶器(蓋の摘み)，土師器(甕)，鬥，鎌など	
5	転用硯　高台付盤	７区	SI628	９世紀後葉	須恵器(甑)，土師器(坏)，角釘,墨書土器２点など	
6	転用硯　高台付盤	〃	SI703	９世紀中葉	須恵器(坏・盤)，土師器(甕)，灰釉陶器片(長頸瓶)など	底部外面に墨が付着
7	転用硯　高台付盤	〃	SI703	〃	〃	底部外面に墨が付着，底部内面に朱墨が付着
8	転用硯カ高台付坏	11区	SI871	２と同じ	２と同じ	
9	転用硯カ高台付坏	〃	SI871	〃	〃	

② 腰帯具

本跡からは，12点の腰帯具が出土している。内訳は，鈒具１点，巡方４点，丸鞆（裏金具も含む）４点，鉈尾３点である。材質は，表中２の巡方と17の丸鞆が石製，９の丸鞆が鉄製，その他はすべて銅製である。出土遺構の時期は，表中５・９・10の３点が８世紀代，表中１～４・６～８の７点が９世紀代，11の１点が10世紀

代である。時期不明は遺構外出土の，12の１点である。全12点の内，６点が調査７区から出土しており，硯の出土地点を含めて，本跡の律令期の中心地域を特定する資料になるものと考えられる。



第721図　腰帯具集成図

表24　腰帯具一覧表

図版番号	器　種	材　質	出土調査区	出土遺構	時　期	主な共伴遺物	備　考
第721図１	鉸　具	銅	８区	SI1236	９世紀中葉	須恵器(坏･蓋･甕･甑･長頸瓶)，土師器(坏･高台付坏･皿･甕)，墨書土器１点	
2	巡　方	粘板岩	６区	SK215	平安時代初頭	なし	
3	巡　方	銅	７区	SI696	９世紀後葉	須恵器(坏･高台付坏･甕)，土師器(甕)，灰釉陶器(長頸瓶)，角釘	
4	巡　方	銅	11区	SI856	９世紀中葉	須恵器片，土師器(甕)	
5	巡　方	銅	８区	SD16	８世紀初頭	須恵器(坏・盤・大甕片)	混入
6	丸　鞆	銅	７区	SI597	９世紀中葉	須恵器(坏･高台付坏)，土師器(甕)	６の丸鞆は外面に黒漆一部残存
7	丸鞆裏金具	銅					
8	丸　鞆	緑色岩	７区	SI604	９世紀中葉	須恵器(坏･高台付坏)，土師器(坏)，緑釉陶器(輪花皿)，刀子，鎌，鉄鏃，墨書土器片６点	
9	丸　鞆	鉄	４区	SI1149	８世紀中葉	須恵器(坏・甕)，土師器(甕)	
10	鉈　尾	銅	７区	SI639	８世紀前葉	須恵器(坏･高台付坏･蓋･短頸壺)，土師器(坏･甕)，刀子，鎌，鉄鏃	
11	鉈　尾	銅	７区	SI655	10世紀後葉	須恵器(甕)，土師器(坏･高台付坏･甕)，鉄鏃	
12	鉈尾カ	銅	４区	遺構外			

③　文字資料

当遺跡から出土している文字資料は，同一個体の複数記載資料をそれぞれ数えると総数130点にのぼる[24]。その出土した地点は住居跡から100点，大形竪穴状遺構から２点，掘立柱建物跡から５点，土坑から11点，井戸跡から１点，溝から２点，遺構外から９点である[25]。種別の内訳は，朱墨書３点を含めて墨書107点，刻書15点，箆書８点である。また，文字が明瞭なもの，あるいは部分的に判読が可能なものは99点で，他は字形の一部を残すだけか，墨痕が極めて薄いため釈読できないものである。

材質の内訳は土師器101点，須恵器28点，陶器１点で，土師器が78％を占める。器種の内訳は坏89点，高台付坏26点，高台付皿５点，甕３点，皿２点，小皿１点，蓋１点，瓶１点，鉢１点，盤１点，円面硯１点と続き，

坏・皿等の供膳具が96％と圧倒的である。時期別にみると８世紀代９点，９世紀代84点，10世紀代19点，近世以降１点，不明17点となる。以下，各時期ごとに様相を見ていくことにする。

８世紀代のものは，前葉のもの１点，中葉のもの４点，後葉のもの４点である。前葉のもの１点は，遺構外出土の土師器坏の底部外面に「大」と読める文字が墨書されている。中葉のもの４点はすべて須恵器に墨書（朱墨書１点）されたものであり，３点が坏，１点が円面硯（「大殿墨ヵ研」）である。後葉のもの４点は須恵器坏に墨書されたもの２点，須恵器甕（九九算）と土師器甕に箆書されたもの２点である。この時期は，８点中７点が須恵器である。体部外面５点，底部外面２点，背面１点と記載の部位についてはそれほど特徴は見られない。

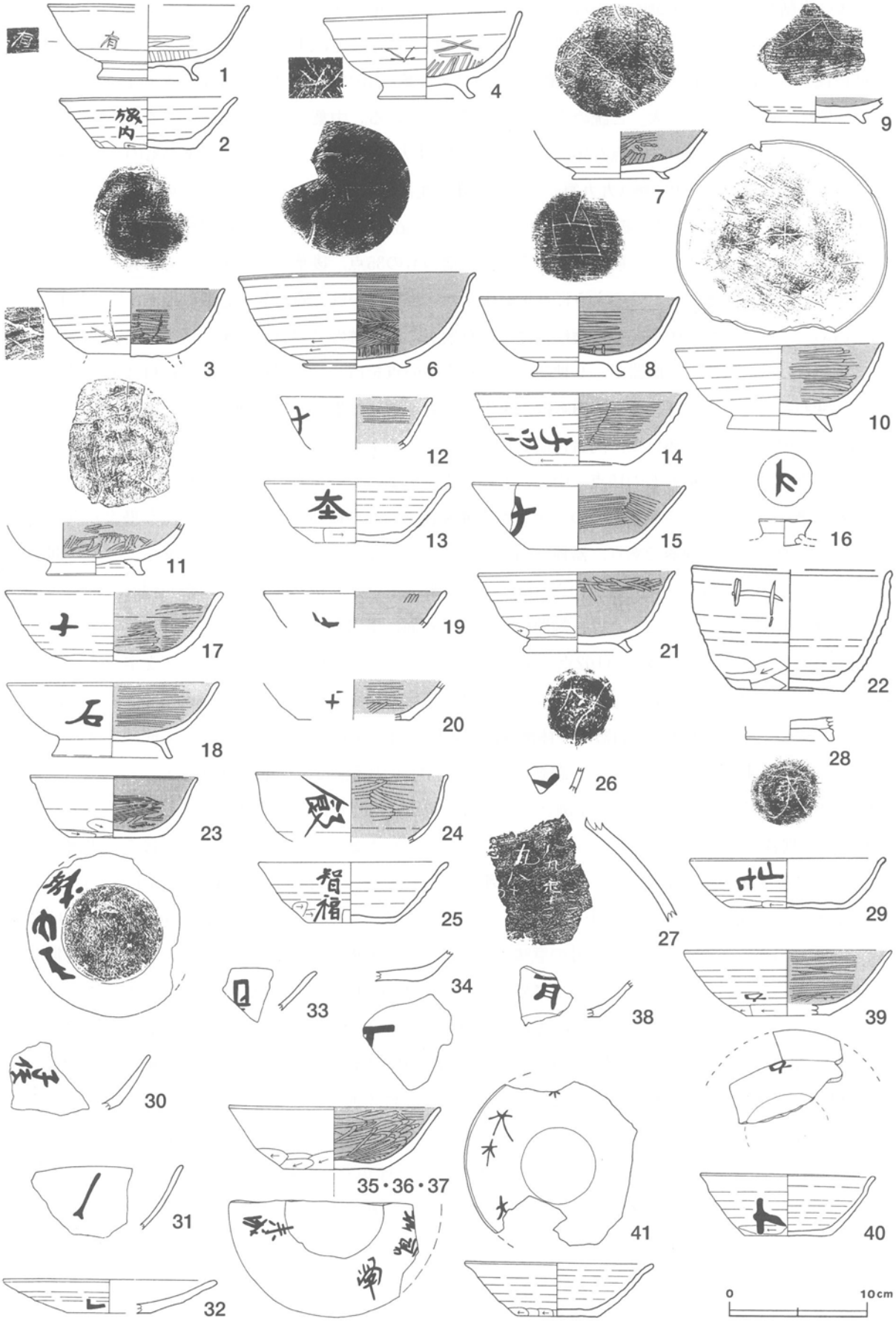
９世紀代のものは，初頭ないし前葉のもの７点，中葉のもの35点，後葉ないし末葉のもの40点，９世紀のもの２点を加えて84点を数える。このように９世紀中葉から後葉にかけて資料数が急激に増え，文字資料全体の58％を占めている。９世紀中葉から後葉にかけての時期が，当遺跡の文字資料記載の盛行期と言える。器種では，８世紀代は１点だけの土師器が，９世紀代には84点中65点を占め，当遺跡でも文字資料は須恵器から土師器主体と変わってきている[26]。種別の内訳は，朱墨書２点を含めて墨書78点，刻書３点，箆書３点であり，器種の内訳は坏64点，高台付坏11点，高台付皿５点，皿２点，蓋１点，盤１点となる。

10世紀代のものは，前葉のもの15点，中葉のもの２点，後葉のもの２点である。資料数は９世紀の後葉に比べ10世紀前葉には急激に減少するものの，後葉まで継続している。種別の内訳は刻書11点，墨書６点，箆書２点である。材質は全て土師器であり，器種は高台付坏が13点，坏が５点，小皿が１点である。この時期注目すべきは，高台付坏に記載された刻書が10点（「大」が５例，「＋」が４例，「□」が１例）を数えることである。

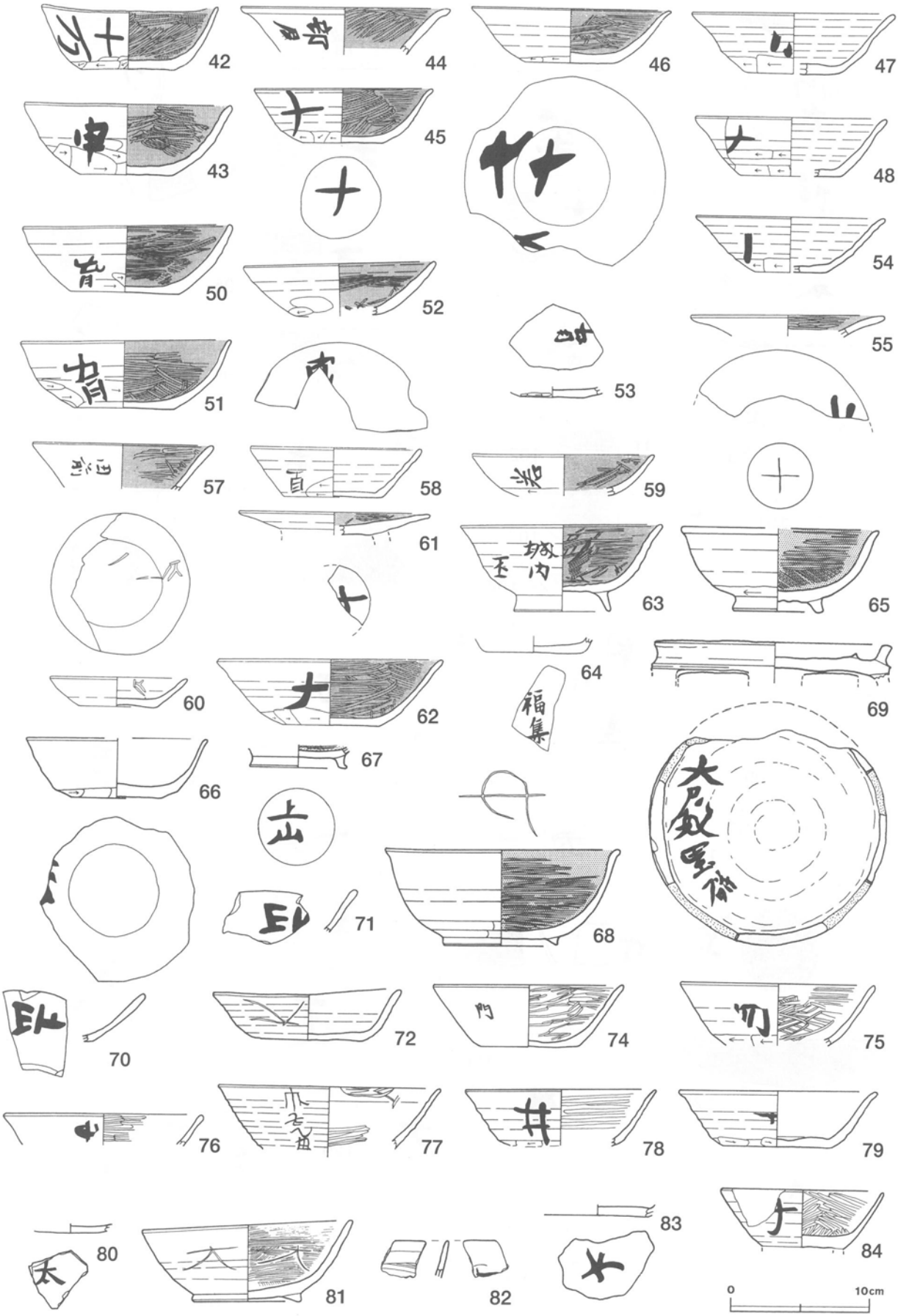
近世以降のものと考えられる１点は，陶器瓶類の底部外面に墨書されたものである。

記載された文字資料は，１文字（102点，１文字で２・３ヵ所の記載を含む）ないし２文字のもの（22点）が主流である（３文字以上は６点）が，いくつか同種の文字が出土していることに気がつく。例えば，「ナ」・「ナヵ」（墨書，15例，９例が土師器坏，体部外面，正位）は，１例不明のものを除いて他は９世紀中葉ないし後葉の器種に記載されたものであり，調査７・８区を中心に比較的広い範囲で出土している。「井」（墨書，３例とも９世紀後葉），「＋」（刻書，４例ともに10世紀前葉）は比較的広い範囲で出土しいる。一方，「奎」[27]（「大士」と判読でき２文字とも考えられるが，ここでは合わせ文字として１文字として扱う，墨書，７例のうち６例は調査８区から出土），「大」（刻書，８例の内５例が５軒の近接した住居跡から出土），「育」（墨書，６例，２軒の近接する住居跡から出土），「上山」（墨書，４例，２軒の近接する住居跡から出土）等は，比較的狭い範囲で出土している。文字は記号の意味も含めており，呪術的な意味も考えられるがほぼ同時期に近接する遺構（地点）から出土していることを考慮すれば，集団の単位を示す標識文字と考えられる[28]。これらの文字とは違って，「城内」（墨書，須恵器１例・土師器２例，坏，体部外面，正位），「城内丕」（墨書，土師器２例，坏・高台付坏，体部外面，横位・正位），「大殿墨ヵ研」（墨書，須恵器１例，円面硯，背面）は，ある特定の場所を想定させ，権力者に関係するものなのかどうかは不明ではあるが，一般集落で出土する文字資料と違った意味をもつものではないだろうか。この他，則天文字（表中77）を含めて「智福」，「十万」，「福集」等は，平川氏の言う共通文字による文字の組み合わせの可能性が考えられ，「大」，「万」，「来」，「明」，「朋」等の文字とともに庶民が吉兆を願うための，縁起の良い文字の類と考えられる[29]。

出土している地区を概観すると，総数130点のうち，42点が７区，39点が８区，14点が６区，12点が４区，11点が11区と続き，２区から７点，１・５区から２点ずつ，３区から１点である。７・８区からの出土資料数で全体の62％を占め，その内56点が９世紀代の遺構から出土している。単に遺構数だけでなく文字資料の数からも，本跡の９世紀代の中心地域は調査区域の中央部から南部にかけての地域（調査７・８区）と考えられる。

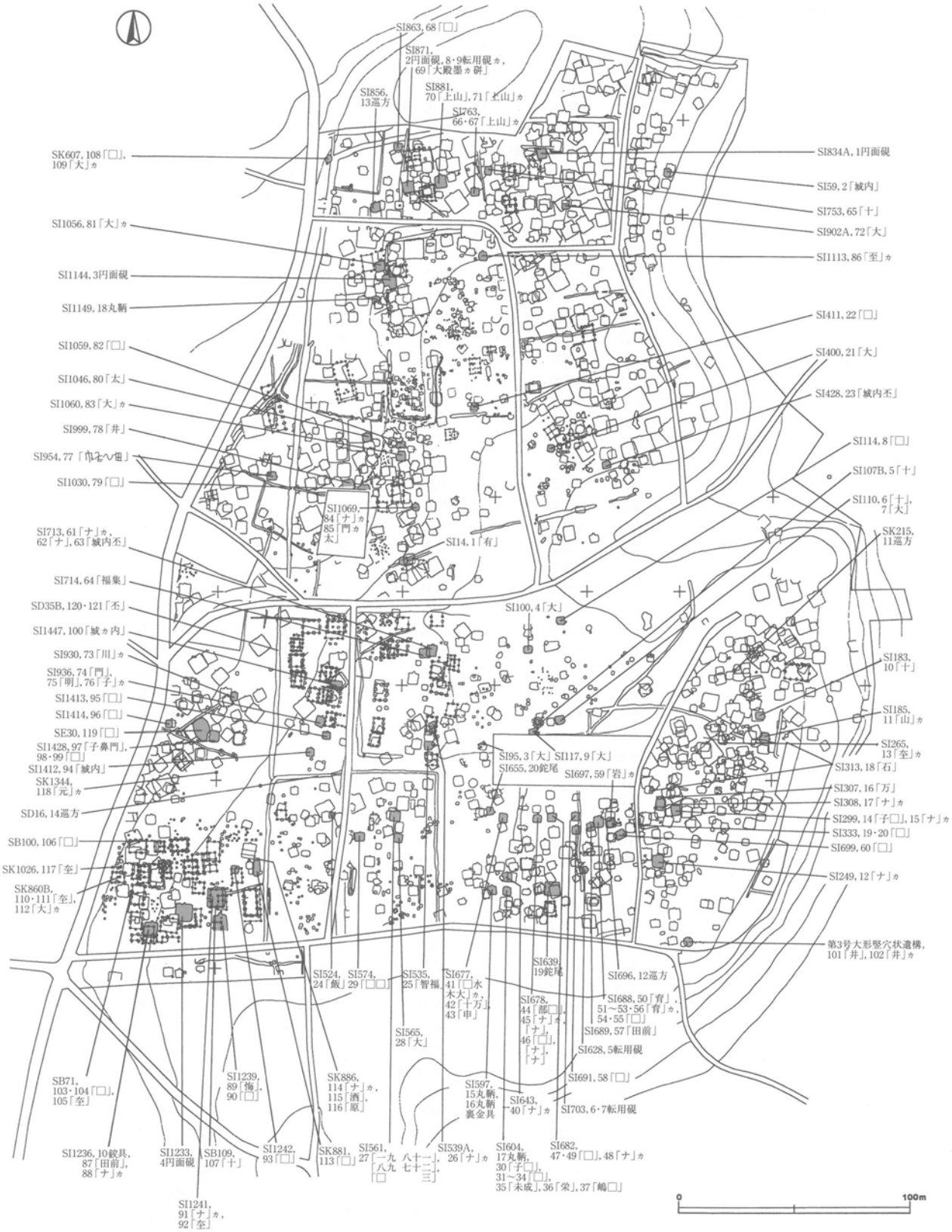


第722図　文字資料集成図（1）



第723図　文字資料集成図（2）

第724図　文字資料集成図（3）



第725図　硯，腰帯具，文字資料出土位置図

表25　文字資料一覧表

番号	釈文	種別	材質	器種	部位	方向	遺構	時期	備考
1	有	箆書	土師器	高台付坏	体外	正位	14号住	9世紀末葉	調査3区
2	城内	墨書	須恵器	坏	体外	正位	59号住	9世紀前葉	1区
3	大（2か所）	刻書	土師器	高台付坏	体内・外	倒位	95号住	9世紀末葉	2区
4	大	刻書	土師器	高台付坏	体外	倒位	100号住	9世紀末葉	〃
5	十	刻書	土師器	高台付坏	底内		107B号住	10世紀前葉	〃図版なし
6	十	刻書	土師器	高台付坏	底内		110号住	10世紀前葉	〃
7	大	刻書	土師器	高台付坏	体内		〃	10世紀前葉	〃
8	□	刻書	土師器	高台付坏	底内		114号住	10世紀前葉	〃
9	大	刻書	土師器	高台付坏	底内		117号住	10世紀前葉	〃
10	十	刻書	土師器	高台付坏	底内		183号住	10世紀前葉	6区
11	山カ	刻書	土師器	高台付坏	底内		185号住	10世紀前葉	〃
12	ナカ	墨書	土師器	坏	体外	正位	249号住	9世紀末葉	〃
13	至	墨書	須恵器	坏	体外	正位	265号住	9世紀中葉	〃
14	子□	墨書	土師器	坏	体外	右横位	299号住	9世紀後葉	〃
15	ナカ	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	9世紀後葉	〃
16	万	墨書	須恵器	蓋	つまみ		307号住	9世紀	〃
17	ナカ	墨書	土師器	坏	体外	正位	308号住	9世紀末葉	〃
18	石	墨書	土師器	高台付坏	体外	正位	313号住	10世紀前葉	〃
19	□	墨書	土師器	坏	体外	横位カ	333号住	9世紀後葉	〃
20	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	〃	9世紀後葉	〃
21	大	刻書	土師器	高台付坏	底外		400号住	10世紀前葉	5区
22	□	箆書	土師器	小鉢	体外		411号住	10世紀中葉	4区
23	城内不	墨書	土師器	坏	体外	右横位	428号住	9世紀前葉	5区
24	飯	墨書	土師器	坏	体外	右横位	524号住	10世紀前葉	8区
25	智福	墨書	須恵器	坏	体外	正位	535号住	9世紀初頭	7区
26	ナカ	墨書	土師器	坏	体外	不明	539A号住	10世紀中葉	〃
27	一九八十一八九七十二□三	箆書	須恵器	甕	体外	正位	561号住	8世紀後葉	〃九九算
28	大	刻書	土師器	高台付坏	底外		565号住	9世紀後葉	〃
29	□□	墨書	須恵器	坏	体外	不明	574号住	8世紀中葉	〃
30	子□	墨書	土師器	坏	体外	右横位	604号住	9世紀中葉	〃
31	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	〃	9世紀中葉	〃
32	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	〃	9世紀中葉	〃
33	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	〃	9世紀中葉	〃
34	□	墨書	土師器	坏	底外		〃	9世紀中葉	〃
35	未成	墨書	土師器	坏	体外	倒位	〃	9世紀中葉	〃
36	栄	墨書	〃	〃	〃	倒位	〃	〃	〃35と同一個体
37	嶋□	墨書	〃	〃	〃	倒位横	〃	〃	〃35と同一個体
38	育カ	墨書	須恵器	盤	体外	正位	628号住	9世紀中葉	〃
39	□	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	9世紀後葉	〃
40	ナカ	墨書	須恵器	坏	体外	左横位	643号住	9世紀中葉	〃
41	□水木大カ	墨書	須恵器	坏	体内	右横位	677号住	9世紀中葉	〃
42	十万	墨書	土師器	坏	体外	右横位	〃	9世紀中葉	〃
43	申	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	9世紀中葉	〃
44	部□	墨書	土師器	坏	体外	右横位	678号住	9世紀中葉	〃
45	ナカ，ナ（2か所）	墨書	土師器	坏	体外・底外	正位	〃	9世紀中葉	〃
46	□，ナ，ナ3か所	墨書	土師器	坏	体外・底外	正位	〃	9世紀中葉	〃
47	□2か所	墨書	須恵器	坏	体外	不明	682号住	9世紀中葉	〃
48	ナ	墨書	須恵器	坏	体外	正位	〃	9世紀中葉	〃
49	□2か所	朱書	須恵器	坏	体外・底外	不明	〃	9世紀後葉	〃図版なし
50	育	墨書	土師器	坏	体外	正位	688号住	9世紀後葉	〃
51	育カ	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	9世紀後葉	〃
52	育カ	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	9世紀後葉	〃
53	育カ	墨書	土師器	坏	底内		〃	9世紀後葉	〃
54	□	墨書	須恵器	坏	体外	不明	〃	9世紀後葉	〃
55	□	墨書	土師器	皿	体外	不明	〃	9世紀後葉	〃
56	育カ	墨書	土師器	坏	体外	不明	〃	9世紀後葉	〃図版なし
57	田前	墨書	土師器	坏	体外	右横位	689号住	9世紀前葉	〃
58	□	墨書	須恵器	坏	体外	倒位カ	691号住	9世紀前葉	〃
59	岩カ	墨書	土師器	坏	体外	左横位	697号住	9世紀中葉	〃
60	□	箆書	土師器	小皿	体内	不明	699号住	10世紀後葉	〃
61	ナカ	墨書	土師器	高台付皿	底外		713号住	9世紀後葉	〃
62	ナ	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	9世紀後葉	〃
63	城内不	墨書	土師器	高台付坏	体外	正位	〃	9世紀後葉	〃
64	福集	朱書	須恵器	坏	底外		714号住	8世紀中葉	〃
65	十	刻書	土師器	高台付坏	底内		753号住	10世紀前葉	11区

番号	釈文	種別	材質	器種	部位	方向	遺構	時期	備考
66	上カ山カ	墨書	土師器	坏	体外	右横位	763号住	9世紀中葉	〃
67	上山カ	墨書	土師器	高台付坏	底外		〃	9世紀中葉	
68	□(記号カ)	刻書	土師器	高台付坏	底内		863号住	10世紀前葉	〃
69	大殿墨カ研	墨書	須恵器	円面硯	硯背面		871号住	8世紀中葉	〃
70	上山	墨書	土師器	坏	体外	右横位	881号住	9世紀末葉	〃
71	上カ山	墨書	土師器	坏	体外	右横位	〃	9世紀末葉	
72	大	刻書	土師器	坏	体外	倒位	902A号住	10世紀前葉	〃
73	川カ	朱書	須恵器	坏	体外	不明	930号住	9世紀中葉	〃図版なし
74	門	墨書	土師器	坏	体外	正位	936号住	9世紀後葉	8区
75	明	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	9世紀後葉	〃
76	子カ	墨書	土師器	坏	体外	横位カ	〃	9世紀後葉	〃
77	市を〜田	墨書	土師器	坏	体外	正位	954号住	10世紀前葉	4区
78	井	墨書	土師器	坏	体外	正位	999号住	9世紀後葉	〃
79	□	墨書	須恵器	坏	体外	横位カ	1030号住	8世紀中葉	〃
80	太	墨書	土師器	高台付皿カ	底外カ		1046号住	9世紀末葉	〃
81	大カ2か所	刻書	土師器	高台付坏	体内・外	正位	1056号住	10世紀前葉	〃
82	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	1059号住	10世紀後葉	〃
83	大カ	墨書	須恵器	坏	底外		1060号住	8世紀後葉	〃
84	ナカ	墨書	土師器	坏	体外	正位	1069号住	9世紀後葉	〃
85	門カ太	墨書	土師器	高台付皿	底外		〃	9世紀後葉	〃
86	至カ	墨書	須恵器	坏	底外		1113号住	9世紀中葉	〃
87	田前カ	墨書	土師器	坏	体外	倒位	1236号住	9世紀中葉	8区
88	ナカ	墨書	土師器	高台付皿	底外		〃	9世紀中葉	〃
89	悔	墨書	土師器	高台付坏	体外	正位	1239号住	9世紀中葉	〃
90	□	墨書	土師器	高台付皿	体外	正位	〃	9世紀中葉	〃
91	ナカ	墨書	土師器	坏	体外	正位	1241号住	9世紀中葉	〃内面油煙付着
92	至	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	9世紀中葉	〃
93	□，底部に墨痕	墨書	須恵器	坏	体外	正位	1242号住	9世紀後葉	〃
94	城内	墨書	須恵器	坏	体外	正位	1412号住	8世紀後葉	〃
95	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	1413号住	9世紀中葉	〃
96	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	1414号住	9世紀後葉	〃
97	子鼻門	墨書	土師器	坏	体外	横位	1428号住	9世紀中葉	〃
98	□	墨書	土師器	坏	底外		〃	—	〃
99	□	墨書	土師器	高台付坏	体外	不明	〃	—	〃
100	城カ内	墨書	土師器	坏	体外	正位	1447号住	9世紀後葉	〃
101	井	墨書	土師器	高台付坏	底外		3号大形竪	9世紀後葉	6区
102	井カ	墨書	土師器	坏	体外	正位カ	〃	9世紀後葉	〃
103	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	71号掘立	9世紀後葉	8区
104	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	〃	9世紀後葉	〃
105	至	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	9世紀後葉	〃
106	□	箆書	土師器	甕	体外	不明	100号掘立	8世紀後葉	〃
107	十	箆書	須恵器	高台付坏	底外		109号掘立	—	〃
108	□	箆書	土師器	高台付坏	底内	正位	607号土坑	9世紀前葉	11区
109	大カ	箆書	〃	〃	底外		〃	〃	〃108と同一個体
110	至	墨書	土師器	坏	体外	正位	860B号土坑	—	8区
111	至	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	—	〃
112	大カ	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	—	〃
113	□	墨書	土師器	坏	底外		881号土坑	—	〃
114	ナカ	墨書	須恵器	坏	体外	横位	886号土坑	9世紀中葉	〃
115	酒	墨書	〃	〃	底内		〃	〃	〃114と同一個体
116	原	墨書	須恵器	坏	底外		〃	9世紀中葉	〃
117	至	墨書	土師器	高台付皿	体外	左横位	1026号土坑	9世紀後葉	〃
118	元カ	墨書	土師器	坏	体外	正位	1344号土坑	—	〃
119	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	30号井戸	—	〃
120	丕	墨書	土師器	高台付坏	体外	正位	35B号溝	—	〃
121	丕	墨書	〃	〃	底外		〃	〃	〃120と同一個体
122	穴カ	墨書	須恵器	坏	底外		1区遺構外	—	
123	戒カ	墨書	陶器	瓶類カ	底外		4区遺構外	近世以降カ	
124	虫カ	墨書	土師器	坏	底外		6区遺構外	—	
125	大カ	墨書	土師器	坏	底外		7区遺構外	8世紀前葉	
126	万カ	墨書	須恵器	坏	底外		〃	9世紀	
127	□	墨書	土師器	坏	体外	不明	8区遺構外	—	
128	□	墨書	〃	〃	底外		〃	—	127と同一個体
129	ナカ	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	—	
130	至	墨書	土師器	坏	体外	正位	〃	—	

4　むすびにかえて

以上のように，当遺跡は，4～5世紀に東谷田川寄りの台地の縁辺部にあった集落が出現し，6世紀になって台地上の全体に広がり，6世紀後半になり急速に発展し，その後10世紀まで継続的に集落が営まれている。古墳時代後期から平安時代まで，この地域一帯の中心的な役割を担っていたと考えられる。その後，中世では一部墓域としての機能を果たしていたと考えられる。今回報告分の調査4・8区を中心として，平成7年度から平成11年度までの調査の成果を含め，古墳時代後期及び奈良・平安時代の集落の様相についてまとめてみたが，平成10年度調査分が未報告のまま残されており，さらに遺跡は西側に広がりを見せていることから，未報告分や今後の調査結果，研究資料の増加をまって，改めて考えていかなければならない。

註

1　茨城県教育財団　「島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集の第4節まとめに掲載されている表に追加して作成した。前表と同じく時期が確定できた住居跡だけを掲載した。時期が2世紀にわたる住居跡（例えば，6世紀後葉から7世紀前葉は7世紀に含めた）は，新しい時期とした。また，10世紀以降の住居跡は10世紀の中に含めた。

2　ここでは，一辺が6mを超す竪穴住居跡を大形住居跡とした。

3　茨城県教育財団「一般道新川江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　柏木古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第74集（1992年3月）参照。第1～3号掘立柱建物跡はともに，5×3間の側柱式の掘立柱建物跡である。

4　この後8世紀に入り，島名郷の拠点集落として律令体制に組み入れられていくが，古墳時代から本跡はこの地域の拠点集落として栄えていたものと考えられる。本跡の北部に隣接して島名熊の山古墳群が位置する他，本跡の周囲2kmの圏内だけでも関の台・面の井・下河原崎・高山・榎内の古墳群と薬師・高田・ツバタ・関の台・島名前野・島名前野東・榎内・水堀の古墳時代の遺跡が確認されている（第1図　周辺遺跡地図参照）。

5　樫村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号　茨城県教育財団　1993年7月

6　樫村宣行　浅井哲也「常陸地域の鬼高式土器」『考古学ジャーナル』342号　1992年

7　篠原祐一「臼玉研究私論」『研究紀要』第3号　栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995年3月

8　前掲註7と同じ

9　前掲註7と同じ

10　ひたちなか市教育委員会　ひたちなか市文化・スポーツ振興公社　「武田石高遺跡　奈良・平安時代編」『ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第19集　2000年1月

11　本庄市教育委員会「南大通り線内遺跡発掘調査報告書」『本庄市埋蔵文化財調査報告』第9集　第1～3分冊　1986年3月，1989年3月，1991年3月

12　前掲註7と同じ

13　茨城県教育財団「一般県道新川・江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　尾島貝塚　宮の脇遺跡　後九郎兵衛遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第46集　1988年3月

14　千葉県文化財センター『千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書』　1980年2月

15　前掲註14と同じ

16　寺沢　薫　「収穫と貯蔵」『古墳時代の研究』第4巻　雄山閣　1991年1月

17　古瀬清秀「農工具」『古墳時代の研究』第8巻　雄山閣　1991年11月

18　松井和幸「日本古代の鉄製鍬先，鋤先について」『考古學雑誌』第72巻第３号　1987年２月

19　金子裕之「考古学からみた律令的祭祀の成立」考古学研究第46巻第４号・第47巻第２号　考古学研究会　2000年３月，９月

20　山中敏史「律令国家の地方末端支配機構」『律令国家の地方末端支配機構をめぐって－研究集会の記録－』　奈良国立文化財研究所　1998年

21　前掲註20と同じ

22　田中広明『律令期における地方社会の構造』（茨城県教育財団班内研修会資料）　1999年２月

23　山中敏史『郡衙域周辺の様相及び末端支配機構』（茨城県教育財団班内研修会資料）　2000年１月

24　同一個体に記載された文字資料は５点あり，表25中の35・36・37，108・109，114・115，120・121，124・125が挙げられる。

25　出土した遺構は，住居跡65軒，大形竪穴状遺構が１基，掘立柱建物跡３棟，土坑６基，井戸跡１基，溝１条である。

26　奈良・平安研究班「茨城県域における文字資料集成１」『研究ノート』９号　茨城県教育財団　2000年６月

27　８世紀の第Ⅲ四半期の住居跡から「大郷長」の墨書土器を出土している群馬県の荒砥洗橋遺跡からは，９世紀後半から10世紀中頃の遺構から「大上」と記載された墨書土器が17点出土している。群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団　『荒砥洗橋遺跡　荒砥宮西遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第85集　1989年

28　平川　南　『墨書土器の研究』吉川弘文館　2000年11月，平川　南　天野　努　黒田　正典　「古代集落と墨書土器」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集　1989年３月

平川　南「墨書土器とその字形―古代村落における文字の実相―」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集　1996年３月

29　前掲註28と同じ

参考文献

・茨城県教育財団「島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ～Ⅳ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第120・133・149・166集　1997年３月，1998年３月，1999年３月，2000年３月

・赤崎敏男　金子裕之　楫山林継　「祭祀具」『古墳時代の研究』第３巻（生活と祭祀）雄山閣　1991年３月

・浅井哲也「東国の古代の集落」『茨城県史研究』72集　茨城県立歴史館　1994年３月

・小笠原好彦「古墳時代の竪穴住居集落にみる単位集団の移動」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集　1989年３月

・飯塚武司「古墳時代から古代の武蔵・相模国を中心とした工具・農具の変遷」『法政考古学』第20集　法政考古学会　1993年11月

・高野節夫「木工台遺跡における古墳時代後期の土器様相」『研究ノート』９号　茨城県教育財団　2000年６月

・山中敏史「地方官衙と末端支配」『茨城県考古学協会誌』第12号　2000年５月

・山中敏史　石毛彩子「豪族居宅と倉」『古代の稲倉と村落・郷里の支配』　奈良国立文化財研究所　1998年

・吹野富美夫「常陸南部における古墳時代後期の土器様相」『列島の考古学－渡辺誠先生還暦記念論集－』　1998年２月

・松村恵司「律令国家の末端支配と集落」『律令国家の地方末端支配機構をめぐって－研究集会の記録－』奈良国立文化財研究所　1998年

・松村恵司「正倉の存在形態と機能」『古代の稲倉と村落・郷里の支配』奈良国立文化財研究所　1998年

・松村恵司「古代東国集落の諸相……村と都の暮らしぶり」『第９回企画展図録古代集落―しもつけのムラとその生活―』栃木県立しもつけ風土記の丘資料館　1995年11月

・平川　南　『墨書土器の研究』吉川弘文館　2000年11月
・埼玉県埋蔵文化財調査事業団「中堀遺跡　御陣場川堤調節池関係埋蔵文化財調査報告」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書』第190集　1997年12月
・栃木県教育委員会　栃木県文化振興事業団「塚崎遺跡　一般国道４号（新４号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第150集　1994年３月
・栃木県教育委員会　栃木県文化振興事業団「砂部遺跡　高根沢町砂部地区工業用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第108集　1990年３月
・栃木県文化振興事業団「住宅・都市整備公団宇都宮都市計画事業多功南原地区埋蔵文化財発掘調査　多功南原遺跡」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第222集　1999年３月
・日本道路公団名古屋建設局　長野県教育委員会　㈶長野県埋蔵文化財センター　「古田川西遺跡　中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書」３『㈶長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書３』　1989年３月